

高度情報化社会と宗教に関する基礎的研究

研究課題番号 11410009

平成11年度～14年度科学的研究費補助金 基盤研究(B)(2)研究成果報告書

平成15年3月

**研究代表者 石井研士
(國學院大學神道文化学部教授)**

はしがき

この共同研究は、現在急速に進行しつつある高度情報化が、精神文化としての宗教にどのような影響を及ぼしているのか、宗教団体は情報化に対してどのように対応したのか、あるいは対応を迫られたのかを調査研究することを目的としている。

急速なインターネットの普及を背景に、宗教団体が主催するホームページの数は急増した。1995年頃から認知され始めたインターネットの日本社会への急激な浸透は、宗教界から不安とともに熱い期待をもって受けとめられたのであって、我々研究者も教団や宗教団体の連合体の求めに応じて、シンポジウムや研究会へ出かけて発言する機会が増えていった。しかしながら現象自体が新しいこともある、実際にはきちんとした現状の把握が行われないままに、個人的な経験と推測の範囲内で分析が行われることが多かったように思う。

振り返ってみれば、「一億総白痴化」などといわれながら、テレビという巨大なメディアが日本人の宗教性や宗教団体の在り方・布教形態にどのような影響を与えたかも明らかにされていない。本格的な電波メディアとしてラジオ、ビデオ、マンガと宗教との関わりも、研究者を大いに刺激することにはならなかったようだ。本研究は、こうした意味で高度情報化社会と宗教にかかる基礎的な研究である。

研究代表者の石井研士は、通信衛星、CATV、コンピューターなどニューメディアを利用して1970年代および80年代のアメリカにおいて急速な発展をみたテレヴァンジェリスト（テレビで布教を行う伝道師）に関心を抱き、その動向を研究した（「アメリカにおける宗教テレビの現状」「宗教研究 269号」1986年、「アメリカにおける宗教テレビの現状」「宗教研究 271号」1987年、「テレビと宗教—メディアの政治学」「市民大学講座 現代社会の読み方 放送教育開発センター、1987年）。そして日本においても、高度情報化のなかでアメリカと同様の現象が生じると考え、日本の教団の情報化の現状を調査した。昭和63年に庭野平和財団より研究助成を得て、調査研究を行い、「ニュー・メディアは宗教を変えるか」「宗教情報 17」すずき出版（1988年）、「宗教教団のニューメディア利用」「宗教情報 28」すずき出版（1989年）、「進む宗教界のニューメディア利用」「総合メディア研究」No.134（1990年）、「コンピューターが寺檀関係を侵害する日はくるか」「月刊 住職」5月号（1992年）として成果を公表してきた。またアメリカのテレヴァンジェリストに関しては、「情報化と宗教」（井門富二夫編『アメリカシリーズ 宗教』弘文堂、1992年）としてまとめた。

研究分担者の川島堅二は、1996年夏にアメリカのlocal church 648に対し、インターネットの利用について電子メールによるアンケート調査を行い、インターネットの利用に関する多様な状況を分析した。研究分担者の黒崎浩行、研究協力者の葛西賢太、田村貴紀の3名は、現代の急速な電気通信技術の発達、とりわけコンピュータ・ネットワークの普及が宗教の領域にも大きな影響を及ぼすとともに、新たなコミュニケーション空間が出現しその関係性の一つとしての宗教的行為が成立しあげている点に着目し、電気普及財団より平成元年に助成を得て、コンピュータ・ネットワーク上で行われている宗教的行為の実について実証的調査を行った（報告書は「電子ネットワーキングの普及と宗教の変容」2000年）。

本研究は、こうした積み重ねの上に実施されたものであるが、この領域の研究はまだ緒についたばかりである。とくに本報告書で明らかなように、現在において最も大きな影響力を持つテレビ・メディアに関する論考が欠如している点は大きな課題として残った。「情報化と宗教」は今後重要な研究領域となることは明らかであり、ここでの研究成果が将来の研究の基礎資料となり、研究者を刺激することがあれば望外の喜びである。

研究代表者 石井研士

研究組織

研究代表者：石井 研士（國學院大學神道文化学部教授）
研究分担者：川島 堅二（惠泉女学園大学人文学部助教授）
研究分担者：黒崎 浩行（國學院大學日本文化研究所専任講師）
研究協力者：葛西 賢太（宗教情報センター研究員）
研究協力者：田村 貴紀（筑波大学大学院人文社会科学研究科）

交付決定額

平成11年度	2,700千円
平成12年度	2,200千円
平成13年度	2,200千円
平成14年度	1,700千円

研究発表

(1) 学会誌等

石井研士「高度情報化社会の中で再生される伝統文化」『國學院雑誌』平成11年11月号、1999年11月
石井研士「宗教放送とキリスト教」「キリスト教学」第43号、2001年12月
石井研士「ラジオと宗教放送」「國學院大學紀要」第40号、2001年2月
石井研士「ラジオと宗教放送」「國學院大學文学部紀要」2001年2月
石井研士「メディアの中の明治神宮」「明治聖徳記念学会紀要」復刊第36号、2002年12月
石井研士「戦後のラジオでの宗教放送とテレビ放送への移行」「國學院大學紀要」第41巻、2003年2月
石井研士「戦後におけるラジオでの宗教放送の変化」「國學院大學大学院紀要」第91輯、2003年3月
黒崎浩行「日本宗教におけるインターネット利用の社会的文脈」「國學院大學日本文化研究所紀要」第85輯、
2000年3月
田村貴紀「CMCと宗教研究の視角」「年報筑波社会学」Vol. 11、1999年5月
田村貴紀「(研究ノート) Spiritual Network in the Internet Embedded Society: FARION Forum as A Case」「宗教
と社会」第5号、1999年6月

(2) 口頭発表

石井研士「シンポジウム：インターネット時代の宗教」国際宗教研究所、1999年11月
石井研士「シンポジウム：問題提起・総括：インターネットと伝統仏教」21の会、2000年2月
川島堅二「インターネットと宗教」日本基督教学会定例研究会、2001年6月
黒崎浩行・田村貴紀「天理教のインターネット利用について」「宗教と社会」学会第8回学術大会、2000年6月
葛西賢太「スピリチュアリティの現在：個別性の探求」陽光文明研究所主催セミナー「スピリチュアリティの
現在：現代 社会の宗教・倫理・心理」2001年12月
黒崎浩行「電子ネットワーキングと宗教—参加をめぐって—」日本宗教学会第59回学術大会、2000年9月
黒崎浩行「Japanese Traditional Religions and the Internet」2nd International Convention of Asia Scholars、ベル
リン、2001年8月
黒崎浩行「日本の伝統宗教における地域コミュニティと情報化への対応」日本宗教学会第60回学術大会、2001
年9月
黒崎浩行「情報社会と宗教理論」日本宗教学会第61回学術大会、2002年9月
田村貴紀「天理教によるインターネット利用の特性—ディスコースの中のシンボル—」筑波社会学会大会第11
回定例研究会、1999年4月
田村貴紀「天理教によるインターネット利用の特性—ディスコースの中のシンボル—」「宗教と社会」学会第7

回学術大会、1999年6月

田村貴紀 “Manifestation of spirit and ghost beliefs in the media and on the Internet in Japan,” Ghosts and Modernity in East Asia 1999、ライデン大学（ライデン、オランダ）、1999年7月

田村貴紀 “Unity and Interaction of Religious Communities through the Internet,” 2nd International Convention of Asia Scholars、ベルリン、2001年8月

田村貴紀「インターネット利用や情報格差や意識変化に何をもたらすか？～オンライン調査によるネットユーザーの意識と価値観～」情報メディア学会、2002年10月

田村貴紀「インターネットユーザーの精神世界—文化観・自己観・宗教観を中心に—」日本社会情報学会第7回学術大会、2002年11月

(3) 出版物

石井研士「初詣と七五三」飯島吉晴編『民俗学の冒険①幸福祈願』ちくま書房、1999年4月

石井研士「インターネットで宗教環境はどう変化するか」「真理と創造』No.41、2001年、11月

石井研士他共著『インターネット新時代』天理やまと文化会議、2001年6月

石井研士「メディアと宗教の明日」仏教タイムス、1926号、2000年1月1日

石井研士「インターネットと伝統仏教」「寺と生活」4月号、2000年4月

石井研士「現代人の宗教意識5 メディアが作り上げた若者の「宗教イメージ」」佼成新聞、2000年10月13日

石井研士「メディアと宗教1 メディアが生み出す新しい宗教の形は」佼成新聞、2001年6月8日

石井研士「メディアと宗教2 人々の精神的希求に応えた「宗教番組」」佼成新聞、2001年7月13日

石井研士「メディアと宗教3 電波界に「宗教ブーム」が起きた昭和30年代」佼成新聞、2001年8月10日

石井研士「メディアと宗教4 テレビの娯楽化の中で地歩を失った宗教番組」佼成新聞、2001年9月14日

石井研士「メディアと宗教5 宗教番組よりも視聴者に受けた「超能力」番組」佼成新聞、2001年10月12日

石井研士「メディアと宗教6 メディアで再生される年中行事」佼成新聞、2001年11月12日

石井研士「メディアと宗教7 ビデオ利用の可能性」佼成新聞、2001年12月12日

石井研士「メディアと宗教8 生身の宗教者はどこへ行ってしまうのだろうか」佼成新聞、2002年1月11日

石井研士「メディアと宗教9 通信衛星の利用により問われた宗教の聖性」佼成新聞、2002年2月8日

石井研士「メディアと宗教10 地域、宗教、メディアの融合が驚異的視聴率に」佼成新聞、2002年3月8日

石井研士「メディアと宗教11 年々増加の一途をたどる宗教団体のホームページ」佼成新聞、2002年4月12日

石井研士「テレビと宗教」「国際宗教研究所ニュースレター」第36号、2002年10月

黒崎浩行「インターネット上の宗教情報の現状—ホームページを中心に—」国際宗教研究所編、井上順孝責任編集『インターネット時代の宗教』新書館、2000年6月

黒崎浩行「現代のメディア・コミュニケーションにおける宗教的共同性—キリスト教系メーリングリストの場合—」大谷栄一・川又俊則・菊池裕生編『構築される信念』ハーベスト社、2000年10月

黒崎浩行「IT時代の宗教を考える(39)」中外日報、2002年3月4日

黒崎浩行「IT時代の宗教を考える(40)」中外日報、2003年3月11日

葛西賢太「「自分で理解した神」を受け入れる：Alcoholics Anonymousにおける宗教的文化資源とアイデンティティ」宮永國子編『グローバル化とアイデンティティ・クライシス』明石書房、2002年3月

葛西賢太「セルフヘルプのスピリチュアリティ：ささえあい文化の可能性」田邊信太郎・島薦進編『つながりの中の癒し』専修大学出版局、2002年5月

田村貴紀「IT時代の宗教を考える(7)」中外日報、2002年5月28日

田村貴紀「IT時代の宗教を考える(8)」中外日報、2002年6月4日

田村貴紀「IT時代の宗教を考える(16)」中外日報、2002年7月30日

田村貴紀「IT時代の宗教を考える(17)」中外日報、2002年8月6日

田村貴紀「IT時代の宗教を考える(18)」中外日報、2002年8月20日

目 次

序 文

ラジオと宗教	石井研士	1
日本基督教団所属教会のインターネット利用調査	川島堅二	53
高度情報化社会における「公共圏」と伝統宗教 —神社神道のインターネット利用—	黒崎浩行	65
宗教情報を読む技術 —情報はどう捉え、どう蓄積し、どう展開するか—	葛西賢太	75
電子ネットワーク利用と宗教観、価値観、体験談交換に 関する調査 解題	田村貴紀	87

ラジオと宗教

石井研士

はじめに

本報告は、高度情報化社会における宗教文化のあり方を考察するために、本格的な電波メディアとして登場したラジオにおいて、宗教放送がどのように行われてきたかを、具体的な資料を基に考察することを目的としている。目的はあくまで現代日本社会におけるメディアと宗教との関係の解明にあり、ラジオそのものの研究ではない。

筆者のメディアと宗教文化に関する基本的な立場を、マクルーハンの言葉を借りて表現すれば「いかなるメディア（すなわち、われわれ自身の拡張したことのこと）の場合でも、それが個人および社会に及ぼす結果というものは、われわれ自身の個々の拡張（つまり、新しい技術のこと）によってわれわれの世界に導入される新しい尺度に起因する」ということになる¹⁾。新しいメディアは新しい人間環境・知覚慣習を生み出すのであり、とくに日本においては広く宗教文化に影響があったと予想している。さらに近年の青年における宗教現象や宗教的感覚を見ていると、メディアそのものが宗教的現実を構成しているのではないかと考えることも可能である。

現在のマス・コミュニケーション論では、効果研究の初期にいわれた強力効果説は有効視されていない。1938年に放送されたオーソン・ウェルズ出演のラジオドラマ『宇宙戦争』(H. G. ウェルズ原作)は、120万人の人々をパニックに陥れた²⁾。あるいは「ヒトラーの政権獲得は拡声器とラジオの利用によって容易にされた」³⁾といった言動に代表される弾丸理論や皮下注射モデルは古典的研究領域となっている⁴⁾。現在は、マス・メディアは限定的な効果しか持たないとする限定効果説の時代を経て新しい強力効果説の時代に入ったと指摘されたり⁵⁾、カルチュラルスタディズと総称される情報の受け手側の想像力や状況的要因を重要視する理論が提起されている。

現代日本の宗教状況を見たときに、メディアが構成する宗教的現実がそのまま情報の受容者に強い影響を及ぼしたり、あるいは強烈なイメージを与えていたり、もしくは潜在的な宗教文化が喚起されると考えられる事例が存在する。たとえば、オウム真理教や法の華三法行に関する事件報道が日本人の宗教団体に対する評価に与えた影響は少なくない。イエスの方舟事件における報道の問題は、どのように考えることができるのだろうか。あるいはテレビでしばしば見受けられる超能力ブームや心霊写真ブーム、トイレの花子さんや陰陽師などの番組は、どのような影響を日本人に及ぼしているのだろうか。あまり意識されていないが、ニュース番組の中で一年間に300時間ほどの神社や寺院をはじめとした伝統宗教の映像が流れている。潜在的な日本人の宗教的感性は、こうした映像情報に支えられていると考えることもできる。宗教現象とテレビ映像との関係は多様に見えるのである、研究はより重大になったと考えている。

あるいは現代を変革期と捉えて考えれば次のようにいうことも可能である。現代を「変革期」として規定すれば、その場合の変化のプロセスは当然ながら情報化ということになるだろう。そして我々の社会は情報化により情報（化）社会へと変わりつつあるという認識が存在する。情報社会とは「情報が価値とみなされ、情報によって機能する社会」⁶⁾のことである。この定義は最も一般的かつ広義なもので、いま少し詳細な定義を見てみたいと思う。川崎賢一は多様な定義を検討した上で、共通する五つの要素を抽出している。一、情報社会をマクロな社会変動として捉える点、二、情報産業の労働力ないし労働力市場のシェアが拡大する点、三、情報技術を重視する点、四、官僚制的管理との親和性を強調する点、五、情報化がコミュニケーションへ深刻な影響を与える点の五つである⁷⁾。川崎が指摘していく興味深いのは、日本の情報化の概念がヨーロッパの情報化概念を越えて用いられているという点である。つまり、ロジャースの定義「労働力の大多数が情報産業従事者で構成されるような国家で、そこでは情報が最も重要な要素である」という意味を越えて、情報が現代社会の革新的変動要因として働くと考えるのである。コンピューターやインターネットの普及は、たんなる電子技術の発展や情報インフラの整備を意味するだけでなく、文化を変容させる。川崎によれば、情報社会にたんなる技術の進展以上の意味を求めるのは日本とアメリカである⁸⁾。

筆者も川崎と同様に後者の立場に立つ者である。つまり、情報化は日本社会の技術的側面のみならず、コミュ

ニケーションを初めとした文化全般に影響を与えていたと考えている。そして、こうした情報化による文化変容は、きわめて短期間の間に生じているのであって、精神文化の中核のひとつと考えられる宗教に対しても、かなりの影響を与えていたと思われる。本論は、こうした問題関心を背景にして、一連のマス・メディアと宗教あるいはメディアと宗教問題の一部として、ラジオにおける宗教放送の問題を考察するものである。

1 ラジオ放送の誕生

ラジオは、人類が手にした最初の電波メディアであり、それ以前の情報環境を大きく変化させることになった。メディア論で著名なマーシャル・マクルーハンは、ラジオの音を部族の太鼓になぞらえている。マクルーハンによれば、活字メディアの普及は、民衆の生活深く息づいていた声の文化を押しつぶしたものであり、世界を均質化し統一された世界へと変容させた。ラジオは奥深い古代の力であり、はるかな遠い過去、久しく忘れていた太古の経験を現在に結びつける時間の糸である。均質化された経験は再び複雑な感覚複合として甦るのだという。ラジオによる部族の角笛や太鼓が反響し合う世界はラジオ・メディアの特質であり、人の心と社会を一つの共鳴室に変えてしまう。マクルーハンは、先に引用したオーソン・ウェルズの『宇宙戦争』やヒトラーのラジオの政治的利用に言及して、ラジオの持つ聴覚イメージが全体包括的及び全面関与的規模を持つことを証明したと述べている。「ラジオは他のメディアと同様、隠れ蓑をつけている。うわべは、個人対個人でじかに向かい合っているような、親密で私的な態度を装ってわれわれに近づいてくるが、究極的な事実としては、遙か過去の忘れられた心の琴線に触れる魔術的な力をもつ闇下の反響室なのだ。」⁹⁾

思想家のマックス・ピカートも『沈黙の世界』の中で「ラジオ」の章を設けている。しかしながらピカートによれば「ラジオは、純然たる騒音語を製造するための機械装置である。そこでは内容はほとんど問題ではなく、一つの騒音が生ずるということだけが問題なのだ。言葉はラジオのなかで搗き碎かれているように見える。言葉は、いわば無様な堆積に変えられている。」¹⁰⁾ピカートによれば、ラジオをはじめとした現代テクノロジーは、生の充実した状態としての沈黙を壊す元凶である。声は複製され、生の現場から離脱し場所と方向性を失ってしまう。「ラジオの騒音は人間を破壊する」のである¹¹⁾。

興味深いのは、ラジオに対する二人の評価が大きく異なっているにもかかわらず、ラジオの多様な内容には二人ともいっこうに興味を示さない点である。「メディアはメッセージ」という著名な言葉にも表現されているように、マクルーハンにとっては内容は形式以上に意味あるものではなかった。ピカートにとってもラジオの内容は複製された騒音に過ぎず、「ラジオの騒音の中では、真理、誠実、愛、信仰のようなあらゆる根源的現象も存在することは出来ない」のである¹²⁾。それでは、熱心なカトリックであったマクルーハンは、メディアという形式の中を流れるフラー神父やカフリン牧師の声に何の意味も見い出さなかったのだろうか¹³⁾。80万人の聴取者が聞くNHKの深夜便で流れる「こころの時代」は単なる騒音に過ぎないのだろうか。素朴な疑問が生じてくる。

本考察ではメディア論全体を扱うことではないが、ラジオにおける宗教放送はアメリカでも日本でも放送開始当初から行われており、精神文化の中核をなす宗教が、メディアを通してどのように流通し受容されたかを知るために重要な事例を考えることができる。

日本における初めてのラジオ放送は大正14年3月1日に行われた。東京芝浦に設けられた仮送信所から社団法人東京放送局によって試験放送されたものであった。世界に先駆けてラジオ放送を始めたアメリカに遅れること4年4ヶ月の放送であった。同年3月22日には仮放送が、海軍軍楽隊の演奏によるマリタナの幻想曲で幕を開けている¹⁴⁾。

日本人のラジオに対する期待はひじょうに大きかった。放送史を扱った刊行物には「聴取者の放送に対する好奇心と期待には異常なものがあった」と記されている¹⁵⁾。まだラジオが高価で、しかも受信エリアは狭かったにもかかわらず、放送が開始された翌年には聴取契約者数は22万を超え、「予想をはるかに上回る飛躍的な膨張であった。」¹⁶⁾

放送評論家の志賀信夫は大正時代のラジオはミステリアスなものだったという¹⁷⁾。聞こえるだけで人々は心を躍らせ神秘的な魅力を感じたのだという。放送開始当初から人気が高かったのは娯楽番組で、邦楽や洋楽、歌舞伎や新国劇などが放送されていた。東京では震災後の娯楽が不足する状況が続いており、ラジオはそうした大衆

の欲求に応じるものであった。

放送局は、人気の高い娯楽番組とは別に、放送開始当初から放送の教育的機能を重視していた。大正12年3月22日の仮放送で後藤新平東京放送局総裁が挨拶を行っているが、その中で後藤は放送の機能として「慰安によって家庭生活を革新すること」「経済機能を敏活にすること」の他に「文化を国民に均分すること」「国民の教養を養うこと」の二点を挙げている¹⁸⁾。

こうしたラジオの公益性への配慮は、放送事業成立の経緯と深く関わっている。1920年にアメリカ・ピックスパークで初めて放送局が設立されて以来、欧米では急速に放送事業が拡大していった。第一次大戦後の日本においても状況は同様で、アマチュアの受信機試作熱や無線関係の本の出版ブームが起こった。

これまで日本において電波行政を主管してきたのは通信省であった。放送を無線通信の一種と考えれば、放送主体は国営となり、当時の言論、思想への統制が政治的に表面化した時代背景を踏まえても、国営が望ましいとされた。しかしながら第一次大戦後の経済不況のなかで、国が大規模な新規事業に乗り出すことが困難視され、事業運営自体が官庁機構では対処できないこと、政府の監督権限の温存、公共的性格等が考慮されて、放送局の運営主体は公益社団法人に落ちていたのであった。公益法人であったこと、管轄が内務省や文部省ではなく通信省であったことは、放送内容に関わる規制に関して、微妙な状況を生みだすことになった。

放送開始当初は東京、大阪、名古屋に三つの公益社団法人が設立されたが、大正15年5月8日、三局が单一主体になって運営されるのが好ましいと当時の安達謙蔵通信大臣の判断により、社団法人日本放送協会が設立された。この点にも放送事業に対する国家の統制意識の存在をみることができる¹⁹⁾。

それゆえに放送当初から通信省による番組の事前検閲がなされていた。当初から想定されていた公共的性格や公益性が、正確な意味での公益性、つまり社会一般の利益ではなく、政府の言論・思想統制に傾いた意味での「公共的性格」が含まれている点を考慮しておく必要があるだろう。とくにこの点は、昭和6年の満州事変以後の放送内容をめぐって問題となる。

手探り状態で始められた番組構成は、昭和2年には教養、慰安、報道の三部門に分けられた。宗教番組は「教養番組」に分類されている。教養放送は「広義の解釈における社会教育の実践ということを第一義とし、一般大衆と一般家庭とをその目標に置く」放送である²⁰⁾。ここでいう一般大衆とは「義務教育を終えただけで上級の学校へ進むことのできなかった小学校卒業者の約8割にも達する大多数の男女一般社会人」のことである²¹⁾。

第一次大戦後、急速に高まった思想運動や労働運動に対処するために社会教育面の普及化が、思想統制を意味する「思想善導」を方針として強く打ち出された。たとえば東京都では当時の後藤新平市長が社会教育課を設け、思想問題、国際、保険、文芸、学術、宗教などの講演を開き、新鮮な企画で市民教育の実を挙げた。そして先に引用した東京放送局の仮放送で「文化の均等化」「国民の教養向上」を述べたのが、この実務官僚の手腕をもって日本帝国主義確立期の代表的政治家と目される後藤新平であった。

政府は放送事業の発足にあたって通達などで、番組の内容に対して多くの制約を設けている。事前検閲制度の実施、放送内容の制限、放送禁止事項の示達に関するものであるが、とくに大正14年12月18日付けで通信局長から東京、名古屋、大阪の各放送局理事長に対して「政治に関する講演論議の放送を禁止すること」が指令されている²²⁾。

2 「宗教講座」と番組の発展

放送局は番組の構成やその性格に関する以上のような背景があって、教養番組としての講演や講座番組にかなりの力を注いだ。講座番組が開始されたのは放送が開始されてわずか2ヶ月後のこと、本放送開始以前のことであった。そして講座番組のトップとして放送されたのが「宗教講座」であった。日曜日の朝10時から30分間の放送であった。初の「宗教講座」の講師を勤めたのは大谷尊由で、大正14年5月24日、タイトルは「親鸞經の文化的意義」であった²³⁾。

その後ラジオの宗教番組は順調に増加していった。講座や講演といった形式で、多くの宗教家がラジオを通じて日本人に語りかけた。「宗教講座」は大正14年7月19日から「修養講座」に改称され、倫理、道徳、宗教など幅広いテーマを扱う番組となった²⁴⁾。「宗教講座」と「修養講座」はともに講座の名称が付いているが、いわゆる連続した講座ではなく基本的には単発の番組である。

名古屋中央放送局は昭和2年に、ラジオの未聴衆者向けに「ラジオの効果」という小冊子を刊行している。40頁の小冊子でラジオの加入者26名が「ラジオの効果に関する挿話」の課題に対して実名で「ラジオの効果」を記したものである。数百名から選んだ事実談ということで、放送局側の思惑と聴取者の欲求が交錯して見えてくる。ラジオの速報性のお陰で生糸を高値で売れたという話し、ラジオを入れたらお客様が増えたという床屋の話しなど実利的な内容や、村の宴会で芸者を呼ばなくても楽しく安価に過ごすことができるといった娯楽面の話しの他に、教養や修養に関する事実談に関するものが多いのに驚く。

親孝行で学校の成績も良い村の評判の子どもが、宗教講座で酒に関する話しを聴き、大酒のみの父親に涙ながらに語ったところ、親は子の真心に触れて働き者になったという。さまざまなラジオ番組を楽しんでいる人が「偉人の物語、宗教の談義に対しては自らセットの前に容を正しくさせられることも少なくない」という感想。病院で療養生活を送る聴取者が宗教講座を糧としているという話しが掲載されている。

また、女学校卒業後に盲目となった娘が、神経衰弱となり大学病院の精神科の診察を受けるようになった。しかしながら、ラジオを聞くようになってから精神修養上多大な効果を得た。「宗教講話の如きは不知不識の間に偉大の感化を与へ次第に精神に落ちつきを現はし來り所謂悟道の境地に達し、神経は漸次に恢復し、却って今日にては落付のある人間となりました」という。他にも、重病に伏す娘の母親が大正大学教授大野法道氏の話を聴き、母娘ともに安心を得た後に娘は他界した話しが掲載されている²⁹⁾。

宗教に関する放送がラジオ放送開始間もなく始まることはすでに記したが、放送局が積極的に宗教講話を売り物にしていたという事実は存在しない。「ラジオの効果」に取り上げられた事例は、ラジオ放送であるがゆえに生じたというよりは、当時の人々の間に依然として宗教に対する信頼や欲求が存在していたことによるものである。人々の生活の中で宗教が生きていた、あるいは宗教者に対する敬意が存在したからこそ、ラジオという新しいメディアにおいてもその潜在性が喚起された、といっていい。しかしここで挙げるような儀礼放送は、もう少し積極的な意味を持っている。

昭和2年の年末に、初めて除夜の鐘が東京放送局から中継された。昭和3年末には全国放送網の基幹線が完成して全国中継放送が可能となった。その結果、昭和4年の大晦日には、東京の浅草寺から除夜の鐘の全国中継が行われた。中継された宗教行事には他にも、彼岸会法要の連続放送や、神社からの歳旦国威宣揚祈願がある。こうした行事の放送は、放送が全国的になり中継が可能となったことによるものである²⁷⁾。民俗学の成果によれば、日本全国どこでも同じように行われているかに思える正月やお盆の行事も、内容や時期に地域的な多様性の存在することがわかる²⁸⁾。ラジオ放送は、その土地の生活に根ざした行事を均質化していく。大寺院での彼岸やお盆を中継し、除夜の鐘や正月の初詣の様子を伝えることで、国民的な年中行事を構成していくのである。放送局側に特別な意図が存在しないとしても、それら行事の一部は、国家的イベントとしてラジオを始めとしたメディアにおいて、その後いっそう大規模に演出され放送されることになるのである。

単発に放送されていた「修養講座」が毎週の定時番組になったのは昭和7年のことであった。名称は「修養講座」から以前の「宗教講座」に戻っている。「ラジオ年鑑 昭和7年版」には「特に德育を目的として佛教、神道、キリスト教、神社関係、倫理学的なもの全てを含む」とあり、放送は日曜日の午前10時に放送されていた²⁹⁾。

日本の電波放送史を概観すると、昭和6年に起こった満州事変以後、番組の編成や制作に変化の見られることがわかる。臨時ニュースを含めたニュースの割合が高くなり、国家的・国民的行事の中継が増加する。「非常時」の観念は、満州事変以後教養番組の企画にも導入され、講演放送では、政府当局やその同調者、あるいは現役軍人などが多く出演するようになり、反面、民間出演者の選定には、その思想傾向がきびしく問題にされるという風潮を生んでいる。「修養講座」や「子供の時間」にも、ときとして国家意識が高揚されている」と指摘されている³⁰⁾。

「昭和8年版 ラジオ年鑑」³¹⁾には、昭和6年からの宗教放送の一覧が掲載されている（表1）。もちろん番組のタイトルだけであって、内容が分かるわけではないが、昭和6年・7年の「修養講座」「宗教講座」には、ここで指摘されているような国家意識を彷彿させる顕著なタイトルは見あたらない。むしろキリスト教関係の番組が組まれているなど、政府の意図と、番組制作者の意識には乖離さえ見られるのではないかと考えられる。こうしたズレは、明らかに主務官庁が内務省ではなく通信省であったこと、運営主体が社団法人であったことに一因している。

表1 昭和6・7年宗教番組一覧（「ラジオ年鑑 昭和8年版」）

修養講座			彼岸法要（特設）		
6. 10. 17	大谷尊由	日本精神と仏教	7. 3. 18	半田孝海	菩薩土の実現
10. 25	境川黄洋	鉄眼禪師の努力主義	3. 18	鈴木隆嶽	即身成仏について
11. 1	大宮智栄	慈悲の教	3. 18	久松鏡端	成功はこれ精神の力
11. 22	阿部恵水	信力に生きたる人	3. 18	山邊習学	地獄と極楽
11. 25	山上曹源	夜深同着千巖雪	3. 18	山上戒全	如何なる目的をもって念佛するか
12. 6	深作安文	歴史美と道徳美	3. 18	柴田秀	仏教倫理の根本
12. 13	常磐大定	釈尊の成道	3. 18	夏秋元信	彼岸と精神修養
12. 20	木邊考慈	四恩について	3	松本指道	禪堂生活
12. 26	今泉定年	申年の迷信打破			
7. 3. 3	梅原眞隆	生命の発見			
6. 5	日野原善輔	教育と宗教	3. 18・23	孤峰智燦	四十二章経
6. 15	矢波則吉	自覚から他覚へ	9. 20・26	櫻井聰山	原人論
宗教講座			宗教講座（早朝）		
7. 1. 10	花田凌雲	実相隨順の生活	7. 6. 13	澤木興道	禅の話(1)
1. 10	滑谷快天	余の信仰			人類史上における禅の将来
1. 17	大西良慶	求道の旅	6. 13	澤木興道	禅の話(2)禅の伝来とその影響
1. 24	成瀬賢秀	歎異抄第二節	6. 13	澤木興道	禅の話(3)禅の体験と坐禅の仕方
1. 31	水尾寂暁	天台の念仏	6. 13	澤木興道	禅の話(4)禅は坐臥に非ず
2. 7	漆間徳定	法然上人	6. 13	宇佐見全覽	真心徹倒せる文化生活(1)
2. 14	栗山泰音	人間としての釈尊			宗教は一切と不我との関係
2. 22	北畠玄融	阿含の聖者	6. 13	宇佐見全覽	真心徹倒せる文化生活(2)
2. 28	菊池武夫	神社の概念			一切智の完成
2. 13	藍出考潤	転輪聖王	6. 13	宇佐見全覽	真心徹倒せる文化生活(3)
3. 20	畦島敏	大日本の理想			詩的解脱
3. 27	高山智定	日蓮宗の本尊	6. 13	宇佐見全覽	真心徹倒せる文化生活(4)
4. 7	道重信教	法然上人降誕八百年を迎えて			内的信心の生活
4. 14	大乘大圓	宗教上よりみたる満州			儒教の修養
4. 17	足利柴山	無門関史の一則雲門犀厥			
5. 1	望月日謙	身延山の日蓮上人			
5. 8	谷信讃	同行二人			
5. 15	古川左京	神社祭祀の根本思想	7. 8. 17・20	杉本全機	六祖惠能大師とその浄土觀
5. 22	綱木賢明	五觀偈	8. 22・27	大溪雄	仏陀の遺教を聞く
5. 29	千家尊	神道より見る	8. 29・9. 7	金子白夢	聖語新釈六講
6. 5	禿氏祐洋	釈迦より親鸞へ	9. 5・10	石塚能学	仏教道徳の根本理念
6. 12	常盤大定	宗教と現代	9. 12・17	成瀬賢秀	歎異抄新釈六講
6. 19	大槻決尊	觀音の三昧と日常生活			
6. 28	石川謙	歴史とキリスト教			
7. 3	福島政雄	道徳的修養と宗教的信仰			
7. 10	鳥栖越山	宗教生活百年	7. 9. 20～25	加藤鏡心	第一日 導師
7. 17	友松圓諦	現代人が宗教に要求する要件		後藤大成	“ 練那
7. 24	緒方稜威雄	禊と祓について		小林正盛	第二日 化主
7. 31	尾閑本孝	無寒暑之所		赤井義男	第三日 導師
8. 7	閔猛	涼風禪話		伊澤勝什	第四日 調聲
8. 14	加藤精神	仏教の靈魂		清澤勝兼	“ 巡讀
8. 21	安藤嶺丸	宗教の心髓		川崎英照	第五日 導師
9. 4	渋谷隆教	人生と幸福		赤松圓麟	第六日 導師
9. 11	高島米峰	生きる力と死ぬ力			
9. 23	朴澤謙介・清澤勝兼	彼岸法要			
9. 23	境野薰洋	彼岸の教理			
9. 23	大西良慶	剛健の精神			

表1からわかるように、昭和7年に定時番組となってからは、宗教番組の放送時間はかなりの間に昇っている。現在のように、民放の放送局が複数存在していたわけでもなく、放送時間も限定されていた中でこれだけの放送が継続的に行われていたことは注目に値する。この時期番組や時間数が増えたひとつの理由は、放送技術の発展によるものである。これまで第一放送しかなかった各放送局は、昭和6年から8年にかけて第二放送を開始する。第二放送は教養番組を主体としていたために、宗教番組の枠の増設が可能となったのであった。そしてこうした番組を支えたもうひとつの理由は、聴取者の受容である。

当時の放送聴取調査を見ると、宗教番組に対する聴取者の関心は現在と比較してひじょうに高いことがわかる。昭和6年に実施された「昭和六年度嗜好調査 ラヂオ聴取者は何を好むか?」³²⁾によると、嗜好度で見た場合に「修養講話」が含まれる「社会教育」は、「慰安」「報道」「子供の時間」よりは低いものの、「社会教育」の中で「修養講話」はもっとも嗜好度が高くなっている。

こうした傾向は、昭和7年に実施された全国ラヂオ調査においてより明確に示されている。この嗜好調査によると、放送に対する希望として「宗教的講演講座」は、明確な要望として登場している³³⁾。この調査は昭和7年5月に行われたもので、先に示した放送一覧からもわかるように、宗教番組が定時放送になったばかりであった。こうした嗜好が、宗教番組の放送によって刺激されたものかどうかは不明であるが、当時放送自体がが行われていなかったキリスト教番組が高い嗜好性を示す点を考慮すると、宗教番組に対して潜在的なニーズが存在したものと考えることができる。

この時期の宗教放送において、「修養講座」「宗教講座」だけでなく「彼岸法要」が行われていた点も注目しておいていいだろう。彼岸法要や除夜の鐘の中継などは、今日まで継続されて放送されている。彼岸法要是頻繁に、表1から明らかなように、長時間放送である。

3 宗教番組の特殊性

宗教番組が教養番組の中に含まれることは先に指摘したが、宗教番組は教養番組の中でも特別な性格を有するものと認識されていた。「生活の苦悶に一種の清流を流するもの、それがこの種の放送である。講演の態で單に胸に迫り、講座の形式を持って湧き出ずる感慨の泉をなす」番組であるという³⁴⁾。他の教養番組が科学的知識や実生活上の改善を目的とした番組であるのに対して、修養番組もしくは宗教番組は、そうした番組とは性質を異にするものであった。「この種の放送は決して知識でもなければ、また理屈でもない。以心伝心の殿屋の扉として叩くに委せて開かれる人間生活の光を光りあらしめるものといえよう」³⁵⁾と説明されている。宗教番組に対するこうした説明は、政府が放送に反映させようとした国家意識といったようなものではない。放送者の側にあった意図は、基本的には個人の宗教性や倫理観の涵養に主眼があったと考えてよい。宗教放送が国家的集団的な色彩を明瞭に持つようになるのはもう少し後のことである。

他方で宗教番組当時の宗教状況の中で、布教に該当しないように配慮されていたことも事実である。『ラジオ年鑑 昭和10年版』には「宗教放送」という項目が立てられ、6頁にわたって特集が組まれている。その中で、宗教放送の特性に言及している。

我が国においては信仰の自由が保証され、公共的使命を有するラジオには一宗一派に偏した伝道に亘るものは禁ぜられている。従って電波に盛られるいわゆる宗教放送は、各宗派に通ずる人間性の真実に徹した宗教心に訴ふるものを目安とするのであって、各宗各派の長老が宗教的信念を説き、あるいはその道の権威者が古来国民の精神生活に偉大な感化を及ぼしたような経典あるいは古典を講説し、あるいは諸種の宗教的行事の実況を中継放送して、宗教心を啓発する一方、国民道徳の涵養に資する所の多分に倫理的意義を包蔵するものである³⁶⁾。

『ラジオ年鑑 昭和10年版』の特集「宗教放送」では、宗教放送は「宗教講話」「日曜勤行」「聖典講義」に分類されている。「宗教講話」は従来の宗教講座と同じもので「名僧善知識の高話の記録」³⁷⁾である。キリスト教の礼拝の実況と牧師の説教を内容とする放送は昭和8年7月からで、1時間番組として「日曜礼拝」が開始された。番組内容がキリスト教であったのは、ラジオの第一放送が同時間帯に「宗教講話」を放送していたからで、それ以上の理由は示されていない。キリスト教の「日曜礼拝」は「予想以上の好評を博した」³⁸⁾ために、仏教方面にも拡充されることになり、12月より「日曜勤行」と番組名称が改正されることになった。「日曜勤行」は昭和9年11月末まで放送されたが、その後12月になって第一放送の「宗教講話」に改変された。

以下に「宗教講話」と「日曜勤行」の放送記録を記載しておく³⁹⁾。

表2 宗教講話・日曜勧行放送一覧（昭和9年）

宗教講話宗教講話

1. 7	平安神宮宮司 富山亮路	親王殿下御降誕と祭政一致
1. 14	稻葉盾意	地上の宗教
1. 21	曹洞宗大本山永平寺貢主 秦勢昭	道元禪師の御遺訓について
1. 28	臨濟宗天龍寺派管長 関消拙	宝劍手裏にあり活潑時に臨む
2. 18	日蓮宗管長大僧正 神保日慈	日蓮大聖人の御誕生について
2. 25	真宗仏光寺派管長男爵 渋谷隆教	反省
3. 4	救世軍參謀總長 ヘンリー・マップ	体験の宗教
3. 11	臨濟宗建長寺派管長大僧正 菅原時保	共存共榮
3. 25	井深梶之助	聖書とその道徳的感化
4. 8	文学博士常盤大定	釈尊の降誕を祝して
4. 15	天台座主延暦寺貢首 梅谷孝永	比叡山延暦寺の御修法
4. 22	真義眞言宗智山派管長 旭純栄	鎮護國家済世利人
5. 6	長谷寺化主大僧正 小林正盛	日本魂と仏教
5. 13	石清水八幡宮宮司 田中俊清	八幡信仰と武士道について
5. 20	臨濟宗方廣寺派管長 足利紫山	端嚴主人公
5. 27	文学博士 望月信享	大我と小我
6. 10	融通念仏宗管長大僧正 山上戒全	指を仏教に染めんとせば先ず悲痛の心を発起すべし
6. 17	豊山派管長大僧正 富田 純	無言の行
6. 24	寺門派宗吏大僧正 山階晃玉	大慈為本
7. 1	仁和寺門跡大僧正 岡本慈航	宗教的生活
7. 8	増上寺法主大僧正 岩井智海	国民修養の根底
7. 15	文学博士 矢吹慶輝	心の避暑
7. 22	高野山大学学長 和田性海	東亜の将来と日本仏教
7. 29	時宗管長 桑畠静善	無我の修養
8. 5	八坂神社宮司 額賀大直	非常時と神社
8. 12	普光寺寺務職 大宮智栄	信仰を基礎とする人生の歩み
8. 19	文学博士 高橋順次郎	無教育における仏教の適応性
8. 26	鞍馬寺貢主 信楽眞純	ゆったりと大円をかく蜻蛉かな
9. 2	清水龍山	日蓮聖人に何を学ぶべきか
9. 9	建仁寺派管長 竹田頼川	心外無別法
9. 23	大念仏寺管長 山上戒全	心を淨うせよ
9. 30	可睡斎住職 高階龍仙	八風吹けども勤ぜず
10. 7	長谷寺化主大僧正 小林正盛	大悲の力
10. 14	大谷尊由 興法利生	
10. 21	知恩院門跡大僧正 岩井智海	日本精神の一端について
10. 28	寛永寺住職 大多喜守忍	無碍光の力を仰ぐ
11. 4	知恩院法主 桑田寛隨	教育宗教接近の新傾向と国体神道の本義
11. 18	文学博士 加藤玄智	直心是道場
11. 25	妙心寺派管長 東海東達	大覚寺御中興後宇多天皇の御遺詔を拝して
12. 2	大覺寺門跡大僧正 藤村密愬	朝の勧行について
12. 9	浅草寺大僧正 大森亮順	観音を念ずる心
12. 15	大僧正 大西良慶	

日曜勧行（宗教的行事の実況中継記録）

1. 1	出雲大社初詣	官幣大社出雲大社神域
1. 2	武運長久祈願	京都男山八幡宮
1. 3	官幣大社箱崎宮玉取祭	福岡市外箱崎八幡宮
1. 25	初天神	大阪天満宮
2. 3	節分追儻式	日蓮宗大本山池上本門寺
3. 3	建武中興六百年法要	河内国觀心寺
3. 18	彼岸会法要	天台宗、天台宗真盛派総本山西教寺
3. 19	彼岸会法要	真宗、真宗高田派総本山専修寺
3. 20	彼岸会法要	融通念仏宗大念仏寺
3. 21	彼岸会法要	普光寺本堂
3. 22	彼岸会法要	臨濟宗妙心寺
3. 23	彼岸会法要	古義眞言宗大覺寺
3. 24	彼岸会法要	日蓮宗身延山久遠寺祖師堂
3. 26	弘法大師千百年御遠忌	護國寺本堂
4. 6	湊川神社遷座奉祝祭	神戸湊川神社
6. 24	志摩伊雑宮御神田祭	三重県志摩郡磯部村
7. 13	盂蘭盆会法要（第一日）	浄土宗大本山増上寺
7. 14	盂蘭盆会法要（第二日）	日蓮宗大本山池上本門寺

7. 15	盂蘭盆会法要（第三日）	曹洞宗大本山總持寺
7. 18	汎太平洋仏教青年大会式典及開会式	築地本願寺
8. 14	盂蘭盆会法要（第一日）	京都東山知恩院
8. 15	盂蘭盆会法要（第二日）	大阪四天王寺
8. 16	盂蘭盆会法要（第三日）	嵯峨天龍寺
9. 1	震災記念十一周年追悼法要	本所震災記念堂
9. 19	女子修道院晩課	函館女子修道院礼拝堂
9. 21	盂蘭盆会法要（第一日）	華嚴宗、奈良東大寺
9. 22	盂蘭盆会法要（第二日）	天台宗上野東叡山輪王寺
9. 23	盂蘭盆会法要（第三日）	
9. 24	盂蘭盆会法要（第四日）	曹洞宗、永平寺法堂
9. 25	盂蘭盆会法要（第五日）	真言宗、京都醍醐寺
9. 26	盂蘭盆会法要（第六日）	真宗、築地本願寺
9. 27	盂蘭盆会法要（第七日）	浄土宗、光明寺
10. 12	池上本門寺御会式	池上本門寺
10. 13	御会式法要臨滅度時の鐘	池上本門寺

4 「聖典講義」の大反響

「聖典講義」は昭和9年3月1日に東京放送局から開始され、4月から全国放送になった。「ラジオ年鑑 昭和10年版」の特集「宗教放送」には「聖典講義は昭和9年の放送史を飾る一大収穫である。その成功はラジオの教養プログラムに新紀元を割したのみならず、ラジオの価値を高からしめ、またその放送記録の出版は洛陽の紙価を高からしめている」と最大級の賛辞が記されている⁴⁰⁾。

「日本放送史（上）」におけるラジオ放送の時代区分によれば、昭和9年5月から昭和16年11月までは「第三期国家統制下の発展と変容」となる（他の時期区分は次の通り。第一期「放送の誕生」（大正11年～大正15年8月）、第二期「放送事業の確立」（大正15年8月～昭和9年5月）、第四期「太平洋戦争と放送」（昭和16年12月～昭和20年8月）、第五期「占領下の放送」（昭和20年8月～昭和25年5月）、第六期「NHKの新発足と商業放送の誕生」（昭和25年6月～昭和28年1月）、第七期「ラジオ・テレビジョンの併存」（昭和28年2月～昭和36年3月）。）。「この時期を通じて、國家の情報宣伝の機構と機能は、しだいに拡大強化されている。……放送事業が、国家目的に奉仕するために、放送番組のすべてを通じ、程度の差こそあれ、広い意味での政治性に支配され、動員されるに至ったこと、しかも事業体みずからもそれに順応して、協力体制を固めるに至ったことは、動かしがたい事実となつた。」⁴¹⁾「聖典講義」はそうした昭和9年に開始された、ラジオ誌上に残る著名な宗教番組となった。

「聖典講義」はかなりの反響を呼び起こしたようである。日本の放送史を回顧した座談会においても反響の大きさが言及されている。「シリーズ座談会 日本の放送その断面22 教養番組よもやま」⁴²⁾の中で、司会を務めた島浦精二（NHKサービスセンター副理事長：当時）は当時を回顧して「友松さんの「聖典講義」は、俗な言い方で申し訳ないが、爆発的な人気であった。普通に考えて「聖典」「法句経」という番組が、そんなにブームを起こすとは思いも及ばぬことに違いない」と述べている。「ラジオ年鑑 昭和10年版」にも「放送を始めた当時、誰が今日の成功を予期したであろうか。一般大衆も大した関心を示さなかつたし、この放送プラン作者もおそらくはそんな大きな期待をかけていなかつたに違いない」と記されている⁴³⁾。友松自身も回想の中で、新潟に招かれたときに出迎えに出たかつての放送協会の理事から、友松の人気によって聴取料に依存する財政危機を免れたと聞いた話しを残している⁴⁴⁾。

好評を博した「聖典講義」には高神覚昇「般若心經講義」、梅原真隆「歎異抄」などがあったが、その中でもとくに評判の高かったのが友松円諦の「法句経講義」だった。当時友松は必ずしも著名な仏教学者・宗教者ではなかった。講師として友松が選ばれた経緯が昭和14年の「放送 7号」に記されている。この記事によると、講師を友松にすること、講義の内容を法句経にすることは当時の放送部長矢部謙次郎の発案であったことがわかる。担当の係員は友松の名も法句経も知らなかったと記されている。友松は明治28年名古屋生まれ。明治37年に東京の浄土宗安民寺の養子となる。慶應大学卒業後ソルボンヌ大学に留学し、帰国してからは慶應大学で仏教の社会経済学的研究の講義をした。友松の回想によると、放送部長の矢部は日本の思想界の現状をひじょうに心配しており、「仏教は何をしているんだ」と叱られたという⁴⁵⁾。「私は41歳のかけ出でで「仏教の聖典講座をやるのは恥ずかしい。大先輩が大ぜいいいらっしゃるのに」といいましたら「そういうのには頼めないんだよ。お前はかけ出

「だから頼むんだ」ということで、文句がいえない」と回想されている⁴⁶⁾。

友松の「聖典講義」の成功の理由は、本人や当時の記録をまとめると、友松本人のパーソナリティと社会的背景の二点に集約することができる。

友松の語り口と放送内容は独特であったらしい。先に引用した島浦は「原因はいろいろあると言えようが、何と言っても友松さんの話術であり、それにもまして、「聖典」という有難いものを有難そうにむづかしく「講義」するというそれまでの固定した行き方を、がらりと一変した友松さんの姿勢であると思う」と述べている⁴⁷⁾。友松は放送に際してメモ程度しか用意せず、茶の間に向かって話しをする気持ちで語ったと述べている。内容に関しても、難しい言葉を使わず、フランスやイギリスの話題も取り上げた。とくに当時のフランス・ミュージックホールの大スター・ミスタンゲットの話をしたときの反響は大きかったという⁴⁸⁾。放送の形式でいえば、早朝の時間帯の放送で、定時番組であったことを理由の一因として挙げることができる。実際に友松が行ったのは「法句經講義」15日間、「阿含經」15日間であった。

今ひとつ要因は当時の宗教を含めた社会的背景である。友松が放送を開始した初日に満州国が設立されている。昭和10年版の『ラジオ年鑑』には番組が成功した社会的背景として次のような一文が記載されている。「働くけど働けど生計の樂にならない農村、ジャズに踊るネオンの灯影、放浪者の群を見る都會、富むと貧しきと生活の相は異にしているが、人々は皆悩んでいる。生活苦からではない。ただ漠とした焦燥と不安に駆られた傍さ、頼りなさの孤独感である。憧れの物質文明は巷に華と咲いているが魂を失へる放浪者の孤独感を消す由もない。何か頼るべき力が得たい、空虚な心に実感が欲しい。……民衆は今や齊しく安心と悟道に憧れているが、嘗ての魂の安息所たりし宗教の伝道は奥深く香煙に隠れて民衆への扉を閉ざしている」と書かれている。

また、高島米峰は時代の宗教観にその爆発的な人気の源を求めていた。「明治以来の反宗教的な教育の影響で、長い間大衆は宗教から引離されていて、精神的に空腹状態におかれていた。そこに投げ与えられた餌であるから、大衆は夢中になって食いついて行った」⁴⁹⁾「かつて徹臭い書斎に、貴族趣味のサロンに閉ざされていた知識の宝庫は大空に開け放たれた」⁵⁰⁾という表現は、こうした状況を巧みに表現しているように思える。

5 「時代文化の華」としてのラジオ放送

「聖典講義」の講演者自体は、既成佛教界の高僧も多く、その高聴取率は、友松が成功したような要因だけでは説明し尽くすことはできない。それゆえにメディアとしてのラジオの意味が問われなくてはならないだろう。『放送文化』の座談会で、当時教養番組のプロデューサーを担当した池島重信は「友松先生のあの放送が、放送を通して深い感銘を与えて、その出版物がベストセラーになり、あの黄色の本を女子学生が抱えて歩くのがたいへん流行した」と述べている⁵¹⁾。メディア・ミックスともいべき状況は重要な視点である。

今ひとつラジオの機能として、今までの日本人の慣習的な宗教行動を下支えしたことを指摘することができる。愛宕山時代に教養番組のプランナーをしていた崎山の回想によれば「昔は「お盆に仏壇にラジオを向けてやりました」なんていう投書がずいぶんときた」⁵²⁾という。新しいメディアが新しい宗教性を生み出す一方で、既成の宗教性を維持する機能を持つことは、インターネットを始めとした新しいメディア全般にもみられることである。

そして、他方では、ラジオというメディアは、従来の寺と日本人の関係とは異なった仏教の在り方を産み出すことをも可能にした。独特の語り口で放送された法句經講義は、人々の間に仏教復興ブームを起こしたのであった。友松円諦は仏教に対する関心の高まりを背景にして高神覚昇と全日本真理運動を創設し、全国におよそ千の支部ができたといわれている。友松はその後も仏教の大衆化に尽力し、戦後全日本佛教界が創設されたときの初代事務総長となった。爆発的に普及していったラジオというメディア、人々の精神的希求という時代背景、そしてカリスマ的な人物の登場はあらたな仏教運動を起こした、ということになる。

6 番組編成の変遷

表3で示したように、「聖典講義」は昭和9年3月1日から昭和10年1月31日までの11ヶ月間放送された。講師と題目を見ると、大半は仏教に関わる講義となっている。仏教の講義は27講義のうち15講義を占め、意外なことに、キリスト教関係の講義が5講義みられる。儒教関係の講義も4講義行われている。神道に関する講義はみら

れない。

ひじょうに人気が高く、番組編成のあり方についても様々な示唆を与えたといわれたにもかかわらず「聖典講義」は短命に終わってしまう。昭和12年2月に番組は改編されて「朝の修養」となった。「從来仏教に関する經典を主としていたのを範囲を広げて、「國民としての精神を培い、人間としての魂を養う」という建前から、建国史話、帝国憲法解説、その他日本精神の顕揚に資する我国古來の先哲の遺訓の解明に力める事になった」⁵³⁾。

表3 聖典講義一覧（昭和9～10年）（「ラジオ年鑑 昭和10年版」）

3. 1～17	友松圓諦	法句經
18～24	忽滑谷快天	隨喜證明稱名成仏決議三昧儀（抄）
26～31	塙本虎二	聖書の要約
4. 4～14	山邊哲學	仏教の要義
16～28	諸橋巖次	論語講話
30～5. 12	高神覚昇	般若心經講義
5. 14～26	玉置韜晃	妙法蓮華教觀世音菩薩普門品第二十五
28～6. 2	今井三郎	基督教の中心思想
6. 4～16	暁鳥 敏	聖德皇太子十七条憲法
18～30	小柳司氣太	老子講話
7. 2～14	天艸接三	白隱禪師坐禪和讃
16～31	加藤咄堂	菜根譚講話
8. 1～11	山田準	陽明学講話
13～23	高島米峰	道教經（抄）
24～31	宇野円空	コーラン經講讃
9. 3～15	梅原眞隆	歎異抄
17～29	勝平大喜	十牛図
10. 1～6	柴田一龍	指妙法華問答鈔
8～13	飯島忠夫	孝經鈔本
15～31	友松圓諦	阿含經
11. 1～10	植木直一郎	古事記上（鈔出）
12～20	日種謙山	碧巌錄（抄）
21～30	椎尾辯匡	六方礼經
12. 1～15	長井眞琴	梵網經（抜粹）
17～27	石原 謙	ロマ書講義
1. 11～19	秋月胤繼	大学
21～31	福島政雄	心地観經報恩品抄

昭和10年2月から始まった「朝の修養」は、番組タイトルからいってもそれまでの聖典講義とはかなり異なっている。記録として正確なものが残っていないので、講義者とタイトルだけを列挙すると表4のようになる。番組内容に関して「ラジオ年鑑 昭和11年版」には「健全なる國民思想の涵養上適切なりと認められる資料を選び、現代一流の碩学に託して訓話放送した」⁵⁴⁾と記されている。

表4 朝の修養一覧（昭和10年）（「ラジオ年鑑 昭和11年版」）

河野省三	建国史話	間宮英宗	臨濟禪師語錄抄
清水 澄	帝國憲法解説	市村謙次郎	孟子講話
谷 溫	詩經講話	富田学純	弘法大師の生涯
加藤咄堂	降魔表	梶川乾堂	講話十二講
高橋順次郎	仏陀の生涯	井上哲次郎	山鹿素行の人物と教訓
深作安文	幼学綱要	波渓了諦	大無量寿經
廣瀬 豊	松陰士規七則	佐々井信太郎	報徳講話
矢吹慶輝	法然上人遺文講話	川村理助	教育に関する勅語講解
大西良慶	維摩經問疾品	山本信哉	直毘窟
菊池謙二郎	正氣之歌	花田凌雲	釈尊の成道
岩井智海	二河白道の譬喻	山口察常	易經講話
大谷豊潤	正信念仏偈	石橋智信	イエスの宗教

昭和10年の「日曜勤行」と「日曜礼拝」の記録も記載しておきたいと思う。「ラジオ年鑑 昭和11年版」には「良き信仰は人間の魂を浄化する。この意味から精神陶冶の理論的方面たる「朝の修養」と相まって毎日曜の朝には、仏教の「日曜勤行」基督教の「日曜礼拝」が行われた」⁵⁵⁾と記されている。どの寺院・教会も著名な団体である。

表5 日曜勤行・日曜礼拝（昭和10年）

日曜勤行

護国寺、東福寺、遊行寺、仏光寺、妙心寺、西本願寺、建長寺、平野大念仏寺、熊本本妙寺、円覚寺、池上本門寺、円城寺、寛永寺、知恩院、教王護国寺、総持寺、勸修寺、聖護院、妙法寺、大覚寺、妙満寺、相國寺等

日曜礼拝

西ノ宮カトリック教会、大阪基督教会、盤坂教会、長崎大浦天主堂、同志社講堂、神戸メソジスト教会等

『ラジオ年鑑 昭和12年版』によると、昭和11年の宗教関係放送は、「朝の修養」「日曜勤行・日曜礼拝」「日曜修行」になっている。「朝の修養」の項目には講話者の氏名はなく題目だけが記載されている。昭和11年の講座には、初めて文学作品が取り上げられている⁵⁶⁾。

表6 朝の修養（主な連続講義）日曜勤行・日曜礼拝（昭和11年）（「ラジオ年鑑 昭和12年版」）

聖徳太子の御生涯	楠公の教訓	山上の垂訓
阿弥陀経講話	碧巖録講話	大乗佛教の精神
日本書紀抄	即身成仏義講話	ソクラテスの生涯
莊子の教	無門閑講話	大般若經講話
道元禪師の御生涯	日暮硯講話	神ながらの道について
日蓮上人の生涯	万葉集に現れた日本精神	聖オーガスチンの宗教生活
神皇正統記講話	立証安國論講話	儒教における天の意義
入法界品講話	諸葛孔明の生涯	
孔子の生涯	エピクテタスの処世訓	
基督に倣いて	奥の細道の心	
感無量寿經講話	永嘉真覚大師証道歌提講	

日曜勤行

京都西本願寺、駒込吉祥寺、京都禪林寺、川崎平間寺、京城市外開運寺、東京浅草寺、京都西芳寺、藤沢遊行寺、新潟本城寺、京都本閉寺、大阪報恩院、上野輪王寺、京都龍安寺、鎌倉寿福寺、京都光熙院、本郷湯島靈雲寺、京都大谷本廟、鹿島仏道寺、芝青松寺、静岡臨濟寺、京都光明寺、鶴見總持寺、京都大雲院、世田谷豪徳寺、京都本隆寺、福井専照寺

日曜礼拝

京都聖アグネス教会、麹町カトリック教会、仙台東北学院礼拝堂、神戸聖ミカエル教会、横浜神奈川バプティスト教会、大阪関西学院講堂等

日曜修行（神道儀式）

- 2. 23 麻布神道本局
- 3. 9 品川御嶽教会詔殿

昭和12年の放送は表7の通りである。放送内容は、昭和11年よりさらに広がり、金言格言まで含まれている。そして、8月には「愛誦の詩歌金言」と題して加藤寛治大将その他9名の座右の銘を放送している。先に昭和6年の満州事変以来、放送内容がしだいに変容していくことを指摘したが、宗教番組に実質的な影響が明確に表れるのは、昭和12年からである。それでも、内容から明らかのように、キリスト教、イスラム教を初め、精神修養、教養の意味は守り続けられている⁵⁷⁾。

表7 朝の修養・日曜勤行・日曜礼拝・祈願祭（昭和12年）（昭和11年）（「ラジオ年鑑 昭和12年版」）

朝の修養（主な連続講義）	イエスの十二使徒	教育勅語の奉読ならびに謹解
白川樂翁公の遺訓	孔子の人格と教訓	達磨大師の精神
書経講話	信する心の反省	聖パウロの信仰
我國体の精華	マホメットの生涯と教説	山鹿素行先生と武教小学
スマイルの自助論	(各宗) 日本高僧伝	フィヒテの言葉
昭憲皇太后御讃話	烈子講話	古道大意
ゲーテの神、世界、神話	論語講話	帰命本願鈔
處世金言	カーライルの講話	立正安國論の根本精神
伝教大師の生涯	東洋俚諺	基督の降誕

日曜勤行

京都三寶戸寺、池上本門寺、京都東福寺、大阪叡福寺、愛知妙厳寺、京都詩仙堂、上野寛永寺、京都清水寺、中山法華經寺、大津三井寺、西新井薬師、京都天童寺、浅草日輪寺、静岡寶台院、京都妙願寺

祈願祭

伊勢内宮神樂殿、京都知恩院、福岡箱崎宮

日曜礼拝

青山学院教会堂、ハルビン南崗セントニコライ中央寺院、神戸日本組合神戸基督教会、京都聖マリア教会、日本メソジスト銀座教会

昭和14年に時局放送企画協議会と東亜放送協議会が発足した。番組編成は内閣情報部の意向が反映されるようになり、宗教放送は、国民精神総動員に従って、放送内容を変更していくことになる。個人を中心とした修養に力点が置かれていた番組は、しだいに集団性を帯びていくことになる。日曜勤行・日曜礼拝の時間には、各地神社仏閣等における武運長久祈願や職病没將士慰靈祭が実況中継され、各地農民道場における鍛錬実況が放送された。「事変発生以来「修養」からも次第に平和的な経典の解説などが影をひそめ、緊迫した国民的試練に打ち克つべき堅忍不拔の精神を涵養していく性質のものとなってきた」⁵⁸⁾。

「朝の修養」は「非常時に賜りたる聖訓謹話」を持って始まる」と記されているが、具体的な事例をあげれば、菊池寛・小山松吉「武士道講話」、小本信哉「神武天皇の御偉業」、植木直一郎「奉公の精神」といったものである。さらに8月からは毎月全県府県代表が「国民精神総動員に関して」放送するようになった。放送自体の評価に関しては、単調になったものもあり、賛否は相半ばしたという⁵⁹⁾。

昭和15年の元旦放送は、奈良県橿原神宮からの「紀元二千六百年の黎明を告げる太鼓」の全国中継で開始された。この年「朝の修養」は4月から名称を「修養講話」と変更され、単講の形式で毎日放送されるようになった。放送では「時局を反映して国民生活に切実な意味を持った問題のみが取り上げられるようになった」⁶⁰⁾。日華事変以後、「国民精神総動員運動への協力は、番組企画の底流をなし、いわゆる“神国日本”観に象徴される伝統的な精神主義が番組面に強く押し出された」⁶¹⁾。とくに紀元二千六百年となった昭和15年には年間を通じた特別企画として「神社めぐり」「史跡めぐり」「国史講座」「子供の時間国史劇」が編成されている⁶²⁾。「ラジオ年鑑 昭和16年版」には「特に今年度においては、更に一步進めて、新東亜建設の偉業の達成のために、常に国体的、国家的に物を考えるよう、新しき生活意識態度を提唱し、精勤運動の大きな役割を果たすに努めた」⁶³⁾と記されている。

「宗教講義」から始まった長い宗教放送の歴史は、いったん昭和16年3月で終了することになった。昭和15年の二千六百年特集を契機にして毎週日曜日の番組は「修養講座」と名称を変更し、「国体明徴の講演を放送」したのであった⁶⁴⁾。先に述べたように、「朝の修養」には個人的な修養を説くものと、国家的集団的行動の準則を示すものとの二系統があったが、昭和16年4月からは、後継番組の「朝のことば」では後者の内容に限定されるようになった。放送の目的は「各界各層の指導者に国民に向かうべきところを聞き、ラジオを通して団結鼓舞を求めよって戦局を乗り切ろうとするにある」と明言されている⁶⁵⁾。

ラジオでの「宗教番組」は終了するが、この点に関して、今ひとつ興味深い問題が存在する。それはラジオ放送と宗教、メディアと政治の宗教性の問題と言い換えてもいい。当時の政府が自らと自らの行為をどのようなものとして国民に向かって説明したのか。アイデンティティと行為の象徴的次元に関わる問題が存在する。

竹山昭子は著書「戦争と放送」の中で、為政者が国民を戦争へと駆り立てるプロパガンダとして重要な意味を見出したのは戦時指導者層による「講演放送」であったと指摘している⁶⁶⁾。「ラジオ年鑑 昭和18年」の特集「大東亜戦争と放送」の冒頭には「我国の放送は、満州事変及び支那事変を夫々契機として、内容的にも将又形態的にも急速に所謂戦時色を帯びるに至ったことは承知の通である。……今次大東亜戦争の勃発をみるや、乾坤一擲、放送は戦争そのものの渦中に突入したのであって、戦時下日本の放送の正にあるべき姿が茲に初めてその精神と形態とを整えたと云ふべきである」と放送の意義が述べられている⁶⁷⁾。「放送は近代戦に於ける新しい武器としての役割を明確に担うにいたった」のであり、「陸・海・空の三戦線以外に、第四戦線として「姿なき電波戦」が果敢に展開されつつあることは、すでに周知のごとく」であるという⁶⁸⁾。近代戦におけるラジオの利用は、ドイツのナチスを始めよく知られていることで、日本の場合も同様であった。

竹山が講演の一覧表に挙げているのは、内閣総理大臣侯爵近衛文麿、内閣総理大臣東条英機をはじめとする政府要人で、彼らの用いるキー・シンボルはパターン化しているという。つまり、「聖旨、勅語」、「一億一心、億兆一心、一致協力、官民一体」、「東亜新秩序、東亜建設」、「御陵威」、「国体」、「大御心」、「動員」、「共存共榮」、「尽

忠報告」、「皇恩、君恩、聖恩」、「臣道」といった順に頻繁に言及されたという⁶⁹⁾。竹山は国民がこうした放送をどのように聴取したかについても分析を行っており、聴取者の批判的な投書から、時期によっては必ずしもこうした内容がそのまま受容されたわけではない点を指摘している。竹山の結論は別としても、通常国家神道といわれる政治的な現実認識がラジオを通じて強力に宣伝されたことは確かである。そしてこのことは阿部美哉が指摘するように、マッカーサーにとってのキリスト教の意味を対比させると意味深いものがある。「マッカーサーにとってのキリスト教は、いわば民主主義の基盤であって、神道と並列におかれる一つの宗教という認識はなかったに違いない」⁷⁰⁾。戦後の日本において、マッカーサーの努力は実を結ばないままに終わった。ここには、戦後、ロバート・ベラーが概念化した「市民宗教」にも関わる問題が存在する。

7 NHKにおける戦後のラジオ放送の再開

戦後という時代とラジオとの関わりは象徴的である。昭和20年8月15日正午にラジオから流れた「玉音放送」は、戦争の終わりと戦後の始まりを告げることになった。

昭和21年1月20日、ラジオでの宗教放送は「宗教の時間」として再開された。当時のラジオ局は日本放送協会一局で、まだ民間放送は開設されていなかった。戦後刊行された日本放送協会「ラジオ年鑑 22年版」に再開の理由が次のように記されている。「国民の宗教的関心を高め各自の信仰を深めることを使命としている。……宗教が深く生の根底をなすものであり、真理のみが各自に精神の自由を与えるという自覚を、回を重ねることにより、一般に喚び起すように企図している。」⁷¹⁾

ここに記された宗教放送の目的には、当時の宗教を取り巻く状況の劇的变化が反映されている。文章中の「自由」は、戦後の民主主義における「自由」であり、宗教に関して直接的には、信教の自由を意味していた。昭和24年版「ラジオ年鑑」には「ある特定の宗教だけが国家権力の庇護をうけて放送にも特権をもっていた過去の宗教放送が宗教の冒瀧であったとすれば、機会均等の原則の上に立つ今日の放送においてこのような番組の編集もまたやむをえない」と記されている⁷²⁾。実際の放送では、神道、仏教、キリスト教が同等の放送時間を与えられていた⁷³⁾。

放送時間の均等な配分は、日本の民主化の一環としての民間情報教育局による番組編成方針を踏まえたものであった。そして民間情報教育局の方針は、占領軍の対日宗教政策の中心となった「信教の自由の確立」「国家と宗教の分離」「軍国主義的ないし極端な国家主義的思想の除去」の三大原則を背景として実施されたものであったから⁷⁴⁾、ラジオでの宗教放送はそうした平等性の具体的な事例として扱われたことになる。

しかしながら、占領軍の実体をなしていたアメリカにとっての戦争の意味を考えると、神道、仏教、キリスト教が同等の放送時間を与えられていたことには見かけの平等以上の意味が潜んでいることがわかる。アメリカにとっての戦争の本質は、中野毅によれば「キリスト教的理想に基づく自由主義・民主主義的勢力」対「異教徒的野蛮である軍国主義ファシスト勢力」という文明闘争史的認識にあった。当然ながら日本の占領政策は「軍事的戦略のみでなく、政治的、経済的、文化的な諸分野にわたる総合的戦略が必要」と考えられており、アメリカは神の使いとして異教徒との戦いに勝利し、「かれらの宗教的思想に基づく民主主義を戦後世界に限なく構築するために「世界の抜本的改革」を目指したといえる」⁷⁵⁾のである。

事実マッカーサーは、来日した宣教師に多くの宣教師を日本に呼び入れるよう要請し、日本における活動に便宜を図った。昭和20年8月から昭和25年12月31日までに日本への入国手続きを行った宣教師の数は、プロテスタント、カトリックを併せて3180名にのぼっている⁷⁶⁾。マッカーサーが日本人のキリスト教化に熱心であった占領初期には、後述するように、宗教放送に関しても同様の傾向が一部に見られたのであった。

そして、こうした具体的な行為以上にキリスト教は、マッカーサーにとって重大な意味を帯びていた。先にも引用したように、占領下の宗教と制度のあり方に関して阿部美哉は、「マッカーサーにとってキリスト教は、いわば民主主義の基盤であって、神道と並列におかれる一つの宗教という認識はなかったに違いない」と指摘している⁷⁷⁾。「マッカーサーの行動を理解するためには、形式論理ではなく、マッカーサーの生まれ、育ったアメリカ文化におけるキリスト教の市民宗教的解釈ないしその公的倫理性の表象のレベルでの考察を行うことが不可欠である。」⁷⁸⁾阿部の指摘はきわめて重要な意味を持つと考えられる。それは戦時中の政治における宗教性と対比可能な

問題であり、日本の自己理解に関わる問題である。そしてマッカーサーがほどなくこうしたレベルでの宗教性を説くことに執着しなくなつたことに、戦後の日本の自己理解に関わる重大な問題が潜んでいる。

しかしながら実際には、占領軍は、信教の自由の建前から、ラジオにおけるキリスト教番組の優遇措置をとることができなかつたのである。

8 戦後の放送統制と番組基準

昭和20年9月1日、通信院は昭和16年12月9日から実施してきた電波管制を解除し、禁止してきた受信機の使用・販売を許可した⁷⁹⁾。

占領下における占領軍総司令部（以下、GHQ）の放送管理は民間通信局と民間情報教育局によって行われた。民間通信局はもっぱら放送施設・技術・法制関係を担当し、民間情報教育局が放送番組指導を行つた。昭和20年9月10日には「ニュース頒布に関する覚書」が発布された。この覚書は番組編成の基準を明らかにするとともに番組の検閲を開始することを明らかにしたものであった⁸⁰⁾。9月22日にはより具体的な内容を盛り込んだいわゆる「ラジオコード」と言われる「日本に与ふる放送原則」が出された。これらに従つて放送の事前検閲が実施されたのであった。他方で、9月27日に出された覚書によって、日本政府によるこれまでの検閲は廃止された⁸¹⁾。

GHQによる検閲は、民主化のための政治教育キャンペーンを、番組を通じて盛り上げることを目的としていた。GHQの当初の番組指導は、婦人の解放、労働組合の助成、教育の自由主義化、専制政治からの解放、経済機構の民主化という五大改革指令に集約されるという⁸²⁾。あるいは、占領初期の番組政策は、放送の民主化と非軍国主義化、連合軍および占領軍の利益の保護、そしてGHQの占領管理遂行上の便益の確保の三点として示すことができる⁸³⁾。

昭和22年8月1日、番組の事前検閲は事後検閲となり、昭和24年10月にはついに廃止されるにいたつた。検閲が廃止されるにいたつたのは、昭和21年半ば頃からの米ソの対立、冷戦の激化を背景とする、日本の早期自立化を進める極東政策を背景としている⁸⁴⁾。これによって番組制作は日本放送協会の自由と責任において行われることになった。日本放送協会は番組の自主制作のために昭和23年から番組考査を開始し、翌昭和24年12月に放送番組編成基準に関する規程として「日本放送協会放送準則」を制定した。昭和25年5月には放送法が施行されることになっており、独自の基準を制定する必要に迫られてのことであった。

「日本放送協会放送準則」は、「日本放送協会は、全国民的基盤にたつ公共放送の機関として、不偏不党の立場を守り、民主主義の健全な発達をはかるために、その機能を發揮することに最善をつくさなければならない」という前文で始まる。宗教に関しては「第一章 番組一般の基準」のなかに、直接言及した箇所が見られる。

放送は、宗教的・人種的・民族的偏見を抱かせるものであつてはならない。

二 宗教

1 宗教に関する放送は、公正に且つ慎重に取り扱うこと。

2 宗教上の信仰・教義・儀礼・習慣や神職・僧侶・牧師・司祭などの職については、偏見をもつて扱つたり、またはふまじめに扱つたりしないこと。

規則からは、慎重に、適切にというだけで、特別の方針なり具体的な内容は見えてこない。昭和34年には国内番組基準が、同様の指針に従つて設けられた。宗教に関しては「第一章 宗教番組の一般基準の第3項宗教」として「宗教に関する放送は、信仰の自由を尊重し、公正に取り扱う」となっている⁸⁵⁾。

9 日本放送協会の宗教放送

昭和21年1月20日に開始された宗教放送は、日曜日の朝の第一放送から放送されたもので、三つの宗教番組が次々と放送された。さらに昭和24年9月から「宗教の時間」は第二放送に移された。キリスト教はカトリックの時間とプロテスタントの時間に分けられ、日曜の朝各30分、神道と仏教は朝15分ずつ、週3回の放送となつた⁸⁶⁾。さらにその後「宗教の時間」は、日曜日の午前中に「キリスト教の時間（8時～8時半）」「仏教の時間（9時15

分～9時45分)」「神道の時間(10時半～11時)」として放送された⁸⁷⁾。具体的には「聖典解説、その他宗教常識の紹介を縦に、宗教音楽、礼拝実況等、宗教情操涵養に資するものを横として編成」された⁸⁸⁾。

表8 主要宗教番組(昭和21年1月20日～3月末日)(日本放送協会「放送年鑑 22年版」)

神道
天理教管長 中山正善 節から芽が出る
鶴岡八幡宮司 座田司 神社の性格
佛教
佐々木教純、大森亮順、椎尾辨匡、清水谷恭順大僧正の法話
基督教
塙本虎二 新日本の宗教、基督教はどんな宗教か
田崎健作 運命観と召命観

日本放送協会の資料にあるとおり、放送は神道、佛教、キリスト教に分けられている。神道には、後に神道系であることを主張しなくなった天理教も含まれている。

信教の自由を背景にした宗教番組の公平性と充実を図って、昭和21年5月には放送局内に宗教放送専門委員会が設けられた。当初の宗教委員には矢内原忠雄、山谷省吾、大泉孝、鈴木俊郎、花山信勝の五名が委嘱され、日本放送協会の高野岩三郎会長出席のもとに宗教番組の審議が行われたという。矢内原忠雄は経済学者で内村鑑三門下のキリスト者、山谷省吾は新約学者で日本基督教団信濃町教会牧師、大泉孝は上智大学の理事などを経たイエズス会司祭、鈴木俊郎は内村鑑三門下の無教会主義者、花山信勝は東京大学で佛教を教授する佛教学者である。構成委員には明らかにキリスト教関係者が多い。その結果、昭和24年以降は神道、佛教、キリスト教代表者各2名による構成に改められた⁸⁹⁾。

10 昭和26年の民放放送の開始と宗教放送ブーム

戦争が終わって5年間ほどはキリスト教ブームが続いた⁹⁰⁾。ヤン・スィングドーは「戦時中にほとんどの外人宣教師が収容所に軟禁され、邦人司祭の場合は、召集または徵用が約半数に達したので、宣教活動は大きく阻害された。」敗戦で事情は変わり、信者数は急な上昇を示した。「二、三年で戦争前の状態へ回復しただけではなく、1952年に占領期が終わると、すでに約20万名に達し、戦争前の倍数に近づきつつある。……信者増加は主として東京、大阪などの大都会を中心」としたという⁹¹⁾。

スィングドーは信者の急増を教会内の要因から説明している。敗戦のもたらした古い体制の崩壊に伴う精神の空虚と、信教の自由・政教分離が初めて保障されるようになったためであった。

戦後、NHKのキリスト教番組は盛況となる。「投書の中には、混乱の時代に生きる指針として、宗教講話を望む声がかなりみられた。とくにキリスト教に関する放送をという要望は、日本の民主化を物語る一つの姿であった。」⁹²⁾

しかしながら、この時期を過ぎると、日本におけるキリスト教徒数は伸び悩み、今日にいたっている⁹³⁾。スィングドーによれば、「この時期が過ぎるにつれて改宗運動が衰えただけではなく、新しい信者の多くが教会名簿に名前を残しながらも実際は教会から次第に離れてしまった……民主主義にあこがれて、それをキリスト教に求める人もかなりいたし、あるいはキリスト教を占領軍の宗教とみなして、「長いものには巻かれろ」主義が動機となって入信した人も少なくなかったようである。」⁹⁴⁾

しかしながら、現在にいたるまで、ラジオ放送でもっとも番組数・放送時間数の多いのはキリスト教系の番組である。キリスト教におけるラジオ放送の意味は、他の系統の宗教と比較して異なっていると考えることができる。

日本放送協会による放送は、日本放送協会の編成によるものであったために、日本放送協会が適正であると考えた以上の宗教放送は流されなかった。先に述べたわずかな定時番組以外は、特集番組を除いて放送される機会はなかったことになる。

昭和25年に放送制度に大きな改革が生じた。昭和24年12月の通常国会に提出された放送法、電波法案、電波管理委員会設置法案(いわゆる電波三法)は、翌昭和25年4月26日に可決された。その結果NHK以外の商業放送

(民放)が可能となり、放送の独占状態は解消されることになった。昭和26年には中部日本放送、新日本放送(現毎日放送)、朝日放送、ラジオ九州(現アール・ケー・ピー毎日放送)、京都放送(現近畿放送)、ラジオ東京(現東京放送)の6局が開局し、昭和30年代までに50局すべてのAM局が放送を開始した。

相次ぐ民放の開局は、信教の自由によって活動の制度的基盤を獲得した宗教団体に大きな活動の場を与えることになった。早くも昭和26年には金光教、天理教、キリスト教系の宗教団体、28年には孝道教団、29年には東本願寺、西本願寺、曹洞宗が放送を開始している。その後次々と宗教団体が放送を行うことになった。そして昭和35年頃には「宗教放送ブーム」と言われるまでになるのである。

急増するラジオでの宗教放送の実態を文化庁宗務課が実施した二つの調査から明らかにすることができる。それは「視聴覚布教の実態調査」(『宗教便覧』文部省、昭和29年)と「宗教放送の実情」(『宗教年鑑 昭和35年度版』文部省、昭和36年)の二つの調査報告である。

11 「視聴覚布教の実態調査」

「視聴覚布教の実態調査」は昭和27年10月に実施された。調査対象は、神道36教派、仏教56宗派、基督教8教団、その他13教団、さらにそれぞれに包括される代表的な社寺教会となっている。調査年がテレビ放送開始以前であるために、記載されている視聴覚布教の種類は「ラジオ」「トーキー」「テープレコーダー」「映写機」「拡声機」「蓄音機」「オルガン・ピアノその他楽器」「幻灯機」「紙芝居」「その他」となっていて、現在とは隔世の感を抱かせる⁵⁹⁾。

この調査では、以下の教団がラジオ放送を行っていると記されている。神道では神社神道、仏教では東本願寺、西本願寺、国泰寺、天竜寺、大徳寺、日蓮教等で、布教効果については報告されていない。キリスト教は2教団で、昭和27年1月から日本ルーテル教団が(毎週1回30分)、同年8月からセブンスデー・アドベンティストが(毎週10分)放送を始めた。「この布教効果は極めて高く評価されており……劇的な物語も数多く伝えられており、ラジオ布教による通信伝道希望者は毎週4千人を超える盛況である。」⁶⁰⁾。

さらにこの調査報告では、調査終了後にラジオ布教が急増したことを記している。生長の家(ラジオ東京)、太平洋放送協会の「暗き光」(民間20局)、ユースフォアクリストの「道と真理と生命」(数局)、アライアンススター(ラジオ中国)、日本イエスキリスト教団(ラジオ神戸等の放送局)がそれである。

いま一つの調査報告である「宗教放送の実状」の冒頭には次のように記されている。

電波界にも宗教ブームがやってきたという声が、最近になってぼうぼうで聞かれるようになった。NHKをはじめ、全国の民間放送局のほとんどが、なんらかの形で宗教放送を行っている上に、宗教番組の中にも聴取率ベスト10の中にはいるものも出てくるありさまである。

この「宗教放送の実状」調査自体が、「宗教ブーム」の実状を明らかにするために企画されたものである。「宗教ブーム」というネーミングは、この調査の中で指摘されているように、朝日放送の機關誌である「放送朝日」と「新宗教新聞」の宗教放送特集の中に見いだされる⁶¹⁾。

新宗教新聞の特集は「電波界に宗教ブームか」と題されている。この特集は、昭和35年3月20日に、日本テレビ放送網から初めて放送され、注目を浴びていることを契機に組まれたものである。宗教放送は、当時で約30教団、全国120局から放送されているとされているが、さらに宗教番組の増設、新設を計画する局が増える傾向にあると書かれており、放送局の積極的な姿勢をうかがうことができる。

新宗教新聞の特集による調査が教団側からの調査であるのに対して、「宗教放送の実情」調査は、放送局に対してアンケート用紙を送付し、集計結果をまとめた報告書である。こちらの調査結果によれば、宗教放送を行っている宗教団体数は、ラジオが44教団44局、テレビが4教団6局となっている。宗教新聞と比較して教団数はかなり多くなっている。ラジオ番組中で圧倒的に多いのはキリスト教の番組で、皮肉なことに、戦後キリスト教ブームが終わりを告げつつあった頃に、キリスト教団は積極的にラジオ放送に乗り出していったことになる。

12 宗教放送ブーム

宗教団体が昭和30年代に見せた宗教放送への関心はひじょうに高いものであった。ラジオによる宗教放送は、教団にとって未開拓の布教領域であり、様々な宗派の教団が関心を寄せていたことがわかる。

当時、宗教界の情報誌である中外日報を刊行している中外日報社内に宗教放送懇話会が置かれ、研究会が行われていた。この懇話会は「宗教放送全体のレベルを高めるため、あらゆる角度から研究と懇話」することを目的として結成された⁹⁸⁾。参加団体は、天理教、西本願寺、一心寺、円応教、天台宗、曹洞宗、高野山真言宗、東本願寺、大本、知恩院、金光教、四天王寺、日本基督教団といった伝統教団からキリスト教、新宗教と幅広い。これらはすでに当時放送を行っていた教団である。こうした教団とともに、毎日放送、北海道放送が放送局として加わっている⁹⁹⁾。

こうした教団の中で、とくにラジオ放送に熱心であったのが日本基督教団（アバコ）、東本願寺、西本願寺、曹洞宗で、組織的な体制がとられていたのはアバコと曹洞宗であった。

アバコは昭和24年にNCC（日本キリスト教協議会）の聴視覚事業部として設立された。「キリスト教の伝道と社会のために、視聴覚を効果的に利用する方法を研究し、そのための指導、助成、制作などを行うことが、AVACO（キリスト教視聴覚センター）の目的」とされる。昭和25年には、第1回キリスト教聴視覚教育講習会を開催、昭和27年には銀座教文館ビル内にスタジオが建設されている。そして昭和28年、日本基督教団に協力してラジオ番組「こころの友」の制作を開始した¹⁰⁰⁾。

曹洞宗は昭和29年8月、日本短波放送の開局と同時に放送を開始し、同年のうちに地方局を併せて3局となつた。宗務庁内に企画室を設けて制作にあたった。「曹洞宗の時間」はしだいに軌道に乗るようになったが、インフォメーションドラマとして電波に載せた「ビルマの豊饒」が大ヒットして日本短波放送開局以来の反響を呼んだという¹⁰¹⁾。その結果より親しみやすい名称として「曹洞宗の時間」を「心の窓」へと改称した。曹洞宗では寄せられた投書にパンフレットを送り、場合によっては丁重な回答を行った。放送した内容は活字にされており、「永遠の生命」（東野金瑜）、「生きている禅」（紀野一義）、「禅に生きる」（山田靈林）など好評なものもあったといふ。中でも昭和34年7月に放送された武藤義一「修証義と私」には当事者が驚くほどの反響が寄せられたといふ。曹洞宗では新たに夜間番組への参入、30分の帯番組の可能性を探った¹⁰²⁾。

当時の記録を見ると、放送を行っている団体は、放送にそれなりの手応えを感じていたことがわかる。

円応教とPL教団は大阪朝日放送で昭和35年から放送を始めたが、「新宗教新聞」は二ヶ月たった頃の反応を「まずまずの成果」と記している。円応教は8回の放送で63通の投書を受け取り、中には直接教団本部を訪れて教えを聞いたり修法を受け即日熱心な信者になった婦人も現れたといふ。また、プロテスタンントの例をあげて、70歳の老人が宗教放送で自殺を思いとどまった実例が報じられている¹⁰³⁾。大阪朝日放送で放送されていた「宗教の時間」の視聴者数は「近畿地方のみで30万～40万人と推定、早朝番組では非常に聴取率がよく前後の番組と比べて約二倍」であった¹⁰⁴⁾。

13 視聴率

宗教放送の実情を扱った新聞記事に視聴率が引用されている。表9は昭和35年に実施された第30回阪神地区ラジオ聴取率調査の結果である。

一覧表によると、どの教団の聴取率も極めて低い。しかしながら、視聴者数に換算されると少なくない人数が聴取していることになる。

表9 第30回阪神地区ラジオ聴取率調査

	男 (%)	女 (%)	計 (%)	視聴者数
高野山	0.7	0.5	1.2	約46,800人
大本	0.5	0.7	1.2	約46,800人
カトリック	0.4	0.7	1.1	約42,900人
PL教団	0.9	1.2	2.1	約81,900人
円応教	0.9	1.0	1.9	約74,100人

文部省が行った「宗教放送の現状」調査の原本となった日本民間放送連盟の報告書「宗教番組の現状」(昭和36年1月)には、各放送局の視聴率が記されている¹⁰⁶⁾。放送局が報告した宗教放送すべての視聴率が明らかにされているわけではないが、有効と思われるデータを放送局ごとに記すと表10のようになる。視聴率の有効性に関しては論議があるが、目安として利用したいと思う。

表10 番組一覧表と聴取率

放送局	番組名	教団名	放送時間	聴取率(%)	備考
北海道放送	曹洞宗の時間	曹洞宗	月 06:00~06:10	9.3	各番組の平均聴取率 (日記式、満13歳以上を対象に 標本数500名)
	西本願寺の時間	西本願寺	土 06:00~06:10		
	東本願寺の時間	東本願寺	日 07:00~07:10		
	世の光メノナイトアワー	メノナイト教会	日 07:40~07:55		
	ルーテル・アワー	日本ルーテル教団	日 11:00~11:30		
	心の灯	カトリック	日水金 15:50~15:55		
青森放送	心の灯	カトリック	月~土 05:20~05:25		
	カトリックの時間	カトリック	月 09:20~09:30		
	ルーテル・アワー	日本ルーテル教団	日 11:30~12:00		
	世の光	太平洋放送協会	日 18:30~18:45		
岩手放送	いこいのしらべ	キリスト教伝道社	木 18:30~18:45	13.4 11.3 24.8 9.6	平均14.8%
	新生アワー	新生運動協力会	土 13:40~13:55		
	仏法と孝道	孝道教団	日 06:35~06:50		
	ルーテル・アワー	日本ルーテル教団	日 11:15~11:45		
	サンダー・ファミリー・アワー	メノナイト教会	日		
東北放送	朝の呂葉	セブンスデーハイベンティスト	月~金 05:55~06:00	15.6	各宗教番組の平気聴取率。 昭和34年の調査では12.5%。
	西本願寺の時間	西本願寺	火 06:30~06:40		
	東本願寺の時間	東本願寺	土 06:30~06:40		
	こころの窓	曹洞宗	日 06:30~06:40		
	ルーテル・アワー	日本ルーテル教団	日 11:00~11:30		
秋田放送	新生アワー	新生運動協力会	土 13:25~13:45	12.4	(日記式記入方法)。平均17.3%
	世の光	太平洋放送協会	日 06:20~06:35		
	東本願寺の時間	東本願寺	日 06:40~06:50		
	ルーテル・アワー	日本ルーテル教団	日 11:00~11:30		
	サンダー・ファミリー・アワー	セブンスデーハイベンティスト	日 17:20~17:30		
山形放送	よき訪れ	聖書バプチスト連盟	日 05:50~05:55	33.6 23.2 41.2 23.6	平均30.4%
	曹洞宗の時間	曹洞宗	日 06:00~06:10		
	仏法の孝道	孝道教団	日 07:10~07:15		
	新生アワー	新生運動協力会	日 13:40~13:55		
ラジオ福島	聖歌の時間	自主番組	日 05:30~05:45	9.8 15.7 29.4	
	生長の家の集い	生長の家	日 06:35~06:55		
	恵みの呂葉	日本アッセンブリー教団	日 08:35~08:50		
	ルーテル・アワー	日本ルーテル教団	日 11:30~12:00		
朝日放送	信仰の時間	カトリック他 ※3	月~金 05:40~05:50		(昭和35年第2回阪神地区ラジオ聴取率調査参照)
	宗教の時間	プロテスタント他 ※4	月~土 06:00~06:10		
	めぐみの呂葉	日本アッセンブリー教団	土 05:35~05:50		
	ルーテル・アワー	日本ルーテル教団	日 11:00~11:30		
	みみずく説法	宇宙の宮	日		
文化放送	恵みの呂葉	日本アッセンブリー教団	土 18:00~18:15	1.0	各番組の平均聴取率
	あすへの祈り	日本アッセンブリー教団	日 00:20~00:50		
	東本願寺の時間	東本願寺	日 06:05~06:15		
	心の窓	曹洞宗	日 06:20~06:30		
	セントポール・アワー	聖パウロ修道会	日 06:30~06:40		
	ニッポン放送	国際キリスト教団 予言の声	月~土 04:50~05:00 月~日 01:45~01:50		
	希望の灯	京都佛教大学	水 03:35~03:45		
	仏教講座	真言宗豊山派	土 05:00~05:30		
	真言宗法話	生長の家	日 05:10~05:30		
	幸福への出発	天理教	日 06:15~06:30	2.0	
	においてかけの時間	太平洋放送協会	日 06:45~07:00	2.9	
	世の光	セブンスデーハイベンティスト	日 07:15~07:30	2.7	
	予言の声				

放送局	番組名	教団名	放送時間	聴取率(%)	備考	
東京放送	心の灯 生活のしおり 仏法と孝道 こころの友 ルーテル・アワー	カトリック アバコ 孝道教団 アバコ 日本ルーテル教団	月～土 土 日 日 日	06：25～06：40 06：15～06：30 06：30～06：45 11：30～12：00	3.5 1.7 1.2 2.9	平均2.4%
日本短波放	人生の窓 生活講座 心の窓 朝詣で講話 み仏と共に	自主番組 自主番組 曹洞宗 神社本庁 西本願寺	月～土 日 日	08：00～08：10 07：50～08：00 08：20～08：30	0.7～2.4	全番組の聴取率 (ダイレクトメール法)
RFラジオ日本	心の灯 新生アワー 福音の時間 ナザレン・アワー	カトリック 新生運動協力会 純福音教会 日本ナザレン教会	月～土 日 日 日	06：05～06：10 06：15～06：30 06：30～06：45 06：45～07：00	0.5～1.1	全番組の聴取率
新潟放送	喜びの声 東本願寺の時間 ルーテル・アワー 西本願寺の時間 世の光	日本伝道ミッション 東本願寺 西本願寺 日本同盟キリスト教団 日本ルーテル教団	水 土 日 日 日	12：15～12：30 06：30～06：40 06：30～06：40 11：30～11：45 18：00～18：30		
信越放送	今日の言葉 世の光 ルーテル・アワー よき訪れ 恵みをあなたに 予言の声	PL教団 太平洋放送協会 日本ルーテル教団 太平洋放送協会 岡谷めぐみ協会 セブンスデーハベンティスト	日 日 日	08：10～08：15 08：30～08：45 18：00～18：30	27.5	最高聴取率
山梨放送	キリストへの時間 ルーテル・アワー 世の光 新生アワー	太平洋放送協会 日本ルーテル教団 太平洋放送協会 新生運動協力会	日 日 日	08：20～08：35 11：00～11：30 14：00～14：15	14.8 3.4	最高聴取率 最低聴取率
北日本放送	西本願寺の時間 東本願寺の時間 新生アワー 宗教の時間 世の光 ルーテル・アワー	西本願寺 東本願寺 新生運動協力会 神社本庁 太平洋放送協会 日本ルーテル教団	水 金 土 日 日 日	06：10～06：20 06：10～06：20 06：15～06：30 06：10～06：20 06：45～07：00 10：30～11：00	18.7 6.1 16.1 18.3 14.3	平均16.5%
北陸放送	心の灯 新生アワー 東本願寺の時間 世の光 ルーテル・アワー	自主番組 新生運動協力会 東本願寺 太平洋放送協会 日本ルーテル教団	火木土 土 日 日 日	06：10～06：20 14：05～14：20 06：10～06：20 06：45～07：00 11：00～11：30	9.1 11.1 9.7 15.6 38.8	平均16.8%
福井放送	世の光 ルーテル・アワー 東本願寺の時間 新生アワー	太平洋放送協会 日本ルーテル教団 東本願寺 新生運動協力会	日 日 日 日	06：45～07：00 11：30～12：00 16：10～16：25	17.7	各番組の平均聴取率 (日記式同時記録法)
静岡放送	世の光 仏法と孝道 ルーテル・アワー	日本スエーデンミッション同盟 孝道教団 日本ルーテル教団	土 日 日	17：35～17：50 06：35～06：50 18：30～19：00	15～19	各番組の平均聴取率
中部日本放送	宗教の時間 知恩院の時間 聖書の話 大本の時間 心の窓 東本願寺の時間 ルーテル・アワー キリストの時間	自主番組 知恩院 東京聖書センター 大本 曹洞宗 東本願寺 日本ルーテル教団 南長老教会	火水木 月 火 金 土 日 日	05：50～06：00 05：50～06：00 18：10～18：25 05：50～06：00 05：50～06：00 06：45～06：55 20：15～20：45	9 19 13	(一般聴取法)
東海ラジオ	心の灯 幸福への出発 伊勢神宮だより 世の光	カトリック 生長の家 伊勢神宮 太平洋放送協会	月～土 日 日 日	16：50～16：55 06：20～06：40 06：40～06：45 07：00～07：15	5.1	各番組の平均聴取率

放送局	番組名	教団名	放送時間	聴取率(%)	備考	
近畿放送	心の灯 知恩院の時間 東本願寺の時間 新生アワー 西本願寺の時間 平和と生命の声 喜ばしい訪れの時 大谷楽苑マンスリー	カトリック 知恩院 東本願寺 新生運動協力会 西本願寺 日本福音宣教団 京都クリスチヤンセンター 大谷楽苑(月1回)	月~土 火 木 金 土 日 日 日	15:30~15:35 06:00~06:10 06:00~06:10 06:00~06:15 06:00~06:15 13:35~13:50 22:00~22:15 23:15~23:30	11.7 10.4 8.6 7.9 9.3	平均9.6%
毎日放送	仏教の時間 世の光	山中大仏堂 日本メノナイトブラザレン教会	日 日	05:45~06:00 06:45~07:00	0.6 1.0	平均0.8%
大阪放送	いこいのしらべ 四天王寺の時間 一心寺の時間 よろこびの声 延暦寺の時間 サンダー・ファミリー・アワー	キリスト伝道者 四天王寺 一心寺 日本ミッション 延暦寺 セブンスデーハーベンティスト	月 火 木 木 土 日	18:15~18:30 18:15~18:30 18:15~18:30 18:15~18:30 18:15~18:30 18:30~19:00	0.3~1.4	各番組の平均聴取率
ラジオ関西	今日の言葉 仏法と孝道 キリストへの時間 キリストの声 幸福への出発	PL教団 孝道教団 南長老教会 中華キリスト教会 生長の家	月~土 火 木 土 日	07:25~07:30 06:15~06:30 13:30~13:45 17:15~17:30 06:20~06:40	8.0 4.1 3.5	世帯調査
和歌山放送	朝のお話 朝のお話 人生読本 新生アワー 仏教の時間 平和と生命の声	自主番組 高野山真言宗 生長の家 新生運動協力会 山中大仏堂 日本福音宣教団	日~金 土 日 日 日 日	05:40~05:50 05:40~05:50 06:20~06:40 06:30~06:45 08:00~08:15 09:20~09:35	3.9 3.4 8.4	
山陰放送	新生アワー ルーテル・アワー アライアンス・アワー	新生運動協力会 日本ルーテル教団 アライアンス教会	日 日 日	05:10~05:25 10:15~10:45 11:00~11:30		
山陽放送	世の光 金光教の時間 ルーテル・アワー	太平洋放送協会 金光教 日本ルーテル教団	土 日 日	14:45~15:00 06:50~07:00 14:30~15:00	9.3 7.8 9.7	平均8.9%
中国放送	新生タイム 東本願寺の時間 予言の声 ルーテル・アワー	西日本新生館 東本願寺 エズダ 日本ルーテル教団	月 日 日 日	16:45~17:00 06:20~06:35 08:25~08:40 10:30~11:00	1.5 3.8 19.5	平均8.3%
山口放送	宗教の時間 良き訪れ 新生アワー ルーテル・アワー	自主番組 キリスト教兄弟団教会 新生運動協力会 日本ルーテル教団	日~土 月 土 日	05:40~05:50 21:30~22:00 13:40~13:55 10:30~11:00		
四国放送	良き訪れ	太平洋放送協会	日	17:00~17:30		
西日本放送	新生アワー 宗教講話	新生活運動協力会 自主番組	土 日	17:35~17:50 05:50~06:00	9.6 6.0	平均7.5%
南海放送	平和と生命の声 アライアンス・アワー	日本福音宣教団 アライアンス教会	月 日	10:00~10:25 07:15~07:30	16.0 10.1	平均13%
高知放送	キリストへの時間 ルーテル・アワー	太平洋放送協会 日本ルーテル教団	日 日	08:25~08:40 11:05~11:35	10.1	各番組の平均聴取率
RKB毎日放送	宗教の時間 バプテスト・アワー	曾洞宗他 ※9 日本バプチスト教会	月~土 日	06:00~06:10 08:10~08:20		
九州朝日放送	宗教の時間 ルーテル・アワー 新生アワー 予言の声	福岡宗教連盟 日本ルーテル教団 新生活運動協力会	月~土 日 日 日	13:00~13:30 17:30~17:45	5.2 4.5 7.4	平均5.7%
大分放送	金光教の時間 西本願寺の時間 新生アワー	金光教 西本願寺 新生活運動協力会	土 日 日	05:45~06:00 06:40~06:50 08:30~08:45	14.0	各番組の平均聴取率
長崎放送	心の灯 新生アワー 東本願寺の時間 良き訪れ	カトリック 新生活運動協力会 東本願寺 日本福音宣教団	月~土 土 日 日	15:50~15:55 18:15~18:30 06:20~06:30 16:30~17:00	11.2 11.7 8.1 4.5	平均8.9%

放送局	番組名	教団名	放送時間	聴取率(%)	備考
熊本放送	東本願寺の時間	東本願寺	日 06:10~06:20	10.8	14.7%
	新生アワー	新生活運動協力会	日 08:45~09:00	19.3	
	ルーテル・アワー	日本ルーテル教団	日 10:30~11:00	13.9	
宮崎放送	新生タイム	新生活運動協力会	日 07:25~07:40	26.2	平均17.5%
	ルーテル・アワー	日本ルーテル教団	日 11:05~11:35	17.2	
	良き訪れ	日本福音宣教団	日 17:30~17:00	9.0	
南日本放送	東本願寺の時間	東本願寺	日 06:35~06:45	9.1	
	見よキリストの教会を	九州クリチヤンミッショソ	日 08:45~09:00	11.0	
	日曜ファミリーアワー	予言の声	日 17:10~17:40	11.7	
琉球放送	西本願寺の時間	西本願寺			
	新生アワー	予言の声			
	心の灯	カトリック	月~土 11:30~11:35		
希望の声	生長の家		日 07:15~07:30		
	パブリストアワー	沖縄パブリスト	日 07:45~08:00		
	予言の声	セブンスデーハベンティスト	日 08:35~08:50		

総じて聴取率は高く、常識的に考えて山形放送のような高聴取率はそのまま受け入れることはできない。日本民間放送連盟の報告書には、各放送局の宗教番組を含んだ全番組の平均聴取率などは記載されておらず、単純に数値の比較となる。

ラジオ福島と福島県立郡山商業高等学校が昭和34年に実施した「ラジオ聴取状況調査」は、こうした聴取率の問題をある程度解決してくれる¹⁰⁷⁾。この調査では、放送されたすべての番組と聴取率が記されている。宗教番組の聴取率を、当時高聴取率を獲得したといわれた「人生読本」、当日の番組中の最高聴取率と比較すると表11のようになる。

こうして見ると「ルーテル・アワー」の29.4パーセント、「十字架の時間」の21.9パーセントは、明らかに高聴取率であることがわかる。また、他の放送番組と比較しても、「心の灯」の聴取率が極端に低いといえないこともわかる。

他の番組は「ルーテル・アワー」ほど高くはないとしても、確かにラジオでの宗教放送は聴取されていた、と結論することができるだろう。

表11 郡山地区ラジオ聴取状況調査（昭和34年11月24日～11月30日）

	NHK			ラジオ福島		
	番組名	聴取率	最高聴取率	番組名	聴取率	最高聴取率
11月24日(火)	人生読本	14.3	37.3	心の灯	7.4	53.8
25日(水)	人生読本	16.6	42.1	心の灯	5.6	52.1
26日(木)	人生読本	15.5	34.2	心の灯	5.6	49.3
27日(金)	人生読本	19.7	34.5	新生アワー	5.6	49.5
28日(土)	人生読本	20.1	32.2	心の灯	5.1	
				心の灯	9.8	55.7
29日(日)	人生読本	16.5	28.5	聖歌の時間	9.8	38.8
	宗教の時間	0	6.2	十字架の時間	21.9	
30日(月)	人生読本	16.4	34.9	恵みの言葉	15.7	
				ルーテルアワー	29.4	
				心の灯	6.1	52.0

14 放送内容と放送の限界

新しい布教・教化手段として教団に受けとめられ、少なからぬ聴取者が存在したラジオでの宗教放送に問題や矛盾が存在しなかったわけではない。昭和35年当時の放送担当者に感じられていた放送の限界は、その後規模の大きい教団がラジオ放送から撤退していく理由となったものもある。

当時の放送内容が紙上で紹介されている。PL教団の番組はディスクジョッキー形式で、丹阿弥谷津子が教祖の御木徳近の著作「人生は芸術である」の一部を朗読し、電子オルガンの演奏を流した。円応教は、教務部長が季節の話題を語らしながら巧みに教義をにじみ出させた随想的説話を行った¹⁰⁸⁾。しかしながら、放送に宗教臭さが抜けず、この点が放送の普及の問題点となっているという指摘がある¹⁰⁹⁾。

新宗教新聞によると、宗教団体の電波利用は、①一億総白痴化のブレーキとして布教を離れて良い内容の番組を流すと②純然たる布教目的のための二種類あるが、現在のところは②の放送が大部分であるという。その上で「①法話をする場合でも、極力専門語はさけ、大衆説教言葉で説教すること。②内容が聴取者の要求と波長が合い、示唆を与えてくれるものであれば、必ずしもタレンの肩書きは必要でない。③時代に即応した内容、つまりタイミングがずれないこと、④策をろうしすぎると失敗する」と忠告している¹¹⁰⁾。しかしながら、ここにはたんなる放送技術の稚拙さや不慣れ以上に、マス・メディアと布教に関する重大な問題が存在する。藤本信英NHK京都放送局放送部長（当時）は次のように述べている。「わが国では、（宗教放送の聴取率が）3%にすぎない現状を説明、とくにNHKの例をひいて毎日曜あさの「宗教の時間」に反響がなく、毎朝の「人生読本」という宗教的内容をもった番組が受けている秘密に着目「わが国では宗教そのものか、あるいは宗教的なものか、ともかく“宗教”と名を冠すると、ある抵抗感でもって迎えられる。ここに宗教放送の悩みがあり“聴かせる努力”への問題があるのでないか。」¹¹¹⁾

ラジオという多くの大衆に影響力を持つメディアを利用することによって、宗教団体は一気に知名度を高めたり、あるいは直截に信者を獲得することを目論んでいたことが当時の資料から明らかになる。しかしながら、彼らがこれまで信者獲得に使用してきたさまざまなメディアと、ラジオという新しいメディアによる布教とは、あきらかに質的相違が存在したのである。そしてこの質的相違、あるいは構造的相違といつてもいいものは、テレビというさらに新しいメディアにおいても継承されることになった。信仰が人間間の関係において直接的人格的な接触によって生じやすいものだとすれば、ラジオやテレビは明らかに間接的で直接的な接触によらない媒体ということになる。他方これらの媒体は、信念と行為の体系を持った宗教的世界観の受容を促進しない一方で、情緒的な宗教的感覚を助長する。

宗教放送ブームは、昭和35年という、ラジオとテレビのクロスオーバーする時点での実情と期待を背景にして生まれた。ラジオはまだ人々に十分な影響力を有しており、ラジオでの宗教放送は、教団には有力な布教手段として、ラジオ局には放送の公益性を満たすとともに期待される新しいスポンサーとして、そして視聴者には概ね好意的に受けとめられていた。昭和28年に放送が開始されたテレビ放送は、昭和34年の皇太子のご成婚を機会に大幅に視聴者を増やし、いよいよテレビ時代の到来を実感させることになった。昭和35年3月、日本テレビと讀賣テレビは初めて宗教番組を放送した。期待と焦燥の入り交じった雰囲気の中で、マス・メディアと宗教放送の現状と将来が熱く語られた、というのが宗教放送ブームの実体である。当時の「仏教タイムス」は次ぎのように記している。

マスコミが商業主義に走りすぎて娯楽だけを追求しているのでは意義がない。精神面でも大きな貢献をしなければ……」と、読売新聞の社主正力松太郎氏がテレビや新聞で宗教を扱うよう指示したのは今年の三月だった。それ以来、読売新聞には毎週日曜日に宗教の欄を設けている。また日本テレビ（東京）と讀賣テレビ（大阪）では毎週日曜日の朝7時20分から25分間、自主番組による「宗教の時間」を設け、宗教界に大きな反響と期待を与えているが、これが一般にどのように覗視されているだろうか。また今度どのような方針で進められてゆくだろうか。¹¹²⁾。

15 戦後におけるラジオでの宗教放送の変化

先に引用した「宗教放送の実情」調査の結果を見ると、昭和35年という時点においてラジオは、人々の間でいぜんとして大きな影響力を保持していたにもかからず、すでにラジオからテレビへとメディアの移行が始まっている。生活様式の変化も含めて、ラジオでの宗教放送がしだいに聴取されなくなりつつあったことがわかる。

「宗教放送の実情」調査は調査項目も多く、調査結果に対する分析も詳細である。さまざまな分析の中で注目しておきたいのは、「聴取率の内容と聴取者の構造」の項目である。この項目の中で、農村地帯の方が東京や大阪と言った大都市よりもかなりの程度高率の視聴率を上げているという指摘がなされている。その理由として、農村では、①早朝番組のつけ放し、②ラジオの威力の残存と人生の方針を示す番組の希少性、③既成宗教の地盤の残存、④キリスト教が入門の形で聞かれているの四つを理由として挙げている。他方大都市においては、①朝が遅

く、②世俗的関心が高く精神的欲求を解放する他の手段が存在する、③同時間帯の他の番組に聴取者をとられる、④聴取者訓練の不足、⑤檀家・氏子制度などの既成宗教の地盤の崩壊、⑥番組に浮気などが指摘されている¹¹³⁾。

こうした指摘からは、教団や放送局側がラジオに加えてテレビ放送が本格的に普及しつつあった昭和35年という時点で、宗教番組の未来をかなりバラ色にみていたのとは異なった像が浮かび上がってくる。この調査における局側的回答には、将来テレビにおける宗教番組は有望であるという見解が数多くみられる。しかしながら、ラジオの宗教団体のスポンサー番組が不振であったのは事実である。「宗教放送の実状」調査では、ラジオによる宗教番組の不振の原因について、各局担当者へ問い合わせた結果を四点にまとめている。つまり、①予算不足、②技術の不足、③放送タレントの不足、④不振を開拓するための意欲と調査の不足の四点である。報告書には、①はある程度解決できる問題、②と③は時間の解決する問題、④はスポンサー側の責任と言われている、と記されている¹¹⁴⁾。

こうした調査結果からおおよそ次のようなことが分かってくる。第一に、昭和35年の調査で取り上げられた「宗教放送ブーム」は、もっぱらラジオを主とするものであり、こうしたブームは、聴取者の需要は当然ながら、宗教団体側の積極的な関与と、放送の初期にあって市場を開拓しようとする放送局側の意図が合致したために生じたものではないかということ。

第二に、日本社会が高度経済成長期にさしかかる時期に、都市への人口集中や都市的生活様式の浸透、宗教活動人口の増大の中で、ラジオを主とする宗教放送の行方に早くも陰りが見え始めていたこと。

第三に、ラジオからテレビへのメディアの変貌の中でスタートしたテレビの宗教番組は、宗教団体と放送局の意欲にも関わらず、当初から不振であったということ。確かに不振の原因が局側によって認識され、それらの問題が解決不可能ではないと報告者も述べているが、指摘された点はあくまで、放送の際の技術上の問題であって、産業化や都市化とともに社会生活や意識の変化に対する分析を欠いたものであった。

しかしながら実際には、ラジオにおける宗教番組は消滅することなく、放送時間自体は増加している。これは「宗教放送の実情」調査の分析が誤りであったということではなく、別の理由に起因するものと考えができる。

この点を昭和35年（1960年）、昭和60年（1985年）、平成4年（2002年）という三ヵ年の宗教放送状況を比較することによって解明したいと思う。

16 調査の概要

ここで扱う資料は、「宗教放送の実情」（『宗教年鑑 昭和35年度版』文部省、昭和36年）、「テレビ、ラジオでいま見聞できる全国全局の宗教全調査でわかったこと」（『月刊住職』4月号、昭和60年）と「テレビ、ラジオでいま見聞できる全国全局の宗教番組全プログラムパート2」（『月刊住職』5月号、昭和60年）、そして筆者が平成14年に実施した調査である。

「宗教放送の実情」調査は、当時宗教放送ブームといわれながら実情が明らかになっていない点を考慮して「情報収集の面の欠如をいくぶんでも補いたいという意図で」行われた¹¹⁵⁾。調査表は日本放送協会と日本民間放送連盟を通じて各放送局に送付された。調査対象は日本放送協会と42の民間放送局である。42の民間放送局は当時の民間放送局すべてである。

調査は昭和35年10月21日付で行われ、同年11月15日が回答締切となっている。調査は、宗教放送担当部局課、宗教放送プログラム、聴取率、番組形式、人気のあった宗教番組・出演者など16項目にのぼる詳細なものである。日本民間放送連盟は「宗教放送の現状」（昭和36年1月）を作成している。報告書は37頁あり、放送局によるこうした協力は現在では信じがたいものである¹¹⁶⁾。

「テレビ、ラジオでいま見聞できる全国全局の宗教全調査でわかったこと」「テレビ、ラジオでいま見聞できる全国全局の宗教番組全プログラムパート2」は『月刊住職』に記載された記事である。調査は『月刊住職』編集部が米軍極東放送とFM局を除く全国105局を取材したものである¹¹⁷⁾。『月刊住職』編集部による調査は、昭和35年に実施された「宗教放送の実情」調査を背景として実施された。昭和35年調査との比較や分析が行われているわけではないが、昭和60年当時の宗教放送の実情を知るための資料としては有意味であると考える。

17 番組の変遷

これら二度にわたる宗教放送の実態調査を踏まえて、筆者は平成14年5月～6月に全国のラジオ放送局に対して宗教放送調査を実施した。調査時期は4月の番組改編が終了した時点を考慮したものである。昭和35年の「宗教放送の現状」調査は、日本民間放送連盟の協力により各放送局に調査表が配布され報告書が作成されたが、現在こうした協力をえることは困難であることを考慮して、以下のような手順で調査を実施した。昭和35年調査、昭和60年調査との比較を念頭に置いて、「放送便覧」（財団法人日本民間放送連盟）に掲載されている各放送局の番組表から宗教番組と考えられる番組を抽出した。宗教番組を抽出した後に、各放送局のラジオの編成部に対して、抽出した番組が宗教番組であるかどうか、抽出した番組以外に宗教番組があるかどうかを確認した。

ここでいう「宗教番組」とは、(1)宗教団体もしくは宗教と関連する団体が提供する番組で、(2)放送内容に何ら

表12 宗教番組の比較一覧

放送局	1960年（「宗教年鑑」調査）					1985年（「月刊住職」調査）	
	番組名	提供団体	放送時間			番組名	提供団体
北海道放送	曹洞宗の時間	曹洞宗	月	06:00～06:10	10分	光とともに	セブンスデーハベンティスト
	西本願寺の時間	西本願寺	土	06:00～06:10	10分	心のいこい	念法真教
	東本願寺の時間	東本願寺	日	07:00～07:10	10分	お話し	日本ルーテル教団
	世の光メノナイトアワー	メノナイト教会	日	07:40～07:55	15分	心の友	放送伝道共同委員会
	ルーテル・アワー	日本ルーテル教団	日	11:00～11:30	30分	ラジオ図書館	盤友会
	心の灯	カトリック	日水金	15:50～15:55	15分	心の詩	日本ルーテル教団
青森放送	心の灯	カトリック	月～土	05:20～05:25	30分	サウンドスケイプジョイフルナイト	天理教
	カトリックの時間	カトリック	月	09:20～09:30	10分	モンキートーク	日本ルーテル教団
	ルーテル・アワー	日本ルーテル教団	日	11:30～12:00	30分	天理教の時間	天理教
	世の光	太平洋放送協会	日	18:30～18:45	15分	浄土宗の時間	浄土宗
						東本願寺の時間	東本願寺
						西本願寺の時間	西本願寺
岩手放送	いこいのしらべ	キリスト教伝道社	木	18:30～18:45	15分	幸福への出発	生長の家
	新生アワー	新生運動協力会	土	13:40～13:55	15分	世の光	太平洋放送協会
	仏法と孝道	孝道教団	日	06:35～06:50	15分	心の灯	カトリック
	ルーテル・アワー	日本ルーテル教団	日	11:15～11:45	30分	曾野綾子の私の中の聖書	カトリック
	サンダー・ファミリー・アワー	セブンスデーハベンティスト	日		30分	天理教の時間	天理教
						計105分	
東北放送	朝の百合	セブンスデーハベンティスト	月～金	05:55～06:00	30分	太陽のほほえみ	カトリック
	西本願寺の時間	西本願寺	火	06:30～06:40	10分	世の光	太平洋放送協会
	東本願寺の時間	東本願寺	土	06:30～06:40	10分	心の灯	カトリック
	心の窓	曹洞宗	日	06:30～06:40	10分	曾野綾子の私の中の聖書	カトリック
	ルーテル・アワー	日本ルーテル教団	日	11:00～11:30	30分	天理教の時間	天理教
						計90分	
秋田放送	新生アワー	新生運動協力会	土	13:25～13:45	20分	心の灯	カトリック
	世の光	太平洋放送協会	日	06:20～06:35	15分	“	“
	東本願寺の時間	東本願寺	日	06:40～06:50	10分	天理教の時間	天理教
	ルーテル・アワー	日本ルーテル教団	日	11:00～11:30	30分	希望のダイヤル	秋田ルーテル同朋教会
	サンダー・ファミリー・アワー	セブンスデーハベンティスト	日	17:20～17:30	10分	ひかりのみち	地元仏壇店
						計85分	

かの宗教的なメッセージが含まれている番組を意味している。それゆえに、宗教団体が提供する番組であっても、内容が一般的な音楽番組やトーク番組であるものは含まれない。(「宗教放送の実情調査」では、宗教番組を1. 教団の広報活動ならびに思想活動(直接布教)と2. 教団の行う一般宗教教育あるいは社会教育活動(宗教に関心を持たせる端緒をつくる意味で、間接布教と考えることができる)に分けている。ここではその後の経緯も踏まえてこのような外形上の定義を定めておく。

番組の提供団体名は、放送局に問い合わせたものである。大半は特定の宗教団体であるが、中にはラジオ放送を実施するために作られた団体も見られる。それゆえに教団単位での記載ではないが、放送の実態を考慮しそのまととする。

			2002年(石井調査)					
放送時間			番組名	提供団体	放送時間			
月～土	05：22～05：26	24分	光とともに	セブンスデーアドベンティスト	月～金	05：00～05：04	20分	
月～土	05：26～05：30	24分	"	"	土	05：20～05：24	4分	
月～金	06：30～06：31	5分	心のいこい	念法真教	月～金	05：04～05：08	20分	
月～金	22：45～22：50	25分	"	"	土	05：24～05：28	4分	
月	20：00～20：55	55分	朝の聖書	北海道マスコミ伝道センター	月～金	05：08～05：10	10分	
土	06：00～06：15	15分	"	"	土	05：28～05：30	2分	
土	22：40～23：10	10分	高野山の時間	高野山	土	05：00～05：10	10分	
			金光教の時間	金光教	土	05：10～05：20	10分	
日	01：00～01：30	30分	仏法と孝道	孝道教団	土	05：30～05：45	15分	
日	05：10～05：25	15分	円応教	円応教	日	05：00～05：10	10分	
日	05：25～05：35	10分	天理教の時間	天理教	日	05：10～05：25	15分	
日	05：35～05：45	10分	浄土宗の時間	浄土宗	日	05：25～05：35	10分	
日	05：45～05：55	10分	東本願寺の時間	東本願寺	日	05：35～05：45	10分	
日	05：55～06：20	25分	西本願寺の時間	西本願寺	日	05：45～05：55	10分	
日	06：20～06：35	15分	幸福への出発	生長の家	日	05：55～06：20	25分	
日	06：35～06：50	15分	世の光いきいきタイム	太平洋放送協会	日	06：20～06：35	15分	
		計288分	よろこびへの扉	北海道マスコミ伝道センター	日	06：35～06：50	15分	計205分
月～金	05：25～05：30	25分	心のいこい	念法真教	月～金	05：20～05：25	25分	
月～金	06：40～06：45	25分	"	"	土	06：15～06：20	5分	
日	06：00～06：15	15分	心の灯	カトリック	月～金	05：25～05：30	25分	
日	06：30～06：45	15分	"	"	土	06：20～06：25	5分	
日	07：10～07：20	10分	天理教の時間	天理教	日	06：00～06：15	15分	
日	07：20～08：00	40分	仏法と孝道	孝道教団	日	06：25～06：40	15分	
		計130分	浄土宗の時間	浄土宗	日	07：10～07：20	10分	計100分
月～土	06：30～06：35	30分	心のいこい	念法真教	月～土	05：10～05：15	30分	
月～土	06：40～06：45	30分	世の光	太平洋放送協会	月～土	05：15～05：20	30分	
月～土	00：30～00：35	30分	心の灯	カトリック	月～土	05：20～05：25	30分	
土	06：15～06：25	10分	神社神道いろは	岩手県神社庁	土	05：50～05：55	5分	
日	06：45～07：00	15分	幸福への出発	生長の家	日	06：05～06：25	20分	
		計115分	天理教の時間	天理教	日	06：45～07：00	15分	計130分
土	05：35～05：45	10分	心のいこい	念法真教	月～土	05：25～05：30	30分	
土	05：45～06：00	15分	世の光いきいきタイム	太平洋放送協会	土	05：10～05：25	15分	
日	05：15～05：25	10分	浄土宗の時間	浄土宗	土	05：30～05：40	10分	
		計35分	天理教の時間	天理教	土	05：40～05：55	15分	
			西本願寺の時間	西本願寺	日	05：10～05：20	10分	
			信仰の時間	日本福音宣教会	日	05：20～05：30	10分	計90分
月～金	09：55～10：00	25分	心のいこい	念法真教	月～土	05：20～05：25	30分	
土	22：50～22：55	5分	天理教の時間	天理教	日	06：05～06：20	15分	
日	06：05～06：20	15分	希望の光	秋田県福音宣教放送協会	日	06：45～06：50	5分	
日	07：00～07：10	10分	東本願寺の時間	東本願寺	日	06：50～07：00	10分	
日	07：10～07：20	10分						計60分
		計65分						

放送局	1960年(「宗教年鑑」調査)					1985年(「月刊住職」調査)	
	番組名	提供団体	放送時間			番組名	提供団体
山形放送	朝の言葉 曹洞宗の時間 仏法の孝道 新生アワー	聖バプチスト連盟 曹洞宗 孝道教団 新生運動協力会	日 日 日 日	05:50~05:55 06:00~06:10 07:10~07:15 13:40~13:55	5分 10分 5分 15分	新生アワー 天理教の時間 信仰の時間 幸福への出発 仏法と孝道	新生運動協力会 天理教 日本福音宣教団 生長の家 孝道教団
ラジオ福島	聖歌の時間 生長の家の集い 恵みの言葉 ルーテル・アワー 十字架の時間 心の灯	自主番組 生長の家 日本アッセンブリー教団 日本ルーテル教団 自主番組 カトリック	日 日 日 日	05:30~05:45 06:35~06:55 08:35~08:50 11:30~12:00	15分 15分 20分 15分 15分 5分	心のいこい 世の光 心の灯 信仰の時間 天理教の時間 曾野綾子の私の中の聖書 うちの子よその子	念法真教 "太平洋放送協会 カトリック 日本福音宣教団 天理教 トリック 立正佼成会
朝日放送	信仰の時間 宗教の時間 めぐみの言葉 ルーテル・アワー みみずく説法	カトリック他 ※1 プロテスタント他 ※2 日本アッセンブリー教団 日本ルーテル教団 宇宙の宮	月~金 月~土 土 日 日	05:40~05:50 06:00~06:10 05:35~05:50 11:00~11:30	50分 60分 15分 30分 30分	信仰の時間 シャロームミュージックイン "宗教の時間 ラジオ福音の手帳 信仰の時間	日本福音宣教団他 ※4 日本ルーテル教団 "PL教団他 ※5 日本ルーテル教団 カトリック
文化放送	めぐみの言葉 あすへの祈り 東本願寺の時間 心の窓 セントポール・アワー	日本アッセンブリー教団 日本アッセンブリー教団 東本願寺 曹洞宗 聖パウロ修道会	土 日 日 日 日	18:00~18:15 00:20~00:50 06:05~06:15 06:20~06:30 06:30~06:40	15分 30分 10分 10分 10分 計 75分	世の光 同報タイム 曾野綾子の今日を生きる ファミリーアワー 浄土宗の時間	太平洋放送協会 阿含宗 カトリック セブンスディアドベンティスト 浄土宗
ニッポン放送	平和の鐘 希望の灯 仏教講座 真言宗法話 幸福への出発 においての時間 世の光 予言の声	国際キリスト教団 予言の声 京都佛教大学 真言宗豊山派 生長の家 天理教 太平洋放送協会 セブンスデーアドベンティスト	月~土 月~日 水 土 日 日 日	04:50~05:00 01:45~01:50 03:35~03:45 05:00~05:30 05:10~05:30 06:15~06:30 06:45~07:00 07:15~07:30	60分 35分 10分 30分 20分 15分 15分 15分 計 200分	心の灯 "金光教の時間 円応教の時間 天理教の時間 幸福への出発	カトリック "金光教 円応教 天理教 生長の家
東京放送	心の灯 生活のしおり 仏法と孝道 こころの友 ルーテル・アワー	カトリック アバコ 孝道教団 アバコ 日本ルーテル教団	月~土 土 日 日 日	06:25~06:40 06:15~06:30 06:30~06:45 11:30~12:00	30分 15分 15分 15分 30分 計 105分	ラジオ図書館	靈友会
日本短波放送	人生の窓 生活講座 心の窓 朝話で講話 み仏と共に	自主番組 自主番組 曹洞宗 神社本庁 西本願寺	月~土 日 日	08:00~08:10 07:50~08:00 08:20~08:30	60分 10分 10分 10分 15分 計 105分	ほほえみをあなたに 心とからだ	イブララジオ協力会 天理教
R.F.ラジオ日本	心の灯 新生アワー 福音の時間 ナザレン・アワー	カトリック 新生運動協力会 純福音教会 日本ナザレン教団	月~土 日 日 日	06:05~06:10 06:15~06:30 06:30~06:45 06:45~07:00	30分 15分 15分 15分 計 75分	心のいこい 太陽のほほえみ 朝の言葉 ほほえみをあなたに 心の詩	念法真教 カトリック キリスト教改革派日本伝道教団 純福音教会 日本ルーテル・アワー

			2002年(石井調査)				
放送時間			番組名	提供団体	放送時間		
日	05:30~05:45	15分	心のいこい	念法真教	月~土	05:00~05:05	30分
日	05:45~06:00	15分	世の光	太平洋放送協会	月~土	05:05~05:10	30分
日	06:00~06:10	10分	心の灯	カトリック	月~土	05:10~05:15	30分
日	06:10~06:20	10分	天理教の時間	天理教	日	06:00~06:15	15分
日	06:45~07:00	15分	幸福への出発	生長の家	日	06:15~06:30	15分
		計 65分	ジョイフルメッセージ	日本キリスト教団 ※2	日	06:30~06:45	15分
			仏法と孝道	孝道教団	日	06:45~07:00	15分
							計150分
月~金	06:30~06:35	25分	心のいこい	念法真教	月~金	05:10~05:15	25分
土	07:15~07:20	5分	心の灯	カトリック	月~土	05:25~05:30	30分
月~金	06:40~06:45	25分	信仰の時間	日本福音宣教会	土	05:30~05:40	10分
月~金	06:45~06:50	25分	天理教の時間	天理教	日	06:30~06:45	15分
土	06:30~06:40	10分	仏法と孝道	孝道教団	日	06:45~07:00	15分
日	06:30~06:45	15分	幸福への出発	生長の家	日	07:30~07:50	20分
日	07:45~07:55	10分	ハートフルトーク	福島県神社庁	日	09:30~09:40	10分
日	09:40~09:55	15分	鳥居をくぐれば				計125分
計130分							
月~金	05:05~05:15	50分	信仰の時間	日本福音宣教会	月~金	05:05~05:15	50分
月~金	05:15~05:20	25分	"	"	日	06:10~06:20	10分
土	05:05~05:20	5分	世の光	近畿福音放送伝道協力会	月~金	05:15~05:20	25分
月~土	05:20~05:30	60分	金光教の時間	金光教	水	04:30~04:40	10分
日	05:30~06:00	30分	福音の光	近畿福音放送伝道協力会	土・日	05:00~05:30	30分
日	06:15~06:25	10分					計125分
計180分							
月~金	05:20~05:25	25分	心の電話	築地本願寺	日	05:15~05:20	5分
月~金	17:15~17:25	50分	世の光フレッシュ・サンデー	太平洋放送協会	日	05:20~05:35	15分
土	17:20~18:00	40分	浄土宗の時間	浄土宗	日	05:35~05:45	10分
日	05:15~05:35	20分					計 30分
日	05:35~05:45	10分					
計145分							
月~金	06:25~06:30	25分	心の灯	カトリック	月~土	05:25~05:30	30分
土	06:27~06:32	5分	金光教の時間	金光教	日	04:30~04:40	10分
日	05:07~05:17	10分	幸福への出発	生長の家	日	04:40~05:00	20分
日	05:16~05:26	10分	東本願寺の時間	東本願寺	日	05:10~05:20	10分
日	05:25~05:40	15分					計 70分
日	06:40~07:00	20分					
※6							
		計 85分					
月	20:00~20:55	55分					
		計 55分					計 0分
日	17:00~17:15	15分	光とともに	セブンスデーハベンティスト	月~土	07:30~07:35	30分
日	17:15~17:30	15分	まことの教い	キリスト教改革日本伝道会	土	07:00~07:10	10分
		計 30分	天理教の時間	天理教	土	17:45~18:00	15分
			"	"	土第2	08:15~08:30	15分
			バイブルウェーブ	キリスト教改革派教会	土	22:30~22:45	15分
							計 85分
月~土	05:05~05:10	30分	心のいこい	念法真教	月~土	05:05~05:10	30分
月~土	05:20~05:25	30分	光とともに	セブンスデーハベンティスト	月~土	05:20~05:25	30分
月~土	05:25~05:30	30分	朝のことば	キリスト教改革派教会	月~土	05:25~05:30	30分
日	05:30~05:45	15分	天理教の時間	天理教	土	05:10~05:25	15分
日	05:45~06:00	15分	仏法と孝道	孝道教団	土	05:30~05:45	15分
		計120分	天使のモーニングコール	幸福の科学	土	06:00~06:30	30分
			ビバ地獄市民・世界の指導者と語る	創価学会	土	17:05~17:20	15分
			円融教の時間	高野山	日	05:20~05:30	10分
			詩で綴る心の旅路	龍神總宮社	日	05:30~06:00	30分
			高野山の時間		日	06:05~06:15	10分
							計215分

放送局	1960年(『宗教年鑑』調査)					1985年(『月刊住職』調査)	
	番組名	提供団体	放送時間			番組名	提供団体
新潟放送	喜びの声 東本願寺の時間 ルーテル・アワー 西本願寺の時間 世の光	日本伝道ミッション 東本願寺 西本願寺 日本同盟キリスト教団 日本ルーテル教団	水 土 日 日 日	12:15~12:30 06:30~06:40 06:30~06:40 11:30~11:45 18:00~18:30	15分 10分 10分 15分 30分	世の光 心の灯 天理教の時間 西本願寺の時間 曾野綾子の今日を生きる	日本伝道ミッション カトリック 天理教 西本願寺 カトリック
信越放送	今日の言葉 世の光 ルーテル・アワー よきおとずれ 恵みをあなたに 予言の声	PL教団 太平洋放送協会 日本ルーテル教団 太平洋放送協会 岡谷めぐみ協会 セブンスデーアドベンティスト	日 日 日	08:10~08:15 08:30~08:45 18:00~18:30	5分 15分 30分 30分 15分 15分	計110分	
山梨放送	キリストへの時間 ルーテル・アワー 世の光 新生アワー	太平洋放送協会 日本ルーテル教団 太平洋放送協会 新生運動協力会	日 日 日	08:20~08:35 11:00~11:30 14:00~14:15	15分 30分 15分 15分	天理教の時間 心の詩 福音の時間	天理教 日本ルーテル教団 純福音教会
日本放送	西本願寺の時間 東本願寺の時間 新生アワー 宗教の時間 世の光 ルーテル・アワー	西本願寺 東本願寺 新生運動協力会 神社本庁 太平洋放送協会 日本ルーテル教団	水 金 土 日 日 日	06:10~06:20 06:10~06:20 06:15~16:30 06:10~06:20 06:45~07:00 10:30~11:00	10分 10分 15分 10分 15分 30分	心のいこい "東本願寺の時間 西本願寺の時間 曾野綾子の今日を生きる 天理教の時間 世の光	念法真教 "東本願寺 西本願寺 カトリック 天理教 太平洋放送協会
北陸放送	心の灯 新生アワー 東本願寺の時間 世の光 ルーテル・アワー	自主番組 新生運動協力会 東本願寺 太平洋放送協会 日本ルーテル教団	火木土 土 日 日 日	06:10~06:20 14:05~14:20 06:10~06:20 06:45~07:00 11:00~11:30	30分 15分 10分 15分 30分	心のいこい "心の灯 東本願寺の時間 大本の時間 西本願寺の時間 天理教の時間	念法真教 "カトリック 東本願寺 大本 西本願寺 天理教
福井放送	世の光 ルーテル・アワー 東本願寺の時間 新生アワー	太平洋放送協会 日本ルーテル教団 東本願寺 新生運動協力会	日 日 日 日	06:45~07:00 11:30~12:00 16:10~16:25	15分 30分 10分 15分	心の灯 "世の光 太陽のほほえみ 心のいこい 西本願寺の時間 天理教の時間 新生アワー	カトリック "太平洋放送協会 カトリック 念法真教 西本願寺 天理教 新生運動協力会

放送時間			番組名	提供団体	放送時間		
月～土 火～土 日 日 日	06：30～06：35	30分	心のいこい	念法真教	月～金	05：10～05：15	25分
	00：00～00：05	30分	"	"	日	06：15～06：20	5分
	06：25～06：40	15分	心の灯	カトリック	月～金	05：15～05：20	25分
	06：40～06：50	10分	"	"	日	06：20～06：25	5分
	11：00～11：40	40分	幸福への出発 天理教の時間 西本願寺の時間	生長の家 天理教 西本願寺	日	06：00～06：15	15分
	計125分				日	06：25～06：40	15分
					日	06：40～06：50	10分
							計100分
日 日 日	08：00～08：15 08：35～08：50 09：00～09：10	15分 15分 10分 計 40分	心の灯 " " " 東本願寺の時間 めぐりあった人 高野山の時間 天理教の時間 世の光いきいきタイム 西本願寺の時間 おはよう住職さん	カトリック 念法真教 東本願寺 浄土宗 高野山 天理教 太平洋放送協会 西本願寺 お仏壇の太田屋	月～金	05：05～05：10	25分
					日	06：10～06：15	5分
					月～金	05：10～05：15	25分
					日	06：15～06：20	5分
					土	05：50～06：00	10分
					18：05～18：15	10分	
					日	06：00～06：10	10分
					日	07：30～07：45	15分
					日	08：10～08：25	15分
					日	08：40～08：50	10分
					日	09：10～09：20	10分
							計140分
月～金 土 火 木 土 日 日	06：25～06：30 06：40～06：45 06：00～06：10 06：00～06：10 06：00～06：40 06：30～06：45 07：10～07：25	25分 5分 10分 10分 40分 15分 15分 計 120分	心のともしび 心のいこい	カトリック 念法真教	月～土	05：25～05：30	30分
			"	"	土	06：35～06：49	14分
			西本願寺の時間	西本願寺	土	07：00～07：15	15分
			宗教の時間	西本願寺	日	06：00～06：15	15分
			東本願寺の時間	東本願寺	日	06：15～06：25	10分
			天理教の時間	天理教	日	06：20～06：30	10分
			聖書の話	バプテスト	日	06：30～06：45	15分
			世の光いきいきタイム	太平洋放送協会	日	06：45～07：00	15分
			幸福への出発	生長の家	日	07：10～07：25	15分
					日	07：30～07：45	15分
							計150分
月～金 日 月～土 金 土 日 日	06：15～06：20 06：10～06：15 06：30～06：35 06：00～06：10 06：00～06：10 06：00～06：10 08：00～08：10	25分 5分 30分 10分 10分 10分 10分 計100分	心のいこい 心の灯 高野山の時間 大本の時間 東本願寺の時間 西本願寺の時間 天理教の時間 みちしるべ	念法真教 カトリック 高野山 大本 東本願寺 西本願寺 天理教 太平洋放送協会	月～土	05：10～05：15	30分
			"	"	月～土	05：15～05：20	30分
			高野山	高野山	土	05：30～05：40	10分
			大本	大本	土	05：40～05：50	10分
			東本願寺	東本願寺	土	05：50～06：00	10分
			西本願寺	西本願寺	日	06：00～06：10	10分
			天理教	天理教	日	06：10～06：25	15分
					日	06：25～06：35	10分
					日	06：35～06：50	15分
							計140分
月～金 日 月～土 月～土 月～土 日 日	23：45～23：50 20：25～20：30 06：20～06：25 06：25～06：30 06：50～06：55 06：20～06：30 07：15～07：30 07：30～07：45	25分 5分 30分 30分 30分 10分 15分 15分 計160分	世の光 " " " 心の灯 " " " 心のいこい " " " 円応教の時間 " " " 西本願寺の時間 " " " 幸福への出発 " " " 天理教の時間 " " " 東本願寺の時間	太平洋放送協会 " " " カトリック " " " 念法真教 " " " 円応教 " " " 西本願寺 " " " 生長の家 " " " 天理教 " " " 東本願寺	月～金	06：40～06：45	25分
			"	"	土	05：45～05：50	5分
			カトリック	カトリック	月～金	06：45～06：50	25分
			"	"	土	05：50～05：55	5分
			念法真教	念法真教	月～金	06：50～06：55	25分
			"	"	土	05：55～06：00	5分
			円応教	円応教	日	06：00～06：10	10分
			西本願寺	西本願寺	日	06：10～06：20	10分
			生長の家	生長の家	日	07：00～07：15	15分
			天理教	天理教	日	07：15～07：30	15分
			東本願寺	東本願寺	日	07：30～07：40	10分
							計150分

放送局	1960年(「宗教年鑑」調査)					1985年(「月刊住職」調査)	
	番組名	提供団体	放送時間			番組名	提供団体
静岡放送	世の光 仏法と孝道 ルーテル・アワー	日本スエーデンミッション同盟 基督教団 日本ルーテル教団	土日日	17:35~17:50 06:35~06:50 18:30~19:00	15分 15分 30分		
					計 60分		
中部日本放送	宗教の時間 知恩院の時間 聖書の話 大本の時間 心の窓 東本願寺の時間 ルーテル・アワー キリストの時間	自主番組 知恩院 東京聖書センター 大本 曹洞宗 東本願寺 日本ルーテル教団 南長老教会	火水木月火金土日日	05:50~06:00 05:50~06:00 18:10~18:25 05 05:50~06:00 0 20:15~20:45	30分 10分 15分 10分 10分 10分 30分	ラジオ図書館 聖書の話 出会いの時 サウ 浄土宗の時間 天理教の時間 キリストへの時間 東本願寺の時間 心の時	靈友会 聖書センター 天理教 天理 浄土宗 天理教 南長老教会 東本願寺 日本ルーテル教団
					計115分		
東海ラジオ放送	心の灯 幸福への出発 伊勢神宮だより 世の光	カトリック 生長の家 伊勢神宮 太平洋放送協会	月~土日日日	16:50~16:55 06:20~06:40 06:40~06:45 07:00~07:15	30分 20分 5分 15分	太陽のぼえみ 世の光 “ 光とともに 心のいこい 金光教の時間 曾野綾子の今日を生きる 高野山の時間 円応教の時間 信仰の時間	カトリック 太平洋放送協会 “ セブンスデーハベンティスト 念法真教 金光教 カトリック 高野山 円応教 日本福音宣教団
					計 70分		
近畿放送	心の灯 知恩院の時間 東本願寺の時間 新生アワー 西本願寺の時間 平和と生命の声 喜ばしい訪れの時 大谷楽苑マンスリー	カトリック 知恩院 東本願寺 新生運動協力会 西本願寺 京都クリスチヤンセンター 大谷楽苑(月1回)	月~土火木金土日日日	15:30~15:35 06:00~06:10 06:00~06:10 06:00~06:15 06:00~06:15 13:35~13:50 22:00~22:15 23:15~23:30	30分 10分 10分 15分 15分 5分 15分 15分	心のいこい 心の灯 太陽のぼえみ “ 新生アワー 幸福を招く時間 不思議なカウンセラー お手づぎ運動の時間 回復の声 東本願寺の時間 西本願寺の時間 円応教の時間 天理教の時間 大谷楽苑マンスリー	念法真教 カトリック カトリック “ 新生活運動協力会 生長の家 キリスト教福音教会 知恩院 彦根福音教会 東本願寺 西本願寺 円応教 天理教 大谷楽苑(月1回)
					計115分		
毎日放送	仏教の時間 世の光	中山大仏堂 太平洋放送協会・日本メノナイト・ラザレン教会	日日	05:45~06:00 06:45~07:00	15分 15分	よろこびの声 世の光 心のいこい ラジオ図書館 天理教の時間 浄土宗の時間 出会いの時 サウンドスケープジョイフルナイト	日本ミッション 太平洋放送協会 念法真教 靈友会 天理教 浄土宗 天理教 天理教
					計 30分		
大阪放送	いこいのしらべ 四天王寺の時間 一心寺の時間 よろこびの声 延暦寺の時間 サンダー・ファミリー・アワー	キリスト伝道社 四天王寺 一心寺 日本伝道ミッション セブンスデーハベンティスト	月火木木土日	18:15~18:30 18:15~18:30 18:15~18:30 18:15~18:30 18:15~18:30	15分 15分 15分 15分 15分 30分	時々国々 曾野綾子の今日を生きる ファミリー・アワー	愛のみち教団 カトリック セブンスデーハベンティスト
					計105分		

			2002年(石井調査)				
放送時間		番組名	提供団体	放送時間			
		心のいこい "心の灯 福音の時間 光とともに 西本願寺の時間 仏法と孝道 天理教の時間 円応教の時間 幸福への出発	念法真教 カトリック イブラ放送協力会 セブンスデーアドベンティスト 西本願寺 孝道教団 天理教 円応教 生長の家	月~金 土 月~金 土 西本願寺 日 日 日 日	05:15~05:20 05:35~05:40 05:20~05:25 05:40~05:45 05:00~05:10 05:10~05:15 05:30~05:35 05:20~05:35 05:35~05:50 05:50~06:00 06:00~06:20	25分 5分 25分 5分 10分 5分 5分 15分 15分 10分 20分	
		計 0分					計140分
月	20:00~20:55	55分	浄土宗の時間	浄土宗	日	06:05~06:15	10分
火	01:30~01:45	15分	天理教の時間	天理教	日	06:15~06:30	15分
土	16:30~17:00	30分	キリストへの時間	南長老教会	日	06:30~06:45	15分
土	23:30~24:00	30分	東本願寺の時間	東本願寺	日	06:45~06:55	10分
日	06:05~	10分	聖書の話	聖書センター	日	24:30~25:00	30分
日	06:15~06:30	15分					
日	06:30~06:45	15分					
日	06:45~06:55	10分					
日	07:40~07:55	15分					
	計195分						計 80分
月~金	05:35~05:40	25分	心の灯	カトリック	月~金	05:35~05:40	25分
月~土	05:40~05:45	30分	世の光	太平洋放送協会	月~土	05:40~05:45	30分
月	26:00~26:15	15分	光とともに	セブンスデーアドベンティスト	月~土	05:45~05:50	30分
月~土	05:45~05:50	30分	心のいこい	念法真教	月~土	05:50~05:55	30分
月~土	05:50~05:55	30分	西本願寺の時間	西本願寺	木	05:20~05:30	10分
金	05:20~05:30	40分	金光教の時間	金光教	金	05:20~05:30	10分
土	05:00~05:40	10分	高野山の時間	高野山	日	05:05~05:15	10分
日	05:05~05:15	10分	円応教の時間	円応教	日	05:15~05:25	10分
日	05:15~05:25	10分	信仰の時間	日本福音宣教団	日	05:25~05:35	10分
日	05:25~05:35	10分	幸福への出発	生長の家	日	06:20~06:40	20分
	計200分		伊勢神宮便り	伊勢神宮	日	06:40~06:45	5分
			世の光いきいきタイム	太平洋放送協会	日	26:00~26:15	15分
							計205分
月~土	05:45~05:50	30分	心のいこい	念法真教	月~土	05:10~05:15	30分
月~土	05:50~05:55	30分	心の灯	カトリック	月~土	05:15~05:20	30分
月~金	20:55~23:00	25分	不思議なカウンセラー	キリスト福音教会	火	05:00~05:10	10分
土	23:15~23:20	5分	お手つぎ運動の時間	知恩院	水	05:00~05:10	10分
火~日	05:00~05:15	90分	東本願寺の時間	東本願寺	金	05:00~05:10	10分
月	05:30~05:45	15分	西本願寺の時間	西本願寺	土	05:00~05:10	10分
火	05:30~05:45	15分	幸福への出発	生長の家	日	05:20~05:40	20分
水	05:30~05:45	15分	天理教の時間	天理教	日	05:40~05:55	15分
木	05:30~05:45	15分					
金	05:30~05:45	15分					
土	05:30~05:45	15分					
日	05:50~05:55	5分					
日	06:15~06:30	15分					
	計305分						計135分
月~金	05:15~05:20	25分	心のいやし	カトリック	月~土	04:50~04:55	30分
月~土	05:20~05:25	30分	天理教の時間	念法真教	月~土	04:55~05:00	30分
月~土	05:25~05:30	30分	浄土宗の時間	天理教	土	05:45~06:00	15分
土	20:00~20:55	55分	浄土宗	浄土宗	日	05:35~05:45	10分
日	06:05~06:20	15分					
日	06:20~06:30	10分					
日	07:15~07:45	30分					
日	22:00~22:30	30分					
	計225分						計 85分
土	05:00~05:20	20分					
土	05:20~06:00	40分					
日	06:25~06:45	20分					
	計 80分						計 0分

放送局	1960年(『宗教年鑑』調査)					1985年(『月刊住職』調査)	
	番組名	提供団体	放送時間			番組名	提供団体
ラジオ関西	今日の言葉 仏法と孝道 キリストへの時間 キリストの声 幸福への出発	PL教団 孝道教団 南長老教会 中華キリスト長老会 生長の家	月～土 火 木 土 日	07：25～07：30 06：15～06：30 13：30～13：45 17：15～17：30 06：20～06：40	30分 15分 15分 15分 20分	太陽のほほえみ ルーテルアワー心に光を 心のいこい キリストへの時間	カトリック 日本ルーテル教団 念法真教 孝道教団 日本キリスト改革派教会
和歌山放送	朝のお話 朝のお話 人生読本 新生アワー 仏教の時間 平和と生命の声	自主 高野山真言宗 生長の家 新生運動協力会 中山大仏堂 日本福音宣教団	日～金 土 日 日 日 日	05：40～05：50 05：40～05：50 06：20～06：40 06：30～06：45 08：00～08：15 09：20～09：35	60分 10分 20分 15分 15分 15分	心の灯 心のいこい 人生読本 朝のお話 天理教の時間	カトリック 念法真教 生長の家 高野山真言宗 天理教
山陰放送	新生アワー ルーテル・アワー アライアンス・アワー	新生運動協力会 日本ルーテル教団 日本アライアンス教団	日 日 日	05：10～05：25 10：15～10：45 11：00～11：30	15分 30分 30分	光とともに 心のいこい 心に光を 円 天理教の時間 信仰の時間	セブンスデーアドベンティスト 念法真教 日本ルーテル教団 円応教 天理教 日本福音宣教団
山陽放送	世の光 金光教の時間 ルーテル・アワー	太平洋放送協会 金光教 日本ルーテル教団	土 日 日	14：45～15：00 06：50～07：00 14：30～15：00	15分 10分 30分	心のいこい 心に光りを 心の灯 信仰の時間 天理教の時間 ラジオ図書館	念法真教 日本ルーテル教団 カトリック カトリック富雄教会 天理教 靈友会
中國放送	新生タイム 東本願寺の時間 予言の声 ルーテル・アワー	新生運動協力会 東本願寺 セブンスデーアドベンティスト 日本ルーテル教団	月 日 日 日	16：45～17：00 06：20～06：35 08：25～08：40 10：30～11：00	15分 15分 15分 30分	いのちの声 “ 心の灯 世の光 心のいこい 円応教の時間 天理教の時間	日本福音宣教団 〃 カトリック 太平洋放送協会 念法真教 円応教 天理教
山口放送	宗教の時間 良き訪れ 新生アワー ルーテル・アワー	自主番組 基督兄弟団 新生運動協力会 日本ルーテル教団	日～土 月 土 日	05：40～05：50 21：30～22：00 13：40～13：55 10：30～11：00	60分 30分 15分 30分	太陽のほほえみ 世の光 心のいこい 新生アワー 西本願寺の時間 幸福への出発 浄土宗の時間 金光教の時間 天理教の時間 星の子供たち	カトリック 山口放送伝道協力会 念法真教 新生運動協力会 西本願寺 生長の家 浄土宗 金光教 天理教 星の子供たちを支える会

			2002年(石井調査)					
放送時間			番組名	提供団体	放送時間			
月～金	05：05～05：10	25分	心のともしび	カトリック	月～金	05：05～05：10	25分	
月～金	05：10～05：20	50分	"	"	日	06：15～06：20	5分	
月～金	06：50～06：55	25分	心に光を	日本ルーテル教団	月～金	05：10～05：20	50分	
日	07：15～07：30	15分	心のいこい	念法真教	月～金	05：20～05：25	25分	
日	07：30～07：45	15分	"	"	日	06：10～06：15	5分	
			光とともに	セブンスデーアドベンティスト	月～金	05：25～05：30	25分	
			"	"	日	07：00～07：05	5分	
			本多隆朗の心を照らさん！	公益社・お仏壇の浜屋	土・日	05：30～06：00	30分	
			天使のモーニングコール	幸福の科学	日	06：30～06：50	20分	
			幸福への出発	成長の家	日	06：50～07：00	10分	
			円応教の時間	円応	日	07：15～07：30	15分	
			仏法と孝道	孝道教団	日	07：30～07：45	15分	
			キリストへの時間	キリスト改革派教会	日	07：45～08：00	15分	
			聖書と福音	福音プロダクション	日	08：00～08：15	15分	
			新たなる世紀を開く	創価学会				計290分
		計130分						
月～土	06：10～06：15	30分	心の灯	カトリック	月～金	05：55～06：00	25分	
月～土	06：15～06：20	30分	"	"	日	06：05～06：10	5分	
日	06：15～06：35	20分	心のいこい	念法真教	月～金	06：00～06：10	50分	
日	06：35～06：45	10分	"	"	日	06：10～06：15	10分	
日	06：45～07：00	15分	今日のお話	和歌山青年僧の会	月	18：20～18：30	10分	
			みほとけとともに	西本願寺	土	05：50～06：00	10分	
			本多隆朗の心を照らさん！	公益社・お仏壇の浜屋	土	06：00～06：30	30分	
			朝のお話	高野山真言宗	日	06：35～06：45	10分	
			天理教の時間	天理教	日	06：45～07：00	15分	
			金光教の時間	金光教	日	07：00～07：10	10分	
		計105分						計175分
月～土	06：35～06：40	30分	心に光を	日本ルーテル教団	月～金	05：10～05：20	25分	
月～土	06：40～06：45	30分	心の灯	カトリック	月～土	05：20～05：25	30分	
月～土	06：45～06：55	10分	心のいこい	念法真教	月～土	05：25～05：30	30分	
日	06：05～06：15	10分	金光教の時間	金光教	土	05：10～05：20	10分	
日	06：30～06：45	15分	円応教の時間	円応教	日	05：50～06：00	10分	
日	06：45～06：55	10分	天理教の時間	天理教	日	06：00～06：15	15分	
		計105分	幸福への出発	成長の家	日	06：25～06：45	20分	
			西本願寺の時間	西本願寺	日	06：45～06：55	10分	
								計150分
月～土	05：10～05：15	30分	心の灯	カトリック	月～金	05：10～05：15	25分	
月～土	05：15～05：25	60分	"	"	土	05：25～05：30	5分	
月～土	05：25～05：30	30分	心に光を	日本ルーテル教団	月～土	05：15～05：25	60分	
日	06：35～06：45	10分	心のいこい	念法真教	月～金	05：25～05：30	25分	
日	05：45～06：00	15分	"	"	土	05：10～05：15	5分	
日	20：00～20：15	15分	希望の声	西大寺キリスト教会	土	05：30～05：40	10分	
		計160分	岡山仏教アワー	岡山県仏教会	日	05：40～05：55	15分	
			天理教の時間	天理教	日	05：45～06：00	15分	
			幸福への出発	成長の家	日	06：15～06：35	20分	
			金光教の時間	金光教	日	06：35～06：45	10分	
			西本願寺の時間	西本願寺	日	06：45～06：55	10分	
			高野山の時間	高野山真言宗	日	07：15～07：25	10分	
								計210分
月～土	05：30～05：35	30分	心の灯	カトリック	月～土	05：00～05：05	30分	
日	06：25～06：30	5分	世の光	太平洋放送協会	月～土	05：05～05：10	30分	
月～土	05：35～05：40	30分	心のいこい	念法真教	月～土	05：10～05：15	30分	
月～土	05：40～05：45	30分	信仰の時間	日本福音宣教会	土	05：15～05：25	10分	
月～土	05：45～05：50	30分	希望の声	西大寺キリスト教会	土	05：25～05：35	10分	
日	06：00～06：10	10分	金光教の時間	金光教	土	05：50～06：00	10分	
日	06：10～06：25	15分	円応教の時間	円応教	日	05：25～05：35	10分	
		計150分	幸福への出発	成長の家	日	05：35～05：55	20分	
			天理教の時間	天理教	日	06：30～06：45	15分	
			本願寺の時間	本願寺広島別院	日	06：45～06：55	10分	
								計175分
月～土	06：30～06：35	30分	心の灯	カトリック	月～土	05：10～05：15	30分	
月～土	06：35～06：45	60分	さわやか世の光	太平洋放送協会	月～土	05：15～05：25	30分	
月～土	06：45～06：50	30分	心のいこい	念法真教	月～土	05：25～05：30	30分	
月	06：15～06：30	15分	西本願寺の時間	西本願寺	日	06：00～06：10	10分	
火	06：20～06：30	10分	金光教の時間	金光教	日	06：10～06：20	10分	
水	06：15～06：30	15分	幸福への出発	成長の家	日	06：20～06：35	15分	
木	06：20～06：30	10分	天理教の時間	天理教	日	06：35～06：50	15分	
土	06：20～06：30	10分	サンデーゴスペル	カトリック	日	07：45～08：00	15分	
日	06：45～07：00	15分						
	07：10～07：25	15分						計155分
	計210分							

放送局	1960年(「宗教年鑑」調査)					1985年(「月刊住職」調査)	
	番組名	提供団体	放送時間			番組名	提供団体
四国放送	良き訪れ	基督兄弟団	日	17:00~17:30	30分 計 30分	世の光 心のいこい 太陽のほほえみ 心の灯 天理教の時間 新生アワー	四国福音放送伝道協力会 念法真教 カトリック カトリック 天理教 新生運動協力会
西日本放送	新生アワー 宗教講話	新生運動協力会 自主番組	土日	17:35~17:50 05:50~06:00	15分 10分 計 25分	心の灯 比叡の光	カトリック 比叡山延暦寺
南海放送	平和と生命の声 アライアンス・アワー	日本福音宣教団 日本アライアンス教団	月日	10:00~10:25 07:15~07:30	25分 15分 計 40分	心の灯 心のいこい 世の光 太陽のほほえみ 天理教の時間 信仰の時間	カトリック 念法真教 愛媛ラジオ伝道協力会 カトリック 天理教 日本福音宣教団
高知放送	キリストへの時間 ルーテル・アワー	太平洋放送協会 日本ルーテル教団	日日	08:25~08:40 11:05~11:35	15分 30分 計 45分	太陽のほほえみ 心のいこい 心の灯 "	カトリック 念法真教 カトリック "
RKB毎日放送	宗教の時間 バプテスト・アワー	福岡県宗教連盟 ※3 日本バプテスト連盟	月~土日	06:00~06:10 08:10~08:20	60分 10分 計 70分		
九州朝日放送	宗教の時間 ルーテル・アワー 新生アワー 予言の声	福岡宗教連盟 日本ルーテル教団 新生活運動協力会 セブンスデーアドベンティスト	月~土日 日 日	13:00~13:30 17:30~17:45	60分 30分 15分 25分 計130分		
大分放送	金光教の時間 西本願寺の時間 新生アワー	金光教 西本願寺 新生運動協力会	土日日	05:45~06:00 06:40~06:50 08:30~08:45	15分 10分 15分 計 40分	心の灯 心のいこい 天理教の時間 星の子供たち 心の時	カトリック 念法真教 天理教 日本ナザレン教団 日本ルーテル教団

放送局	1960年(「宗教年鑑」調査)					1985年(「月刊住職」調査)	
	番組名	提供団体	放送時間			番組名	提供団体
長崎放送	心の灯 新生アワー 東本願寺の時間 良き訪れ	カトリック 新生運動協力会 東本願寺 日本福音宣教団	月～土 日 日	15：50～15：55 18：15～18：30 06：20～06：30 16：30～17：00	30分 15分 10分 30分	心のいこい “ 心の灯 東本願寺の時間 心の時 天理教の時間 幸福への出発 金光教の時間 曾野綾子の今日の生きる	念法真教 “ カトリック 東本願寺 日本ルーテル教団 天理教 生長の家 金光教 カトリック
熊本放送	東本願寺の時間 新生アワー ルーテル・アワー	東本願寺 新生運動協力会 日本ルーテル教団	日 日 日	06：10～06：20 08：45～09：00 10：30～11：00	10分 15分 30分	心の灯 心のいこい 太陽のほほえみ 心の時 世の光 天理教の時間 金光教時間 幸福への出発 仏法と孝道	カトリック 念法真教 カトリック 日本ルーテル教団 太平洋放送協会 天理教 金光教 生長の家 孝道教団
宮崎放送	新生タイム ルーテル・アワー 良き訪れ	新生運動協力会 日本ルーテル教団 日本福音宣教団	日 日 日	07：25～07：40 11：05～11：35 17：30～17：00	15分 30分 30分	太陽のほほえみ 世の光 心の灯 心のいこい ご同郷タイム 天理教の時間 信仰の時間 金光教の時間	カトリック 太平洋放送協会 カトリック 念法真教 阿含宗 天理教 日本福音宣教団 金光教
南日本放送	東本願寺の時間 見よキリストの教会を ルーテルアワー 日曜ファミリーアワー 西本願寺の時間	東本願寺 九州クスチャン・ミッション 日本ルーテル教団 予言の声 西本願寺	日 日 日 日	06：35～06：45 08：45～09：00 13：00～13：30 17：10～17：40	10分 15分 30分 30分 10分	※放送局自体の記載が見 られない	
琉球放送	心の灯 希望の声 バプチストアワー 予言の声	カトリック 生長の家 沖縄バプチスト連盟 セブンスデーホーリネス	月～土 日 日 日	11：30～11：35 07：15～07：30 07：45～08：00 08：35～08：50	30分 15分 15分 15分		
					計 75分		

*1 カトリック、PL教団、円応教、本能寺、高野山、大本

*2 プロテスタント、曹洞宗、西本願寺、金光教、東本願寺、知恩院、天理教

*3 曹洞宗、東本願寺、天理教、金光教、知恩院、西本願寺

*4 日本福音宣教団、円応教、富雄キリスト教会、高野山真言宗、大本、カトリック

*5 PL教団、西本願寺、金光教、東本願寺、知恩院、天理教

*6 放送時間に重複が見られるが、原典のまま。

*7 放送時間が重複しているが、原典のまま。

			2002年(石井調査)				
放送時間			番組名	提供団体	放送時間		
月～金 土 月～土 金 土 日 日 日 日	06：35～06：40 06：30～06：35 06：40～06：45 06：45～06：55 06：40～06：55 06：00～06：15 06：15～06：30 07：15～07：25 08：00～08：40	25分 5分 30分 10分 15分 15分 15分 10分 40分	心のいこい " " " " 東本願寺の時間 天理教の時間 幸福への出発 世の光いきいきタイム 金光教の時間 西本願寺の時間	念法真教 " " カトリック " " 東本願寺 天理教 生長の家 太平洋放送協会 金光教 西本願寺	月～金 土 月～金 土 日 日 日 日 日	05：20～05：25 06：30～06：35 05：25～05：30 06：35～06：40 06：45～06：55 06：00～06：15 06：15～06：30 06：40～06：55 07：15～07：25 07：25～07：35	25分 5分 25分 5分 10分 15分 15分 15分 10分 10分
	計165分						計135分
月～金 月～土 月～土 木 金 土 土 日 日	00：00～00：05 06：00～06：05 06：05～06：10 06：30～06：45 06：30～06：45 06：30～06：45 06：45～06：55 06：15～06：30 06：45～07：00	25分 30分 30分 15分 15分 15分 10分 15分 15分	心のいこい " " " " 金光教の時間 天使のモーニングコール 世の光いきいきタイム 幸福への出発 西本願寺の時間 仏法と孝道 天理教の時間 ピバ地球市民	念法真教 " " カトリック " " 金光教 幸福の科学 太平洋放送協会 生長の家 西本願寺 孝道教団 天理教 創価学会	月～金 日 月～金 日 日 土 日 日 日	05：10～05：15 06：00～06：05 05：15～05：20 06：05～06：10 05：50～06：00 06：00～06：30 05：45～06：00 06：15～06：30 06：30～06：40 06：40～06：55 07：10～07：25 08：15～08：30	25分 5分 25分 5分 10分 30分 15分 15分 10分 15分 15分 15分
	計170分						計185分
月～土 月～土 月～土 月～土 月～土 日 日 日	05：05～05：10 05：10～05：20 05：20～05：25 05：25～05：30 16：10～16：20 06：45～07：00 07：00～07：10 07：10～07：20	30分 60分 30分 30分 10分 15分 10分 10分	天理教の時間 心の灯 心のいこい 信仰の時間 金光教の時間 西本願寺の時間 録音風物詩	天理教 カトリック 念法真教 日本福音宣教会 金光教 西本願寺 創価学会	土 土 土 土 日 日 日 日	06：00～06：15 06：20～06：25 06：25～06：30 07：00～07：10 07：10～07：20 07：20～07：30 07：30～07：40	15分 5分 5分 10分 10分 10分 10分
	計195分						計 65分
			心のいこい 心の灯 " " 天理教の時間 仏法と孝道 西本願寺の時間 幸福への出発 天理教の時間	念法真教 カトリック " " 天理教 孝道教団 西本願寺 生長の家 天理教	月～金 月～金 日 土 日 日 日 日	05：20～05：25 05：25～05：30 06：05～06：10 05：30～05：45 06：20～06：35 06：35～06：45 07：10～07：30 07：30～07：45	25分 25分 5分 15分 15分 10分 20分 15分
			光とともに " " 心のいこい " " 心の灯 幸福への招待 東本願寺の時間 西本願寺の時間 天理教の時間 円応教の時間	セブンスデーアドベンティスト " " 念法真教 カトリック 生長の家 東本願寺 西本願寺 天理教 円応教	月～金 土 月～金 土 月～土 土 日 日	05：10～05：15 05：45～05：50 05：15～05：20 05：50～05：55 05：25～05：30 05：30～05：45 05：00～05：10 05：10～05：20 05：30～05：45 05：45～06：00	25分 5分 25分 5分 30分 15分 10分 10分 15分 15分
		計 0分					計155分

札幌テレビ放送					心の灯 心のいこい	月～	05：00～05：05 05：05～05：10	
栃木放送	心のいこい 世の光 喜ばしい訪れ	月～土 日 日	06：40～06：45 10：30～10：45 10：45～11：00	30分 15分 15分	イエスと共に歩む時間	日	22：40～23：00	
茨城放送	太陽のはほえみ 心のいこい 心の灯 イエスとともに歩む時間 俊成アワー 希望のダイヤル 喜ばしい訪れ	月～土 月～土 月～土 日 日 日 日	06：10～06：15 06：55～07：00 11：40～11：45 08：45～09：00 11：45～12：00 21：45～22：00 22：45～23：00	30分 30分 30分 15分 15分 15分 15分	幸福への出発 希望の光 イエスと共に歩む	日 日 日	06：40～07：00 22：00～22：10 22：10～22：20	

18 放送時間の変化

まず放送時間の変化を見ることにしよう。それぞれの調査年度の一週間の全放送時間は、1960年が3,405時間、1985年が4,678時間、2002年が5,234時間と着実に増加している。2002年の時間は1959年の1.5倍に増加した。もともと、ラジオ全体の放送時間も増加しているのであって、一概に「増加」とはいえないが、それでも多くのラジオ局から宗教放送が流れていることは確かである（表13参照）。

個々の放送局の一週間の放送時間の変化を見ていくと、いくつかの特徴があることに気づく。放送時間が増加し、現在一週間に合計で120分を超える宗教放送を行っているのは、北海道放送、岩手放送、山形放送など地方局に多くなっている。他方、大半の放送局が放送時間を増加させている中で、時間を減少させている放送局のあることがわかる。放送時間の減少は、とくにキー局、もしくは準キー局と呼ばれる放送局に顕著である。

表13 放送局ごとの放送時間の変化

放送局	1960年	1985年	2002年
	放送時間	放送時間	放送時間
北海道放送	90分	288分	205分
青森放送	85分	130分	100分
岩手放送	105分	115分	130分
東北放送	90分	35分	90分
秋田放送	85分	65分	60分
山形放送	35分	65分	150分
ラジオ福島	85分	130分	125分
文化放送	75分	145分	30分
ニッポン放送	200分	85分	70分
東京放送	105分	55分	0分
RFラジオ日本	75分	120分	215分
日本短波放送	105分	30分	85分
新潟放送	80分	125分	100分
信越放送	50分	0分	140分
山梨放送	75分	40分	84分
北日本放送	90分	120分	150分
北陸放送	100分	100分	140分
福井放送	70分	160分	150分
静岡放送	60分	0分	140分
中部日本放送	分	195分	80分
東海ラジオ放送	70分	200分	205分
近畿放送	115分	305分	135分
放送時間合計			
	3,405分	4,678分	5,234分

放送局	1960年	1985年	2002年
	放送時間	放送時間	放送時間
朝日放送	185分	180分	115分
毎日放送	30分	225分	85分
大阪放送	105分	80分	0分
ラジオ関西	95分	130分	290分
和歌山放送	135分	105分	175分
山陰放送	75分	105分	150分
山陽放送	55分	160分	210分
中国放送	75分	150分	175分
山口放送	135分	210分	155分
四国放送	30分	125分	145分
西日本放送	25分	30分	130分
南海放送	40分	145分	165分
高知放送	45分	90分	120分
RKB毎日放送	70分	0分	110分
九州朝日放送	130分	0分	55分
大分放送	40分	100分	110分
長崎放送	85分	165分	135分
熊本放送	55分	170分	185分
宮崎放送	75分	195分	65分
南日本放送	95分		130分
琉球放送	75分	0分	155分
放送時間合計			
	3,405分	4,678分	5,234分

現在のラジオ放送にはJRN（ジャパン・ラジオ・ネットワーク）とNRN（ナショナル・ラジオ・ネットワーク）の二つのネットワークが存在する。JRNは、ラジオ東京が昭和40年に30局の加盟を得て発足させたネットワークである。NRNはJRNに二日遅れて文化放送とニッポン放送が29社の加盟を得て発足した¹¹⁸⁾。放送局の中でも他社への番組販売の比重の高い局をキー局という。東京の東京放送、文化放送、ニッポン放送、そしてラジオニッポンがキー局である。キー局ほどではないが、同様の傾向を持つ局を準キー局といい、大阪の毎日放送、朝日放送、大阪放送が該当する。キー局や準キー局と呼ばれる放送局も、法的には他局と同様のローカル局であるが、番組を制作してネットワークへ提供するだけでなく、番組自体をある程度コントロールする力を持つ局である。つまり、ラジオ・ネットワークの中心に位置する放送局が宗教番組の放送時間を減少させているのである。

キー局と準キー局、その他の放送局に分けて放送時間の変化を見ると、この点は一目瞭然となる（表14参照）。ニッポン放送は、1960年には200分放送していたのが2002年には70分へと減少させている。同様に日東京放送は105分から0分へ、朝日放送は185分から115分へ、大阪放送は105分から0分へと減少させている。文化放送と毎日放送は1985年の調査時に増加させているものの、現在は30分と85分とわずかな放送時間数となっている。唯一の例外はRFラジオニッポンで、75分の放送時間が現在は215分まで増加している。

表14 キー局・準キー局とその他の放送局の放送時間の比較

放送局	1960年	1985年	2002年
	放送時間	放送時間	放送時間
文化放送	75分	145分	30分
ニッポン放送	200分	85分	70分
東京放送	105分	55分	0分
R F ラジオニッポン	75分	120分	215分
朝日放送	185分	180分	115分
毎日放送	30分	225分	85分
大阪放送	105分	80分	0分
上記放送局合計	775分	890分	515分
その他放送局合計※1	2,630分	3,788分	4,719分
合計	3,405分	4,678分	5,234分

0.7倍
1.8倍
1.5倍

※1 データ上の理由から中部日本放送と南日本放送を除外した
上記放送局以外の放送局の放送時間合計

キー局・準キー局の7局の放送時間の合計と、その他の放送局の放送時間の合計とを比較すると、7局の合計が1959年に775分、1985年に890分、2002年に515分と推移するのに対して、その他放送局の合計時間数は1960年が2,630分、1985年が3,788分、2002年が4,719分と対照的である。キー局・準キー局が1960年から2002年に0.7倍になったのに対して、その他放送局は1.8倍に時間が増加したのである。また、1960年において、キー局・準キー局の宗教放送が全体に占める割合は22.8パーセントであったのに対して、2002年では9.8パーセントへと1割以下に減少している。

キー局・準キー局がラジオ・ネットワークに占める重要性、そして人口の8割がこうした局の放送圏にあることを考えたときに、キー局・準キー局における宗教放送時間の著しい減少と地方局での着実な増加は重要な意味を持つにちがいない。

放送局の放送時間を、次表のように分類して示すとキー局・準キー局のこうした傾向がいかに全体の中で特異であるかがよく理解できる。

表15 放送時間による放送局の分類

放送時間	1960年 (%)	1985年 (%)	2002年 (%)
0~30分	3 (7.1)	7 (16.7)	3 (7.0)
31~60分	8 (19.0)	3 (7.1)	2 (4.7)
61~120分	26 (61.9)	11 (26.2)	13 (30.2)
121分~	5 (11.9)	21 (50.0)	25 (58.1)
合計	42 (100.0)	42 (100.0)	43 (100.0)

1960年では「61分以上120分」の放送局が6割と最も多かったのが、しだいに少ない時間数の放送局と長時間の放送を行う放送局へと分化し、2002年では60以内の放送時間の放送局は全体のおよそ1割にとどまっているが、そのうち3局がキー局・準キー局である。

19 系統別の団体数・番組数の変化と放送時間帯

各調査年の放送を行っている宗教団体数と番組数を示すと表16のようになる。

各調査年における宗教系統別の割合を見ると、どの調査年においてもキリスト教系の団体・番組数が圧倒的に多くなっていることがわかる。キリスト教系の次は、年度によって異なっているが、仏教系とその他の宗教が占めている。神道系の団体・番組数は少ない。

各調査年の団体数・番組数の合計の変化を見ると、団体数は49団体、44団体、43団体と漸次減少し、70を超えていた番組数が2002年には54へと急速に減少していったことがわかる。系統別を考慮しながら、減少した団体を見る

表16 放送を行っている宗教団体数と番組数（下段は%）

系 統	1960年		1985年		2002年	
	団体数	番組数	団体数	番組数	団体数	番組数
神 道 系	1 2.0	2 2.8	0 0.0	0 0.0	2 4.7	2 3.7
仏 教 系	14 28.6	20 28.2	7 15.9	12 27.9	12 27.9	13 24.1
キリスト教系	27 55.1	37 52.1	26 59.1	20 46.5	20 46.5	26 48.1
その他の宗教	7 14.3	14 19.7	11 25.0	9 20.9	9 20.9	13 24.1
合 計	49 100.0	71 100.0	44 100.0	43 100.0	43 100.0	54 100.0

と、団体数の減少はキリスト教系によるもので、番組数の減少はもっぱら仏教系とキリスト教系によるものであることがわかる。

このように、週番組の全放送時間数が増大する一方で、宗教番組を提供する団体、そして宗教番組数自体が少なくなっているという事実は、特定の宗教団体の特定の番組が多くの放送局で放送されるようになったことを意味している。

表17 放送局数の多い宗教番組比較一覧

番組名	局数 1960	番組名	局数 1985	番組名	局数 2002
ルーテルアワー	25	天理教の時間	26	天理教の時間	35
世の光	13	心のいこい	22	心のいこい	32
新生アワー	13	心の灯	19	心の灯	32
東本願寺の時間	12	世の光	15	幸福への出発	24
心の灯	8	太陽のほほえみ	13	西本願寺の時間	21
西本願寺の時間	5	信仰の時間	8	金光教の時間	15
仏法と孝道	5	心の詩	7	東本願寺の時間	12
新生タイム	5	曾野綾子の今日を生きる聖書	7	円応教の時間	10
サンデー・ファミリー・アワー	4	西本願寺	7	世の光いきいき	10
心の窓	4	東本願寺	6	仏法と孝道	9
良き訪れ	4	浄土宗	6	光とともに	8
予言の声	3	幸福への出発	6	世の光	7
幸福への出発	3	金光教の時間	6	浄土宗の時間	7
キリストへの時間	3			高野山の時間	7
平和と生命の声	3				

1960年の調査では、10以上の放送局から放送されている番組は、「ルーテル・アワー（日本ルーテル教団）」、「世の光（太平洋放送協会）」、「新生アワー（新生運動協力会）」、「東本願寺の時間（東本願寺）」の4教団であった（表17参照）。1985年の調査では、「天理教の時間（天理教）」、「心のいこい（念法真教）」、「心の灯（カトリック）」、「世の光（太平洋放送協会）」、「太陽のほほえみ（カトリック）」の5教団に増加している。その後特定の番組の放送局が増加する傾向は強まり、2002年には放送局数が10局を超える番組は9教団になっている。

着実に放送局数を増加させていった教団として、天理教（天理教の時間）、念法真教（心のいこい）、カトリック（心の灯）、日本福音教団（幸福への出発）、西本願寺（西本願寺の時間）、東本願寺（東本願寺の時間）、金光教（金光教の時間）を挙げることができる。

ようするに、時間数の増大にもかかわらず、放送を行う教団が減少したのは、上記のような特定教団が放送局数と放送時間を増大させていったからに他ならないのである。ちなみに、どの放送局のどの番組に継続性があるのかを表18で示しておく。

表18 宗教放送を行っている教団の三年ごとの比較一覧（比較可能な放送局のみの集計で、三度の調査のうち、一ヵ年でも欠けている放送局は除いた。）

		1960年（「宗教年鑑」調査）		1985年（「月刊住職」調査）		2002年（石井調査）	
神道	神社本庁	朝詣で講話 宗教の時間					
					岩手県神社庁 福島県神社庁	神社神道いろは ハートフル鳥居をくぐれば	
仏教系	浄土宗	宗教の時間	浄土宗	浄土宗の時間	浄土宗	めぐりあった人	
	浄土真宗本願寺派	西本願寺の時間 み仏と共に 宗教の時間	浄土真宗本願寺派	西本願寺の時間 宗教の時間	浄土真宗本願寺派	西本願寺の時間 み仏と共に 宗教の時間	
	真宗大谷派	東本願寺の時間 宗教の時間	真宗大谷派	東本願寺の時間 宗教の時間	真宗大谷派	東本願寺の時間	
	曹洞宗	曹洞宗の時間 こころの窓 宗教の時間					
	高野山真言宗	信仰の時間	高野山真言宗	信仰の時間 高野山の時間 朝のお話	高野山真言宗	高野山の時間	
	真言宗豊山派	真言宗法話					
	四天王寺	四天王寺の時間					
	一心寺	一心寺の時間					
	延暦寺	延暦寺の時間					
	知恩院	知恩院の時間 宗教の時間	知恩院	お手つぎ運動の時間 宗教の時間	知恩院	お手つぎ運動の時間	
新宗教系	本能寺	信仰の時間					
	京都佛教大学	佛教講座					
	中山大仏堂	佛教の時間					
	大谷楽苑	大谷楽苑マンスリー	大谷楽苑	大谷楽苑マンスリー			
		地元仏壇店	ひかりのみち		築地本願寺	心の電話	
					身延山	身延山の時間	
					お仏壇の太田屋	おはよう住職さん	
					公益社・お仏壇の浜屋	本多隆朗の心を照らさん！	
					和歌山青年僧の会	今日のお話し	
					岡山県佛教界	岡山佛教アワー	
					石手寺	俊生さんの花ココロ	

	1960年（『宗教年鑑』調査）		1985年（『月刊住職』調査）		2002年（石井調査）	
キリスト教系	メノナイト派	世の光メノナイト・アワー サンダー・ファミリー・アワー				
	日本ルーテル教団	ルーテルアワー	日本ルーテル教団	心の詩 モンキートーク イエスとともに歩む時間 心に光を シャローム・ミュージック・イン ラジオ福音の手帳	日本ルーテル教団	心に光を
	セブンスデーアドベンティスト	朝の言葉 予言の声	セブンスデーアドベンティスト	光とともに ファミリー・アワー	セブンスデーアドベンティスト	光とともに
	聖書バプテスト連盟	朝の言葉				
	日本同盟キリスト教団	世の光			日本同盟キリスト教団	バイブル・アンド・ユー
	日本アッセンブリーズ教団	恵みの言葉 あすへの祈り				
	聖パウロ修道会	セントポール・アワー				
	日本ナザレン教団	ナザレン・アワー	日本ナザレン教団	星の子供たち		
	純福音教団	福音の時間	純福音教団	ほぼえみをあなたに	純福音教団	福音の時間
	日本伝道ミッション	喜びの声	日本伝道ミッション	喜びの声		
	太平洋放送協会	世の光 キリストへの時間	太平洋放送協会	世の光	太平洋放送協会	世の光いきいきタイム 世の光 世の光フレッシュサンデー 福音の光 さわやか世の光
	新生運動協力会	新生アワー	新生運動協力会	新生アワー		
	東京聖書センター	聖書の話	東京聖書センター	喜ばしい訪れ 聖書の話	東京聖書センター	聖書の話
	南長老教会	キリストの時間	南長老教会	キリストへの時間	南長老教会	
	キリスト伝道社	いこいのしらべ				
カトリック教会	日本福音宣教団	平和と生命の声 良き訪れ	日本福音宣教団	信仰の時間 信仰の時間 いのちの声	日本福音宣教団	信仰の時間
	日本バプテスト連盟	バプテスト・アワー	日本バプテスト連盟	希望のダイヤル		
	カトリック教会	心の灯 カトリックの時間 信仰の時間	カトリック教会	心の灯 太陽のほぼえみ 曾野綾子の今日を生きる 曾野綾子の私の中の聖書 信仰の時間	カトリック教会	心の灯 サンデーゴスペル
	西日本新生館	新生タイム				

1960年（「宗教年鑑」調査）		1985年（「月刊住職」調査）		2002年（石井調査）	
キ リ ス ト 教 系	アバコ	生活のしおり こころの友 宗教の時間	アバコ	こころの友	
	国際キリスト教団	平和の鐘			
	予言の声	希望の灯 日曜ファミリーアワー			
	京都クリスチヤンセンター	喜ばしい訪れの時間			
	中華キリスト長老会	キリストの声			
	日本アライアンス教団	アライアンス・アワー			
	基督兄弟団	良き訪れ			
	九州クリスチヤンミッション	見よキリストの教会を			
		自由クリスチヤン教会	世の光		
		カルバリ・バプテスト教会	希望の灯		
		愛のみち教団	時々国々		
		日本キリスト教改革派	朝の言葉 キリストへの時間	日本キリスト教改革派	朝の言葉 バイブルウェーブ
		シオン堂	世の光		
		秋田ルーテル同朋教会	希望のダイヤル		
		善き牧者の運動本部			
		ホレンコ	よろこびの扉	ホレンコ	朝の聖書 よろこびへの扉
		星の子供たちを支える会	星の子供たち		
		富雄キリスト教会	信仰の時間		
		彦根福音教会	回復の声		
		イブララジオ協力会	ほほえみをあなたに		
		道福音教会	世の光		
		キリスト教福音教会	不思議なカウンセラー	キリスト教福音教会	不思議なカウンセラー
				秋田県福音宣教放送協会	希望の光
				日本キリスト教団米沢興譲教会	ジョイフルメッセージ
				日本福音宣教会	まことの救い
				バプテスト	聖書の話
				福音プロダクション	聖書と福音
				西大寺キリスト教会	希望の声
				松山福音センター	なんだいえいじのイエス! you CAN
				CRCメテオラミニストリー	キリストへの時間

	1960年（「宗教年鑑」調査）		1985年（『月刊住職』調査）		2002年（石井調査）	
諸 教	金光教	金光教の時間 宗教の時間	金光教	金光教の時間 宗教の時間	金光教	金光教の時間
	天理教	においがけの時間 宗教の時間	天理教	サウンドウケイブショイフルナイト 天理教の時間 出会いの詩 宗教の時間	天理教	天理教の時間
	孝道教団	仏法と孝道	孝道教団	仏法と孝道	孝道教団	仏法と孝道
	生長の家	生長の家の集い 幸福への出発 人生読本	生長の家	幸福を招く時間 幸福への出発 人生読本	生長の家	幸福への出発
	PL教団	今日の言葉 信仰の時間	PL教団	宗教の時間		
	円応教	信仰の時間	円応教	円応教の時間 信仰の時間	円応教	円応教の時間
	大本	大本の時間 信仰の時間 宗教の時間	大本	大本の時間 信仰の時間		
		靈友会	ラジオ図書館			
		立正佼成会	うちの子よその子 佼成アワー			
		阿含宗	ご同輩タイム			
		念法真教	心のいこい	念法真教	心のいこい	
				幸福の科学	天使のモーニングコール	
				創価学会	ビバ！地球市民 あなたへのモーニングコール ミュージックギフト 新たなる世紀を拓く 録音風物詩	
				創価学会		詩で綴る心の旅路

神道系	佛教系	キリスト教系	諸教
神社本庁	浄土宗	メノナイト派	新生運動協力会
金光教	浄土真宗本願寺派	日本ルーテル教団	東京聖書センター
天理教	真宗大谷派	セブンスデーアドベンティスト	南長老教会
大本	曹洞宗	聖書バプテスト連盟	キリスト伝道社
	日蓮宗	日本同盟キリスト教団	日本福音宣教団
	高野山真言宗	日本アッセンブリーズ教団	日本バプテスト連盟
	真言宗	聖ボーロ修道会	カトリック
	四天王寺	日本ナザレン教団	NCC
	一心寺	純福音教団	西日本新生館
	延暦寺	日本伝道ミッション	アバコ
	中山大仏堂	太平洋放送協会	

20 放送時間帯と自主制作番組の消滅

さらにもう二点ほど、宗教番組の変化に関してつけ加えておきたい。第一点は、自主制作番組の消滅である。1960年の調査では8局から12の自主制作番組が放送されていたが、その後自主制作番組がなくなっている。

今一点は、放送時間帯の問題である。すでに井門富二夫が指摘しているように、宗教番組は必ずしも早朝に限られていなかった¹¹⁹⁾。井門は当時の生活状況を踏まえてラジオの時間帯を分け、表19のように分類している。作成された表に合わせて2002年の番組数を配置すると、圧倒的に早朝に集中していることがわかる。

表19 放送時間の分布

放送時間			番組数 1959年	番組数 2002年
05:00~06:30	出勤前		49	240
06:30~07:30		第一のゴールデン・アワー	32	77
07:30~08:30			11	26
08:30~11:30	主婦対象	第二のゴールデン・アワー	24	4
11:30~12:30			7	0
12:30~17:30			23	1
17:30~18:30	夕食前後	第三のゴールデン・アワー	14	4
18:30~19:00			4	0
19:00~21:00			1	0
21:00~24:00	深夜		3	2
24:00~			4	2
合	計		172	356

表19の「出勤前」「第一のゴールデン・アワー」といった分類は井門の分類によるものである。1960年の調査では、「出勤前」とする時間帯がもっとも多く、53パーセントが集中している。しかしながら「主婦対象」の時間帯をはじめ、他の時間帯にも番組が放送されていることがわかる。他方で2002年の調査では、圧倒的に早朝に集中しており全体の放送の67パーセントが6時半までに放送されている。井門の「出勤前」に限定すれば、全番組の96.3パーセントが集中していることになる。明らかに宗教放送は早朝に限定されているのであって、曜日も考慮すれば、平日の早朝の短い時間帯と、土日の早朝のやや長い時間帯に追いやられていると言つていい。

昭和30年代半ばに指摘された宗教放送のラジオからテレビへの移行に対する期待は、その後の実情を踏まえると、まったく稔らずに終わることになった。しかしながら同時に、ラジオでの宗教放送が終わりを告げるのではないかという予想もまた外れる結果となった。ラジオでの宗教番組は、いぜんよりも盛んに放送されているからである。

しかしながら、盛況な宗教放送の実態は、かならずしも順風満帆に増加したわけではなかった。ラジオ放送は、テレビの出現によって聴取者を奪われ、それまでマス・メディアの中で有していた地位を低下させることになった。その後生活に密着した情報や、音楽を中心とした放送などに活路を見出し、現在の安定した状況を確保することになったのであった。ラジオの社会的意味の変化の中で、宗教番組は地方局を中心に伸張していったが、エンターテイメント性の強いキー局・準キー局ではしだいに放送時間が削減されることになった。

宗教団体側も、新しい布教手段として大きな関心を持ち、ある程度の反響を得ることになったが、その後ラジオ放送を行う教団数は減少し、特定の教団がその放送を洗練させるやり方で時間数を増加させていったということになる。あるいは、増加にもかかわらず早朝というきわめて限られた時間帯に押し込められて、一部の視聴者に、限定された放送内容の宗教番組が聴取されているといつてもいい。

とくに注目されるのは、ラジオ放送での宗教番組開始当初、きわめて熱心に取り組んでいた曹洞宗が放送をとりやめている点である。全国に8万余の神社を包括する神社本庁も同様にラジオでの放送を中止している。あるいは、現在多くの信者と教団施設を有している大規模な宗教団体がラジオ放送を行っていない点も、ラジオ放送での宗教番組の限界を物語っていると考えることができる。ラジオ放送が始まってすでに四分の三世紀が過ぎた現在、ラジオでの宗教番組は、一定のあり方が定まったと考えることができる。

次に、現在判明している限りでの教団のラジオ利用の経緯について見ることにしたい。

21 宗教団体のラジオ利用の経緯

21.1 天理教

天理教による初のラジオ放送は、昭和5年1月19日NHK大阪放送局から行われた。当時放送されていた修養講座に出演したのが最初である¹²⁰⁾。出演したのは中山正善二代真柱で、午前10時から21分間にわたって「勇んで働く」と題する講演が放送された。

講演は、その年のはじめにNHK大阪放送局放送部社会教育課主事から面識のあった本部員を通じて依頼されたものだった。天理教の機關誌が当時の担当者に放送の経緯に関するインタビューを行っている¹²¹⁾。教団機關誌に掲載された記事である点を前提にして引用すると「天理教といえば、大きい新興宗教ですし、なんとか管長さんにも出でもらえんかと思い」ということになる。当時天理教は、昭和4年に二代真柱に就任した中山正善を中心に昭和11年の教祖50年祭、昭和12年の立教百年祭に向かって充実した活動を行っていた¹²²⁾。

その後天理教は、昭和26年11月に朝日放送（大阪）の「宗教の時間」で放送を行った後、独自番組「天理教の時間」を開始した。以後放送局数を増やしていき、現在は（平成12年3月22日現在）35局から放送を行っている¹²³⁾。昭和5年の初放送から60年たった平成2年には、番組内容を刷新し、「稿本天理教教祖伝」の朗読と解説を放送するなど多様な試みが実施されている。

21.2 ルーテル・アワー¹²⁴⁾

ルーテル・アワーの初放送は昭和26年10月28日、中部日本放送からであった。戦後の民放の開局が同年9月1日であったから、開局早々の放送ということになる。米国ミズーリ派ルーテル教会が日本での活動を開始したのが昭和23年のことで、翌年日本伝道部は日本における電波伝道の可能性を討議している。当時民放設立に向かって法的な環境が整いつつあった時期であるが、米国ミズーリ派ルーテル教会の担当者は当初からルーテル・アワーの設立による宣教活動を目的として来日している。昭和26年9月に米国ミズーリ・ルーテル教会・東京ルーテル・センターを設置、名古屋中部日本放送株式会社と放送契約を結んだ。そして10月28日午後0時30分に第一回放送が行われたのであった。

第一回ルーテル・アワーの出演者は立教大学教授根岸由太郎であったが、根岸は聖公会の会員であった。当初教会は説教を中心とした番組を考えていたが、日本の実情を考慮してドラマ番組とし好評を博することになった。昭和27年には民間放送コンテストの第二位を受賞している。昭和29年に26局、昭和36年には31局となり、当時の番組スポンサーとして10位に入るまでになった。

番組に対する反応は予想外に大きかった。「放送開始後わずか数ヶ月で、ルーテル・アワーは週に千通以上のリスポンスがあった」のであり、「昭和27年1月9日には、480通もの手紙やカードがとどいた」という¹²⁵⁾。ルーテル・アワーの人気を支えた決定的な要因として、関屋五十二番組プロデューサーの存在を指摘することができる。「日本ルーテル・アワー30年」には「特色あるプログラムのうちで最も貴重なステップの1つは1955年にしるされました。関屋五十二氏が番組プロデューサーとして日本ルーテル・アワーに参加したのです」と記されている。関屋は放送界で著名なプロデューサーであり、以後10年間にわたって毎週30分のドラマ番組を書き続けたのであった。

電波放送のパイオニアとしてのルーテル・アワーをめぐる問題は、ラジオやテレビにおける宗教放送の限界をも示している。ルーテル・アワーでは、放送を開始した翌月聖書通信講座を開始している。通信講座は放送のフォローアップ・プログラムである。放送の聴取の後に、人格的な交わりの共同体を形成できるかが福音の宣教に重要であり、そのためのプログラムであった。昭和38年、ルーテル・アワーの聖書通信講座の申込者数は100万人を突破する。しかしながら直後に到達した講座修了者数は4万人にすぎなかった¹²⁶⁾。

表20 「天理教の時間」(2000.3.22)

放送局	曜日	時間帯
北海道放送	日	5:10~5:25
青森放送	日	6:00~6:15
岩手放送	日	6:45~7:00
秋田放送	日	6:05~6:20
東北放送	土	5:40~5:55
山形放送	日	5:45~6:00
ラジオ福島	日	6:30~6:45
ラジオ日本	土	5:10~5:25
山梨放送	土	6:35~6:50
新潟放送	日	6:25~6:40
信越放送	日	6:30~6:45
静岡放送	日	5:35~5:50
中部日本放送	日	6:15~6:30
北日本放送	日	6:30~6:45
北陸放送	日	6:10~6:25
福井放送	日	7:15~7:30
岐阜放送	日	6:40~6:55
毎日放送	土	5:45~6:00
KBS京都	日	5:40~5:55
和歌山放送	日	6:45~7:00
山陽放送	日	5:45~6:00
山陰放送	日	6:00~6:15
中國放送	日	6:30~6:45
山口放送	日	6:35~6:50
四国放送	日	7:45~8:00
西日本放送	日	6:45~7:00
南海放送	日	6:10~6:25
高知放送	日	6:20~6:35
九州朝日放送	日	5:45~6:00
長崎放送	日	6:00~6:15
熊本放送	日	7:10~7:25
大分放送	日	6:15~6:30
宮崎放送	日	6:45~7:00
南日本放送	土	5:15~5:30
琉球放送	日	6:35~6:50

「日本ルーテル・アワー30年」の中で、石田順郎ルーテル世界連盟教会協議会主事が「異教におけるマス・メディアの活用」という論文を掲載している。そのなかで石田は「Ⅲ マス・メディア活用の伝道が課す宿題」という章を設け、電波伝道に関する三つの問題点を列挙している。第一は「人格媒体との結びつき」である。福音の宣教に際して人格を媒体とすることは不可欠なメディアであるが、この人格メディアがどのようにマス・メディアと結び合わされるかが問題であるという。換言すれば、マス・メディアにおいては信仰の形成上、生の場における宗教的人格の存在とその交流が欠落しているということもできる。石田自身は、こうした機械・図式的な見方を廃して、「マス・メディアにたずさわる「人々」の人格的なかかわりあい」を模索しているが、こうした模索が困難であることは現在までの経緯を見れば明らかである。

第二の問題は「マス・メディア伝道の対象となるマスが、いかに人格的交わりの共同体になっていくか」¹²⁷⁾ という問題である。先に述べたようにルーテル・アワーでは、個別・隔離化した聴衆を信仰の共同体とするために、フォローアップ・プログラムとしての通信講座を開始した。

第三の問題は、「複数・多様性の相手に向けて」放送が行われるときに、福音を分かち合う相手の状況を把握する必要があるという。この点で石田が指摘するのは「日本の精神的風土ないし構造に、いかに土着するか」という問題である。そのための文化的社会的研究が必要であるという。

指摘された三点はルーテル・アワーのみならず、またラジオとテレビの区別に関係なく普遍的な問題として宗教放送と宗教団体に突きつけられている。

22 宗教教団のメディア利用の概況—「宗教放送等の実状」調査報告

文化庁宗務課は昭和62年6～7月に「宗教教団のメディア利用の概況」調査を実施している¹²⁸⁾。この調査は宗教団体のメディア利用の実体と利用に関する見解を調査したものである。調査対象となったメディアは、ラジオ、テレビ、ビデオ、16ミリフィルム、その他のメディアとなっている。調査項目は、1. ラジオ・テレビの宗教放送実施の有無、2. 実施状況（過去に実施したものを含む）、3. 放送の開始年、4. 担当部局、5. 宗教放送を行わない理由、6. 宗教放送に対する将来の取り組みとなっている。調査対象が限定されており、すでに本論において実施の有無や状況については分析を行ったので、ここでは宗教放送を行わない理由と将来の取り組みを参照することにしたい。

これらの調査項目から明らかになるのは、宗教団体のマス・メディア利用に関する関心の薄さである。宗教放送を行わない理由を分類したのが表21である¹²⁹⁾。分類は教団によるものではなく、分析者によるものである。「信仰の不一致」とは、そもそも放送メディアは信仰にそぐわないとか、布教手段として不適当であるというように積極的に拒絶する回答である。「条件が未整備」とは、経費面や人材面、あるいは効果面での条件が未整備とする回答である。「必要性がない」とは、教団規模が限られており放送メディアは必要がないといった回答である。この調査で特徴的なのは、こうした回答ではなく「無回答、考えたことがない」の多さである。この点は「宗教放送に対する将来の取り組み」からも明らかになる。

表22は「宗教放送に対する将来の取り組み」の回答結果である（調査対象は全回答法人）。積極的利用は1割にとどまっている。回答では広域メディアとしての期待が高い。「今後の課題として検討していきたい」では、検討内容は不明確で回答の大半は「無回答」である。この無回答数を「ラジオ、テレビを活用した宗教放送に関心はない」の66に加えると、全体の7割を超える回答が「無関心」となる。

表21 ラジオの宗教放送を行わない理由

回 答	回答数 (%)
信仰との不一致	6 (3.0)
条件が未整備	15 (7.4)
必要性がない	16 (7.8)
その他	2 (1.0)
無回答、考えたことがない	164 (80.8)
合 計	203 (100.0)

表22 宗教放送に対する将来の取り組み

回 答	回答数 (%)
積極的に活用していきたい	25 (10.4)
今後の課題として検討していきたい	127 (52.7)
ラジオ、テレビを活用した宗教放送に関心はない	66 (27.4)
無回答	23 (9.5)
	241 (100.0)

おわりに—ラジオからテレビへ—

最後に、本文で言及できなかったラジオでの宗教放送の現状について述べ、今後の問題としてテレビにおける宗教放送にかかる問題点を列挙しておきたいと思う。

ひとつは、ラジオでの宗教放送開始当初からいぜんとして続く「宗教くさくない宗教番組」のニーズの存在である。宗教団体の提供するラジオでの宗教放送が、聴取という点では苦戦を強いられている一方で、宗教にこだわらない心の交流を生み出すNHK「ラジオ深夜便」のような番組は多くの聴取者を獲得し、不安や孤独感を癒しているという¹³⁰⁾。「ラジオ深夜便」は平成2年に始まり、翌年現在のような午後11時10分から午前5時までの放送となった。番組は予想外に年輩者の人気を集め、最高聴取率は0.8パーセント、全国で約百万人が聞いているという。放送内容は、日本列島くらしのたより、全国の天気、ワールドネットワーク、深夜便小劇場、ロマンチックコンサート、にっぽんの歌こころの歌などが、聴取者からの便りを挟んで続く。そして番組の最後に、テレビで放送された「こころの時代」が流されるのである。

「ラジオ深夜便」で興味深いのは、ラジオ放送を通じて聴取者の具体的な接触が生じる点である。NHKは番組の収録とリスナーとの交流の場として「ラジオ深夜便のつどい」を全国各地で開催している。このつどいは常にお年寄りで一杯になるのだという。新聞記事に寄れば、つどいには若者の姿も見られるようになったという¹³¹⁾。友松圓諦が始めた仏教真理運動と通底する何ものかが「ラジオ深夜便」にも潜んでいる。

今一点注目したいのは、すでに済んだ放送が、インターネットの普及という情報環境の変化の中で、再生されている点である。天理教では、ホームページのラジオとテレビの放送ガイドの中で、インターネットラジオとして過去の放送を聞くことができるようになっている¹³²⁾。放送は一過性でなくなることになる。このようなインターネットラジオを開催している宗教団体は少なくない。メディア環境が変化する中で、ラジオという独立したメディアの放送内容が再利用される可能性が生まれている。

次ぎに、テレビにおける宗教放送の問題点を課題として列挙しておくことにしたい。平成13年にNHK放送文化研究所が実施した「IT時代の生活時間」調査によると、パソコン、携帯電話、インターネットと、ラジオ、活字(新聞・雑誌・マンガ・本)、CD・テープ、ビデオなどと比較して、テレビが行為者率、時間量とともに群を抜いて多く、圧倒的に多く使われていることが明らかになっている¹³³⁾。総理府が平成14年に実施した「第4回情報化社会と青少年に関する調査」においても、1日平均のテレビ視聴時間は2~3時間という人が過半数を占め、青少年にとって相変わらずテレビは接触時間が長い基幹的なメディアであると指摘されている。テレビが我々に及ぼす影響力は、ラジオと比較にならないほど大きい。また、インターネットが普及しつつある現在においても、情報に関する基幹的メディアはテレビであるといわざるをえない。

ラジオとテレビにおける宗教放送を比較した場合に、いくつか興味深い点が存在することに気づく。たとえば、これまでの考察で見てきたように、戦後民放が次々と開局されることによって宗教放送が増加するが、この場合の「宗教放送」は教団提供の放送である。一方テレビでは、教団提供の宗教放送はきわめて少なく、視聴率も低率にとどまっている。他方で、テレビでは宗教をテーマとした様々な番組が流れている。文化財としての社寺の紹介から、修行のドキュメンタリー番組、人生を扱う教養番組、さらには超能力や心霊写真をおもしろおかしく解説してみせるヴァラエティ番組まで多様である。こうした番組はラジオでは生じることがなかった。テレビというメディアは、ある意味で宗教現象にきわめて親和的であるといわざるをえない。

この点で問題になるのは放送基準である。ラジオ・テレビでは放送内容に関して基準が設けられている。放送法、「日本民間放送連盟 放送基準」、各局の放送基準が宗教をどのようなものとして、あるいはどのように制約の上で放送しているのか。また、明らかにこうした基準に矛盾する超能力番組や心霊番組はなぜ放送が可能となるのか。

NHKと民放連は昭和44年に、「放送倫理の高揚と放送文化全般の発展に寄与する」ことを目的に放送番組向上協議会を設けた。昭和59年からは「子どもとテレビ」「放送人の課題～自律と責任」など毎年調査研究・シンポジウムを実施している。テレビが青少年に与える影響に関しては、各テレビ局も独自の検討を行ってきた。しかしながら、こうした機会に論議されるのは性や暴力に関してであって、宗教に関する議論はいっさいなされたことがない。一連のオウム真理教事件の際に、こうした番組が与えた影響に言及されたことがあるが、その実体・

関連性も不明である。

こうした現状を考慮すると、日本人、とくに若年層がどのような宗教関連番組を視聴しているか、その影響はどの程度のものなのかを明らかにする必要がある。小中学校に協力を求めるなどして広範な視聴調査が望まれる。

ラジオ・テレビとインターネットを比較したときに、利用の仕方で決定的な相違が存在する。それはラジオ・テレビにおける「番組視聴の偶発性」である。インターネットの場合には、偶然に宗教団体が運営するホームページにアクセスするという可能性は低い。あくまで意図的に特定のホームページを見るのであって、たまたま宗教関連のホームページにあたり、そのまま見るという機会は少ないだろう。ラジオ・テレビ、とくにテレビの場合には、番組を見ていてチャンネルを変える際に、本来見ることを予定していない番組を偶発的に視聴することがある。テレビ番組も、そうした視聴者を獲得するためのさまざまな仕掛けをほどこしている。とくに超能力番組や心霊番組はそうしたものの中でもっとも明確かつ継続的に宗教を扱ってきた番組はNHK「宗教の時間」「こころの時代」である。「宗教の時間」は昭和37年4月8日にスタートし、昭和57年に「こころの時代」と装いを新たにして再スタートした。この番組がどのような内容を放送してきたかは、日本人の宗教性を理解する上にも重要である。

上記のような比較的自明な宗教番組とは異なって、ニュース番組の中で神社や寺院の行事が紹介されたり、天気予報の会場として背景に映る機会が少なくない。こうした映像は合計すると年間で700時間にも昇る。私たちはニュースを見るついでにこうした映像を見ているのであって、とくべつ記憶に強く残るような映像ではないが、日本人の宗教性を支えていることになるのかもしれない。

テレビにおいてもっとも明確かつ継続的に宗教を扱ってきた番組はNHK「宗教の時間」「こころの時代」である。「宗教の時間」は昭和37年4月8日にスタートし、昭和57年に「こころの時代」と装いを新たにして再スタートした。この番組がどのような内容を放送してきたかは、日本人の宗教性を理解する上にも重要である。

メディア論で著名なマーシャル・マクルーハンは、テレビは視覚的メディアではなく触覚的メディアだと述べている。テレビは全体感覚的なメディアである。「テレビはわれわれをその世界に引きずり込む。われわれはテレビと『一体化』しなければならない。」¹³⁵⁾ マクルーハンのいうように「すべてのメディアが……われわれ一人一人の意識と経験をまとめあげる」¹³⁶⁾ とすれば、テレビにおける宗教関連番組の調査研究は現代日本社会における宗教を理解する上で重要な意味をもつに違いない。

注

- 1) マーシャル・マクルーハン「メディア論」栗原裕・河本伸聖訳、みすず書房、1987年、7頁。
- 2) キャントリル「火星からの侵入」斎藤耕二訳、川島書店、1985年、浜野保樹「メディアの世紀—アメリカ神話の創造者たち」岩波書店、1991年参照。
- 3) ハロルド・イニス「メディアの文明史—コミュニケーションの傾向性とその循環」新曜社、1987年、113頁、佐藤卓己「大衆宣伝の神話—マルクスからヒトラーへのメディア史」弘文堂、1992年参照。
- 4) 田崎篤郎・児島和人編著「マス・コミュニケーション効果研究の展開（新版）」北樹出版、1996年、10~11頁。
- 5) 同、18~19頁。
- 6) 粉川哲夫「情報社会」見田宗介・栗原彬・田中義久編「社会学事典」弘文堂、1988年、465頁。
- 7) 川崎賢一「情報社会と現代日本文化」東京大学出版会、1994年、7頁。
- 8) 同、3頁。
- 9) マーシャル・マクルーハン「メディア論」栗原裕・河本伸聖訳、みすず書房、1987年、308~319頁。
- 10) マックス・ピカート「沈黙の世界」佐野利勝訳、みすず書房、1964年、232頁。
- 11) 同、234頁。
- 12) 同、243頁。
- 13) アメリカにおけるラジオの草創期に人気を得た宗教者。浜野保樹「メディアの世紀—アメリカ神話の創造者たち」岩波書店、1991年参照。
- 14) 日本放送協会「放送五十年史 資料編」日本放送出版協会、1977年、271頁。本放送は7月12日。
- 15) 日本放送協会編「日本放送史（上）」日本放送出版協会、1965年、17頁。
- 16) 同頁。
- 17) 志賀信夫「昭和テレビ放送史」早川書房、1990年、25頁。
- 18) 日本放送協会編「日本放送史（上）」日本放送出版協会、1965年、63頁、日本放送協会編「放送五十年史」日本放送出版協会、1977年、3頁。
- 19) 日本放送協会編「日本放送史（上）」日本放送出版協会、1965年、131頁。

- 20) 「教養放送の対象と放送内容の基準」日本放送協会「ラジオ年鑑 昭和7年版」340頁。
- 21) 同頁。しかしながら実際には、当時ラジオは現在のように国民一般に浸透しておらず、中等学校卒業程度の知識階級を対象としたものであった。
- 22) 宮原誠一「教育史」東洋経済新報社、1963年。
- 23) 日本放送協会編「日本放送史（上）」日本放送出版協会、1965年、87頁。
- 24) 大谷尊由は、西本願寺の第22代の門主大谷光瑞の弟で、貴族院議員から拓務大臣、内閣参議、北支開発会社総裁を勤めた。ちなみに兄の大谷光瑞は、大正時代に中央アジアを探検したことで著名。
- 25) 大正14年の放送開始以降の「宗教講座」「修養講座」に関する記録は目下のところ見あたらない。
- 26) 「JOCK名古屋中央放送局 ラジオの効果」社団法人日本放送協会東海支部、昭和2年。
- 27) 日本放送出版協会編「ラジオ年鑑 昭和10年版」東京大空社、平成元年、121頁。
- 28) 文化庁伝統文化課「日本民俗地図」（国土地理協会）全10巻は、文化庁が昭和37～39年度にかけて実施した民俗資料緊急調査の成果であるが、これを見ても、年中行事、信仰・社会生活、出産・育児など、地域によってかなりの相違があることがわかる。
- 29) 日本放送出版協会編「ラジオ年鑑 昭和7年版」東京大空社、平成元年、316頁。
- 30) 日本放送協会編「日本放送史（上）」日本放送出版協会、1965年、137～139、190頁。
- 31) 東京大空社、平成元年。
- 32) 日本放送協会関西支部、日本放送出版協会、昭和7年、54頁。関西管内の聴取者の放送に対する嗜好を調査するため、昭和5年に管内の2,435,018人に対して集金人による照会用紙の配布を行い、42.7パーセントを回収した。
- 33) 通信省・日本放送協会「第一回全国ラヂオ調査報告」昭和9年。この調査は、全国に123万を超える調査票を配布し、358,039の回答を回収した。回収率29パーセント。
- 34) 日本放送出版協会編「ラジオ年鑑 昭和9年版」東京大空社、平成元年、134頁。
- 35) 同頁。
- 36) 日本放送出版協会編「ラジオ年鑑 昭和10年版」東京大空社、平成元年、121頁。
- 37) 同頁。
- 38) 同、124頁。
- 39) 同、122～127頁。
- 40) 同、124頁。
- 41) 「日本放送史（上）」日本放送出版協会、昭和40年、298・299頁。
- 42) 「放送文化 1968年10月号」39頁。
- 43) 日本放送出版協会編「ラジオ年鑑 昭和10年版」東京大空社、平成元年、124頁。
- 44) 「想い出の二つ三つ」「放送文化 1968年6月号」25頁。
- 45) 「放送文化 1968年10月号」40頁。
- 46) 同、42頁。
- 47) 同、39頁。
- 48) 同、40～42頁。
- 49) 「日本放送史（上）」日本放送出版協会、昭和40年、488頁。
- 50) 「放送 昭和10年6月」年、125頁。
- 51) 「放送文化 1968年10月号」41・42頁。
- 52) 「日本放送史（上）」日本放送出版協会、昭和40年、44頁。
- 53) 日本放送出版協会編「ラジオ年鑑 昭和10年版」東京大空社、平成元年、124頁。
- 54) 日本放送出版協会編「ラジオ年鑑 昭和11年版」東京大空社、平成元年、33・34頁。
- 55) 同頁。
- 56) 日本放送出版協会編「ラジオ年鑑 昭和12年版」東京大空社、平成元年、92～94頁。
- 57) 日本放送出版協会編「ラジオ年鑑 昭和13年版」東京大空社、平成元年、98～99頁。
- 58) 日本放送出版協会編「ラジオ年鑑 昭和15年版」東京大空社、平成元年、143頁。
- 59) 同頁。
- 60) 同頁。
- 61) 日本放送協会編「日本放送史（上）」日本放送出版協会、昭和40年、299～300頁。
- 62) 「神社めぐり」は毎月数回放送された30分番組で、明治神宮、駒田神宮、出雲大社、釜山神社、加茂御祖神社、平安神宮、台湾神社、吉野神社が取り上げられた（日本放送協会編「日本放送史（上）」日本放送 出版協会、昭和40年、367頁）。
- 63) 日本放送出版協会編「ラジオ年鑑 昭和16年版」東京大空社、平成元年、113頁。
- 64) 同、115頁。

- 65) 日本放送出版協会編「ラジオ年鑑 昭和16年版」東京大空社、平成元年、114頁。
- 66) 竹山昭子「戦争と放送」社会思想社、1994年、20~21頁。
- 67) 「ラジオ年鑑 昭和18年」日本放送出版協会、昭和18年、9頁。
- 68) 「戦争と放送」「ラジオ年鑑 昭和17年」日本放送出版協会、昭和16年、1頁。
- 69) 竹山昭子「戦争と放送」社会思想社、52頁。
- 70) 阿部美哉「占領軍による国家神道の解体と天皇の人間化」井門富二夫編「占領と日本宗教」未来社、平成5年、111頁。
- 71) 日本放送協会「放送年鑑 22年版」大空社、平成元年、46頁。
- 72) 「ラジオ年鑑 昭和24年版」大空社、平成元年、37頁。実際には、すでに記したように、ラジオでの「宗教放送」は昭和16年で修了する。ここで指摘されている特定の宗教は、戦時下に行われた国民精神総動員などによって示された放送内容を指すものと考えられる。
- 73) 「ラジオ年鑑 昭和26年版」大空社、平成元年、18・19頁。
- 74) 中野毅「アメリカの対日宗教政策の形成」井門富士夫編「占領と日本宗教」未来社、平成5年、28頁。
- 75) 同、37頁。
- 76) ウッダード「天皇と神道」阿部美哉訳、サイマル出版会、昭和63年、259頁。
- 77) 阿部美哉「占領軍による国家神道の解体と天皇の人間化」井門富二夫編「占領と日本宗教」未来社、平成5年、111頁。
- 78) 同、112頁。
- 79) 「日本放送史（上）」日本放送出版協会、昭和40年、664頁。
- 80) 同、652頁。
- 81) 同、668頁。
- 82) 同、656頁。
- 83) 同、667頁。
- 84) 同、687頁。
- 85) 国内番組基準は平成7年と平成10年に改正されているが、宗教に関する項目には変更は加えられていない。また、これ以上詳細な宗教の扱いに関する基準は示されていない。
- 86) 同、732頁。
- 87) 「ラジオ年鑑 昭和26年版」大空社、平成元年、18・19頁。終戦直後は番組編成の変更が相次ぎ、安定したのは昭和23年頃からで、この時間帯は昭和24年1月のもの。
- 88) 同、89頁。
- 89) 「日本放送史（上）」日本放送出版協会、昭和40年、732頁。
- 90) J.リード「日本文化接触の中の日本キリスト教団」井門富二夫編「占領と日本宗教」未来社、平成5年、307頁。
- 91) ヤン・スィングドー「カトリック教会の展開・戦時下と戦後」井門富二夫編「占領と日本宗教」未来社、平成5年、325頁。
- 92) 「日本放送史（上）」日本放送出版協会、昭和40年、835頁。
- 93) 文化庁編「宗教年鑑 平成13年版」（ぎょうせい、平成14年）によれば、キリスト教系の信者数は約176万人。人口の約1.4パーセント。
- 94) ヤン・スィングドー「カトリック教会の展開・戦時下と戦後」井門富二夫編「占領と日本宗教」未来社、平成5年、326頁。
- 95) 「視聴覚布教の実態調査」文部省編「宗教便覧」昭和29年、416頁。
- 96) 同、418頁。
- 97) 「放送朝日」七月号（放送朝日機関、昭和35年）、「新宗教新聞」（昭和35年5月5日）。
- 98) 「社説 宗教放送に関心高まる」中外日報、昭和35年5月27日。
- 99) 「第6回宗教放送懇話会開く：宗教と出せば抵抗感 懊みは“聴かせる”努力に」中外日報、昭和35年6月2日。この記事では、NHKの京都放送局長とABC朝日放送宗教放送担当者が講演を行っている。
- 100) 現状に関してはアバコのホームページ (<http://www.fastnet.ne.jp/avaco/AVACO/index/index.html>) 参照。
- 101) 「教線に立つ 42」中外日報、昭和35年6月3日。
- 102) 「教線に立つ 43」中外日報、昭和35年6月4日。
- 103) 中外日報、昭和35年6月2日。
- 104) 新宗教新聞、昭和35年5月5日。「宗教の時間」は曹洞宗、天理教、西本願寺、東本願寺、プロテスタント、金光教、知恩院が担当。
- 105) 中外日報、昭和35年6月2日。阪神地区の21市1町を対象、調査は35年6月16日~21日に実施。
- 106) 文部省「宗教放送の現状」調査には、日本放送連盟「宗教番組の現状」に記載されている番組ごとの年齢別、職業別の視聴率が掲載されているが、全体としての視聴率は記載されていない。
- 107) ラジオ福島・福島県立郡山商業高等学校「郡山地区 ラジオ聴取状況調査 昭和34年11月24日~11月30日」。この調

- 査は、郡山市の都市部と農村部におけるラジオ聴取の実情を明らかにするために行われた。都市部では層化二段抽出法によって260世帯が抽出され、農村部では確率比例二段抽出によって240世帯が抽出された。調査方法は日記式で、標本世帯にラジオ福島、NHK第一、NHK第二の放送番組で聞いた時間を記入させた。
- 108) 新宗教新聞、昭和35年5月5日。
 - 109) 新聞協会報、昭和36年1月9日。
 - 110) 新宗教新聞、昭和35年5月5日。
 - 111) 中外日報「第6回宗教放送懇話会開く：宗教と出せば抵抗感 悩みは“聴かせる”努力に」(昭和35年6月2日)。カッコ内は筆者。
 - 112) 仏教タイムス、昭和35年6月26日。
 - 113) 「宗教年鑑 昭和35年度版」文部省、昭和36年、223・224頁。
 - 114) 同、226頁。
 - 115) 同、179頁。
 - 116) 「宗教放送の実情」に筆者名は記されていないが、当時文化庁宗務課に在職していた宗教社会学者の井門富二夫によるものである。
 - 117) 調査は昭和60年3～4月。
 - 118) 志賀信夫「放送」日本経済新聞社、昭和61年、87頁。
 - 119) 「宗教年鑑 昭和35年版」文部省、昭和36年、208頁。
 - 120) 3年前の昭和2年11月5日に、韓国の京城で当時天理教の本部員であった諸井慶五郎が京城放送局からの依頼によって講演したのが実際には最初である。
 - 121) 「ドキュメント天理教初めて物語1 電波布教」「みちのとも」平成3年1月号、9頁。
 - 122) 井上順孝他編『新宗教事典』弘文堂、平成元年、755頁。
 - 123) 天理教同友社のホームページから。<http://www.tenrikyo.or.jp/ja/act/media/bc/rast.html>。「天理教の時間」はラジオ短波から「心とからだ」と題して、第1放送(日 17:45～18:00)、第2放送(土 8:15～8:30)から放送されている。
 - 124) ルーテル・アワーに関しては特に注記がない限り「日本ルーテル・アワー30年」からの引用である。
 - 125) ユージン・R・バートマン「日本ルーテル・アワーのはじまり」「日本ルーテル・アワー30年」、昭和56年、58頁。
 - 126) 現在の日本ルーテル教団の信者数は2816人(文化庁編「宗教年鑑 平成13年版」平成13年12月)。
 - 127) 69頁。
 - 128) 「宗教教団のメディア利用の概況—「宗教放送等の実状」調査報告—」「宗務時報」No.77、昭和63年。調査対象は、文部大臣所轄包括法人376、都道府県知事所轄法人41、および単立法人16の合計433法人。これらの法人は「宗教年鑑 昭和63年版」に掲載された法人である。調査方法はアンケートによる郵送方式で、回収数は241、回収率46.5パーセントであった。
 - 129) 調査対象は宗教放送を行っていない法人のみ。
 - 130) 朝日新聞、平成8年9月22日。
 - 131) 同。
 - 132) <http://www.tenrikyo.or.jp/ja/act/media/bc/radio.html>
 - 133) 三矢恵子・荒牧央・中野佐知子「広がるインターネット、しかしテレビとは大差」「放送研究と調査」第52巻4号。
 - 135) マーシャル・マクルーハン「メディア論」みすず書房、昭和62年、320～353頁。
 - 136) 同、22頁。

日本基督教団所属教会のインターネット利用調査

川 島 堅 二

1 はじめに

日本においてインターネット利用人口の調査が始まった1996年には、日本のキリスト教会によるインターネット利用はほとんどなされていなかった。しかし、年々一般の利用人口の増加に伴いキリスト教会も様々な形でこれを利用するようになってきている。

本調査においては、現在日本のキリスト教会がどの程度、どのように利用しているのか。利用を困難にしている理由は何か。地域差や経済状況による格差は認められるのか等を、日本基督教団に所属する教会を対象とするアンケート調査によって明らかにしてみたい。

2 調査の概要

2.1 対 象

調査対象は日本におけるプロテstant派の最大教団である日本基督教団に所属する1695教会である。対象に日本基督教団を選んだ理由は、日本のプロテstant教団で最も多くの教会、信徒を擁することと、プロテstant諸教派の合同教会であり、日本におけるキリスト教の平均的な状況を把握するのに適切だからである。

2.2 内 容

調査内容は調査用紙（添付資料1）を参照のこと。回収率を上げるために、煩瑣な質問は避け、教会業務においてインターネットを利用しているかどうか。利用している場合には具体的な利用方法を、利用予定の場合には予定している利用方法を、利用していない場合にはその理由を問うた。

2.3 方 法

調査方法は、2002年1月に、各教会宛に調査用紙を返信用封筒（返信切手付）と共に送付した。その結果2002年8月末までに729枚を回収（回収率43%）。さらに同年9月24日から10月3日にかけて未回収の教会宛にファクシミリにて調査用紙を再送付し同年11月9日までにさらに156枚を回収した。その結果、有効回答数885、回収率52%となった。

3 調査結果

調査用紙の各質問項目の集計結果は以下のとおりである。

[インターネットの利用状況]

現在利用している教会	382 (43%)
利用を予定している教会	220 (25%)
利用していないし利用予定もない教会	283 (32%)

[現在利用している教会の回答内容]

〈回答者の立場〉

教職	327 (86%)
役員・長老	35 (9%)
信徒	13 (3%)
その他	7
合計	382

〈ウェブサイトの有無〉

有	177
無	205
合計	382

〈ウェブサイトの運営形態〉

公式サイト	102
準公式サイト	61
非公式サイト	10
その他	4
合計	177

〈利用歴〉

1年未満	77
1～2年	111
2～3年	76
3～4年	48
4～5年	27
5年以上	39
不明	4
合計	382

〔利用を予定している教会の回答内容〕

〈回答者の立場〉

教職	189 (86%)
役員・長老	20 (9%)
信徒	11 (5%)
合計	220

〈利用したい方法〉

HPによる对外広報	191
メールマガジンの配信	20
メール・掲示板による連絡・交流	90
聖書研究・伝道・礼拝	34
カウンセリング・相談	37
物品販売	13
説教や会報のデータベース	77
資料・情報の利用・収集	109
その他	6

〈利用方法〉

HPによる对外広報	176
メールマガジンの配信	22
メール・掲示板による連絡・交流	270
聖書研究・伝道・礼拝	28
カウンセリング・相談	36
物品販売	17
説教や会報のデータベース	101
資料・情報の利用・収集	223
その他	16

〔利用しておらずその予定もない教会の回答内容〕

〈回答者の立場〉

教職	231 (82%)
役員・長老	45 (16%)
信徒	7 (2%)
合計	283

〈利用しない理由〉

経済的困難	120
実効・必要がない	160
技術的困難	91
その他※	111

※この項目は自由記述の形で、その内容については後述する。

4 調査から分かること

4.1 利用状況一般について

現在利用中の教会と利用を予定している教会を合わせると、ほぼ7割に達する。しかも利用歴を見ると、1年未満と1～2年がほぼ半数である。このことは日本基督教団所属教会のウェブサイトについての柴田もゆる氏の調査¹⁾とも一致する。すなわち同氏が調査した教会のウェブサイト58の内、半数の29が2000年及び2001年に開設されたものであった（その内2000年に開設されたものは23）。西暦2000年を境に日本基督教団の諸教会におけるインターネット利用は急伸し、利用への関心の高まりが生じていると言えるであろう。

回答者の立場は、いずれも教職（牧師）が多いが、インターネットを利用している教会や利用予定の教会に比較して、利用していない教会では、役員・長老による回答が多いことが目を引く。これは、利用していない教会に専従の教職がない小さな教会や伝道所が多いことを反映しているが、この点については、インターネット利用における経済格差の問題として、本論の最後に改めて取り上げる。

4.2 利用方法に関して

実際の利用に関しては、利用前の期待と実際に利用されている方法に、若干の齟齬が認められる。すなわち、利用予定の教会で利用したいと考えている方法のトップは「ホームページによる对外広報」（191件）である。そ

れに「資料・情報の利用・収集」(109件)が続き、ようやく3番手に「メール・掲示板による連絡・交流」(90件)が来る。ところが既に現在利用している教会の利用方法では、この順序が逆転する。すなわちトップは「メール・掲示板による連絡・交流」(270件)で、次いで「資料・情報の利用・収集」(223件)、「ホームページによる对外広報」(176件)は三番手に後退する。この結果は、インターネットを教会が利用するという場合に先行するイメージと、現実とのギャップを表していて興味深い。先行するイメージとしては、インターネットといえばまずホームページであり、教会のウェブサイトを構築して伝道や牧会に役立てようと考えるのである。しかし、実際に導入してみると、インターネットの機能で役立つのはウェブよりはむしろメールや掲示板による連絡や交流だということがわかる。このギャップは、インターネットを教会に導入することに否定的な理由と深く関わっていると思われる所以、項を改めて、さらに考えてみたい。

4.3 利用に否定的な理由の意味するもの

4.3.1 「インターネット=ホームページ」という誤解

教会でインターネットを利用しない理由として「経済的困難」「実行・必要がない」「難しそう」という3つの選択肢の他に、「その他」の項を設け、理由を自由に記述してもらった。その内容を整理すると以下のようになる。

【設備・資力の不足】4名

- 「インターネットが可能なパソコンがない」(3)
- 「教会としてパソコンを備え、利用する資力がない」(1)

【人材不足】23名

「教会内に奉仕者のスタッフがいれば考える。何でも牧師がするという教会にはしたくない。教員の奉仕により成り立つ教会にしたい」(7)

「牧師がパソコンに関する知識を持ち合わせていない」(1)

「責任を持って担当できる人がいない」(2)

「利用できる人がいない」(1)

「現在無住無牧の教会です」(6)

「小教会であるためが主たる理由です」(6)

【高齢化・健康上の理由】15名

「新設の伝道所で、会員全員すべてが高齢者で組織されており、能力的にも、経済的にもパソコンの導入に至っておりません」(14)

「牧師の健康上行っていない。ちらつく画面が目に負担」(1)

【メンテナンスの困難】4名

「開設後の運用が困難（最新情報等の更新が面倒）」(4)

【ライフスタイルと不適合】18名

「時間がない、これ以上忙しくなりたくない」(14)

「情報化社会の変化についていけない」(1)

「機器に振り回されるようで、なんとなく敬遠気味です」(1)

「教会専用のコンピュータがない。ホームページを作るとコンピュータに拘束される気がする」(1)

「機器に追われるより、静かに物事を考え、電話、郵便、ラジオ、テレビなど、必要限度ないで済ませるという方針です」(1)

【神学的理由】13名

「福音は人格と人格とのつながりで伝達されます。それがITで可能か？これが問題です」

「福音は顔と顔を合わせて人格的に関わるのでなければ伝わらないと思う」

「顔が見える地域への宣教が大事」

「直接、言葉による伝道を重視しているため」

「顔と顔を合わせての牧会、伝道と思っています」

「伝道は地域に根ざしたFace to Faceのもの」

「地域の農村性を考えると、この広報活動によって、主の名を高めるとは考えないから（伝道とならないから）」

「パソコン・インターネットetc.の心、人間関係等への（良くない意味での）影響を考えている」

「インターネットに縁のない、この世に取り残されて教会に救いを求める一人一人に全力を傾けて向き合うことで精一杯と思うので」

「実感、体験の伴わない情報が、しかも文書とは比較にならないスピードで伝達することの弊害」

「現実の生身の人間との交わりに重きを置くべきである」

「人と人とが顔を合わせて人間関係を作る中で宣教を考え、社会的課題を扱っていきたいため」

「会って直接話すことが、教会の働きだと思う」

【その他】3名

「これまでのML運営他の経験から個人的利用以外での宗教活動（公的なもの）には、もう少し様子を見極める必要があると考えている」（3）

以上のうち、ここで特に注目したいのが【神学的理由】に分類した内容である。これらは、すべて伝道と牧会という教会の働きにインターネットを導入することへの違和感の表明である。そして、大変興味深いことには、これは筆者が1996年夏にアメリカの648のキリスト教会を対象に、インターネット利用について電子メールで調査した時の結果と酷似しているのである²⁾。すなわち、その調査ではインターネットの神学的可能性に対してたとえば次のような否定的な意見が寄せられた。「（インターネットは）、コミュニケーションや人の結びつきを作るにい道具である。しかし、教会の宣教を担うまでには至っていない。宣教は顔と顔を合わせてのコンタクトが必要だからである」。「私自身はインターネット上の宗教には問題を感じている。神を礼拝する時には、他者と物理的に近くあることが必要だから」。「究極的には教会は人々が顔と顔を合わせて接触することを必要としている。なぜなら神が私たちに個人において臨むということが、イエスの福音の中心だから」。「人々の心を本当に捉えるには、インターネットはあまりに非人格的過ぎるように思う。真に成功した宣教は、出かけていって、人と個人的に接触することによってだった」。「私はインターネットを福音宣教の道具とはみなせない。福音宣教は顔を顔を合わせての証言によって最もよくなされると信じている」。

この調査がなされた1996年とは、マイクロソフト社のOSウインドウズ95によって、インターネットが世界的に普及した直後である。アメリカの主要教派の諸教会の多くがこの時期すでにウェブサイトを開設していた。そして「サイバースペース」という幾分神秘的な言葉と共に、この世界大で情報を共有する仕組みに、今から思えば不当に過大な期待がかけられ、キリスト教界でもこれがかつての宗教改革に匹敵するような革命をもたらすのではといった論調もあった。

しかし、現在、同じような質問をアメリカの諸教会に投げかけたとしたら、果たして同じような反響が返ってくるであろうかはなはだ疑問である。それは郵便や電話、ファクシミリの神学的可能性を問うのと同じような滑稽な問い合わせとして、まじめな返答に値しない問い合わせとして扱われるに違いない。

1996年のアメリカのキリスト教会と同じ状況が、インターネット利用の急伸を経験している現在の日本のキリスト教会で生じていると言えないだろうか。前項で述べたように、インターネットの一機能に過ぎないウェブ（ホームページ）が過大視され、この仕組みの利用がイコール教会のインターネット利用であり、コンピュータを通して伝道や牧会をすることと誤解され、まだ利用しない人によって【神学的理由】に分類したような否定的意見が述べられることになる。

しかし、既に調査結果も示しているように、実際に利用してみれば、インターネットの機能で、教会業務においても有用なのは、むしろメールや掲示板といった、従来、郵便や電話、ファクシミリが担っていた機能なのである。このようなインターネット利用にまつわる先行イメージと実際との齟齬を取り除くことが、徒な混乱を避けるための第一の課題であるように思われる。

4. 3. 2 地域差・経済格差

インターネットを利用しない理由として「経済的困難」が決して少くない（120件）ことも無視できない。また「その他」の理由にも、設備資力の不足、高齢化による人材不足、地域性を訴える少なからぬ声があった。利用状況に地域差や経済格差はどのように影響しているだろうか。

以下の表は、回答した諸教会を教区別に分類したものである。

教区名	A	%	B	%	C	%
北海	18	50	5	14	13	36
奥羽	14	39	7	19	15	42
東北	13	24	19	35	23	42
関東	38	54	15	21	18	25
東京	67	50	35	26	31	23
西東京	25	45	16	29	14	25
神奈川	33	54	14	23	14	23
東海	21	39	12	22	21	39
中部	23	43	21	39	10	19
京都	16	37	13	30	14	33
大阪	32	49	18	28	15	23
兵庫	19	40	7	16	19	44
東中国	14	50	2	7	12	43
西中国	11	34	10	31	11	34
四国	20	48	9	21	13	31
九州	18	29	15	24	30	48
沖縄	0	0	2	17	10	83
	382	43	220	25	283	32

A : インターネットを現在利用している
B : インターネット利用予定
C : 利用予定なし
(イタリックの数値は、他と比べて差が顕著なもの)

ここから明らかなように、関東や神奈川、東京、西東京教区では「利用している」と「利用予定」の教会が7割以上を占めている。これに対し九州教区では約半数、沖縄教区では8割以上が「利用予定なし」の教会である。このようにインターネットの利用においては明らかに地域差が認められるが、これをさらに各教会の年間の経常収入の差で分類したのが以下の表である³⁾。

経常収入ランク	利用している	利用予定	利用予定なし
A	164 (43%)	66 (30%)	31 (11%)
B	141 (37%)	74 (34%)	92 (33%)
C	71 (18.5%)	72 (33%)	128 (45%)
D	2 (0.5%)	6 (0.3%)	26 (9%)
?	4	2	6
合計	382	220	283

A : 1000万円以上
B : 500万円以上1000万円未満
C : 100万円以上500万円未満
D : 100万円未満
? : 報告未提出のため収入不明の教会

インターネットを利用している教会のおよそ半数がAランクの教会であり、AB二つのランクの教会が8割を占めている。これに対して利用予定なしと回答した教会の半数以上がC及びDランクの教会である。これは先に指摘した利用予定なしの教会からの回答者が、他と比較して役員・長老が多いという事実と共に、人的にも経済的にも力のない教会ではインターネット利用が困難であるという実態を浮かび上がらせている。

以上のように、教会のインターネット利用には、明らかに地域差、経済格差が認められ、首都圏の経済的にゆとりのある教会が主に利用しているという現実がある。このような格差をどのように埋めていくか、教会のインターネット利用における第二のより深刻な課題である。

インターネット利用についての調査用紙

問1. 回答者および所属教会についてお尋ねします。

氏　　名 []

所属教会名 []

教会でのお立場（該当するものに○、その他の場合は具体的にお立場を記入してください）

1. 教職
2. 役員・長老
3. 信徒
4. その他（ ）

所属教会のホームページ（いずれかに○） 有り　・　無し

有りの場合、その運営の形態は次のうちどれですか？（いずれかに○）

1. 総会や役員会等で決議された公式ホームページ
2. 決議されてはいないが、広く認知されているホームページ
3. まったくプライベートなホームページ

問2. 教会の諸活動・諸業務においてインターネットを利用していますか？（いずれかに○）

1. はい
2. いいえ

「はい」と答えられた方は、問3、問4に、お答えください。

「いいえ」と答えられた方は問5に、お進みください。

問3. どのように利用していますか？（該当するものにいくつでも○、その他の場合は、具体的に利用方法を記入してください）

1. ホームページによる教会活動の対外広報・情報提供
2. メールマガジン等の配信による情報提供
3. メールや掲示板などによる会員や教会関係者との連絡
4. オンラインでの聖書研究や伝道、礼拝など
5. オンラインでのカウンセリングや相談など
6. 書籍、カードや写真、CD、カセットなどキリスト教関連物品のオンライン販売
7. 説教や教会報などのデータベースの構築
8. インターネット上の資料や情報の利用・収集
9. その他（ ）

問4. 教会でのインターネット利用歴（該当するもの一つに○）

1. 1年未満
2. 1～2年
3. 2～3年
4. 3～4年
5. 4～5年
6. 5年以上

問5. 今後教会活動において、インターネットを利用する予定がありますか？（いずれか一つに○）

1. はい
2. いいえ

「はい」と答えられた方は問6に、

「いいえ」と答えられた方は問7に、お答えください。

問6. どのように利用したいとお考えですか？（該当するものにいくつでも○、その他の場合は、具体的に利用方法を記入してください）

1. ホームページによる教会活動の対外広報・情報提供
2. メールマガジン等の配信による情報提供
3. メールや掲示板などによる会員や教会関係者との連絡
4. オンラインでの聖書研究や伝道・礼拝
5. オンラインでのカウンセリングや相談など
6. 書籍、カードや写真、CD、カセットなどキリスト教関連物品のオンライン販売
7. 説教や教会報などのデータベースの構築
8. インターネット上の資料や情報の利用・収集
9. その他（ ）

問7. 利用されない理由は何ですか？（該当するものにいくつでも○、その他の場合は、具体的に理由を記入してください）

1. 費用がかかる
2. 実効（必要）がない
3. 難しそう
4. その他（ ）

（添付資料2）

日本基督教団諸教会ウェブサイト一覧

2003年1月8日現在

【北海教区】

- 旭川豊岡教会 <http://homepage1.nifty.com/sorachik/>
北見望ヶ丘教会 <http://www4.ocn.ne.jp/~7Enozomich/>
滝川二の坂伝道所 http://www.jca.ax.apc.org/~maki_t/photo-diary-2007takikawa.htm
十二使徒教会 <http://www.12shito-church.com/>
琴似中央通教会 <http://homepage2.nifty.com/mcham/>
手稻はこぶね教会 <http://www4.plala.or.jp/hakobune/hakobune.html>
島松伝道所 <http://homepage2.nifty.com/simamatu/>
千歳栄光教会 <http://www1.odn.ne.jp/~caa79370/>

【奥羽教区】

- 弘前西教会 <http://www.d1.dion.ne.jp/~tkimu/>
浪岡伝道所 <http://member.nifty.ne.jp/namctakep/namchapel.htm>
大三沢教会 <http://ww5.et.tiki.ne.jp/~omisawa/>
内丸教会 <http://member.nifty.ne.jp/kajipa/uchimaru/>

【東北教区】

仙台川平教会 <http://web1.tinet-i.ne.jp/user/kawadair/>
仙台広瀬河畔教会 <http://www.interq.or.jp/pure/hirose/>
石巻栄光教会 <http://www.ne.jp/asahi/eikou/church/>
大河原教会 <http://www5b.biglobe.ne.jp/~o-church/>
福島教会 <http://www.d1.dion.ne.jp/~9608011/>
須賀川教会 <http://www1.ocn.ne.jp/~sukagawa/sukagawa.files/TopPage.htm>
米沢興譲教会 <http://homepage1.nifty.com/kojochurch/>

【関東教区】

五泉教会 <http://niigata.cool.ne.jp/ahwan/goch.htm>
燕教会 <http://www.dyna.ne.jp/~swallow/>
栃尾教会 <http://www2p.biglobe.ne.jp/~takasago/kyoudan/tochio.htm>
長岡教会 http://member.nifty.ne.jp/mantaro/nagaoka_ch.htm
高田教会 <http://www.hi-ho.ne.jp/takada-church/Nindex.htm>
沼田教会 <http://village.infoweb.ne.jp/~fwge0052/numata.ch.index.htm>
渋川教会 <http://www.alpha-net.ne.jp/users2/sk1919/sub7.html>
安中教会 <http://www8.wind.ne.jp/a-church/>
吾妻教会 <http://www5.ocn.ne.jp/~agatu-ch/>
宇都宮上町教会 <http://www2.ocn.ne.jp/~uwamachi/>
水戸中央教会 <http://www2u.biglobe.ne.jp/~kirche/index.mito.2001.htm>
土浦教会 <http://plaza10.mbn.or.jp/%7Etuchiurakyoukai/index.html>
勝田教会 <http://www.iris.dti.ne.jp/~grace/newpage12.htm>
牛久教会 <http://homepage1.nifty.com/ushiku-kyokai/>
筑波学園教会 <http://www.iinet.ne.jp/church/>
大宮教会 <http://www17.u-page.so-net.ne.jp/fc5/omiya-k/>
埼玉新生教会 <http://members4.cool.ne.jp/~sinsei/>
岩槻教会 <http://communities.jp.msn.com/284vkcieut5q8i22pqr5d9ebh0>
越谷教会 <http://www5d.biglobe.ne.jp/~koshi-ch/>
草加教会 <http://www14.u-page.so-net.ne.jp/gb3/masaki-t/>
上尾合同教会 <http://plaza5.mbn.or.jp/~iwasa/>
初雁教会 <http://www.sol.dti.ne.jp/~joyful/>
飯能教会 <http://atsushi42.hoops.livedoor.com/>
所沢みくに教会 <http://homepage2.nifty.com/mikuni-xp/>
行田教会 http://www.ksky.ne.jp/~cruiser/c_index.html
桶川伝道所 <http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Keyaki/9101/>

【東京教区】

山谷伝道所 <http://members.jcom.home.ne.jp/0410986401/>
番町教会 <http://bancho.m78.com/>
銀座教会 <http://www.ginza-church.com/>
下谷教会 http://plaza23.mbn.or.jp/~shitaya_hp/
荒川教会 <http://www2.plala.or.jp/Arakawa/Jesus.htm>
亀有教会 <http://homepage1.nifty.com/kameari/>
小松川教会 <http://www.people.or.jp/~komatsugawa-church/>
鳥居坂教会 <http://www.alpha-net.ne.jp/users2/charis/index.htm>

赤坂教会 <http://www05.u-page.so-net.ne.jp/cb3/haru1247/>
代田教会 <http://www5a.biglobe.ne.jp/~daita-c/>
富士見丘教会 <http://www5b.biglobe.ne.jp/~chfujimi/>
経堂北教会 <http://homepage2.nifty.com/Kyo-doKitaChurch/>
千歳船橋教会 <http://www.aurora.dti.ne.jp/~cfchurch/>
松原教会 <http://www.t3.rim.or.jp/~kyamada1/matsubara.html>
松沢教会 <http://www.d5.dion.ne.jp/~jmc/>
桜新町教会 <http://church.ne.jp/sakura/>
渋谷教会 <http://www.shibuya-church.or.jp/>
中渋谷教会 <http://www2.ttcn.ne.jp/~chibuki/naka/ch.html>
ベテル教会 <http://www.amy.hi-ho.ne.jp/bethel/bethel.html>
代々木上原教会 <http://www.fsinet.or.jp/~yoyoue/>
洗足教会 <http://www.senzoku.org/>
長原教会 <http://www12.u-page.so-net.ne.jp/xd5/h-iijima/>
大森めぐみ教会 <http://www.246.ne.jp/~o-megumi/>
深沢教会 <http://www.fukasawa-c.com/>
信濃町教会 <http://homepage1.nifty.com/shinanomachi/>
早稲田教会 <http://plaza21.mbn.or.jp/~wcc/>
小石川白山教会 <http://homepage1.nifty.com/hakusanch/>
小石川明星教会 <http://homepage3.nifty.com/myojo/>
滝野川教会 <http://www2.justnet.ne.jp/~takinogawa/>
赤羽教会 <http://www4.ocn.ne.jp/~church/>
西千葉教会 <http://www.d5.dion.ne.jp/~satiwam/>
船橋教会 <http://www.interq.or.jp/green/shion/>
松戸教会 <http://www2.ocn.ne.jp/~mwm/>
新松戸幸谷教会 <http://www.kit.hi-ho.ne.jp/ch1059/>
北柏めぐみ教会 <http://www2.justnet.ne.jp/~msakashita/CHURCH.HTM>
八千代台教会 <http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~yachiyoc/>

【西東京教区】

阿佐ヶ谷教会 <http://www.mars.dti.ne.jp/~ikuya/>
桜ヶ丘教会 <http://www.asahi-net.or.jp/~fg4y-med/kyokai.htm>
立川教会 <http://www.geocities.co.jp/Berkeley-Labo/2967/>
原町田教会 <http://homepage1.nifty.com/haramatida/>
成瀬台教会 <http://homepage2.nifty.com/n-kyoukai/>
南町田教会 <http://yokohama.cool.ne.jp/diduliru/ad/minami.html>
国分寺教会 <http://www3.ocn.ne.jp/~kokubunj/>
東大和教会 <http://www.m-net.ne.jp/~suno/yamatoch/>
清瀬みぎわ教会 <http://migiwa.yui.ac/>

【神奈川教区】

本牧めぐみ教会 <http://plaza29.mbn.or.jp/~Honmokumegumi/>
横浜上原教会 <http://www.d1.dion.ne.jp/~church/menu.html>
横浜港南台教会 http://www5b.biglobe.ne.jp/~ykchurch/kyou_annai_syoza.htm
港南希望教会 <http://church.jp/elpis>
田園江田教会 http://www.yk.rim.or.jp/~eda-ch/index_fla.html

都筑讃美教会 <http://www.yk.rim.or.jp/~kyokai/>
川崎戸手教会 <http://www2.tky.3web.ne.jp/~sonyougu/>
元住吉教会 <http://www.aksnet.ne.jp/~church/>
横須賀上町教会 <http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Momiji/5364/>
鎌倉雪ノ下教会 <http://www.yukinoshita.or.jp/>
平塚富士見町教会 <http://www.scn-net.ne.jp/~hfchurch/>
藤沢教会 <http://www5.ocn.ne.jp/~f-church/>
相模原教会 <http://www.sagamishirayuri.ed.jp/kyoukai.htm>
つきみ野伝道所 <http://www2.odn.ne.jp/tsukimino/>

【東海教区】

飯田入舟教会 <http://www.valley.ne.jp/~irifune/mokuji.html>
喬木教会 <http://www.iidanet.or.jp/~takagich/newpage1.htm>
日下部教会 <http://www.d9.dion.ne.jp/~k-church/>
松崎教会 <http://www.d2.dion.ne.jp/~rural/church.html>
御殿場教会 <http://www.asahi-net.or.jp/~VW3A-HRE/>
蒲原教会 http://homepage2.nifty.com/west_garden/
清水教会 <http://www.suruga.co.jp/church/shimizu/frmain.htm>
静岡教会 <http://www.h2.dion.ne.jp/~s-church/>
駿府教会 <http://www.interq.or.jp/angel/sunpu/>
遠州教会 <http://www2.wbs.ne.jp/~enshuk/frmain.htm>
浜松教会 <http://homepage1.nifty.com/hamamatsu-church/>

【中部教区】

魚津教会 <http://kohara.theo.doshisha.ac.jp/church/kyodan/uozu/>
富山鹿島町教会 <http://w2322.nsk.ne.jp/~tkchurch/>
富山二番町教会 http://www2.nsknet.or.jp/~komi/nibanmachi/nibanmachi_ch.htm
小松教会 <http://www1.ocn.ne.jp/~church/index2.html>
若草教会 <http://w2223.nsk.ne.jp/~kusu/wa-ch-top.html>
金沢南部教会 <http://members.aol.com/nanbuch/nanbuch-top.html>
輪島教会 http://www.incl.ne.jp/wajima-ch/wajimac_001.htm
半田教会 <http://www3.ocn.ne.jp/~handa-ch/MainTitl.htm>
愛知教会 <http://homepage2.nifty.com/aichi-church/>
名古屋中央教会 <http://www2.ocn.ne.jp/~chuo.ch/>
広路教会 <http://www2.starcat.ne.jp/~hiroji-c/>
尾陽教会 <http://www.alles.or.jp/~biyo/>
各務原教会 <http://homepage2.nifty.com/chunoh-church/Untitled302.html>
中濃教会 <http://homepage2.nifty.com/chunoh-church/>
桑名教会 <http://www.asahi-net.or.jp/~qg2n-tir/church.html>
鈴鹿教会 <http://www.ne.jp/asahi/suzuka/church/>

【京都教区】

洛北教会 <http://www.biwa.ne.jp/~nagami/rakuhoku/rakumain.html>
室町教会 <http://www.higuchi-susumu.com/>
洛東教会 <http://bitmedia.hoops.ne.jp/church/>
長浜教会 <http://church.jp/nagahama/>
草津教会 <http://www.studio-q.net/uccj/kyoto/shiga/kusatsu/>

水口教会 <http://church.jp/minakuchi/>

【大阪教区】

大阪教会 <http://www.osaka-church.net/homepage/toiawase.htm>

扇町教会 http://www.bekkoame.ne.jp/~k_jun/church/church.html

東梅田教会 <http://www1.odn.ne.jp/~higashiumeda/framepage1.htm>

天満教会 <http://homepage1.nifty.com/temma/>

大阪西野田教会 <http://ss7.inet-osaka.or.jp/~nodanoah/>

大阪四貫島教会 <http://shikanjima.hoops.livedoor.com/>

蒲生教会 <http://www6.ocn.ne.jp/~gamow/index.html>

淀川教会 <http://home.inet-osaka.or.jp/~church21/right.html>

南大阪教会 <http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Namiki/4394/mochurch/>

大阪昭和教会 <http://homepage2.nifty.com/church/>

茨木春日丘教会 <http://www.asahi-net.or.jp/~nv3n-krkm/>

大阪のぞみ教会 <http://www.j-e-s-u-s.org/nozomi/intro.html>

豊中教会 <http://www.tcct.zaq.ne.jp/toyonaka-church/top.htm>

磐上教会 <http://ontherock.hoops.livedoor.com/>

枚岡教会 <http://homepage2.nifty.com/h-church/>

泉北ニュータウン教会 <http://www1.odn.ne.jp/senboku-ntc/>

奈良高畠教会 <http://narataka.tripod.co.jp/>

高の原教会 <http://www3.mahoroba.ne.jp/~kage/t/>

和歌山新生伝道所 <http://www.sinsei-church.com/>

南紀の台伝道所 <http://www.aikis.or.jp/~church/index2.html>

【兵庫教区】

兵庫教区播州地区

塚口教会 <http://homepage2.nifty.com/tsukaguchi-ch/>

仁川教会 <http://www.asahi-net.or.jp/~CZ7H-SGR/>

西宮一麦教会 <http://www5b.biglobe.ne.jp/~ichibaku/>

西宮公同教会 <http://www8.ocn.ne.jp/~koudou/>

西宮教会 <http://www02.so-net.ne.jp/~makiba/>

芦屋西教会 <http://www.h2.dion.ne.jp/~nishi-ch/>

神戸聖愛教会 <http://www2.gateway.ne.jp/~ocean-jp/ch/top.html>

神戸イエス団教会 <http://www.portnet.ne.jp/~forest/index.html>

神戸教会 <http://www2.sdia.or.jp/~kbchurch/>

山手教会 <http://homepage3.nifty.com/yamate/>

神戸松本通教会 <http://www4.ocn.ne.jp/~noah0913/>

北六甲教会 <http://homepage1.nifty.com/kitarokko/>

神戸愛生伝道所 <http://www2.gol.com/users/pcusajmo/jmoinfo/aisei.html>

西神戸教会 <http://www.tcn.zaq.ne.jp/hiland55/church2.htm>

明石教会 <http://www02.so-net.ne.jp/~fthka/>

高砂教会 <http://www2p.biglobe.ne.jp/~takasago/>

曾根教会 <http://www2s.biglobe.ne.jp/~sonechch/>

姫路教会 <http://www2.memenet.or.jp/himejich/>

【東中国教区】

美作落合教会 <http://ww1.tiki.ne.jp/~banno/>

蕃山町教会 <http://homepage2.nifty.com/banzan/>
琴浦教会 <http://may.sakura.ne.jp/~fs/kc/>
鳥取教会 <http://www.hello.ne.jp/church/>
青谷教会 <http://www.aoyachurch.org/index.html>
光明園家族教会 <http://ww32.tiki.ne.jp/~kinpuu6/kazoku.htm>

【西中国教区】

福山延広教会 http://www.fuchu.or.jp/~nobuhiro/church/frame_1.htm
広島南部教会 <http://plaza12.mbn.or.jp/%7Egoodnews/ch/index.html>
広島観音町教会 <http://member.nifty.ne.jp/yororay/kanon/>
広島西部教会 <http://ww4.tiki.ne.jp/~kyokai/> (付属幼稚園のサイト)
呉平安教会 <http://www2.ocn.ne.jp/~kurehei/>
宮島口伝道所 http://www.d2.dion.ne.jp/~p_kt/
周防教会 <http://gelgoog.jaist.ac.jp:8000/graduates/s-miura/church/suou.htm>
防府教会 <http://www1.linkclub.or.jp/~1micchan/HOFU/>

【四国教区】

高松教会 <http://homepage2.nifty.com/hkame/>
屋島教会 <http://www5.ocn.ne.jp/~church/>
伊予小松教会 <http://www.dokidoki.ne.jp/home2/taylori/>
松山番町教会 http://shinai.jp/bancyo_home.htm
松前教会 <http://www.dokidoki.ne.jp/home2/haibaray/>
小松島教会 <http://www3.plala.or.jp/MARIE/church/>
潮江教会 <http://www2.inforyoma.or.jp/~bubu/infomation.htm>

【九州教区】

竹田教会 <http://church.jp/taketa/>
小倉東篠崎教会 <http://ww71.tiki.ne.jp/~ten4/>
瀬高教会 <http://www01.u-page.so-net.ne.jp/ga2/nakajimy/guide.htm>
佐世保教会 <http://www.ne.jp/asahi/church/sasebo/index.htm>
玖珠教会 <http://homepage2.nifty.com/kusuchurch/>
別府野口教会 <http://www.coara.or.jp/~yuki/beppu/muramatu/beppu022.htm> (ふるさとガイドの中の案内)
宮崎清水町教会 <http://www1.linkclub.or.jp/~lee/intro/intro.html>

【沖縄教区】

西原教会 <http://www.d1.dion.ne.jp/~osawaf/ch.html>
うふざと伝道所 <http://church.jp/ufuzato/>

注

- 1) 柴田もゆる「『看板』から『礼拝』まであるHP—教会ホームページのアンケート調査から」『福音と世界』2002年5月号 p. 44-51
- 2) 川島堅二「インターネットの宗教的活用の現状と可能性—アメリカのキリスト教会の調査から」惠泉女学園大学人文学部紀要第9号(1997年1月) p.53-74.
- 3) 経常収入は『日本基督教団年鑑2003』日本基督教団出版局による。A～Dのランク分けは全く便宜的なものに過ぎないが、教会の状態の目安としてはAランクはゆとりを持って自立できる教会、Bランクは自立できる教会、Cランクは付帯事業(幼稚園や保育園等)なしには自立困難な教会、Dランク(専従者を置くことが困難な伝道所)と考えられる。

高度情報化社会における「公共圏」と伝統宗教

神社神道のインターネット利用

黒崎 浩行

1 はじめに

1.1 「インターネットと宗教」に関する議論の一般的問題

インターネットの普及にともない、その宗教的利用が進んできた。宗教団体や宗教者からの発信もあれば、そうではない人々による宗教的な世界観や宗教的な活動との出会い、あるいは既成の宗教の枠組とは異なる「スピリチュアリティ」と表現されるような活動における利用が、インターネットのなかに現れている。

インターネットを宗教的活動にどのように利用すべきか、という議論は、日本の宗教界では2000年ごろをピークに盛んに交わされるようになった。1999年11月に財団法人国際宗教研究所が主催し、神社神道・伝統仏教・キリスト教・新宗教のインターネット実践者をパネラーに迎えた公開シンポジウム「インターネット時代の宗教」がその代表的なもの〔国際宗教研究所 2000〕だが、その後も各宗教界でシンポジウムやセミナーが開催され、コンピュータ技術や法律面での専門家、宗教研究者などを交じえた議論が重ねられてきている。

だが、この一連の議論を追ってみると、「宗教のインターネット利用」という局面に集中することで、かえって問題の焦点が拡散していくことへの苛立ちがしだいに散見されるようになっていく。

一例を挙げると、2000年2月1日に浄土宗教化情報センター21主催のシンポジウム「インターネットと伝統仏教」にパネラーとして出席した浄土真宗本願寺派の僧侶、筑後誠隆師は、そこでの議論をふりかえり、次のように総括している。インターネットでの広報は、自分たちが情報を取捨選択する新しい情報空間のなかでは必要な「最低限のこと」であり、それで具体的に何かを変えるという効果は薄い。また、これまでインターネットで発信してきたのは「すでに寺院の活動に対する問題点を理解している人ばかり」であり、「寺に期待することもない坊主がインターネットで変わることを期待されても、結局、逆にそんな連中はインターネットであろうが何であろうがやらんのでしょうか」と¹⁾。

なぜこのような問題意識の拡散が起こるのか。一つには、インターネットの宗教的利用に対して自覺的な活動と、そうではない無自覺的な活動、あるいは宗教者による非宗教的なインターネット利用とが入り交じっているという現状がある。たとえば、仏教寺院のホームページのなかには、たまたま僧侶がコンピュータが得意だったために開設され、結果的に寺院に関する事柄を載せているといったものが見出せる²⁾。また、信者や教団外に向かう布教活動としてではなく、教団内の事務効率化のためにコンピュータ・ネットワークの導入推進が各教団において検討、実施されてきている。それらは教団内LAN、インターネットとして閉じている場合もあれば、セキュリティシステムを介してインターネット上で構築されている場合もあるだろう。

こうした現状を前にしたとき、二つの視点がとりうる。一つには、たんにインターネットを宗教者が利用しているということではなく、インターネットの伝達媒体としての特性に自覺的な、宗教的な目的にもとづいて行われている活動にのみ注目すべきではないか、という見方が成り立つだろう。もう一方では、無自覺的な利用や一見非宗教的な利用のなかにもなにかしら宗教とインターネットとの出会いがもたらす作用が潜在的に含まれているかもしれない、として、そのような利用の実態や利用者の宗教的価値観を分析することでそれを明らかにすることができる、という見方もありうるだろう。

さらにつづくわえると、「ポストモダン的」と形容できるような新しい宗教的な試みがインターネット上にあったとしても、それが必ずしも多くの支持を得るには至っていない、という場合がある。そこで、そのような活動がインターネット全体のなかでどれくらいの割合で生じていれば、それを代表的なものとしてとりあげることが妥当と言えるのか、という問い合わせが生まれる。あるいは、将来の新たな可能性を探っていくには、支持者は少ないけれども、より高度で先端的な事例に注目するべきだ、という考え方もあり立つ。

つまり、「インターネットと宗教」を問うときには、問題意識の所在からみた現象の取捨選択が必須である、と

いうことになる。しかし、これまでさまざまな形で表わされてきた「インターネットと宗教」をめぐる議論は、あまりにも多様な問題点を含み込みすぎていたり、あるいは鮮明でないものが多かったように思われる。これには筆者自身のものも含まれる。

1.2 本稿の目的

深水顕真は、従来の「インターネットと宗教」研究の問題点として、インターネットというメディアと宗教が結びつく「社会的コンテクスト」への視点が欠落してきたことを指摘している〔深水 2002：102-3〕。

本稿では、高度情報化社会の「公共圏」における伝統宗教の位置づけという問題に注目する。これを考へるにあたって重要と思われる問い合わせを挙げ、本研究調査において得られた知見をもとにそれを検討していきたい。

その問い合わせは、「1990年代以降の高度情報化、とりわけインターネットの普及と、伝統宗教が近代社会における宗教の私事化に抵抗し、公共的空間への再参加を促す方向とは、どのように関連しているか？」というものである。

まず、「公共的空間」あるいは「公共圏」という概念がなぜインターネットと結びつきうるのか、という点について、社会学者の吉田純の議論を中心に確認しておく。

そこで問題となるのは、公共的なるもの、すなわち「公共性」の内実である。これについては、齋藤純一による整理を導きの糸としながら、「脱私事化」論との接合を試みたい。

次に、神社神道におけるインターネット利用の現状を概観しつつ、注目すべき点として、利用の規制をめぐる動き、討議空間としての可能性、地域文化の発信地としての神社の再発見、という3点を確認する。

最後に、今後の課題を整理する。

2 「公共圏」としてのインターネットと伝統宗教

2.1 「公共圏」としてのインターネット

インターネットという社会空間は既存の社会構造、社会関係とどのように異なるのか、またインターネットの普及によって進行する「情報ネットワーク社会」はどのような変化をもたらしうるのか、という問い合わせに対して、吉田純〔吉田 2000〕は、ハーバマスの「システム/生活世界」図式と「市民的公共圏」概念をキーとして、規範論的立場からの理論構築を試みている。

まず、社会空間としてのインターネットの不確定性を前提とする研究視座の転換が確認される。情報化社会論においては従来、「技術決定論的発想」〔同：3〕にもとづき、「情報化」のシステム機能的な側面（経済や政治・行政への寄与）〔同：13〕のみに焦点が当てられていた。だが、1990年代に入り、個人のコミュニケーション・メディアとしてのCMC（Computer-Mediated Communication：コンピュータを媒介とするコミュニケーション）が普及するのにともない、「情報・メディア自体もまた社会的・文化的に意味づけられ構築されるという双向的な視点」〔同：5〕が生じ、このような「非決定論的発想」〔同：4〕にもとづいて、「情報ネットワーク社会」がはらむ「アンビヴァレントな志向性」〔同：44〕を明確に認識しながら分析を進めることを提唱している。

情報・メディアのシステムへの寄与のみを問題とする研究視座から、生活世界における情報・メディアの意味構築過程を含み込んだ研究視座への転換は、日本の宗教社会学における1970年代後半からの展開として寺田喜朗〔寺田 2000〕が端的に要約した、「構造機能主義的アプローチ」から「解釈的アプローチ」への変化とも軌を一にするものであろう。

だが、吉田はミクロな生活世界における意味の解釈やアリティの構築過程の分析に集中することを提唱しているのではない。そうした過程に着目しつつも、生活世界とマクロな政治・経済システムとの関係調整を視野に収め、その関係調整過程のなかでの情報ネットワーク社会の「アンビヴァレンス」を問題にしている〔吉田 2000：45〕。

情報ネットワーク社会における生活世界とシステムとの関係調整は、〈仮想社会〉と〈現実社会〉の相互浸透という枠組のなかで考察されている。インターネットをはじめとする〈仮想社会〉は、「匿名性」、「ネットワーク性」、「自己言及性」〔同：58-62〕といった特徴をもつ。こうした特徴は、〈現実社会〉からの離脱、〈現実社会〉

の組み替え、両者の調停といった働きをもたらす、と指摘し、具体的な事例研究への方途を示している。

そして、システムと生活世界の関係調整を行う空間としての「市民的公共圏」概念を規範的に導入し、情報ネットワーク社会が「市民的公共圏」の成立にもたらす接近と離反のアンビヴァレンスを指摘している。

情報ネットワーク社会における「市民的公共圏」の成立可能性を柱として展開された吉田の議論は、その後、従来CMC研究などにおいてポジティブに語られることの多かった、「コミュニティ」概念を再検討する必要性の示唆へと展開している【吉田 2002】。すなわち、同一の関心によるコミュニティという理念は、複雑に機能分化した現代の現実社会に生きる個人を自由に結びつける働きにおいてしばしば無条件の期待をもって肯定されてきた。しかし、特定のコミュニティに自閉したり、均質な集団への同一化を求めて、多様な意見や文化を排除するという事態もまた、考慮に入れなければならなくなっているのである³⁾。

以上のような議論をもとに本稿の問題関心を整理すると、次のようになるだろう。1990年代以降のインターネットなどの情報メディア空間は、そこにおいてシステムと生活世界の関係調整を図る「公共圏」が成立する可能性をもっているが、それから離反する可能性をもはらんでいる。これまで私的なこととして語ることが避けられてきた問題やテーマが共有され、議論が形成されていく過程をそこに見ることも可能だが、しかし逆に、私的な問題の解決が、「公共圏」の成立を経ずしてマクロな政治・経済システムの動きのなかに回収され、絡めとられていく場合もありうる⁴⁾。こうしたアンビヴァレントな可能性をもつ社会空間として情報メディア空間をとらえていく必要がある。

2. 2 公共性の三つの含意と伝統宗教

本稿では、1980年代以降の世界における宗教の「脱私事化」【カサノヴァ 1997（1994）：13】の議論を、電子メディア空間における「公共圏」成立の問題と重ね合わせることを意図している。しかし、そこで注意しておきたいのは、「公共的なもの」、すなわち「公共性」の含意である。

前節では、私的なこととして避けられてきた問題を言語化して他者に提出しうることを、「公共圏」という用語にもとづいて「公共性」と関連づけた。しかし、一般にこれとは異なる意味を含めて「公共性」が語られることが多い。

齋藤純一【齋藤 2000：viii–ix】は、一般に語られる「公共性」の含意を、「公的（official）」、「共通していること（common）」、「閉ざされていないこと（open）」の三つに分類している。

第一の「公的」とは、「国家が法や政策などを通じて国民に対しておこなう活動」を指す。

第二の「共通していること」とは、「共通の利益・財産、共通に妥当すべき規範、共通の関心事など」を指す。「特定の利害に偏っていない」反面、「権利の制限や「受忍」を求める集合的な力、個性の伸張を押さえつける不特定多数の圧力」といった意味も含む。

第三の「閉ざされていないこと」とは、「誰もがアクセスすることを拒まれない空間や情報」を指す。

この三者は互いに抗争する関係にあるとし、とりわけ「共通していること」と「閉ざされていないこと」との抗争に関心を向けている。

また、齋藤は、1990年代の状況として、「『公共性』をナショナリズムによって再び定義しようとする思潮」【同：3】を指摘している。これは、「公共性」を「共通していること」の意味においてとらえながらも、公共性の価値とは全く異なる共同体の価値を称揚するものとしている。

こうした事情は、1980年代以降の日本宗教におけるナショナリズム的傾向としてとらえられる現象にも一定の影響を与えているように思われる【島薙 2001】。家族倫理や国家意識が第二次世界大戦後の日本社会において「公に（official）」語られてこなかったことへの批判的反省が、そこに含まれていることは確かだろう。だが、個々の事例がはらんでいる「公共性」の含意の揺れに、私たちは注意を払わなければならない。

3 神社神道におけるインターネット利用

3.1 神社のインターネット利用に対する規制をめぐって

「はじめに」で触れたような、神社関係者の間でインターネットをどのように利用すべきか、という議論は、

1997年ごろから起こっている。そのきっかけは、「産経新聞」1997年8月24日号の記事「バーチャル参拝 是か非か」であった。この記事には、東京都港区の愛宕神社が開設したウェブサイトにある「バーチャル参拝」がスクリーンショットつきで紹介され、その後に東京都神社庁の次のようなコメントが掲載されている。

「神社にお参りするというのは、画面を拝めばいいというものではありません。おみくじも社頭で引いてこそ意味があるのです。また、インターネットで崇敬者を募集するようなことがあれば、神道のあり方から逸脱しますので、開設にあたって何らかの制限を設けたいと思っています」

また、この一般紙記事に前後して、神社本庁はインターネット利用に対する公式見解を内部に示している。「月刊若木」平成9年(1997)8月1日号に教学研究所調査室名で掲載された、「情報化社会と神社の尊厳性—インターネットの利用を考へるー」がそれである。そこでは、高度情報化社会における知識、情報の伝達にともなう危険性が、次のように指摘されている。

高度情報化社会に拍車のかかる時代的傾向の中で、人々は知識や情報を得ようとするとき、実際の体験を通してではなく、様々な媒体を通して加工された情報を間接的に得ることが普通になりつつあります。かうした情報化社会においては、情報を提供する側も受ける側も、情報に対する主体的な価値判断や取捨選択がなされなければ、媒体を通して変形された情報があたかも真実として一人歩きしてしまふ恐れもあります。

おみくじ、神符守札の授与、バーチャル参拝(「仮想神社参拝」)のそれぞれについて、これらがインターネット上で行われることで伝統的な神社信仰の尊厳性がそこなわれ、誤解をもたらす危険性を指摘し、また情報産業の商業主義的な傾向に乗った神社運営のあり方にも警告を発している。

こうした報道、発表をきっかけに、インターネットを利用する神社関係者有志からなる神社オンラインネットワーク連盟は、神社本庁教学研究所調査室宛に意見書を提出し、また神社関係者によるメーリングリストでは「バーチャル参拝」の是非について活発な議論が交わされた。

このような動きの背景には、神社界でボトムアップ的なインターネット利用が自発的に広がっていくなか、ついにトップダウン的な規制が検討されはじめるまでになったことへの驚き、懸念があったように思われる。1990年代半ばごろからのインターネットの普及のなかで、神社ホームページも草の根的な広がりをみせつつあった。それが、包括団体である神社本庁からも注目されるようになったことで、あらためてインターネット利用の趣旨を再定義する必要に迫られたのだと言えよう。

神社信仰の尊厳性を維持しつつ情報伝達する、という目的に沿った規制の模索は、継続的に行われている。平成13年(2001)3月に行われた、第19回神社本庁教学研究大会では、インターネット利用の現況と問題点について報告、議論する分科会が設けられ、神社関係者の自発的な組織である神社オンラインネットワーク連盟の中心メンバーが議論に参加した。

その総括として、「ホームページの開設と運営上の問題点及び今後の在り方」と「組織上の問題点」の2点が挙げられている。そのうち前者は、技術のスピードに追いつくようなガイドラインの設定は困難であり、各人の倫理観に頼らざるを得ない、架空の神社や神道系新宗教のサイトと区別するために統一ロゴやアドレスなどの工夫を考えられる、インターネット上で地域の氏子崇敬者相互のコミュニケーション提供の場が求められる、といった提言である⁵⁾。

このうち、統一ロゴ・アドレス採用については、神社本庁とは直接関係しない組織である神社オンラインネットワーク連盟がすでに、これより1年半前の平成11年(1999)11月から実施を始めている。神社本庁・神社本教傘下の神社の公式ホームページに対する「jinja.jp」ドメインの提供、「このHPは由緒ある正式神社の運用です」と記された公認バナー画像の提供がそれである。2003年2月現在で、126社のホームページが「公認」となっている。

また、神社本庁の公式ホームページは1999年(平成11)1月に開設され、外国人向けに英語で神道を紹介した

コンテンツを中心に提供されているが、神社本庁ホームページから他の神社関係サイトへのリンクは、検討課題とされてきた。これが、平成14年（2002）1月から、各神社庁及び同支部の公式ホームページに限り、リンク設定申請を受け付けることとなった。

ここでもあらためて、「神社の祭祀や信仰を損ふ恐れがあること」に注意を喚起し、そのような内容を含むホームページへのリンク設定は認められないとしている⁹⁾。

これらに加え、神社本庁による神社ホームページの実状の把握も進められている。「神社活動に関する全国統計」は、神社本庁が「神社活動の中で多くの神社に奨励したい事項をとり出して、その活動

現況をみてある」として、主だった活動の各都道府県ごとの統計を毎年『月刊若木』に掲載しているものだが、こには平成11年（1999）より、「インターネットホームページ開設」の項目が新設されている。表1に見るとおり、ここ3年間のみの状況だが、他の広報活動の数値と比較しても、急速に伸びている活動であることがわかる。

この一連の動きのなかで注意しておきたいのは、内容に対する公的な規制は、懸念される問題の提示にとどまり、規制の遵守は自発的なネットワーク組織による自主規制の形で広がっているという点である。これはインターネットを媒介とする宗教組織の運営を考えいくうえで注目すべき点であろう。

神社本庁ホームページからのリンク申請受付を、トップからの公認化による規制のはじまりとみなすこともできるかもしれないし、また統計調査を通じて、神社本庁が正式とみなす神社ホームページの実態把握も進んでいく。しかし、2003年3月時点では、神社本庁ホームページからリンクしている外部サイトは「宮内庁」と「伊勢の神宮」のみである¹⁰⁾。また、一般的なインターネット利用者にとってみれば、統計調査そのものは、正式な神社ホームページかどうかを判断するための材料とはなりえず、神社ホームページにおけるリンク集や、一般的な検索エンジンなどのほうが有効な手段となっているのが現状である。

こうした自主規制の独特なあり方と同時に、その対象となった「バーチャル参拝」と、商業主義的な利用にも注目しておきたい。「バーチャル参拝」と呼ばれるような、マルチメディアを駆使したコンテンツの提供に対しては、「製作する神職の技術の誇示や遊戯の面」があったことが指摘されている¹¹⁾。神職の個人的な特技や、神社の文化的意匠をモチーフとした遊戯性が、インターネット空間のなかでいったんは発露した。しかし、自主規制へと向かうなかで、これらの傾向が神社の尊厳性の維持とのバランスにおいて再考され、場合によっては許容されない流れを生み出していくことになった、と言えるだろう。また、高度情報化の本質的な契機のひとつである資本主義経済システムとのせめぎあいが確認されたことも重要である。

3.2 神社ホームページの変遷

インターネットを利用する一般の側から神社のホームページをみた場合、そこにはどのような特徴や変化が見出せるだろうか。

これを確認するため、継続的にいくつかの神社ホームページの内容を収集し、これを分類別、および時系列的に比較検討することを試みた¹²⁾。

1998年9月にYahoo! Japanの「生活と文化：宗教：宗教別：神道：神社」に登録されていた50の神社ホームページのコンテンツを2か月ごとに収集し、その内容が、1998年9月から2003年1月までの4年4か月の間にどのように推移したかを見てみる。

内容については、表2に示したような「実践別分類」を行った。すなわち、そのサイトを訪れるることによって利用者は何を行うことができるのか、という視点からのものである。これらの項目は、神社神道だけでなく、他の宗教についても共通して見出しうるものとして設定した。

- 「知る」…神社の沿革や行事予定、祭礼や文化財、また鎮座地の地理・歴史などを知ることができるもの。
- 「話し合う」…掲示板など双方向の議論・会話が可能なもの。
- 「打ち明ける」…人生相談など、利用者が提出した悩みに神職者が答えるもの。

表1 インターネットホームページ開設数

	インターネット ホームページ開設	前年度比(%)
平成11年 (1999)	157	
平成12年 (2000)	256	163.1%
平成13年 (2001)	374	146.1%

（「神社活動に関する全国統計」「月刊若木」所収、より作成）

表2 神社ホームページの実践別分類ごとの変化

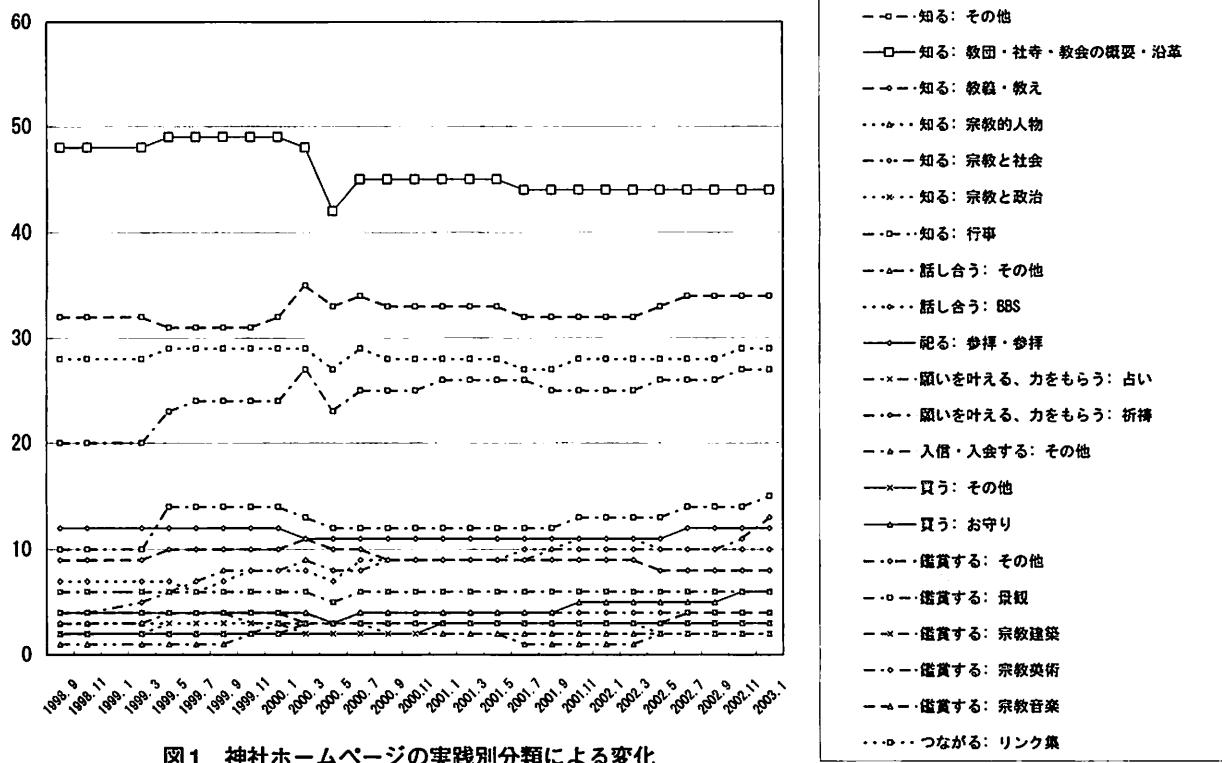


図1 神社ホームページの実践別分類による変化

- ・「祀る」…参拝や巡礼を模した形態のもの。
- ・「願いを叶える・力をもらう」…占いやまじない、祈祷などを行えるもの。
- ・「修行する」…瞑想などを行えるもの。
- ・「入信・入会する」…何らかの加入手続きがオンラインで行えるもの。
- ・「買う」…お守りや書籍などの販売を行っているもの。オンライン決済だけでなく、価格表と代金支払い方法の案内を示しているものも含めている。
- ・「鑑賞する」…景観や宝物、音楽などを画像、音声、動画などで鑑賞できるもの。
- ・「つながる」…他のサイトへのリンクを提供しているもの。

1998年9月に存在していたホームページのその後の変遷をみていくと、全く更新されていないもの、構成を変えないが定期的に更新されているもの、サーバーを移転して大幅にデザインを変え、内容を充実させているものなどさまざまである（表2、図1）。しかし、基本的な内容は、「知る：教団・社寺・教会の概要・沿革」にあることは変わらない。神社の歴史、祭神、祭礼、境内・神殿の紹介が中心となっている。

4年4か月のうちに増加をみせた内容としては、「知る：行事」、「知る：その他」、「話し合う：BBS（電子掲示板）」、「買う：お守り」、「鑑賞する：その他」、「鑑賞する：景観」がある。これらのうち、「知る：行事」、「知る：その他」、「鑑賞する：その他」、「鑑賞する：景観」については次節で考察する。

3.3 討議空間としての可能性

ここで、「話し合う：BBS」の増加について、「公共圏」としてのインターネットとの関係を若干検討しておきたい。

この増加は、電子掲示板システムをホームページに導入するための技術的な敷居が低くなつたことが大きく影響していると思われる。実際のところ、開設後ほとんど書き込みがないという掲示板が多い。

そのなかで、神社オンラインネットワーク連盟の掲示板¹⁰は、神社関係者が主催するうちで最も活発なもの一つだろう。話題は、神道の作法、神社の歴史についての知識を尋ねる質問から、皇室、戦没者慰靈、歴史観、教育についての議論など多岐にわたっており、盛んに書き込みが続けられている。ほとんどが匿名による書き込みだが、メールアドレスを公開している常連ユーザーによるものも多い。とはいって、「Yahoo!掲示板」や「2ち

やんねる」などの巨大掲示板での神道関係の議論における応酬の苛烈さとは比べものにならないだろう。

この間には、2000年5月の森喜朗首相による「神の国」発言、2001年8月の小泉純一郎首相による靖国神社公式参拝など、神道と皇室、神道と政治にまつわる問題に注目が集まり、1999年の国旗国歌法の制定、教育基本法改正問題などを通じて、「愛国心」を問う議論が活発化していった。こうした流れに呼応した世論へのアピールは、神社オンラインネットワーク連盟のホームページにも現われており、また掲示板でもとりあげられている。

こうした討議のイシューとなっている内容については、冒頭にみたように、「公共性」の意味をめぐる、「共通していること」と「閉ざされていないこと」との抗争〔齋藤 2000:x〕の一例として位置づけることができよう。だが注視すべきは、討議する行為において、賛成派、反対派双方が自らの見解をどのように自己表出し、その妥当性を要求しているのか、その様式にある。ほぼ同質の意見を持つ集団が集会を開いて共同アピールを採択したり、あるいはテレビの討論番組などにおいて反対の意見を持つ者どうしが議論の応酬のスペクタクルを展開する¹²⁾、という様式とは明らかに異なる可能性を、インターネットという双方向の議論メディアははらんでいる。

本稿では十分に検討するための材料を得られなかったが、今後最も注目すべき点だろう。

3.4 地域文化への参加促進としての神社ホームページ

他方、「知る：行事」、「知る：その他」、「鑑賞する：その他」、「鑑賞する：景観」の増加は、何を意味しているだろうか。

他宗教との比較が可能な分類項目を設定した結果、「知る：その他」に分類されることになった内容を含むサイト数が、31から34にまで及んでいる。これは当該宗教に直接関係のない情報を掲載しているものを指している。神社ホームページにおいては、鎮座地周辺の史跡・遺跡や自然環境、周辺地域の産業、境内で行われる文化イベントを紹介したものなどがこれにあたる。

このような、神社周辺の地域社会や文化を学び、それへの参加を促す内容が神社ホームページに盛り込まれていることは、個人的な信仰対象としての宗教施設にとどまらない神社の存在をあらためて私たちに印象づける。

こうした地域文化の発信地としての神社を積極的に志向する神社の一例として、大阪府高槻市にある上宮天満宮を挙げることができる。1999年8月に、現宮司・代表役員の森嘉和氏、非常勤の神職のA氏に対しインタビュー調査を行った〔黒崎 2000:118-123〕が、2002年11月に、再度森代表役員へのインタビューを行った。そこで次のことがあらためて確認された。

上宮天満宮は古くからの氏子町に加えて、大阪・京都のベッドタウンとなる新興住宅地域が隣接しており、その住民による初宮参り、七五三の参拝が神社運営上大きな比重を占めている。

先祖代々からの神社とのつながりを持たない住民に対して、上宮天満宮がどのような神社であるかを積極的に開示し、接点をもたなければならないことが最重要視されている。そのため、氏子町が中心となって運営される天神まつりのほかに、琴演奏などをとりいれた「てんじん竹灯り」のイベントの開催、鎮守の森に植生する竹を利用した竹絵馬などの授与品の発案、さらには「影守氏子」と呼ぶボランティアによる授与品の生産や境内の整備に取り組んでいる。そして、このような神社がイニシアティブをとっている活動の広報媒体としてインターネットを活用している。

産業化、都市化にともなう人口移動のなかで、地域の神社の存在意義が問い合わせられるという局面は、日本の多くの地域において見られると思われる。こうした流れに連動する形で、地域文化との関わりへの参加を促すメディアとして神社ホームページがあるということを確認しておきたい。

4 むすび

本稿では、「1990年代以降の高度情報化、とりわけインターネットの普及と、伝統宗教が近代社会における宗教の私事化に抵抗し、公共的空間への再参加を促す方向とは、どのように関連しているか?」という問いを、神社・神道におけるインターネット利用を事例として検討した。そこで確認されたことは以下の点である。

まず、神社ホームページの内容をめぐる規制の動きについては、インターネット上で形成された自発的なネットワーク組織による自主的な規範遵守の形で広がっていることに注目した。これは、従来からの組織的な権力

による規制とは異なり、仮想空間上のゆるやかなネットワークにおける討議を経ながらも、最終的には組織的な意思決定と調停を図るものであったと言えるだろう。こうした動きは、神社の尊厳性とは何か、といった問いを表面に浮かびあがらせてくる効果はあったが、その一方で、広報媒体を借りた個人的な特技の披露や遊戯性の発露には一定の制限を加えるものとなっている。

次に、神社ホームページの掲示板などを通じ、神道と国家、愛国心についての討議がなされており、インターネット空間上でのこうしたイシューの台頭が、現在の社会・政治状況における「公共性」の含意の揺れを反映していると見ることができる。しかし、当のコミュニケーション行為において、どのようにこれらが言語化され、討議や合意形成がなされていくのか、それが「公共圏」の成立可能性においてどう位置づけることができるのか、が今後問われていくべきだろう。

最後に、現状の神社ホームページを概観したとき、それらが地域文化発信の機能をもちうる可能性が見出された。崇拜対象としての宗教施設であることに加えて、地域の文化を広報し、それへの参加を住民に促すはたらきがありうる。これは他の宗教におけるインターネット利用とは比較できない要素であり、また神社と行政、経済、教育など他のセクターとの関わりのなかで、その公共的役割を再編していく可能性にもつながる問題だと思われる。

ただし、いずれにしても、本稿でとりあげた現象は、まだ萌芽的な段階にすぎないと言える。またその一方で、インターネットという社会空間の編成自体も、法整備やさらなる商業化といった「システム圧力」[安川・杉山 1999]とのかかわりのなかで、大きく変質しつつある¹³⁾。今後はそうしたマクロ的なインターネット空間の変化要因も見極めつつ、またとりわけ「公共性」の含意をめぐる闘争状況を視野に入れながら検討していく必要があるだろう。

参考文献

- カサノヴァ、ホセ 1997 (1994) 「近代世界の公共宗教」 津城寛文訳、玉川大学出版部。
- 深水頭真 2000 「インターネットは地域的宗教構造を変えうるのか？」 黒崎浩行（編）・葛西賢太・川島堅二・田村貴紀・深水頭真『電子ネットワーキングの普及と宗教の変容』 國學院大學日本文化研究所、83-105。
- 深水頭真 2002 「インターネット時代の宗教」 宗教社会学の会編『新世紀の宗教：「聖なるもの」の現代的位相』 創元社、100-139。
- 国際宗教研究所編、井上順孝責任編集 2000 「インターネット時代の宗教」 新書館。
- 黒崎浩行 2000 「神社ウェブサイトをめぐる社会的文脈」 黒崎浩行（編）・葛西賢太・川島堅二・田村貴紀・深水頭真『電子ネットワーキングの普及と宗教の変容』 國學院大學日本文化研究所、107-128。
- レッシグ、ローレンス 2001 (1999) 「CODE：インターネットの合法・違法・プライバシー」 山形浩生・柏木亮二訳、翔泳社。
- ポスター、マーク 2001 (1990) 「情報様式論」 室井尚・吉岡洋訳、〈岩波現代文庫〉、岩波書店。
- 齋藤純一 2000 「思考のフロンティア 公共性」 岩波書店。
- 島薙 進 2001 「ポストモダンの新宗教：現代日本の精神状況の底流」 東京堂出版。
- 寺田喜朗 2000 「20世紀における日本の宗教社会学」 大谷栄一・川又俊則・菊池裕生編『構築される信念：宗教社会学のアクチュアリティを求めて』 ハーベスト社、157-175。
- 安川 一・杉山あかし 1999 「生活世界の情報化」 児島和人編『講座社会学8 社会情報』 東京大学出版会、73-115。
- 吉田 純 2000 「インターネット空間の社会学：情報ネットワーク社会と公共圏」 世界思想社。
- 吉田 純 2002 「DOING SOCIOLOGY “ヴァーチャル・コミュニティ” 再考」『ソシオロジ』143 (46-3) : 179-185。

注

- 1) 筑後誠隆「[インターネットと伝統仏教】報告」2000年2月3日、<http://www.daigo.or.jp/tokushoji/000203.htm> (2001年4月29日参照)。
- 2) たとえば [深水 2000:88]。
- 3) ここでは、安川一・杉山あかし [安川・杉山 1999] がパソコン通信での論争を理解するために設定した「システム圧力」「コミュニティ圧力」「コミュニケーション圧力」の「三つのモーメント」が参照されている。
- 4) 消費社会論、および消費社会のコミュニケーションとしての広告に対する批判的研究は、こうした問題を追求したもの

- のと言えるだろう [ポスター 2001 (1990) : 115-124]。
- 5) 「月刊若木」622号、平成13年 (2001) 5月 1日。
 - 6) 神社オンラインネットワーク連盟「神社と神道：リンク集」2003年 2月 7日、<http://www.jinja.jp/link/index.html> (2003年 2月 28日参照)
 - 7) 「月刊若木」630号、平成14年 (2002) 1月 1日。
 - 8) 神社本庁「神社本庁のホームページ」、2003年 1月 22日、<http://www.jinjahoncho.or.jp/> (2003年 2月 28日参照)
 - 9) 「第十九回神社本庁教学研究大会」「月刊若木」622号、平成13年 (2001) 5月 1日、87。
 - 10) なお、ここに挙げた調査データは、本研究調査以前に実施したものを含み、また國學院大學日本文化研究所「現代のメディア情報化と宗教文化に関する研究」プロジェクト、「宗教と社会」学会「情報テクノロジーと新世代の宗教的インターネット」プロジェクトと連動して収集したものである。1998年 9月から2000年 1月までの時点での報告は、[黒崎 2000 : 111-117]。
 - 11) 神社オンラインネットワーク連盟「神社と神道 みんなの掲示板」<http://www.jinja.or.jp/cgi-bin/trees.cgi> (2003年 2月 28日参照)
 - 12) 吉田純は、現代の公共圏についてハーバーマスの議論を参考しつつ、「平等性」にかかわる問題として、「アクターとオーディエンスの分化」をとりあげている [吉田 2000 : 146]。
 - 13) ローレンス・レッシングは、サイバー空間を規制する制約条件として、法、社会の規範、市場、アーキテクチャの四つを挙げ、それらが相互に依存しており、どの条件を変化させても規制は可能であることを指摘している。そして、市場経済と政府の圧力によって、全体としては「比較的自由な世界から比較的完璧なコントロールの世界へと移行しつつある」インターネットの将来像を悲観的に提示している [レッシング 2001 : 41]。

宗教情報を読む技術

情報をどう捉え、どう蓄積し、どう展開するか

葛 西 賢 太

1 問題の所在

「宗教情報」を「読む」技術といつても、ブラウザ云々、画面表示がどうこう、ファイル形式がPDFかXMLか等々といった話ではない。筆者は「読む」ことと、その「技術」をきわめて広義に捉えている。宗教についての情報を、それを真に求める人々のところに、適切な形態で適切な時期に届けられ、それが人々の行動やさまざまな社会政策の展開に貢献しうるような状態（「読む」）を作り出すための、社会的な「技術」である。

文字なり記号なりで構成された記録のすべてを「情報」と見なすみかたもあるが、日本においては「IT（Information Technology、情報技術）」の語などにみるように、コンピュータ・ネットワークと、データベースシステムとの普及と発達とに強く結びつけられている。学校の科目名や学科名に「情報」と入るのは、かつて「電子工学」などの名で呼ばれた分野であり、コンピュータ操作やプログラミングなどの内容が想定されがちである。メディア論が活字発明に始まる「情報」の多様性を盛んに論じているのにもかかわらず。だが、コンピュータが広く普及し、文房具としてほぼ定着した現在、このメディアの新奇さは後退し、「情報」についてもより広義にとらえる段階に入っている。

本章では、金子郁容が情報について論じた諸研究にならい、「人々に具体的なアクションを起こさせるべく交換されるもの」と、「情報」をとらえておく。言い換えれば、情報のかたちの新奇さ（衛星放送やインターネット等の技術）に引きずられるのではなく、多様な形態をとる情報の、人々の行動を促している文脈を捉えるのである。データベースに死蔵されるデータはそれが生かされない点で、「情報」としては存在しないに等しい。行動を喚起しなければ存在しないのと同じなのだ。金子が扱ったように、これはボランタリーなネットワークを構成する人々の関係をみるとことでもっともよく示される。同時に、情報の行動喚起機能に注目することで、ひるがえって、人々にとって有益な情報のありかたを考えることにつながろう。

とはいっても、政界の裏話のように、宗教界に特殊なコネクションを持つ「通」の人物や組織がもっている「情報」……たとえば巨大教団の経理状況、誰がナンバー2か等々といった内部「情報」は、とりあえず本章の検討対象からは外しておく。このような「情報」を得ることで、仮に狭い範囲の教界政治には関わり得ても、現代社会が直面する様々な問題に答えを出していくことはできないだろう。誰もが容易に目に触れうる情報をおさえつつ、それらの単なる蓄積を超えたところから対話や展望を広げていくことが、現代社会における宗教のありかたを本当に考えることになるのではないだろうか。

本章は以下のように展開する。まず、宗教情報は人々にどのように捉えられているか、そのありかたと問題点を検討し、宗教情報のより望ましいとらえ方を考える。ついで、宗教情報の活用という観点から、現在の蓄積のありかたを吟味し、また将来の可能性についても言及する。さらに、蓄積された情報をもとにどのような行動への展開が考えられるのかを示す。筆者は宗教を、教団という形をとったもの以上に広く、たとえば感情の発露を中心におくような諸実践をも含みこんで捉えるべきだと考えており、以下で展開する実例もそれらに目配りしたものとなる。このような実践の狙い手をも含みこんでの政策立案や社会貢献こそ、（たとえば生殖技術を宗教的倫理的に規制すべき云々以上に）現代社会において広義の宗教が貢献できる重要な分野であると筆者は考えている。以上を、「広義の宗教」を読み、行動するための「社会的技術」として提示するのが、本章の目指すところである。

2 「宗教情報」のイメージ

2.1 記者のもつイメージ

様々な情報源があるのだから、私たちは宗教について熟知しているかというと、そうでもない。

古くからある伝統教團についてはさまざまな書籍がある。それでも、伝統宗派の最近の動きや、新しい宗教、

あるいは現代人の精神状況など、あたらしいものをとらえようにも、社会問題化しなければなかなか取り上げられない。たとえば「破壊的カルト」集団の動向や、教団メンバーの酷使、虐待など、ある種センセーショナルなものばかりになってしまう。日本での韓国キリスト教会の布教にみるような、「多国籍宗教」が国境を越えて日々布教している現状には追いつかない。

即時性の高いメディアには別の問題がある。インターネット情報は玉石混淆だ。脱会者等による克明な内部告発もあれば、事実無根の誹謗中傷もあり、詳細がわからなかつたり曖昧だつたりする内容も多い。新聞やテレビではメジャーな宗教か社会問題になった宗教しか扱わない。

一度新聞沙汰になれば、その団体がどのような経緯をたどってきたのか、係争記事をずっと追うだけでかなりのことが明らかになる。現在では各新聞社がwebで提供している検索サービスを利用することで、この作業は容易になった。

だが、個々の記事の内容を注意して検討してみると、取り上げ方に一定の傾向があり、それ以外は抜け落ちてしまいがちである。たとえば以下の記事を注意深く検討し、いくつか疑問や不満を挙げてみよう。

一般的に「社会に破壊的な悪影響を及ぼす団体」といった意味で語られるカルト。多くは宗教団体として活動していることから、カルトにかかわるトラブルは一種の宗教問題と見なされるケースも目立つ。最近の動静を考える上で興味深いのが、全国靈感商法対策弁護士連合会による被害者集計である。

地下鉄サリン事件のあった一九九五年以降、相談件数は毎年六百一八百件台を推移していた。それが二〇〇一年には一気に千五百件を突破した。たたり話などを持ち出して高額な物品を買わせる靈感商法への相談が中心だが、「カルト全体の動向を反映している数字であることは間違いない」と、同会の紀藤正樹弁護士は説明する。

「大組織が派手に活動するようなことは少なくなってきたが、仏教系の団体など、小さな組織が次々と活動を始めている状況がある」

「手相に興味はないか」といった何気ない話から勧誘し、「マインド・コントロール」を用いて反社会的な活動に人々を巻き込む—手口自体は新しいものではない。【読売新聞 2002/07/17】

まず、紀藤の短く切られたコメントの前後に一定程度の補足説明があったはずで、この記事が彼の見解を正確に反映していないことは当然想定しておくべきだろう（紀藤正樹弁護士のサイト：<http://homepage1.nifty.com/kito/>）。また、「連合会」は「連絡会」の誤りだろう。さらに、被害者集計実数も、全国靈感商法対策弁護士連絡会のサイト「靈感商法の実体」(<http://www1k.mesh.ne.jp/reikan/index.htm>)によれば、1990年(2880件)や1992年(2611件)の方が件数が多い。「ますますカルトが増えている」という先入観から、データの確認が不十分になってしまったのではないか。となると、上記の被害者集計（相談件数）の増加は「カルト全体の動向」をなんらかの形で反映している可能性があるとしても、(1)「破壊的カルト」の団体数の増大を示しているのか、あるいは(2)それらが起こす事件数の増加か、それとも、(3)弁護士たちの啓蒙努力の結果として（社会的関心が高まり）、相談件数が増加したのか、いずれなのか、確認しなければならない。

また、度重なる報道にもかかわらず、同じような手口がカルトによって繰り返され、同じように被害者が引っかかり続けているのはなぜかという問い合わせも浮かぶ。マスコミ報道によって被害者は啓蒙されないのである。また、カルト側もなぜ似たような手口を繰り返すという、目につくことを代わり映えなく続けるのだろうか。たとえば、(a)被害者は新聞を読まないのだろうか。または(b)被害者はおとなしい遠慮がちな人で、断り方が弱いところにつけ込まれたのだろうか。それとも、(c)カルト側のテクニック「マインド・コントロール」が、事前の警戒や知的な啓蒙や強い意志などはねとばすくらい強力で、人間の本質的な弱みに普遍的に効果を及ぼしうる魔法のようなものなのだろうか。

「マインド・コントロール」には何ら神秘的なものではなく、「何気ない話から勧誘」して長時間あるいは何日も拘束して疲れさせ、最後に承諾に持ち込むという、かなり強引なものであることについての説明はない。そして、暴力的手段あるいは間接的手段で身体を拘束する事例は、もはやマインド・コントロールというものではなく誰がみてもわかる監禁に類する犯罪であることの確認もない。監禁や、団体名をあかさずの（宗教団体である

ことを隠しての）勧誘など、法にふれる行為があるからこそ、信教の自由を尊重する姿勢を維持しながらも弁護士たちが訴訟に持ち込むことができるのである。この点からも、「マインド・コントロール」が事情をひととおり説明してくれるような記事には問題があるだろう。

カルトの「危険性」を軽視するわけではない。彼らの手口を検討すると、最初の「何気ない話」をきっちり断ることがいかに重要かという一般的な教訓は示せるはずだ。断らないとその先に、（「マインド・コントロール」と通称される）身体の拘束が控えているのだから。「マインド・コントロール」のようなイメージしやすい（想像力を喚起する）言葉で直截に説明することは必要かもしれないが、こうした情報も補った方がよいだろう。

2.2 法律家のもつイメージ

1995年3月、首都を走る地下鉄車内および駅構内で劇薬が散布されるという事件が起こった。散布されたのがサリンという聞き慣れない、しかし兵器としての強い毒性を持つ薬物であったこと、都心の複数箇所での散布というテロであったこと、そして容疑者として検挙されたのがオウム真理教（現在アレフと改称）という宗教団体の幹部たちであったことが、国内外に衝撃をもたらした。この地下鉄サリン事件がきっかけになって、宗教法人法改正の議論が持ち上がる。改正宗教法人法には、宗教法人の所轄庁移管、収支・財産・役員等についての書類提出、そしてこうした書類の信者らの閲覧権や所轄庁の質問権などが盛り込まれ、1995年12月に可決され翌1996年9月から施行された。

靈感商法を消費者問題の観点から警告する青山学院大学教授（民法学）の棚村政行は、カルト問題に対する自淨努力という形で、宗教界が連帯して責任をになうべきだと強調した。宗教法人審議会の提案にあった「(仮称)宗教情報センター」を、彼は「宗教問題情報センター」と言い換えている。

宗教法人も民主主義社会に存在し活動するわけで、信教の自由の保障にもそれなりの責任と義務が伴う。自由や権利ばかり主張して責任や義務を果たさないことは許されない。ディスクロージャー、自己決定、情報公開、知る権利など民主主義的原理や自己規制のシステムが導入されることで、はじめて、宗教法人の管理運営に公的介入を排除する憲法原則が貫徹する。オウム事件など、カルト事件で宗教界や宗教関係者は組織的に何をしてきたのかという批判の声も世間では相当に強い。自己規制・自浄作用を強化する手立ての一つとして、「宗教問題情報センター」のような自主的組織を発足させることは、宗教法人が国民ひとりひとりに身近な存在となり、社会一般の期待や信頼に応えるためにも緊急に必要なことではないか。こうした方向での自浄努力に期待したい。[世界 1996/01]

棚村がイメージする情報は、法人としての宗教団体が、行政や社会への責任を果たすために、一般企業同様に活動のありかたを開示するためのものであり、情報の利用者は行政であり社会である。当事者自身のためにも必要な情報という着想よりも、民主主義社会の隣人として、外部からの宗教団体への要望を述べることに力点が置かれている。

棚村は法人として対行政・対社会の情報開示責任を説く。宗教界の「自浄努力」という表現で「宗教問題」にたいして一種の連帯責任があるととらえ、宗教界が一枚岩のようにみなしてその外側から情報開示を求めていた。だが実際の構造はそれほど単純ではない。靖国問題をめぐる多様な見解にみると、宗教界は一枚岩ではない。宗教ごと、宗派ごとその他の連合体が複数存在し、さらにそれに加わらない教団も多数ある。そしておのののメンバーは世俗社会にあって、同時代人として非会員と同じ時代精神を一定程度共有しているのである。

2.3 教団内外の境界の薄まり

外部からみた第三者的な視点からの情報にくわえて、内部や当事者の感覚にどこまで近づいた「情報」を示せるかが、問題のある教団との関わりのうえで、これからは重要になってくるのではないだろうか。以下は、2002年末から2003年にかけて、クローンエイド社（ラエリアン・ムープメントという宗教団体が経営）のヒトクローン赤ちゃん誕生報道についての、櫻島次郎の論説である。報道がクローンベビーの真偽問題に集中しがちな傾向に対し、重要な問題が落ちていないかと彼は警告する。

ラエリアンは、クローン人間の產生にどれだけ高い宗教的価値を付与しているのだろうか。売名行為か金儲けにすぎないのではないかということは、その分析なしには言えない。……万能の科学を駆使し永遠の生命をもつ異星人に近づこうとし、遺伝子組み換えやクローン技術を称揚する姿勢もみられる。

もしクローンの宗教的価値が高いなら、社会と異なる価値観で生命科学技術を使おうとする団体に、どのように対応したらいいのか。ラエリアンの教祖の母国であるフランスでは近年、官民挙げてカルトの反社会的活動を予防し抑える施策や立法を行ってきてる。だが日本ではそうした施策の積み上げがなく、オウムの時にも破防法の適用という荒療治を検討するしかなかった。それでは信教・結社の自由と社会の秩序をいかに調和させるかという根本問題に、うまく対応できないのではないかと危惧する。【読売 2003/02/03】

誤解のないように補足しておくと、櫻島はラエリアンの「信教・結社の自由」を無条件に肯定しようといっているのではない。むしろ逆なのだが、手続きとしてはその点を吟味してみることが必要だといっているのだ。異性生殖によることが人間尊厳のための必須条件であるという原則から出発し、クローン技術行使を包括的に差し止めるフランスの事例を示す。そして、クローンベビーの親たちがラエリアンのメンバーではないことと、むしろ子どもが欲しいという自身の欲求ゆえにクローンという選択肢をとったことに含まれる問題性も示す。それゆえに、外部にあってクローン技術についてなんらかの規制を加えようという識者もまた、「売名」や「金儲け」の可能性を見て取りつつも同時に、「非常識」を理想的なものと見なすような価値観を拾っておく必要がある。その価値観は内部だけのものではなく、外部の“子どもがどうしても欲しかった”クローンベビーの親たちにも肯定されていたものだからだ。

フランスでの反カルト対策の是非はひとまずおこう。少なくとも当事者の価値観がどんなものなのか検討の対象にするということを一度は通らねばならない。結果として否定するとしても。それはわれわれの世俗社会を構成する隣人でありながら、同時に世俗文化（の理解）を何らかの意味で超えていると主張するのだから。現代宗教において「完全な外部」はあり得ないのだ。

2.4 現代宗教情報を扱う専門性

宗教の世界で起こる出来事を追いつつ、そこからの知見を広く提供していかなければならない。だがその作業は容易になしえないだろう。現代宗教は「宗教界」よりもはるかに広い範囲に薄く広がっているからだ。病に苦しむ人々が自助団体で語る言葉に、家族制度の崩壊に対応しての個人墓や生前贈与などの戦略に、識者や読者の体験談からにじみ出る死生観に、建物や儀礼行為の枠には収まらない宗教（「スピリチュアリティ」と呼ぶ人もいる）が広がっている。

宗教が存在している場所について、あらためて構築主義的な視点で見ると、人々に行動を喚起する宗教の側面を見落とさずに済む。宗教は、神殿の奥まったところにあるのか？熱心な信仰者の中にあるのか？そうかもしれないが、それだけでなく、信仰者が外部のものと語り合う場所にも、語られることによって成立する。たとえば、布教の現場。あるいは、信仰熱心な主婦と反対する家族との口論の中に。宗教について論議する無神論者の中に。見かけ上宗教的な儀式・設備においてよりも、見かけ上「外部」の人々のこれらの熱心さの中に、よほど色濃く宗教は存在しているかもしれない。だから、宗教についての「情報」収集も、かなりの広範囲に目配りして進めなければならない。

現代宗教を理解し、相対化し、評価した情報を、継続して提供するためには、広範囲の宗教的現象を包括的にとらえる、ある種の専門性が必要だ。その専門性を担う者には、宗教のイメージを大幅に拡張してもらわねばなるまい。宗教は問題行動を通してしか社会に影響を与えない存在であるという見方、そうした問題行動以外は注意を払う必要のない程度の存在であるという見方はまず克服されなければならない。また、宗教界を一枚岩としてその全体としての傾向や責任を追及する立場は、提供されている財やサービスの多様性を考えると、少々無理があるように思われる。また、たとえ無神論者を標榜する人物であっても、現代宗教について論じるに当たっては「完全なる外部」に立つのは難しいという認識に立たねばならない。なぜなら、論じる対象は彼／彼女にとって同時代人であり、彼／彼女の宗教観がいかにネガティブなものであったとしても、そのなにがしかを共有

しているはずだからだ。

それゆえ、宗教についての情報の内容も、警察的・予防的なものだけでなく、建設的な提言の要素も含むべきだ。文化遺産・社会倫理の保持という機能も担うる宗教団体に、進歩改善を行っていく意志があるとしたら、そのためには外部の第三者が社会諸領域と媒介することも重要になってくる。このような第三者はどのような専門性をもつべきか。次節では、「学術的妥当性」と「社会的要請」ととともに勘案し、宗教情報を収集・蓄積・提供するエージェントが検討される。

3 「宗教情報」の収集・蓄積・提供

3. 1 学術的妥当性をもった情報

混乱をさせようと思っているわけではないのだが、一般名詞でなく固有名詞としての「宗教情報センター」はすでに1994年から存在している。東京都下に本部を置く宗教法人・真如苑の「宗教情報センター」は新聞・雑誌の宗教記事をストックしていた。國學院大學の井上順孝教授が、宗教界から「センター構想」についての相談を受けた際、このデータベースを主な3つの活動内容のうちの1つの柱とすることにして、財団法人国際宗教研究所に所属する、宗教情報リサーチセンター（Religious Information Research Center、通称ラーク）が1998年11月に開設された。

開設の主旨はホームページ（<http://www.rirc.or.jp>）に掲載されている。「現代社会の宗教状況についての正確な情報を求める各分野からの要請に基づいて開設され、「宗教に関わる社会のさまざまな情報、また学術的な情報を収集し、学術的妥当性と社会的要請を考慮して、それらを整理・分析し」「その結果を現在の情報化時代に適した形で、広く一般に公開することを目的と」（強調葛西）するとある。「学術的妥当性」のみならず「社会的要請」も重んじられている点が、オウム真理教事件および宗教法人法改正の情勢を反映している。

宗教法人審議会の報告には「宗教に関する情報提供や苦情相談」を行う、「宗教関係者をはじめ、弁護士、宗教学者、心理学者、学識経験者など関係者が連携協力」して設置運営される「情報センター」が提案されていた。ただし苦情相談—「個人的な信仰上の悩みの相談など、カウンセリングに類すること、個々の宗教教団の教えや活動が、正しいか間違っているかという類の問い合わせへの回答」—は原則として行わず、代わりに伝統教団の有志僧侶が相談者となって開設している仏教情報センターや、日本弁護士連合会の消費者委員会などの相談窓口を紹介している。

宗教情報リサーチセンターの提供する「情報」の性格は、たとえば、「日本脱カルト研究会」（Japan De-Cult Council：<http://www.cnet-sc.ne.jp/jdcc/>）などと比較するとわかりやすい。この会は、宗教者、弁護士、心理学者・精神医学者、脱会者などが連携協力するネットワークであり、オウム真理教に入信した子供を持つ親たちが組織する「親の会」を母体に1995年11月に設立された。「破壊的カルト」に関する情報を共有し、カウンセリングの技術を研究し、さらに諸団体への働きかけを通して、被害をなくすという趣旨で集まっている。かなり実践的な行動が想定されているわけである。これに対して、宗教情報リサーチセンターにとっては、次項に述べる「教団情報データベース」によって「学術的妥当性」を基本におきながらの社会的要請への応答を考えられている。

3. 2 教団情報データベースと「新宗教研究」

宗教についての情報の収集はさまざまな観点で行われてきたが、その思想や実践に踏み込もうという取り組みは、学術的分野が開拓したものが大きかった。

文化庁が編纂する『宗教年鑑』には、文部科学大臣や都道府県知事の所轄となる包括宗教法人や単立宗教法人について、名称や代表役員、所在地や信者数などの宗教統計が掲載されている。また、仏教系、キリスト教系、神道系、「諸教」といった分類がなされている。だが、それらの教義、思想、実践についての情報は『宗教年鑑』からはほとんど得られない。一方、文化庁文化部宗務課が刊行している『宗務時報』には、宗教関係の公判例、宗教行政上のデータなどが掲載されているが、一般書店で手軽に入手できるものではない。両者ともに、個々の宗教についての具体的情報はわずかである。

多くの宗教が共存する日本の状況について、それを構成する諸教団についての情報を収集してきたのが「新宗

教研究」とよばれる分野であった。だがこの分野の研究者たちは、複数の教団の情報を持ち寄り集積し、理論化を模索する過程において、既成教団も含めた現代宗教全体の見取り図を描くことにも貢献してきた。日本において「新宗教研究」の担い手は、「新宗教」を特別なものとして扱うよりも、民俗宗教性を近代的理念と総合した日本の宗教状況を示す一事例として捉えていたとみる方が適切であろう。こうした研究者の多くは、結果として、「新宗教」研究専門家、あるいは特定新宗教教団研究の専門家というよりは、現代の宗教状況全般に広く関心を持つつつ、「新宗教」教団に限定されない特定のフィールドを見いだしては検討する、というスタイルを継続している。「新宗教研究」が背景としてもっている宗教情報のイメージとは、もともと「宗教関連トラブル」への対処などの（学問的見地からみると特殊な）社会的要請に応えるためのものではなく、「宗教」一般を研究し理解するための理論や事例の探求に資するべきものであったということだ。

たとえば、井上他編『新宗教事典』〔井上他 1990〕は、以下のような認識のもとに編集された。

……これまでの新宗教研究の現状を見ると、基本的資料やデータの収集、すなわち対象についての情報蓄積が、全体として意外に乏しいことが分かる。また、運動がどのようにして発生し、展開し、現在どのような活動を行っているかについての研究レベルは、教団ごとにかなりの偏りがある。教祖の生涯についてのきわめて詳細な事実まで明らかにされている教団もあれば、相当数の信者がいるにもかかわらず、その存在さえもほとんど知られていない教団もある。こうした情報の乏しさ、研究の偏りは、適切な新宗教像を描く上での妨げになる。〔井上他 1990：i–ii〕

『新宗教事典』においては、新宗教教団や道徳・倫理・修養団体について、所在地や電話番号などに加え、創始者および後継者、沿革、儀礼や修行などの実践、教義、教団組織や社会活動、分派や統合の系譜などの資料が収められている。「新宗教研究」の早期に8名の共著として刊行された『新宗教研究調査ハンドブック』〔井上他 1981〕と比較すると、『新宗教事典』は編者と執筆者をあわせて50名をこえ、多くの若手研究者が新宗教研究という分野に参与したことが伺われる。事典作成にあたって多くの執筆者が新たに実態調査を行い、現在進行しつつある現象をとらえるよう努力を払った旨が述べられている。ただし現在からみると「社会的要請」に応える部分に課題を残していたと言えるかもしれない。『事典』ではたとえば、1970年代においてすでに社会問題を引き起こす宗教とされていた統一教会の「靈感商法」についての言及は3ヵ所のみである。それらの言及が依拠する資料として示されているのは、日本弁護士連合会の刊行物やジャーナリストの批判書やマスコミの報道であり、宗教研究者の論文ではないという〔中牧 1998〕〔井上他 1990〕。『事典』に掲載の300余教団のデータは加筆・増補され、『新宗教教団・人物事典』〔井上他 1996〕として刊行された。

一方、宗教情報リサーチセンターのホームページには、371団体（2003年1月末日時点）の「教団情報データベース」がある。このデータベースは「学術的妥当性」を重視した上述の『ハンドブック』や『事典』のデータの流用ではなく、さらに「社会的要請」に応えるべく項目を再検討し、改めて諸教団に質問項目を送付し、回答協力と資料提供を求めたものである。たとえば、外部からの問い合わせ窓口、信者等の日常的な活動、教団の社会活動、入会手続きや会費、退会規定等、外部者が資料閲覧・購入をする方法などである¹⁾。

『事典』と宗教情報リサーチセンターの「宗教教団データベース」とを対比すると、以下のような点に気づく。

表1 「新宗教事典」における「学術的妥当性」重視と、宗教情報リサーチセンターにおける「社会的要請」の勘案

	「新宗教事典」	「宗教教団データベース」
項目設定	研究者。	研究者。
記述	研究者。	教団。
記述および項目の差	客観的な学術情報として理解・説明することに力点を置いた記述	左に加え、一般市民含む外部者に宗教活動を説明する必要性を強調。
相違の背景	日本人の10人に1人は新宗教会員であるので軽視はできないが、宗教に興味を持つ人は未だ少数派	一般市民含む外部者に「宗教活動という製品」の説明責任accountabilityが生じているという認識。
情報提供の窓口	研究者が、研究成果の発表を通して。	教団に直接、あるいはさまざまな外部団体を経由して。
情報の新しさ	調査・執筆時点の最新情報。	定期的に更新。

データの更新はもちろん重要だが、「社会的要請」を加味し、教団に対して「宗教活動という製品」に対して、きちんとケアをし、説明する責任が求められているという認識が加わっていることの意義が評価されるべきだろう。併せて、定められた項目の中でではあるものの、社会に対して教団自身が主張を述べることができるようになっている点に注意したい。棚村にみるような、管理運営についての情報を中心に開示させるやり方は、間違いなく不健全に運営されている団体を見つけるにはよくても、そうでなければ横並びになってしまう。むしろそこには語られない部分にオリジナリティの主張がある（あるとすれば）含まれるのだから、それらを語る機会は担保されるべきなのだ。それをふまえつつ、原則を模索して、必要な規制を加えるという手順を踏む必要がある。

3.3 宗教記事の通覧

「学術的妥当性」は研究者による吟味によって担保されている。これに対して、新聞や雑誌の記事はむしろ即時性に価値を見いだしているように感じられる。前節でみたような誤りや偏りもある。資料としてみると、記事は価値が一段低そうだが、実はそうとばかりも言えない。

「宗教情報センター」の宗教記事データベース以前にも、宗教記事の切り抜きをスクラップして提供する試みはあった。1986年10月より1996年5月まで刊行された、月刊『宗教情報』（すずき出版）である。主要新聞17紙の宗教・精神文化関連の報道記事をピックアップし、おおざっぱにカテゴリー分けをして、限られたスペースに詰め込んで貼られたものが刊行されていた。2ヶ月遅れで提供されていたこの月刊誌は、明らかに即時性を欠いている。にもかかわらず『宗教情報』は興味深い資料であり、その理由は、記事の価値をめぐる疑問への一つの答えとなる。『宗教情報』を通覧することで、この時代の人々が新聞を読みながら感じ考えたことを追体験することができるからだ。記事をマクロに鳥瞰することによって、地から図を浮かび上がらせることができるのである。この点は後に再考することになるだろう。

『宗教情報』と比較すると、「宗教記事データベース」におけるタイムラグは現在1、2週間まで縮まり、またデータの検索機能が提供されるメリットがある。記事現物にIDがつけられており、参照時にはそれをを利用して記事現物に当たることになる。現物があるゆえ、一般的な新聞記事電子データベースでは著作権の問題から収録されていない、書評や論説、投書も参照できるし、本文だけでなく見出しや記事の大小や写真・図版も確認できる（反復的に吟味されるべき論説などが、著作権の問題で「古新聞」の山にあつという間に埋もれてしまうのは本末転倒だが、現実はそうなっている。ここに記事現物保管の意味がある）。そして検索機能により、『宗教情報』では難しかった、特定の主題をめぐる報道の広がりを一気にとらえることができる。出来事の扱い方を、全国紙のみならず地方紙、雑誌、宗教専門誌などの複数媒体間で比較することも容易である。多様性と共通性、連続性と不連続性とを一望のものにみることができる。

検索は、自由語によるもののほか、藤田庄市²⁾の経験に基づいた以下のような分類が加えられている。この分類は、記事内容によるものと記事形式によるものが共存しており、論理的一貫性に欠けているように思われるかもしれない。だが実際の記事の執筆は、学術的な単一の参照点から、一貫した原則に則ってなされるのではない。むしろ執筆者の視点は、日本人による、日本人のための、日本の关心を反映して、揺れ動くのである。たとえば、海外の出来事は、政治的に重大な価値を持つか、あるいは日本人をも含めた国際社会の安全を揺るがすようなこと…遠方であっても読者の关心を引くこと…でないとなかなか記事にならない。日本の寺院で行われた法要については、特筆すべきそして共感しやすいテーマ（「米国同時多発テロ犠牲者供養」等々）なしでは書きにくい。宗教美術や建築はその歴史的意義を冷静に述べるとともに、美しさからの感情移入を促す記事になるだろう。以下の分類一つ一つは、それぞれ固有の執筆視点の存在を反映しているのである。

〈政治〉信教の自由、平和問題、人権・差別、政党・行政 〈経済〉宗教法人経営、墓地・葬儀、宗教関連産業
〈社会〉事件、信仰活動、習俗・慰靈・占い、ニューエイジ、社会活動 トピック、エコロジー、旅行・観光、論説・投書、調査・統計 〈天皇〉天皇・皇室・右翼 〈文化〉祭礼・伝統行事、学術・思想・教育・美術・建築・芸能・スポーツ・歴史・文化財・出版・文学・マスメディア・ニューメディア 〈科学〉医療・生命倫理・精神状況・科学・科学技術・超常現象 〈団体〉教団・連合体・団体・サークル 〈宗教施設〉神社・寺院・キリスト

分類があることにより、一つのカテゴリー内部の多様性を拾い上げたり、経時的変化をとらえたりできるという利点がまずある。出来事の記録を通時に俯瞰した利用例として、以下のようなものがある。藤田庄市は結婚式のためにチャペルや神社があらたに作られる動向について論じている [藤田 2001]。前川理子と井上まどかは、国内外の宗教界の動きについてまとめている [前川 2001] [井上 2001]。調査対象が過去に何らかの紛争に関わっている場合、それが記事になっていさえすれば事前に文脈情報を得ることができるだろう。ジャーナリストや弁護士が基礎資料として利用していることもうかがわれる [森 2000]。

もっとも、記事の通覧は、単なる出来事の俯瞰を超えた意義をもっている。すでにみたように、記事を読むことによってこの時代を追体験することができるのである。そこから記事データベースは新しい価値を帯びてくる。

3.4 一次資料としての記事

記事は二次資料ではあるが、一次資料としての側面ももちうる。現代世界においてジャーナリストや評論家や研究者は、発信者であり当事者であり重要な担い手である⁹。人々は身近でない宗教についての情報を、ジャーナリストの記事とその解釈を通してはじめて知る。「癒し」についての記事が「癒し」についての人々の関心をさらに増大させる。「マインド・コントロール」についての記事をたくさん見かけることで、この語を定着させる。報道の状況を直接的に把握する資料として用いられるのは当然である。たとえば石井研士はテレビで話題になった宗教関連事項を網羅的に把握しその傾向と問題性を指摘する試みを行っている [石井 2000ほか]。一方、一定期間の記事を通覧することで、その期間に記事にふれるものに近い体験を共有できる。すなわち、記事は一次資料としても利用されうるのである。

弓山達也はニフティサーブ（現アットニフティ）の新聞記事データベースを利用することで、日本におけるヒーリング・ブームの展開を追っている [弓山 1996]。あるいは、鈴木岩弓は雑誌の特集記事を40年分通覧することで、死についての書かれ方が抽象的で哲学的なものから具体的で個人にとって身近なものへと変遷してきたことを示している [鈴木 2001]。両者はこのデータベースを利用してはいないが、同様の視点から記事を利用している。

だが、データベースの特性をもっとも生かした研究として、以下で筆者自身の研究と櫻井義秀による「カルト」および「マインド・コントロール」の語の用例を時系列に沿って分析した成果 [櫻井 2000] について述べよう。両者は記事における作成性や誤用をも逆手にとってデータベースを生かすところまで踏み込んでいる。

筆者は、「スピリチュアリティ」という語を、論説・投書の分類とクロスさせて検索した。すると、論説などにはこの語が出てくるのだが、投書欄でこの語が用いられる事例は、データがある17年間について皆無といってよい。一部の医療関係者や心理学者や教育関係者、宗教者などはこの語を用いる（論説記事など）けれども、一般の人々の語彙としてはほとんど定着していないといえること、そしてそこから、「スピリチュアリティ」の語り手たちがある種確信犯的にこの語を普及させようとしていることを示した¹⁰。論説記事や投書欄の現物を参照できる利点も活用されている。

一方、櫻井は「カルト」および「マインド・コントロール」という語に注目、1990年から1999年までの「宗教記事データベース」でこれら二つの語を検索し、記事を通覧した。前者は宗教学上の含意、後者は洗脳論的含意をはるかに超えて、問題性をもった新宗教およびその勧誘活動一般にまで用いられるようになった。本来の語義からいえばそれは誤用なのだが、正確な語義および用法を強調するだけでなく、なぜこれらが拡張解釈されてこれほどまで人口に膚浅したのか——必ず理由がある——を分析することで、二つの語が現代日本社会において具体的なイメージを持って一般市民に認識されるようになった過程を明らかにできるはずだ。

「カルト」および「マインド・コントロール」の語はしばしばセットで用いられているが、両概念が実は普及過程においてずれがあること、しかしども1995年の地下鉄サリン事件以後急速に用例が増え、現在の用法が固まったことを示している。「マインド・コントロール」の語は統一教会の行ったような情報操作的勧誘技術を指示していたが、オウム真理教の行ったような薬物や監禁による心理操作も含むようになり、さらに教団組織による犯罪

について情状酌量の余地を主張するためにも用いられるようになった。結果的に、地下鉄サリン事件がもたらした宗教に対する違和感・不信感によって、二つの語の用法に大きな変化が生じたことを、彼は明らかにしている。

3.5 学際的専門性と総合的関心

データベースをめぐる状況は日進月歩である。

学術情報も今や紙媒体よりも電子媒体、それもCD-ROMのような固定的な媒体ではなく、常時更新を重ねるネットワークでの提供が増えている。どこでも接続可能なネットワーク経由という利便性に加え、媒体を意識せずに、学際的に専門分野諸領域を横断して「串刺し」検索できる。しかも、データベースに接続して入手したデータ量に応じて課金される従量制から、主流はデータ接続の利便性そのものを買うという定額制、あるいはwebでの無料公開によって広く社会に寄与するデータベースが増えている。

たとえば、国会図書館からかつて冊子体にて提供されていた学術雑誌の書誌情報J-BISC（1975年以降）は、CD-ROMという電子媒体を経て、2002年10月より同図書館の関西館からwebで提供（<http://www.ndl.go.jp/>）された【国立国会図書館 2001】。大学図書館等でしか参照できなかったデータが自宅から確認できる。たとえばこれで「スピリチュアリティ」あるいは「spirituality」のいずれかをキーワードに含む日本語の論文を検索すれば、40を越える論文があげられ、その中には神学や仏教学のみならず、医療関係の研究なども含まれる。

今や当たり前となった重要なデータベースとして、大学図書館の相互貸借（ILL: Inter-Library Loan）を格段に使いやすくした国立情報学研究所（旧学術情報センター）のWebCatおよびWebCatPlus（連想検索が可能）が挙げられよう。書籍資料の所在情報が、北は北海道から南は沖縄まで、自宅からの接続も可能になった。学生や卒業生にのみ利用が限定されていた大学図書館が、近年になって、制限付きだが地域住民に門戸を開くようになっていることとあわせ、学術情報への敷居は低くなっている。

一方、専門分野のデータベースも学際性や網羅性を強めている。たとえば、アメリカ心理学会（American Psychological Association）が提供するPsycINFO（旧Psychological Abstract）は広範囲の心理学（的）論文・記事を追尾し、引用と要旨を検索できる巨大なオンラインデータベースである。医学、精神医学、看護学、社会学、教育学、薬理学、生理学、言語学、人類学、ビジネス、法学等の諸分野について1887年（！）から現在まで、25以上の言語で書かれた1300以上の定期刊行物を渉猟している。また、1987年からは書籍やその章までもフォローしている。毎週追加データが配信され、定期的にそれを加えて更新される結果、毎年55000件以上のデータが加わることになる。このような大事業は、様々な助成を期待できる巨大会において初めて可能になることかもしれないが、それにしても大変な規模と網羅性である。これにしても、（株）ジー・サーチ（<http://database.g-search.or.jp/>）などを通じて、有料だがどこからでもアクセスすることが可能である。

最近ではアメリカ宗教学会American Academy of Religionが、ジャーナリストのための宗教情報リソース集ReligionSource（<http://www.religionsource.org/>）を開設した。これは2001年9月11日の米国同時多発テロ以後、宗教についての情報が求められている状況に応えようとしたもので、1400の事項について5000のリソースや人物へとジャーナリストを導くようになっている【AAR 2003】。

このようなデータベースでは、まったく媒体や専門分野を意識しないまま単語（所定のキーワードか自由語）だけで検索を行い、文献についての書誌情報を得ることができる。だが検索を適切に絞り込むためにも、総合的かつ専門的な知識がもとめられる。学際的な検索と活用にはこれまで以上の専門性が必要なはずだ。その部分は専門家がいない、ネットワーク的な連携によって多方面展開をはかっていくべき時代が来ている。

4 「宗教情報」の展開

ネットワーク的な連携と、専門性の確保のためには、拠点が必要だ。そのためには、研究機関が長期的に情報を収集・蓄積・展開しうるかどうかが問題だ。大学（大学院）は教育機関でもあり、関心を持つ教官と学生がいなければ資料があっても死蔵されるし、まして重要分野でも予算が割り当てられないこともある（学術誌購読打ち切りなど）。国立大学の経営合理化をめぐっての昨今の議論もあり、大学所属の研究センター等も予算的に厳しい状況に追い込まれている。一定の分野に先鋭化し、相互参照・相互貸借のネットワークを気づいていくことが、

それぞれの拠点を維持していくためにも求められてくるだろう。

諸外国の拠点も厳しい状況におかれている。イギリスでEileen Barkerが主宰する情報提供機関INFORM (Information Network Focus on Religious Movements : <http://www.inform.ac/>) では、研究員が献身的に電話相談も行っているが、物理的限界がある。欧米の機関の多くは、研究者の単なる連携にとどまり、代表者や連絡先さえ確定していないものや、研究者が自らのオフィスと兼用で連絡先としている例もある。イタリアのCESNUR (<http://www.cesnur.org/>) のように専用の事務所があるのはかなり恵まれた環境である。フランスやベルギーのような政府立の宗教審査機関もあるが、多くはボランティア的に作られたものであり、必然的に扱い手の要望が反映されるかたちとなる。たとえばAFF (American Family Foundation : <http://www.csj.org/index.html>) は、「破壊的カルト」からの家族の保護を目的とする「反カルト団体」の一つで、その目的に焦点を当てた活発な情報提供を行っていることが、翻ってAFFの存在意義を高めている⁵⁾。

拠点の確保という観点からみると、本章でいくつか挙げたデータベースが参照できる点で、日本の状況は一步先をいっているとみることができると思うが、それらを広く展開するにはまだ至っていない。日本における情報拠点間のネットワークも密接ではないために、情報を保管・整理するルールが確立しておらず、誤った情報への抗議や訂正にも不便をともなう。

どうすれば宗教という経験知をわれわれの共有財産として活用できるか。そのためには、宗教についての情報を誰のために用意するのかという視点が必要である。弁護士やジャーナリストや研究者などの、比較的「外部」に近い存在のためだけではなく、内部の当事者（宗教者）にとって必要な情報を個別的に適用するという視点はこれまであまりなかったのではないだろうか⁶⁾。

たとえば、特定宗教を一枚岩的にとらえて、〇〇教の人はこうだ、と断定する立場からは見失われるものがある。個々の当事者が、当該宗教の思想を当該文化の民俗的な志向性や、自身のもつている性格と折り合わせて、抵抗も覚えつつそれぞれ自らのものとしていく過程（たとえば樫尾直樹のいう「交渉＝専用negotiation-appropriation」）に光を当てていくような、当事者性、個別性を拾い上げる研究の蓄積が、必要とされているのではないだろうか。

個別性のレベルはさまざまである。宗教は金持ち、という巷間のイメージに反して、大半の宗教団体（社寺や教会）は零細企業にたとえられるような規模しかない。たとえば宗教法人の課税・非課税の問題はこれらを考慮に入れなければならないだろう。この事実は「宗教年鑑」等で簡単に確認できるはずだが、大新聞の宗教記者にも十分に認識されていないことが少なくないようだ。

情報拠点をめぐるネットワークを機能させるためには、ネットワークを形成する各要素がそれぞれ専門性を發揮しなければならない。その場合、ネットワークには、さまざまな専門家や研究機関だけでなく、当事者としての宗教団体も含めていく必要があると筆者は考えている。ここで研究者と宗教教団の責任は特に重い。中立を志向してきた研究者でさえ、「社会的要請」に応えることから目をそらすことはできなくなってきた。ましてや当事者である宗教教団が社会的要請を無視するわけにはいくまい。各教団固有の方法を通しての文化遺産・社会倫理の保持に貢献しつつ、外部との対話や理解の努力を重ねなければならない。対話や理解の努力とは、教団のトップによるプレゼンテーションではなく、平信徒のレベルにおいて、特に布教の現場が本来もっていた他者との「対話」の可能性を開くことである。宗教についての動的な情報——箇条書きのリストなどではとても表現できないような、「厚い」記述を要する情報が、そこには存在しているはずである。「宗教情報」がデータベースという静的な枠に収まらないことを身をもって示すのは、最前線にある当事者の役割なのだ。

優れた研究機関が活動を継続していれば情報を探すにも便利なはずだ。石井研士が指摘しているように、正確な情報を踏まえていないジャーナリストや、偏った情報を流すメディアに対し、公器としての責任を問うていく拠点ともなる。

もちろん、宗教情報センターもその一助となることを願っている。

*本章の執筆に当たって、玉木奈々子（宗教情報センター）作成の資料を利用させていただいた。また、石井研士氏、井上順孝氏、稻場圭信氏、櫻井義秀氏、藤田庄市氏から多くの示唆を受けている。

参考文献

- AAR 2003 "A message from the executive director," Religious Studies News, January 2003, American Academy of Religion.
- 石井研士 2001 「現代宗教 用語の解説」「現代用語の基礎知識2001」自由国民社。
- 井上まどか 2001 「宗教復興と人権をめぐる世界の潮流」、国際宗教研究所編「現代宗教二〇〇一」東京堂出版、240-258。
- 井上順孝 1992 「宗教研究と『出会い型調査』」「宗教研究」292号、149-174頁。
- 井上順孝・孝本 貢・塩谷政憲・島薗 進・対馬路人・西山 茂・吉原和男・渡辺雅子共著 1981 「新宗教研究調査ハンドブック」雄山閣。
- 井上順孝・孝本 貢・対馬路人・中牧弘允・西山 茂編 1990 「新宗教事典」弘文堂。
- 井上順孝・孝本 貢・対馬路人・中牧弘允・西山 茂編 1996 「新宗教教団・人物事典」弘文堂。
- 稻場圭信 2001 「イギリスの新宗教と社会」「現代宗教2001」、国際宗教研究所、東京堂出版。
- 樋尾直樹 1999 「宗教的接続可能性の基礎概念—新宗教の『民俗性』に関する宗教民俗学の一考察」、宮家準編『民俗宗教の地平』、春秋社。
- 葛西賢太 1998 「『精神世界』を支持する〈ゆるやかな共同性〉」「宗教と社会」4、「宗教と社会」学会。
- 金子郁容 1992 「ボランティア：もう一つの情報社会」岩波新書。
- 国際宗教研究所 「国際宗教研究所ニュースレター」
- 国際宗教研究所宗教情報リサーチセンター 「ラーカだより」
- 国立国会図書館 2001 「平成14年度以降における国立国会図書館の一般利用者サービスについて」「国立国会図書館月報」
国立国会図書館、487号、2001年10月。
- 樋尾直樹 2001 「カルト人類学の視座：日仏比較カルト/セクト論」「自由と正義」52号、88-101頁。
- 櫻井義秀 2000 「日本のマスメディアにおける『カルト』『マインド・コントロール』用例の時系列分析：1990年から1999年まで」櫻井義秀編の科学研究費研究成果報告書「教団研究の今日的課題」pp.68-88。
- 櫻井義秀 2001 「『カルト』調査研究の課題」「宗教と社会」学会2001年度ワークショップ発表原稿。
- 鈴木岩弓 2001 「雑誌の死の特集記事」日本宗教学会大会発表。
- 中牧弘允 1998 「解説」、藤田庄市写真・文「神さま仏さま：現代宗教の考現学」アспект。
- 藤田庄市 1998 「神さま仏さま：現代宗教の考現学」アспект。
- 藤田庄市 2001 「ウェディングチャペルとイベント神社」「Satya (サティア)」43、2001年夏季号、東洋大学井上円了記念
学術センター。
- 前川理子 2001 「二一世紀を迎える日本社会と宗教：生命倫理から高度情報化とのかわりまで」、国際宗教研究所編「現代宗教二〇〇一」東京堂出版、230-239。
- 村上興匡 1997 「英仏における宗教団体についての行政制度：いわゆる『セクト』対策を中心に」「宗務時報」文化庁文化
部宗務課99、1-16。
- 森 葉月 2000 「研究員のつぶやき……」「ラーカ便り」6、国際宗教研究所宗教情報リサーチセンター、2000年4月。
- 仏教情報センター：http://www2u.biglobe.ne.jp/~bukkyo/top_page/index.html
- 山口 広 2001 「『宗教』被害の救済の現状と日弁連『判断基準』」「自由と正義」52号、74-87頁。
- 弓山達也 1996 「日本におけるヒーリング・ブームの展開」「宗教研究」308、70 (1)。

注

- 各教団には、機関誌や書籍、視聴覚資料、教団規則などの資料の寄贈・継続的更新を要請するとともに、センター会員への閲覧可否をあわせ確認している。
- 宗教フォトジャーナリストの藤田は、国際宗教研究所の委託業務（1987年9月～1989年10月）として、また個人的に（1989年11月～1997年8月）記事を収集していた。媒体は、全国紙の東京本社版と地方版、地方紙、雑誌に加えて、宗教専門紙（新宗教新聞、神社新報、キリスト新聞、カトリック新聞、仏教タイムス、文化時報、祭典新聞）である。また宗教情報センター独自の収集（1990年11月～1999年1月）は、全国紙・東京本社版／地方版、地方紙、雑誌についてであり、この時期は宗教専門紙は含まれていない。
- 筆者はこの観点から、「宗教と社会」学会の企画で、ゲストとして産経新聞の記者をパネルに招いたワークショップを行っている。「宗教と社会」学会第4回学術大会（1997年6月）ワークショップ「精神世界の構図——現代人と現代社会を理解する手がかりとして」。抄録は「宗教と社会」別冊、「宗教と社会」学会、1998年6月、所収。
- 葛西賢太「『いのち』はいかに表象してきたか—現代の事例と概念」日本宗教学会第61回学術大会、2002年9月。また、同「日本人は『生命』と『靈性』をどうとらえているか」、上越教育大学徳丸定子助教授主催のいのち教育研修講座、2002年8月。

- 5) これら諸機関についての情報は、2001年4月にINFORMとCESNUR主催で行われた国際学会で配布された、各機関による資料と見学・関係者への聞き取りによるものである。
- 6) 個別の当事者に情報を提供する、という視点から対話の可能性が開けるはずだ。たとえば日本弁護士連合会の出した、「反社会的な宗教活動等による人権侵害についての判断基準（反社会的宗教活動などがもたらす消費者問題や人権侵害についての判断をする基準）」については、「不安などを極度にあおって精神混乱をもたらす」勧誘などを取り上げ、多くの宗教関係者から「宗教活動を理解していない」等の強い反発を受けたが、個々の信仰者が考えるべき社会常識としては当然至極のこと、熱心さのあまり踏み出してはならない一線という情報を提供したものともみることができよう。弁護士が連合して対処すべき「反社会的な団体」がある一方で、彼らが個別の当事者に当たっての経験を、個別の宗教者が情報として役立てることができることがある。この二つを混同したことが対話を難しくした一面があるのでないだろうか。

電子ネットワーク利用と宗教観、価値観、体験談交換に関する調査 解題

田 村 貴 紀

1 問題意識

電子メールや掲示板などを使って、日常的に相談行為や意見交換がされるようになった。心理カウンセラーたちも電子メールを使ったオンライン・カウンセリング（メール・カウンセリング）を始めている。日本ではつい数年前までオンライン・カウンセリングという言葉やメールによるカウンセリングは、一般にはなじみがないものであった。しかし今日では、検索ホームページgoogleでメール・カウンセリングを検索すると、平成15年1月31日現在124,000件のヒットがある。平成14年10月現在では、3,740件のヒットだったので約4ヶ月間で40倍に増えている。検索ホームページのヒット数は、一応の目安でしかないが、人々の目に触れる事が多くなっていると言えるだろう。既に日本オンライン・カウンセリング協会¹⁾という団体も設立されている。

宗教教団のホームページなどでも、掲示板を設置して意見交換をしたりメールによって相談をしたりすることは一般的になっている。そしてそこから、時には実際に教団を訪れて入信に至るというケースもある。宗教教団の電子ネットワークを代表とする電子ネットワーク利用の中で、これらの相談行為や意見交換は最も重要な事柄の一つであるといえよう。

川端らは金光教尼崎教会（兵庫県尼崎市）の教師が行っているインターネットを使った取次（とりつき）の例を報告している。尼崎教会の教師津田昇平は、1999年に『若先生の箱庭一心の安らぎを求めて—』を公開し、開設から2002年4月現在で2年半が経過した。これまでのアクセス数は7万5千以上で、現在では多い日に、1日に200近いアクセスがある。ホームページには、一般的な相談の窓口である〈相談室〉というコーナーと、困難に苦しんでいる人々に神からの神意を伝える取次を行う〈お取次〉のコーナーがある。〈相談室〉で受けた相談者は300人ほど、〈お取次〉は、400～500人ぐらいという [川端・兼子 2002: 149, 167]。

このような電子ネットワーク上の相談行為や意見交換についての分析は、もっぱら書かれたテキストを読むことやインタビューによって研究されている。

宗教に関連した研究でいえば、スティーブン・オーリアリー [O'Leary 1996] は、オング主義²⁾を援用して、メディアによる感覚変容を中心として、オンライン上のニューエイジの儀式を分析した。そしてカトリック的な言葉とシンボルの再統合がCMC³⁾上でなされるのではないか、という仮説をたてた。シュローダー [Schroeder 1998] は、MUD（電子ネットワーク上のロールプレイゲームのようなもの）上で行われるキリスト教礼拝の内容を分析し、既存の教会から持ち込まれたものが何であるかを考察した。オーリアリーは、言葉のシンボル性に注目し、シュローダーは、テキストの内容ではなく、構造に着目して分析し、関係性の構造を描写しようとしている。

これらの作業は、テキストを注意深く読み解釈することに依存している。これは、十分な意義があり、そこから理解できることも大きい。しかし、このような方法では、わからないこともいくつかある。

ひとつは、質的研究であるがゆえに、電子ネットワーク・ユーザー全体の中で、取り上げている事例が、どの程度の範囲をカバーするものなのか不明瞭であるということだった。そうであると電子ネットワークを論じる時に、全面的に肯定的な議論や全面的に否定的な議論とが起こりやすい。例えばクリフォード・ストール [ストール 1997] やキンバリー・ヤング [ヤング 1998] は、「インターネット」の精神に与える害を強調する。しかし電子ネットワークのメディア技術的特性によって、コミュニケーション内容がすべて規定されることは、ありえないことだろう。実態の詳細を見れば、そこには一定の範囲と限界があると考える。

もうひとつは、上記のように書き手が構成する電子ネットワークだけを分析しても、読み手も含めた電子ネットワーク・ユーザーが持つ、電子ネットワーク上に書かれた以外の思想や価値観について知ることが難しいという点である。近年、従来あったような、電子ネットワークと物理的な世界との関係を二つに切り分けて違う世界であると考えるような電子ネットワーク観は批判されるようになってきた [Miller 2000: 4-5]。当初は、電子ネ

ットワークが作り出す独特的な世界が物理的な現実と世界にどのような影響を与えるのか、という問題意識があった。しかし研究者の視点が変化すると同時に、電子ネットワークが普及する中で、利用者の層も変わったという双方の変化があつただろう。今日ではむしろ物理的な世界での価値観や思想がどのように電子ネットワークの利用に影響しているのかを問う必要がある。

このような問題点を克服して、利用の実態を理解するためにはアンケート調査が有効であると考えた。

2 調査概要

調査は、筑波大学仲田誠助教授を中心とする共同研究で行った（以下仲田調査）。インターネット・ユーザーを対象に、調査会社のパネルを対象にウェブサイト上の質問用紙（付録参照）に返答してもらうオンライン調査を行った。

無作為抽出によって非ユーザーを含む標本を抽出し調査をすることが望ましい。しかし、資金的な事情に加えて、インターネット・ユーザーの価値観について多数の質問をするためには、インターネット・ユーザーのみを対象にすることが効率的であると考えて、対象・方法を設定した。対象は、インターネット・ユーザーの中心である25歳から44歳にしづり、できるだけ無作為抽出の調査に近づけるために、橋元らの報告書【橋元他、2002 以下橋元調査】が示しているインターネット・ユーザー人口分布に沿うような対象を選ぶ割り当て法で行った。調査の結果569件の回答を得た。調査期間は平成14年7月26日（金）～28日（日）である。

割り当て法は、無作為抽出調査の過去の数値とデモグラフィックな条件においてできるだけ近似的になるようにし、ある程度の妥当性を得ようとするものである。そこで、参考にした橋元調査とのデータの比較について述べよう。比較の対象となるのは、橋元調査内のインターネット・ユーザーである。

性別、年齢に関しては規準にしたので同じである。収入に関しては、殆ど差がない（図1）。

学歴に関しても短大（橋元 21%→仲田 21%）、大学・大学院（橋元 34%→仲田 37%）とほぼ同じである。職種にはやや差がある。会社役員が多く（橋元 4.3%→仲田 11.2%）、管理職が少ない（橋元 12.2%→仲田 3.4%）。

インターネット利用時間は正確な比較がしにくい数字の取り方になっているが、橋元調査の週平均5時間23分に対して、仲田調査では週10時間以上の利用者が75%いる。利用回線は、ADSL、CATVの利用において仲田調査の方が圧倒的に多い（ADSL 4.2%→41.5% CATV 7.2%→18.8%）。回線種類から考えても利用の強度は仲田調査の対象の方が強いといえるだろう。

これらの数字を見る限り、全般的な回答者の属性は二つの調査の間に大きな差はないと考えられる。

最後に、回答者像を理解するために、メディア利用について付言しておく。「世の中のできごとや動きについて

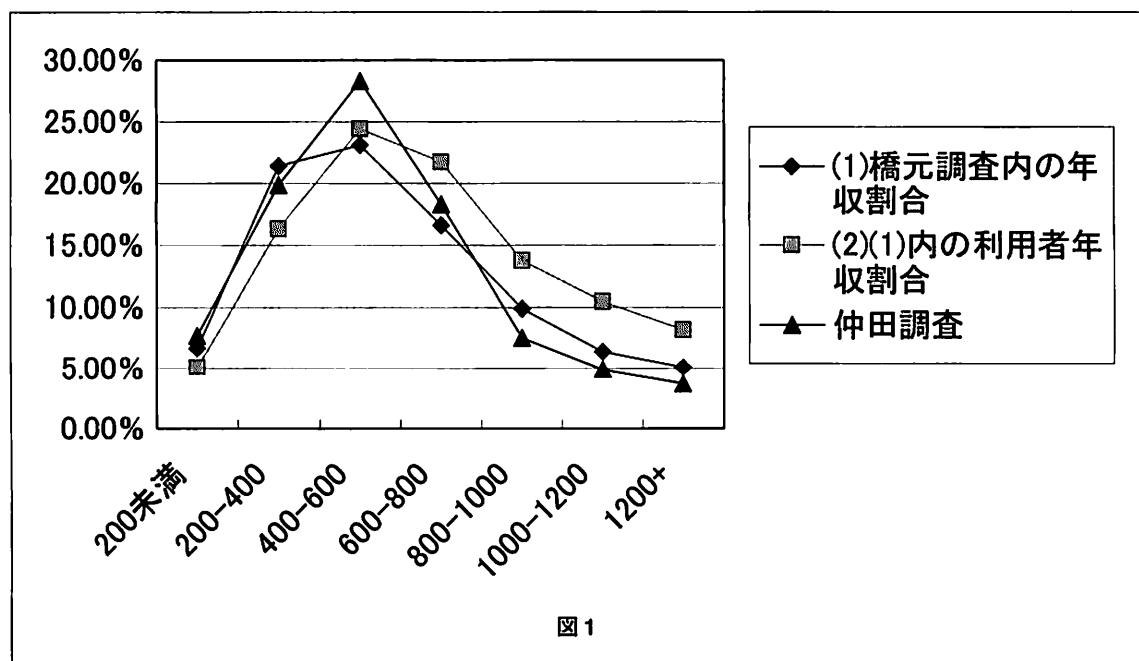


図1

信頼できる情報を得る」メディアとして、インターネットへの信頼度も高い（28.5%）がテレビ（39.2%）、新聞（29.3%）インターネットが情報源として共存している。また、情報源として家族や友人との会話もある程度重視されていて（非常に重要 17.0%、まあ重要 45.5%）、本、ラジオ、雑誌よりも高い。つまり、ある程度の強度のインターネット・ユーザーであるが、過度にインターネット利用に特化するのではなく、テレビ、新聞、インターネット、口コミが共存しているようなメディア環境の中で生活している人々だといえる。

3 調査結果

3.1 信仰と靈魂観

自覚的に現在信仰を持っていると答えた人は、10.5%だが、信仰は持っていないが宗教には関心があるという人は、16.2%いる。現在信仰を持っている人が10%程度というのは、一般の宗教調査の数値が30%前後であるのと比べると低いといえるだろう。例えば読売新聞社の調査によると「あなたは何か信仰を持っていますか？」という答えに「信じている」という答えは21.5%であった【読売新聞 2002：376】。しかしそうではあってもインターネット・ユーザーのうち両方合わせると26.7%の人が宗教に関心を持っているといえる（表1）。

表1 Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。

	度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 現在、信仰をもっている	60	10.5	10.5	10.5
2 信仰はもっていないが、宗教には関心がある	92	16.2	16.2	26.7
3 信仰はもっていないし、宗教にも関心がない	417	73.3	73.3	100.0
合 計	569	100.0	100.0	

一方で、人間の心の仕組みも科学の進歩によって明らかになると答えた人が約9%、科学がどんなに発達しても宗教は人間に必要だと答えた人が約10%であるのに対して、「人間には魂があり、肉体の死後も魂が生き続ける」というような考えは、60%程度の人が賛同している。

表2 Q35_2 (2) 人間には魂があり、肉体の死後も魂が生き続ける

	度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 信じる	93	16.3	16.3	16.3
2 あり得る	233	40.9	40.9	57.3
3 あまり信じない	179	31.5	31.5	88.8
4 否定する	64	11.2	11.2	100.0
合 計	569	100.0	100.0	

価値観などに関する全体的傾向性を見るために、信仰、靈魂観、道徳などに関する諸項目を因子分析した。その結果、9つの因子群が抽出された（表3 寄与率約43%）。第一因子（寄与率約11%）は、「人間には魂があり、肉体の死後も魂が生き続ける（成分負荷0.83）」など靈魂観と関係がある。同等の寄与率をもつ第2因子は、「今の日本は物質的な豊かさばかりを追及しすぎる（成分負荷0.72）」など物質主義批判と関係がある。このように、全体的な傾向性としても、靈魂に関する観念が重要な位置を占めているといえる。

表3

回転後の因子行列

	因子								
	1 靈魂	2 物質主義批判	3 因果応報	4 自己本位	5 不可知論	6 自力本願	7 信念	8 無力感	9 宗教
Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。	0.176	0.053	0.102	-0.001	0.023	-0.072	0.037	0.020	0.340
Q35_7 (7) 前世の生き様が現世に反映している	0.775	0.107	0.145	0.016	-0.059	0.116	-0.031	-0.009	0.001
Q35_6 (6) 生前の行いに関係なく、人は死んだら皆天国へ行く	0.331	-0.023	0.181	0.017	-0.051	0.036	-0.065	0.129	-0.226
Q35_5 (5) 人の為に尽くした人は天国へ行き、自己中心的に人を害した人は地獄へ行く	0.504	0.126	0.226	-0.018	-0.068	0.114	-0.009	0.048	0.006
Q35_4 (4) 生まれ変わりがある	0.790	0.124	0.075	-0.009	0.142	0.008	0.034	-0.005	0.013
Q35_3 (3) 人間は死んだら、本人にとっては一切が消滅し何も残らない	-0.478	0.060	-0.077	0.059	-0.047	0.170	0.027	0.039	-0.225
Q35_2 (2) 人間には魂があり、肉体の死後も魂が生き続ける	0.830	0.130	0.052	0.062	0.252	-0.129	0.070	-0.053	0.131
Q35_1 (1) 普通の人には感じられないが、人生に影響を与える靈的存在というものがある	0.640	0.122	-0.010	0.038	0.338	-0.085	0.094	-0.031	0.023
Q34_9 (9) 自分の欲望にできるだけ忠実に生きるのが本当に人間的な生き方だ	0.052	-0.030	0.005	0.585	0.080	0.136	0.057	0.130	-0.141
Q34_8 (8) 人は世間の目など気にせず、好きな人生を送るのがよい	-0.048	0.107	-0.001	0.827	0.015	0.054	0.081	-0.046	0.132
Q34_7 (7) 自分のことだけ考えて人生を送っている人は人間として成長できない	0.111	0.273	0.389	-0.097	0.021	-0.162	0.214	-0.080	-0.115
Q34_6 (6) 一生懸命に働きけば必ず成功する	0.213	0.028	0.530	0.126	-0.141	-0.114	0.197	0.014	-0.047
Q34_5 (5) 少少波風がたっても、それを恐れていては何もできない、多少の反対があっても良いことは断固実行すべきだ	0.018	0.135	0.111	0.177	0.138	-0.028	0.453	-0.051	0.022
Q34_4 (4) 精神的に充実した生活と経済的に豊かな生活とでは経済的に豊かな生活の方がよい	0.056	0.037	-0.056	0.019	0.034	0.372	0.065	0.097	-0.126
Q34_3 (3) ものごとに妥協するのは最もよくない、自分の信念はできる限りつらぬくよう努力すべきだ	0.009	0.088	0.209	0.043	0.006	0.218	0.551	0.017	-0.009
Q34_2 (2) 人生というものは結局ひとりぼっちのものだから他人を頼らず自分で頑張るしかない	-0.136	0.163	-0.084	0.141	-0.039	0.651	0.010	-0.096	0.087
Q34_1 (1) リーダーになって苦労するよりはのんきに人に従っているほうが気楽でよい	0.029	0.123	-0.025	0.139	0.094	0.312	-0.346	-0.060	-0.179
Q33_9 (9) 今の世の中では一人一人の人間はあまりにも無力である	-0.003	0.462	-0.044	0.132	0.088	0.045	-0.021	0.499	-0.014
Q33_8 (8) 今の日本には自己中心的な人間が多すぎる	0.004	0.555	0.062	-0.023	0.158	0.066	0.022	0.079	0.123
Q33_7 (7) 世の中には科学で説明できないことも数多くある	0.257	0.280	0.085	0.080	0.537	-0.019	0.166	0.043	0.031
Q33_6 (6) 人間には何らかのかたちで運命というものがある	0.259	0.197	0.180	0.036	0.357	0.173	0.048	0.056	0.108
Q33_5 (5) 今の日本は物質的な豊かさばかりを追及しすぎる	0.096	0.719	0.100	-0.051	0.018	0.067	0.084	-0.175	0.055
Q33_4 (4) 節約という美德を日本人はもう一度思い起こすべきだ	0.097	0.531	0.184	-0.070	0.024	0.059	0.052	-0.276	-0.060
Q33_3 (3) 人間は豊かになりすぎると堕落しがちなものだ	0.044	0.638	0.091	-0.003	0.098	-0.001	0.143	-0.054	-0.107
Q33_2 (2) 現代生活の中で人間はあまりにも自然からはなれ過ぎてしまっている	0.123	0.576	0.003	0.014	0.080	0.000	-0.003	0.085	-0.039
Q33_13 (13) 現代人は忙すぎたり人間関係に悩んだりするので心の癒し(いやし)が必要だ	0.077	0.279	0.250	0.121	0.314	0.006	-0.121	0.018	-0.089
Q33_12 (12) ずることや不正なことをして利益を得てもいつかは代償を払うことになる	0.126	0.121	0.683	-0.023	0.282	-0.021	0.048	-0.069	0.080
Q33_11 (11) 人のために尽くせばいつかは自分にプラスとなって返ってくるものだ	0.163	-0.003	0.665	-0.042	0.104	-0.035	0.119	0.015	0.184
Q33_10 (10) 今の世の中が明るく楽しそうに見えるのは表面的な部分だけである	0.018	0.580	-0.020	0.088	0.077	0.110	0.084	0.260	0.093
Q33_1 (1) 今の人類の文明はいろいろな点で行き詰まっている	0.103	0.519	-0.023	0.147	-0.001	0.089	-0.065	0.112	0.050

因子抽出法：主因子法・回転法：Kaiserの正規化を伴うバリマックス法

a

9回の反復で回転が収束しました。

そしてこの表を見て気づくことは靈魂に関する第一因子の中で、信仰や道徳などに関する項目の成分負荷が低いことである。「あなたは宗教にどの程度関心がありますか?」という信仰に関する項目や「今の日本は物質的な豊かさばかりを追及しすぎる」という物質主義批判、あるいは、「ずるいことや不正なことをして利益を得てもいつかは代償を払うことになる」という因果応報的道徳観の項目はいずれも成分負荷が0.2に満たない。

ただし、各因子の寄与率が11%程度とあまり高くはないので、説明しきれない分散がある。信仰と靈魂観の代表的な項目に関してクロス表を作つて分析した。

まず、「あなたは宗教にどの程度関心がありますか?」という項目と「人間には魂があり、肉体の死後も魂が生き続ける」のクロス表を作つた(表4)。カイ二乗検定をすると、「現在、信仰をもっている」群は、死後の魂を信じる割合が高い。また、同様に信仰に関する項目と「生まれ変わりがある」の項目とのクロス表を作ると(表5)、生まれ変わりがあることを信じる割合が高い。

表4 クロス表

		Q35_2 (2) 人間には魂があり、肉体の死後も魂が生き続ける				合計	
		1 倍じる	2 あり得る	3 あまり信じない	4 否定する		
Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。	1 現在、信仰をもっている	度数 Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。の%	24 40.0%	21 35.0%	13 21.7%	2 3.3%	60 100.0%
	2 信仰はもっていないが、宗教には関心がある	度数 Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。の%	19 20.7%	46 50.0%	17 18.5%	10 10.9%	92 100.0%
	3 信仰はもっていないし、宗教にも関心がない	度数 Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。の%	50 12.0%	166 39.8%	149 35.7%	52 12.5%	417 100.0%
合計		度数 Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。の%	93 16.3%	233 40.9%	179 31.5%	64 11.2%	569 100.0%

(p<0.05, Spearmanの相関 0.222)

表5 クロス表

		Q35_4 (4) 生まれ変わりがある				合計	
		1 倍じる	2 あり得る	3 あまり信じない	4 否定する		
Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。	1 現在、信仰をもっている	度数 Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。の%	19 31.7%	26 43.3%	8 13.3%	7 11.7%	60 100.0%
	2 信仰はもっていないが、宗教には関心がある	度数 Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。の%	19 20.7%	51 55.4%	12 13.0%	10 10.9%	92 100.0%
	3 信仰はもっていないし、宗教にも関心がない	度数 Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。の%	68 16.3%	171 41.0%	138 33.1%	40 9.6%	417 100.0%
合計		度数 Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。の%	106 18.6%	248 43.6%	158 27.8%	57 10.0%	569 100.0%

(p<0.05, Spearmanの相関 0.148)

しかしいずれの場合も「あり得る」という回答に関しては他と変わらないか、場合によっては低い。Spearmanの相関も0.2程度であって高くない。比較のために、靈魂に関する因子の中の代表的なものをクロス表にして分析すると、観測値の偏りも大きく、Spearmanの相関も0.685と高い。これと比較すれば信仰と靈魂観については強い相関関係があるとは言えない（表6）。

表6 クロス表

		Q35_4 (4) 生まれ変わりがある				合 計	
		1 倍じる	2 あり得る	3 あまり信じない	4 否定する		
Q35-2 (2) 人間には魂があり、肉体の死後も魂が生き続ける	1 倍じる	度数 Q35-2 (2) 人間には魂があり、肉体の死後も魂が生き続ける の%	65 69.9%	18 19.4%	4 4.3%	6 6.5%	93 100.0%
	2 あり得る	度数 Q35-2 (2) 人間には魂があり、肉体の死後も魂が生き続ける の%	34 14.6%	170 73.0%	28 12.0%	1 0.4%	233 100.0%
	3 あまり信じない	度数 Q35-2 (2) 人間には魂があり、肉体の死後も魂が生き続ける の%	6 3.4%	56 31.3%	114 63.7%	3 1.7%	179 100.0%
	4 否定する	度数 Q35-2 (2) 人間には魂があり、肉体の死後も魂が生き続ける の%	1 1.6%	4 6.3%	12 18.8%	47 73.4%	64 100.0%
合 計		度数 Q35-2 (2) 人間には魂があり、肉体の死後も魂が生き続ける の%	106 18.6%	248 43.6%	158 27.8%	57 10.0%	569 100.0%

(p<0.05, Spearmanの相関 0.685)

3.2 相談行為や体験談交換

次に、体験談交換や相談行為の一般的な数字を見てみよう。アドバイスのやりとりという点からいうと、40.9%がインターネットを使ってアドバイスを求めたことがあり、52.4%がアドバイスを与えたことがある。アドバイスのやりとりは、家族と友人というような、物理的な関係でも親しい人々との間でおこなわれている同時に、インターネット上で知人が一定の割合（20~30%）であがっている。

親しい友人とアドバイスのやりとりをする割合は高く、70~80%にのぼる。これは、むろん親しい友人とインターネットを通じてしか大事な話をしないというのではなく、インターネットが日常化して、いくつかあるコミュニケーション・チャンネルの一つとして位置づけられているということであろう。

半数以上の回答者がインターネットを使っての体験談交換・相談行為に興味を持ち、特に他者の体験を読むことに興味がある。

信仰に関する質問とのクロス表を作ると、「他人が書き込んだ体験を読んで興味を持った」という項目では有意差がないが、「世間話のような形で、自分の体験などを書き込んだ」の項目では有意な差が出た。「信仰はもっていないが、宗教には関心がある」群では、「世間話のような形で、自分の体験などを書き込んだ」という回答が多い（表7）。

表7 クロス表

			Q16_M1 世間話のような形で、自分の体験などを書き込んだ		合 計
			NO	YES	
Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。	1 現在、信仰をもっている	度数	29	31	60
		Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。の%	48.3%	51.7%	100.0%
	2 信仰はもっていないが、宗教には関心がある	度数	37	55	92
		Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。の%	40.2%	59.8%	100.0%
	3 信仰はもっていないし、宗教にも関心がない	度数	240	177	417
		Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。の%	57.6%	42.4%	100.0%
合 計		度数	306	263	569
		Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。の%	53.8%	46.2%	100.0%

(p<0.05, Spearmanの相関 -0.118)

3.3 インターネットへの評価と期待

質問項目のQ12、Q13では現在とさらに技術的に発展した将来におけるインターネットの可能性を聞いている。二つの回答を表にまとめると表8のようになる。関連する部分に着目すると、「買い物情報」や「趣味・教養」に対する期待は減少していく、「心のケア」や「自分探しや自己啓発」などの精神的領域が増えている。「信仰や宗教に関する情報」も5%と割合として高くはないが増えている。むろん、依然として「買い物情報」や「趣味・教養」は回答率として高い割合を示しているので、差だけを取り上げて論じることは、一方的な議論になるが、インターネット・ユーザーがどのようにインターネットを使いたいのかというバランスの変化を読み取ることができるだろう。

表8

	現在(%)	将来(%)	差
子育て・教育	35.1	36.9	1.8
心のケア	18.5	31.8	13.3
健康情報	38.0	41.8	3.8
買い物情報	64.1	55.7	-8.4
自分探しや自己啓発	17.0	25.0	8.0
新しい知人との出会い	31.6	33.6	2.0
信仰や宗教に関する情報	3.2	8.3	5.1
モラル・エチケット	8.4	13.7	5.3
マスコミでは得られない情報	46.9	51.3	4.4
職業選択や就職活動	22.0	37.8	15.8
国内政治	10.0	27.2	17.2
まちづくりなど地域に関する情報	21.8	38.0	16.2
ボランティア	9.8	26.2	16.4
興味・教養	70.1	59.9	-10.2
国際情報	16.7	35.0	18.3
日本と他国の関係	11.6	59.0	17.4
どれも有効でない	3.3	5.1	1.8

これらのこととは、信仰とどう関係するだろうか？ 信仰の項目と、インターネットの将来的な有効性に関する項目のうち「信仰や宗教に関する情報」のクロス表を作ったが、カイ二乗検定をしても信仰を持っている回答者とそうでない群との間に、差はない（表の掲載は割愛）。しかし、「自分探しや自己啓発」とのクロス表（表9）の場合には、「現在、信仰をもっている」群および「信仰はもっていないが、宗教には関心がある」群が、「信仰はもっていないし、宗教にも関心がない」よりも多い。

表9 クロス表

	Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。	1 現在、信仰をもっている	Q12_M5 自分探しや自己啓発		合 計
			NO	YES	
Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。	1 現在、信仰をもっている	度数 Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。の%	48 80.0%	12 20.0%	60 100.0%
	2 信仰はもっていないが、宗教には関心がある	度数 Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。の%	70 76.1%	22 23.9%	92 100.0%
	3 信仰はもっていないし、宗教にも関心がない	度数 Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。の%	354 84.9%	63 15.1%	417 100.0%
合 計		度数 Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。の%	472 83.0%	97 17.0%	569 100.0%

(p<0.05, Spearmanの相関 0.225)

3.4 インターネットコミュニケーション特性についての認識

さらに質問項目Q20で、インターネット上のコミュニケーションに関する評価を聞き、表10のような結果を得た。この質問では、顔を合わせないコミュニケーション手段であることや、文章によるコミュニケーションであることをどのように受け止めるのか、ということが主題である。質問の前半はインターネットに対するいわば肯定的な評価に関するもので、後半はどちらかというと否定的な評価に関するものである。興味深いのは、前半後半ともに一定の割合で回答が集まっていることである。インターネット・ユーザーは、インターネットでの特に精神的なコミュニケーションについて、肯定的な面だけや否定的な面だけを評価しているのではなくて、その両面を認識しているといえるだろう。

表10

Dichotomy label	Name	Pct of Responses		Cases
		Count	Cases	
顔を合わせない方が、コミュニケーションしやすいと思う 対面の人間関係はおっくうだと思うことがあるので	Q20_M1	194	8.8	34.1
インターネットは気楽だ	Q20_M2	182	8.2	32.0
会わないから、言いやすいこともある	Q20_M3	341	15.4	59.9
インターネットでの話し合いは役に立つ	Q20_M4	137	6.2	24.1
心の交流や精神的な価値についてのコミュニケーション が可能だ	Q20_M5	104	4.7	18.3
文章を書くことによって考えが深まると思う	Q20_M6	224	10.1	39.4
文章を書く必要があるので、時間がかかるて困る	Q20_M7	65	2.9	11.4
インターネットの中の人間関係は、対面と別物だ	Q20_M8	234	10.6	41.1
インターネットでは感情や雰囲気などが伝わらない	Q20_M9	163	7.4	28.6
インターネットでは相手が誰かわからない時があり不安だ	Q20_M10	236	10.7	41.5
誤解が生じやすい	Q20_M11	312	14.1	54.8
どれもあてはまらない	Q20_M12	19	.9	3.3
Total responses	2211	100.0	388.6	

0 missing cases: 569 valid cases

このQ20の質問項目についても、信仰に関する項目とクロス表を作り、関連性を見る。最初にインターネットに肯定的な項目を見る。「心の交流や精神的な価値についてのコミュニケーションが可能だ」という項目とのクロス表（表11）では、「信仰は持っていないが、宗教には関心がある」という群の割合が10%ほどであるが高い。この群が、インターネットを使って宗教的情報に接触したり、宗教に関連する意見交換に参加する可能性があるだろう。

表11 クロス表

		Q20_M5 心の交流や精神的な価値についてのコミュニケーションが可能だ		合 計
		NO	YES	
Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。	1 現在、信仰をもっている	度数 Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。の%	50 83.3%	60 100.0%
	2 信仰は持っていないが、宗教には関心がある	度数 Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。の%	66 71.7%	92 100.0%
	3 信仰は持っていないし、宗教にも関心がない	度数 Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。の%	349 83.7%	417 100.0%
合 計		度数 Q36 あなたは宗教にどの程度関心がありますか。の%	465 81.7%	569 100.0%

(p<0.05, Spearmanの相関 -0.72)

インターネットが感情や雰囲気が伝わらないコミュニケーション手段であるとすれば、それを通して心の交流をしたり、ましてや宗教的な価値について意見を交換することは難しいことであるように一般的には考えられるかもしれない。しかし、次の表12を見ると、必ずしもそうではないということがわかる。「インターネットでは感情や雰囲気が伝わらない」と考えるか否かに関わらず、一定の割合で「心の交流や精神的な価値についてのコミュニケーションが可能だ」と考えられている。

宗教教団によるインターネット利用に関しては、対面の関係でないことや身体が介在しないことがしばしば問題になるが、そのこと自体はユーザーによっても認識されており、そのような制限があってもなおかつ精神的なコミュニケーションを行なうと考えている人が約20%いることが分かる。

表12 インターネットでは感情や雰囲気などが伝わらない と 心の交流や精神的な価値についてのコミュニケーションが可能だ のクロス表

		心の交流や精神的な価値についてのコミュニケーションが可能だ		合 計
		NO	YES	
インターネットでは感情や雰囲気などが伝わらない	NO	度数 インターネットでは感情や雰囲気などが伝わらないの%	332 81.8%	406 100.0%
	YES	度数 インターネットでは感情や雰囲気などが伝わらないの%	133 81.6%	163 100.0%
	合 計	度数 インターネットでは感情や雰囲気などが伝わらないの%	465 81.7%	569 100.0%

3.5 対面の関係との相違認識と体験談交換・相談行為との関係

前節で述べた対面の関係との相違認識について、体験談交換・相談行為との関係という観点から、分析する。

「他人が書き込んだ体験を読んで興味を持った」という変数と「インターネットでは感情や雰囲気などが伝わらない」という変数のクロス表を作成すると、「興味を持った」群は、インターネットでは感情や雰囲気などが伝わらないという認識の割合が高い（表13）。また「心の交流や精神的な価値についてのコミュニケーションが可能だ」と「インターネットの中の人間関係は、対面と別物だ」を分析すると、「コミュニケーションが可能だ」群は、インターネットの中の人間関係は、対面と別物だと考える割合が高い（表14）。つまり体験談交換・相談行為を行ったり、「心の交流や精神的な価値についてのコミュニケーションが可能だ」を持ったりすることは、むしろインターネットというメディアの限界に気づくことと関係があるようである。

さらに自覚的信仰の変数「あなたは宗教にどの程度関心がありますか」と「世間話のような形で、自分の体験などを書き込んだ」「インターネットでは感情や雰囲気などが伝わらない」を三重クロスにして分析した。同様に

表13 Q16_M2 他人が書き込んだ体験を読んで興味を持った と Q20_M9 インターネットでは感情や雰囲気などが伝わらない のクロス表

		Q20_M9 インターネットでは感情や雰囲気などが伝わらない		合 計
		NO	YES	
Q16_M2 他人が書き込んだ体験を読んで興味を持ったの%	NO	度数 Q16_M2 他人が書き込んだ体験を読んで興味を持ったの%	185 76.4%	242 100.0%
	YES	度数 Q16_M2 他人が書き込んだ体験を読んで興味を持ったの%	221 67.6%	327 100.0%
合 計		度数 Q16_M2 他人が書き込んだ体験を読んで興味を持ったの%	406 71.4%	569 100.0%

(p<0.05, Spearmanの相関 0.97)

表14 Q20_M5 心の交流や精神的な価値についてのコミュニケーションが可能だ と Q20_M8 インターネットの中の人間関係は、対面と別物だ のクロス表

		Q20_M8 インターネットの中の人間関係は、対面と別物だ		合 計
		NO	YES	
Q16_M5 心の交流や精神的な価値についてのコミュニケーションが可能だ	NO	度数 Q16_M5 心の交流や精神的な価値についてのコミュニケーションが可能だの%	283 60.9%	465 100.0%
	YES	度数 Q16_M5 心の交流や精神的な価値についてのコミュニケーションが可能だの%	52 50.0%	104 100.0%
合 計		度数 Q16_M5 心の交流や精神的な価値についてのコミュニケーションが可能だの%	335 58.9%	569 100.0%

(p<0.05, Spearmanの相関 0.085)

「人間には魂があり、肉体の死後も魂が生き続ける」と「他人が書き込んだ体験を読んで興味を持った」、「インターネットの中の人間関係は、対面と別物だ」との三重クロスを作成して分析した。その結果現在信仰を持っている人々、人間には魂があり肉体の死後も魂が生き続けるということ信じると答えた人や、それがあり得ると答えた中で、体験談を行なっている人々は、他群と比べて「インターネットの中の人間関係は、対面と別物だ」と考える割合が高い（表15、16）。つまり宗教や靈性への関心を持ちながら体験談交換を行っている人々は、他群に比べて対面との相違を認識する割合が高い。

表15

Q20-M8 インターネットでは感情や雰囲気などが伝わらない

Q36. あなたは宗教にどの程度関心がありますか。

0 NO 1 YES 合計

1 現在、信仰をもっている	世間話のような形で、自分の体験などを書き込んだ	0 NO	度数	23	5	28
			%	82.14	17.86	100
		1 YES	度数	18	13	31
			%	58.06	41.94	100
	合 計		度数	41	18	59
			%	69.49	30.51	100
	世間話のような形で、自分の体験などを書き込んだ	0 NO	度数	27	10	37
			%	72.97	27.03	100
		1 YES	度数	38	17	55
			%	69.09	30.91	100
2 信仰はもっていないが、宗教には関心がある	合 計		度数	65	27	92
			%	70.65	29.35	100
	世間話のような形で、自分の体験などを書き込んだ	0 NO	度数	169	72	241
			%	70.12	29.88	100
		1 YES	度数	130	47	177
			%	73.45	26.55	100
	合 計		度数	299	119	418
			%	71.53	28.47	100
(1 信じる : p<0.05, Spearmanの相関 0.307)						

表16

Q20-M8 インターネットの人間関係は、対面と別物だ

Q35_2 (2) 人間には魂があり、肉体の死後も魂が生き続ける

0 NO 1 YES 合計

1 信じる	Q16-M2 他人が書き込んだ体験を読んで興味を持った	0 NO	度数	31	9	40
			%	77.5	22.5	100
		1 YES	度数	25	28	53
			%	47.17	52.83	100
	合 計		度数	56	37	93
			%	60.22	39.78	100
	Q16-M2 他人が書き込んだ体験を読んで興味を持った	0 NO	度数	65	29	94
			%	69.15	30.85	100
		1 YES	度数	72	68	140
			%	51.43	48.57	100
2 あり得る	合 計		度数	137	97	234
			%	58.55	41.45	100
	Q16-M2 他人が書き込んだ体験を読んで興味を持った	0 NO	度数	56	27	83
			%	64.47	32.53	100
		1 YES	度数	51	45	96
			%	53.125	46.875	100
	合 計		度数	107	72	179
			%	59.78	40.22	100
	Q16-M2 他人が書き込んだ体験を読んで興味を持った	0 NO	度数	17	9	26
			%	65.38	34.62	100
3 あまり信じない		1 YES	度数	17	20	37
			%	45.95	54.05	100
	合 計		度数	34	29	63
			%	53.97	46.03	100
(1 信じる : p<0.05、 Spearmanの相関 0.307)						
(2 あり得る : p<0.05、 Spearmanの相関 0.176)						

ところが、自覚的信仰の変数と「人間には魂があり、肉体の死後も魂が生き続ける」とをそれぞれ「インターネットの中の人間関係は、対面と別物だ」という変数とクロス表を作成しても、(表の掲載は割愛するが) 他群との有意差がない。つまり三重クロスで有意差が検出されたのは体験談交換・相談行為が介在しているからである。

4 まとめ

今回の調査によって下記のような認識を得ることができた。

- 自覚的に現在信仰を持っていると答えた人は、10.5%だが、信仰は持っていないが宗教には関心があるという人は、16.2%いる。
- 半数以上の回答者がインターネットを使っての体験談交換・相談行為に興味を持ち、特に他者の体験を読むことに興味がある。「信仰はもっていないが、宗教には関心がある」群が体験談交換・相談行為に関心が高い。
- インターネットの将来的可能性については、「現在、信仰をもっている」群および「信仰はもっていないが、宗教には関心がある」群は、「自分探しや自己啓発」に関心がある。
- 回答者は、インターネットでの特に精神的なコミュニケーションについて、肯定的な面だけや否定的な面だけを評価しているのではなくて、その両面を認識しているといえる。
- 「心の交流や精神的な価値についてのコミュニケーションが可能だ」という認識において「信仰は持っていないが、宗教には関心がある」という群の割合が、10%ほどであるが高い。前述の体験談交換・相談行為と同様であり、この群は、インターネット上での精神的なコミュニケーションに関心が高いと言える。
- 「他人が書き込んだ体験を読んで興味を持った」群、「心の交流や精神的な価値についてのコミュニケーションが可能だ」群は、インターネットの中の人間関係は、対面と別物だと考える割合が高い。信仰を持っている群の中でも、上記のように考えている回答者は、同様に、インターネットの中の人間関係は、対面と別物だと考える割合が高い。しかし、体験談交換・相談行為をはさまない単純なクロス集計では差が出ないので、体験談交換・相談行為が対面との相違認識に介在していると思える。

当初二つの問題を掲げていた。ひとつは、質的研究であるがゆえに、電子ネットワーク・ユーザー全体の中で、取り上げている事例が、どの程度の範囲をカバーするものなのか不明瞭であるということ、もうひとつは、上記のように書き手が構成する電子ネットワークだけを分析しても、読み手も含めた電子ネットワーク・ユーザーが持つ、電子ネットワーク上に書かれた以外の思想や価値観について知ることが難しいという点である。今回の調査において、この二点を補う認識を得ることができた。次の機会には、無作為抽出調査を行うことによって、さらに一般性のあるデータを取得したいと考える。

参考文献

- O'Leary, Stephen 1996 "Cyberspace as Sacred Space: Communicating Religion on Computer Networks," *Journal of American Academy of Religion* 64 (4) American Academy of Religion 781–807.
- Miller, Daniel and Slater, Don 2000 *The Internet: An Ethnographic Approach*, University of London.
- Schroeder, Ralph et al., 1998 "The Sacred and the Virtual: Religion in Multi-User Virtual Reality", *JCMC*.
- 川端亮・兼子一 2002 「IT化された宗教実践—ある金光教教師の挑戦」宗教社会学の会編「新世紀の宗教—「聖なるもの」の現代的諸相—」創元社。
- ストール, クリフォード 1997『インターネットはからっぽの洞窟』倉骨彰訳 草思社。
- 橋元良明(他) 2002『インターネットの利用動向に関する実態調査報告書2001』独立行政法人通信総合研究所。
- ヤング, キンバリー 1998『インターネット中毒:まじめな警告です』小田嶋由美子訳 毎日新聞社 1998.
- 読売新聞社世論調査部編 2002『日本の世論』弘文堂。

注

- 1) <http://www.online-counseling.org/>
- 2) ウォルター・J・オングの主張で、文字使用の前と後で、人々の世界理解の枠組に変化が生じたとする。
- 3) Computer Mediated Communication (コンピューター媒介コミュニケーション) の略。

付録 質問フォーム

1/8 ページ インターネットに関して（1）

Q1. あなたは、【自宅】では主にどの回線でインターネットに接続していますか。利用しているものをいくつでもお選びください。またそのうち、最もよく利用しているものを 1 つだけ選んでください。

	利用している (いくつでも)	最もよく利用 (1つだけ)
アナログ電話回線	<input type="checkbox"/> 1	<input type="radio"/> 1
ISDN 回線（常時接続契約）	<input type="checkbox"/> 2	<input type="radio"/> 2
ISDN 回線（常時接続でない契約）	<input type="checkbox"/> 3	<input type="radio"/> 3
ADSL	<input type="checkbox"/> 4	<input type="radio"/> 4
光ファイバー（FTTH）	<input type="checkbox"/> 5	<input type="radio"/> 5
CATV 回線（ケーブル回線）	<input type="checkbox"/> 6	<input type="radio"/> 6
パソコンに携帯電話・PHS を接続	<input type="checkbox"/> 7	<input type="radio"/> 7
携帯電話・PHS の E メール・i モードなど	<input type="checkbox"/> 8	<input type="radio"/> 8
L モード	<input type="checkbox"/> 9	<input type="radio"/> 9
その他（具体的に：　　）	<input type="checkbox"/> 10	<input type="radio"/> 10

Q2. パソコンの利用についてお聞きします。あてはまるものをいくつでもお選びください。

- 1. パソコンを使って、無理なく文章を作成できる
- 2. パソコンを使って、無理なくグラフ作成や表計算ができる
- 3. パソコンのトラブルに自力である程度対処できる
- 4. 自分でホームページを作れる
- 5. いずれもあてはまらない

Q3. あなたは、【自宅】でインターネットを 1 週間に合計してどのくらいの時間利用していますか。パソコンでの利用に限って答えてください。

接続している時間ではなく、実際に WEB サイト（i モードなど）を見たり、E メールを読み書きしたり、チャットなどをしている合計時間をお答えください。

- 1. 2 時間未満
- 3. 5～10 時間未満
- 5. 20 時間以上
- 2. 2～5 時間未満
- 4. 10～20 時間未満

Q4. あなたは、次の A、B のような目的のために、どのメディアを最もよく利用していますか。それぞれ 1 つずつお選びください。

A. いち早く世の中のできごとや動きを知る。

- 1. テレビ ○4. インターネット ○7. その他のメディア (具体的に：)
○2. 本 ○5. 新聞
○3. ラジオ ○6. 雑誌

B. 世の中のできごとや動きについて信頼できる情報を得る。

- 1. テレビ ○4. インターネット ○7. その他のメディア (具体的に：)
○2. 本 ○5. 新聞
○3. ラジオ ○6. 雑誌

Q5. 一般的に、あなたが情報を得るための手段（情報源）として、次のものはどのくらい重要ですか。それについて、最もよくあてはまるものを1つずつお選びください。

	非常に 重要	まあ重 要	どちらとも いえない	あまり重 要でない	全く重要で ない
テレビ	○1	○2	○3	○4	○5
本	○1	○2	○3	○4	○5
ラジオ	○1	○2	○3	○4	○5
インターネット	○1	○2	○3	○4	○5
新聞	○1	○2	○3	○4	○5
雑誌	○1	○2	○3	○4	○5
家族や友人との会話	○1	○2	○3	○4	○5

Q6. 一般的に、娯楽の手段（情報源）として、次のものはどのくらい重要ですか。それについて、最もよくあてはまるものを1つずつお選びください。

	非常に 重要	まあ重 要	どちらとも いえない	あまり重 要でない	全く重要で ない
テレビ	○1	○2	○3	○4	○5
本	○1	○2	○3	○4	○5
ラジオ	○1	○2	○3	○4	○5
インターネット	○1	○2	○3	○4	○5
新聞	○1	○2	○3	○4	○5
雑誌	○1	○2	○3	○4	○5
家族や友人との会話	○1	○2	○3	○4	○5

Q7. 次の中で、今までにアクセスしたことがあるホームページのジャンルはありますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

〈アクセスしたことがあるホームページについて〉

(1) 興味を持ったホームページをいくつでもお選びください。

(2) 掲示板に書き込んだり、相談したり、参拝したりなど、何らかの行為をしたことがあるホームページがありましたら、いくつでもお選びください。

(3) 今後、またアクセスしたいとお考えのホームページがありましたら、いくつでもお選びください。

〈アクセスしたことがあるホームページについて〉

	アクセスした たことがあ るホームペ ージ	興味を持 ったホー ムページ	何らかの行 為をしたこ とがあ るホームペ ージ	またアクセ スしたいホ ームページ
占い	<input type="checkbox"/> 1	→	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1
人生相談	<input type="checkbox"/> 2	→	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 2
カウンセリング	<input type="checkbox"/> 3	→	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 3
宗教一般（神社・お 寺・教会・その他）	<input type="checkbox"/> 4	→	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 4
癒し・ヒーリング系 一般	<input type="checkbox"/> 5	→	<input type="checkbox"/> 5	<input type="checkbox"/> 5
相互扶助・セルフヘ ルプグループ	<input type="checkbox"/> 6	→	<input type="checkbox"/> 6	<input type="checkbox"/> 6
個人の日記を載せ ているホームペ ージ	<input type="checkbox"/> 7	→	<input type="checkbox"/> 7	<input type="checkbox"/> 7
自分の選挙区の国 会議員のホームペ ージ	<input type="checkbox"/> 8	→	<input type="checkbox"/> 8	<input type="checkbox"/> 8
政党に関するホー ムページ	<input type="checkbox"/> 9	→	<input type="checkbox"/> 9	<input type="checkbox"/> 9
著名な政治家に関 するホームページ	<input type="checkbox"/> 10	→	<input type="checkbox"/> 10	<input type="checkbox"/> 10
どれもない	<input type="checkbox"/> 11			

「送信」ボタンを押してください。

2/8 ページ インターネットに関して (2)

メールの利用についてお尋ねします。パソコンを使っての電子メールに限ってお答えください。仕事で使われている方は、私用と仕事の両方を合わせてお答えください。

Q8. あなたは、1週間に平均して何通くらいメールを発信しますか。同じメールを複数人に出した場合は1通とカウントしてください。

1. 9通以下 3. 20～29通 5. 50～99通
2. 10～19通 4. 30～49通 6. 100通以上

Q9. あなたには、メールでよくやりとりをする相手が何人くらいですか。メーリングリストなど一度に大勢に出す場合は除いてください。

1. 0人（いない） 3. 2～4人 5. 10～19人
2. 1人 4. 5～9人 6. 20人以上

Q10. あなたがメールのやり取りをよくする相手はどのような人ですか。次の中から、あてはまるものをいくつでもお選びください。

1. ふだんよく会う友人 6. 仕事の関係者／別の勤務先の人
2. ふだんあまり会わない友人 7. 仕事以外の活動の関係者
（地域活動、PTA、ボランティアなど）
3. 恋人
4. 家族 8. その他（具体的に： ）
5. 仕事の関係者／同じ勤務先の人 9. メールはしていない

Q11. 【プライベート】でやりとりしているメールの内容はどのようなことですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1. 家族や友人など親しい人との連絡 5. 特定の話題をめぐっての意見のやりとり
2. おしゃべり、雑談など日常の話題 6. その他（具体的に： ）
3. 悩み事の相談 7. メールはしていない
4. 仕事以外のメーリングリストに参加

Q12. 【現在の時点】で、次の事柄についての情報を得たり、意見を交換するのにインターネットは有効な手段だと思いますか。インターネットが有効な手段だと思うものをいくつでもお選びください。

1. 子育て・教育 10. 職業選択や就職活動
2. 心のケア 11. 国内政治
3. 健康情報 12. まちづくりなど地域に関する情報
4. 買い物情報 13. ボランティア
5. 自分探しや自己啓発 14. 趣味・教養
6. 新しい知人との出会い 15. 国際情勢
7. 信仰や宗教に関する情報 16. 日本と他国の関係
8. モラル・エチケット 17. どれも有効でない
9. マスコミでは得られない情報

Q13. 【将来】、ブロードバンドが広く普及し一般化され、新しい技術によってより使いや

すいものになった場合、インターネットは次のような事柄についての情報を得たり、意見を交換するのに有効な手段になると思いますか。インターネットが有効な手段になると思うものをいくつでもお選びください。

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 子育て・教育 | <input type="checkbox"/> 10. 職業選択や就職活動 |
| <input type="checkbox"/> 2. 心のケア | <input type="checkbox"/> 11. 国内政治 |
| <input type="checkbox"/> 3. 健康情報 | <input type="checkbox"/> 12. まちづくりなど地域に関する情報 |
| <input type="checkbox"/> 4. 買い物情報 | <input type="checkbox"/> 13. ボランティア |
| <input type="checkbox"/> 5. 自分探しや自己啓発 | <input type="checkbox"/> 14. 趣味・教養 |
| <input type="checkbox"/> 6. 新しい知人との出会い | <input type="checkbox"/> 15. 国際情勢 |
| <input type="checkbox"/> 7. 信仰や宗教に関する情報 | <input type="checkbox"/> 16. 日本と他国の関係 |
| <input type="checkbox"/> 8. モラル・エチケット | <input type="checkbox"/> 17. どれも有効でない |
| <input type="checkbox"/> 9. マスコミでは得られない情報 | |

「送信」ボタンを押してください。

3/8 ページ インターネットに関して (3)

インターネットを使っての相談・カウンセリングについてお尋ねします。

Q14. あなたは、ご自分の生き方や深刻な問題で、自分以外の人にアドバイスを求めたことがありますか。

1. はい →SQ1・SQ2へ 2. いいえ →Q15へ

SQ1. アドバイスを求めたのは主に誰ですか？ あてはまるものをいくつでもお選びください。

1. 家族 3. インターネット上での知人
2. 親しい友人 4. その他（具体的に： ）

SQ2. 今後も、ご自分の生き方や深刻な問題で、自分以外の人にアドバイスを求めたいと思いますか。

1. はい 2. いいえ

Q15. あなたは、生き方や深刻な問題で、自分以外の人にアドバイスを与えたことがありますか。

1. はい →SQ1・SQ2へ 2. いいえ →Q16へ

SQ1. アドバイスを与えたのは主に誰ですか？ あてはまるものをいくつでもお選びください。

1. 家族 3. インターネット上での知人

2. 親しい友人 4. その他（具体的に： ）

SQ2. 今後も、生き方や深刻な問題で、自分以外の人にアドバイスを与える機会を持ちたいと思いますか。

1. はい 2. いいえ

Q16. インターネット上で、次のような経験はありますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

- 1. 世間話のような形で、自分の体験などを書き込んだ
- 2. 他人が書き込んだ体験を読んで興味を持った
- 3. 好きなものや、感動した事柄について書き込んだ
- 4. 他人が書いた、好きなものや、感動した事柄についての書き込みを読んだ
- 5. 心に残る言葉を読んだ
- 6. 人を励ました
- 7. 人に励まされた
- 8. いずれもない

Q17. 今後、インターネット上で、次のような機会を持ちたいと思いますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

- 1. 世間話のような形で、自分の体験などを書き込みたい
- 2. 他人が書き込んだ体験を読んで興味を持ちたい
- 3. 好きなものや、感動した事柄について書き込みたい
- 4. 他人が書いた、好きなものや、感動した事柄についての書き込みを読みたい
- 5. 心に残る言葉を読みたい
- 6. 人を励ましたい
- 7. 人に励まされたい
- 8. いずれもない

Q18. あなたは、インターネットを使ったやりとりの中で、意図せずして人を傷つけたと感じたことがありますか。

1. ある 2. ない

Q19. それでは、インターネットを使ったやりとりの中で、人から非難を受けたり、傷つけられたと感じたことがありますか。

1. ある 2. ない

「送信」ボタンを押してください。

4/8 ページ インターネットに関して（4）

Q20. インターネットを使ってのコミュニケーションについて、あなたのお考えをお尋ねします。次の中から、あなたの考え方方に近いものを、いくつでもお選びください。

- 1. 顔を合わせない方が、コミュニケーションしやすいと思う
- 2. 対面の人間関係はおっくうだと思うことがあるのでインターネットは気楽だ
- 3. 会わないから、言いやすいこともある
- 4. インターネットでの話し合いは役に立つ
- 5. 心の交流や精神的な価値についてのコミュニケーションが可能だ
- 6. 文章を書くことによって考えが深まると思う
- 7. 文章を書く必要があるので、時間がかかるて困る
- 8. インターネットの中の人間関係は、対面と別物だ
- 9. インターネットでは感情や雰囲気などが伝わらない
- 10. インターネットでは相手が誰かわからない時があり不安だ
- 11. 誤解が生じやすい
- 12. どれもあてはまらない

Q21. インターネットの掲示板、メール、日記などについて、あなたのお考えをお尋ねします。次の中から、あなたの考え方方に近いものを、いくつでもお選びください。

- 1. 自分の問題や感情などを整理し明確にできる
- 2. 不満や嫌悪などを発散しそつきりすることができる
- 3. 書くことによって自分の本当の気持ちが分かる
- 4. 書くことによって不安や緊張が解消する
- 5. 現実社会での役割を忘れて本当の自分を見いだせる
- 6. 家族や親しい人のしがらみから離れて自由に発言できる
- 7. 自分に共感してくれる他者と出会い親しくなれる
- 8. 自分のことを書くと他の人もその人自身のことを書いてくれる
- 9. 個人と個人が互いに率直に意見交換できる
- 10. 自分で気づかない欠点や特徴などを他の人に指摘してもらえる
- 11. どれもあてはまらない

Q22. 図書館（公共図書館、大学図書館、学校図書館）の利用について、あなたが今までにしたこと、現在していること、あるいは考えていることなど、あてはまる項目をいくつでもお選びください。

- 1. 自宅や職場からインターネットを利用して、図書館の蔵書検索システムを利用することがある
- 2. 知りたい情報がインターネットで見つからないときは、図書館へ行くことがある
- 3. 知りたい情報がインターネットで見つからないときは、電話やファックス、電子メールなどで図書館に問い合わせをすることがある
- 4. 月に1回以上利用している図書館がある
- 5. 図書館でインターネットを頻繁に利用している
- 6. 図書館で、生活に役立つ情報を手に入れたことがある
- 7. 図書館で、人生に影響を与えるような情報（作品）に出会ったことがある
- 8. 図書館の情報は、インターネットの情報よりも信頼できる
- 9. 図書館には、司書がいて助けてくれる
- 10. 図書館は雰囲気がよい、居心地がよい場所である
- 11. 図書館に行くと学習・読書に集中できる
- 12. 将来、電子図書館の技術がずっと進んだら、今のような図書館は必要なくなると思う
- 13. インターネット、テレビ（ケーブルテレビを含む）、それに書店があれば、図書館はなくても不自由しない
- 14. どれもあてはまらない

Q23. 次の中から、インターネットの技術がより進歩した時に、あなたがしてみたいと思うことをいくつでもお選びください。

- 1. インターネットを用いたテレビ電話・テレビ会議
- 2. インターネット経由で、遠くにある美術館や博物館の展示を見る
- 3. インターネット経由で、住民票などの証明書を請求し発行してもらう
- 4. ビデオや映画などを、好きな時にインターネット経由で見る
- 5. 在宅で、電子投票をする
- 6. インターネット経由で、参拝・礼拝・巡礼などを行う
- 7. インターネット経由で在宅で仕事をする（在宅勤務をする）
- 8. 特はない

Q24. インターネット技術がより進歩した時に、次にあげるような事柄に対して不安を感じことがありますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

- 1. 直接に人と接する機会がなくなり、コミュニケーション不全になる
- 2. 他人への責任や関与が薄れてしまう
- 3. 外出する機会が少なくなり、引きこもりがちになる
- 4. 本物に接する場合ならではの、感動や体験を味わう機会がなくなる
- 5. 対面でしか得られない情報を得られなくなる
- 6. 娯楽や芸術のありがたみが薄れ、無感動になる

- 7. 他人に知られたくないやり取りが知られてしまう
- 8. 証明書などが他人の手に渡り、自分の生活が侵害される
- 9. 自分の生活が、機械に管理されてしまう
- 10. 海賊版やコピーが氾濫して著作権が侵害される
- 11. どれもあてはまらない

「送信」ボタンを押してください。

5/8 ページ インターネット以外の価値全般に関する (1)

Q25. 次のリストは、現在わが国が取り組むべき様々な問題について並べたものです。このうち、あなたが特に重要だと考える問題はどれですか。いくつでもお選びください。

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 政治倫理や公務員倫理 | <input type="checkbox"/> 8. デジタル・デバイド（情報格差）の解消 |
| <input type="checkbox"/> 2. 防衛・安全保障問題 | <input type="checkbox"/> 9. 犯罪の増加 |
| <input type="checkbox"/> 3. 経済のたて直し | <input type="checkbox"/> 10. 高齢化社会の到来 |
| <input type="checkbox"/> 4. 競争原理の導入 | <input type="checkbox"/> 11. 男女平等社会の構築 |
| <input type="checkbox"/> 5. 構造改革 | <input type="checkbox"/> 12. 社会的モラルや倫理の再構築 |
| <input type="checkbox"/> 6. 環境問題 | <input type="checkbox"/> 13. 社会福祉の充実 |
| <input type="checkbox"/> 7. IT（情報通信技術）の普及促進 | <input type="checkbox"/> 14. 特にない |

Q26. 日本の将来に対してあなたは楽観的な考え方を持ちますか、悲観的な考え方を持ちますか。次の4つの面について、あなたのお考えに最も近いものを、それぞれ1つずつお選びください。

	楽観的	やや楽観的	やや悲観的	悲観的
日本の経済	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4
日本の政治	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4
日本の教育	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4
日本の社会秩序	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4
国民の常識やモラル	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4

Q27. 次の中で、あなたが不安を感じたり心配したりしている事柄がありますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

- 1. 地球温暖化による気候の変動
- 2. 犯罪の増加による治安の悪化
- 3. 情報化が進んで自分が時代の流れについていけなくなること
- 4. 自分自身が病気になったり交通事故の被害者になること

- 5. 経済が悪化して失業者が増えたり年金がもらえなくなったりすること
- 6. 次の時代をになう青少年が健全に育たないこと
- 7. 社会的倫理観やモラルが失われて世の中が悪い方向にすすむこと
- 8. 競争原理の導入によって助け合いの気持ちが失われること
- 9. 特にない

Q28. 次のことばを聞いてあなたが連想するものは何ですか。それについて、あなたが連想するもの、あるいは「その通りだ」と思うものを、いくつでもお選びください。

[A. インターネット]

- 1. 情報格差
- 2. 本音で話し合える場
- 3. 新しい社会の促進
- 4. あってもなくてもよいもの
- 5. 自分の居場所がみつかるところ
- 6. 好奇心を満たせるところ
- 7. 買い物や情報検索に便利なところ
- 8. 暇つぶし
- 9. 日常と違う自分を演じられるところ
- 10. 特にない

[B. 援助交際]

- 1. 非行
- 2. 新しい女性の生き方
- 3. 無責任な親
- 4. 自由であることの表現
- 5. モラルの喪失
- 6. 欲望に忠実な生き方
- 7. 評価がむずかしいもの
- 8. 悲しいもの
- 9. 単なる金ほしさ
- 10. 特にない

[C. 家庭]

- 1. やすらぎを得るところ
- 2. 自分を束縛するところ
- 3. 衣食住をえるところ
- 4. 大切な人のいるところ
- 5. 大切なものを教わるところ
- 6. 何をおいても守りたいところ
- 7. あってもなくてもよいところ
- 8. 特にない

[D. 社会]

- 1. 自分を束縛するもの
- 2. 自分には関係がないほど遠いところ
- 3. 関わりたくないが関わらざるを得ないもの
- 4. 積極的に自分たちで作っていくもの
- 5. 政治家に任せておけばよいところ
- 6. 特にない

[E. 宗教]

- 1. 冠婚葬祭に必要なもの
- 2. 本当の自分を教えてくるところ
- 3. 普通の生活ができなくなるところ
- 4. あってもなくてもよいもの
- 5. 自分の居場所がみつかるところ
- 6. 日常とは違う魅力的なところ
- 7. 困った時に助けてくれるもの
- 8. だまされて金をまきあげられるところ
- 9. 利害ぬきの人間関係が見つかるところ
- 10. 特にない

Q29. 次の中であなたの考え方や感じ方においてはまるものはどれでしょうか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

- 1. 新製品の広告にはつい目がいく方だ
- 2. 流行の商品にはかなり関心がある
- 3. 人間のこころの仕組みも科学の進歩によって明らかになる
- 4. 都会暮らしはテンポが早く、刺激もあって楽しい
- 5. 今の日本には自己中心主義の人間が多すぎる
- 6. つねに時間に追われているような気がする
- 7. 皆が助け合って生きる社会をつくることは大切である
- 8. 今の日本には学歴や性別による不公平がある
- 9. 他人に迷惑さえかけなければ何をしてもかまわない
- 10. 科学がどんなに発達しても宗教は人間に必要だ
- 11. 特にない

「送信」ボタンを押してください。

6/8 ページ インターネット以外の価値全般に関する (2)

Q30. あなたは次のような考え方についてどう思いますか。あなたが「そう思う」とか「その通りだ」と考えるものがあればいくつでもお選びください。

- 1. 親が年老いたら、子どもが世話をしたり面倒を見るのは当然だ
- 2. 困っている人を見たら頼まれなくても助けてあげるべきだ
- 3. もし外国人が近所に住むことになったら、日本人と同じように親しく交際してみたい
- 4. 人間としてやっていけないことは、どんな理由があろうとも、やるべきではない
- 5. これからは、男性も仕事以上に家庭や地域を大事にすべきだ
- 6. 男の人も、女の人と同じように、家事や育児をするのは当然だ
- 7. これからはゴミの処理や地域の美化など、自分たちでできることは自分たちでしなければならない
- 8. 自分と考えが違うからといって、その人が幸せになろうとするのを妨げるのはよくない
- 9. 地球の皆が生きのびていくためには、お互い、やりたいことをがまんしなければならない
- 10. どうしてもやりたいことがあるのに無理にがまんしてやらないのは間違いだ
- 11. 今の社会は高齢者に対する配慮が足りないと思う
- 12. 今の社会は障害者に対する配慮が足りないと思う
- 13. 女性はもっと積極的に社会に進出すべきだ
- 14. 結婚しても女性は夫の姓に改姓する必要はない
- 15. 男性も介護を積極的に行うべきだ

- 16. 勤勉性を取り戻さないと日本人は世界から取り残される
- 17. 学校や家庭でもっと正直や信頼性という価値について教えるべきだ
- 18. 私生活ばかりを大事にする生き方が日本人を身勝手な人間に変えてきた
- 19. 特にない

Q31. 次にあげた政治家のイメージについて、あなたはどのようにお考えですか。それについて、あなたのお考えに最も近いものを1つずつお選びください。

	そう思う ○1	まあそう 思う ○2	あまりそう 思わない ○3	そう思わない ○4
政治家は理念・理想がな さすぎる	○1	○2	○3	○4
政治家は所属政党に縛ら れすぎている	○1	○2	○3	○4
政治家で大切なのは、本 人の人柄である	○1	○2	○3	○4
国全体の利益よりも自分 の地元の利益ばかりを考 えている政治家が多い	○1	○2	○3	○4
政治家は自分の利益ばか りを考えすぎる	○1	○2	○3	○4
日本よりも外国の方に立 派な政治家が多い	○1	○2	○3	○4

Q32. 次の中であなた自身の生き方にとって大切なものの（あなたが自分の人生の中で大切にしたいと思っているもの）は何ですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

- 1. コンピュータやインターネットなどに関心をもって世の中の動きにおくれないこと
- 2. 経済面での安定
- 3. 災害や犯罪のない安心して住める生活
- 4. 家族や親しい友人たちとの心の交流
- 5. 社会的モラルや常識を大切にし、人間性をみがくこと
- 6. 自分に納得の行くような仕事や勉強の成果を得ること
- 7. 趣味や余暇活動を通じての自分らしさの追及
- 8. 政治や社会の問題に関心をもつこと
- 9. 環境にやさしい生活をすること
- 10. 心のよりどころになるものを得ること
- 11. ボランティア活動などによって人の助けとなること
- 12. お墓参りなどをして祖先を敬う気持ちを大切にすること
- 13. 自分が生まれてきた意味を考えて理想的な生き方を追及すること
- 14. いずれもあてはまらない

「送信」ボタンを押してください。

7/8 ページ インターネット以外の価値全般に関して (3)

Q33. 次にあげた意見にあなたはどの程度共感できますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。

(1) 今の人類の文明はいろいろな点で行き詰まっている

1. 共感できる 2. ある程度共感できる 3. あまり共感できない 4. 共感できない

(2) 現代生活の中で人間はあまりにも自然からはなれ過ぎてしまっている

1. 共感できる 2. ある程度共感できる 3. あまり共感できない 4. 共感できない

(3) 人は豊かになりすぎると堕落しがちなもんだ

1. 共感できる 2. ある程度共感できる 3. あまり共感できない 4. 共感できない

(4) 節約という美德を日本人はもう一度思い起こすべきだ

1. 共感できる 2. ある程度共感できる 3. あまり共感できない 4. 共感できない

(5) 今の日本は物質的な豊かさばかりを追及しすぎる

1. 共感できる 2. ある程度共感できる 3. あまり共感できない 4. 共感できない

(6) 人間には何らかのかたちで運命というものがある

1. 共感できる 2. ある程度共感できる 3. あまり共感できない 4. 共感できない

(7) 世の中には科学で説明できないことも数多くある

1. 共感できる 2. ある程度共感できる 3. あまり共感できない 4. 共感できない

(8) 今の日本には自己中心的な人間が多すぎる

1. 共感できる 2. ある程度共感できる 3. あまり共感できない 4. 共感できない

(9) 今の世の中では一人一人の人間はあまりにも無力である

1. 共感できる 2. ある程度共感できる 3. あまり共感できない 4. 共感できない

(10) 今の世の中が明るく楽しそうに見えるのは表面的な部分だけである

1. 共感できる 2. ある程度共感できる 3. あまり共感できない 4. 共感できない

(11) 人のために尽くせばいつかは自分にプラスとなって返ってくるものだ

1. 共感できる 2. ある程度共感できる 3. あまり共感できない 4. 共感できない

(12) ずるいことや不正なことをして利益を得てもいつかは代償を払うことになる
○1. 共感できる ○2. ある程度共感できる ○3. あまり共感できない ○4. 共感できない

(13) 現代人は忙しすぎたり人間関係に悩んだりするので心の癒し（いやし）が必要だ
○1. 共感できる ○2. ある程度共感できる ○3. あまり共感できない ○4. 共感できない

Q34. あなたは次にあげる意見についてどのようにお考えになりますか。それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。

(1) リーダーになって苦労するよりはのんきに人に従っているほうが気楽でよい
○1. そう思う ○2. まあそう思う ○3. あまりそう思わない ○4. そう思わない

(2) 人生というものは結局ひとりぼっちのものだから他人を頼らず自分で頑張るしかない
○1. そう思う ○2. まあそう思う ○3. あまりそう思わない ○4. そう思わない

(3) ものごとに妥協するのは最もよくない、自分の信念はできる限りつらぬくよう努力すべきだ
○1. そう思う ○2. まあそう思う ○3. あまりそう思わない ○4. そう思わない

(4) 精神的に充実した生活と経済的に豊かな生活とでは経済的に豊かな生活の方がよい
○1. そう思う ○2. まあそう思う ○3. あまりそう思わない ○4. そう思わない

(5) 多少波風がたっても、それを恐れてはいては何もできない、多少の反対があっても良いことは断固実行すべきだ
○1. そう思う ○2. まあそう思う ○3. あまりそう思わない ○4. そう思わない

(6) 一生懸命に働けば必ず成功する
○1. そう思う ○2. まあそう思う ○3. あまりそう思わない ○4. そう思わない

(7) 自分のことだけ考えて人生を送っている人は人間として成長できない
○1. そう思う ○2. まあそう思う ○3. あまりそう思わない ○4. そう思わない

(8) 人は世間の目など気にせず、好きな人生を送るのがよい
○1. そう思う ○2. まあそう思う ○3. あまりそう思わない ○4. そう思わない

(9) 自分の欲望にできるだけ忠実に生きるのが本当に人間的な生き方だ
○1. そう思う ○2. まあそう思う ○3. あまりそう思わない ○4. そう思わない

Q35. 次に「死」に関してのいろいろな考え方を示しています。それぞれについて、あなたの考えに最も近いものを1つずつお選びください。

(1) 普通の人には感じられないが、人生に影響を与える靈的存在というものがある

1. 信じる 2. あり得る 3. あまり信じない 4. 否定する

(2) 人間には魂があり、肉体の死後も魂が生き続ける

1. 信じる 2. あり得る 3. あまり信じない 4. 否定する

(3) 人間は死んだら、本人にとっては一切が消滅し何も残らない

1. 信じる 2. あり得る 3. あまり信じない 4. 否定する

(4) 生まれ変わりがある

1. 信じる 2. あり得る 3. あまり信じない 4. 否定する

(5) 人の為に尽くした人は天国へ行き、自己中心的に人を害した人は地獄へ行く

1. 信じる 2. あり得る 3. あまり信じない 4. 否定する

(6) 生前の行いに關係なく、人は死んだら皆天国へ行く

1. 信じる 2. あり得る 3. あまり信じない 4. 否定する

(7) 前世の生き様が現世に反映している

1. 信じる 2. あり得る 3. あまり信じない 4. 否定する

Q36. あなたは宗教にどの程度関心がありますか。次の中から1つだけお選びください。

1. 現在、信仰をもっている

2. 信仰はもっていないが、宗教には関心がある

3. 信仰はもっていないし、宗教にも関心がない

Q37. 信仰のあるなしに関わらず、次の中から、関心があるものをいくつでもお選びください。

1. 歴史的・文化的遺産としての宗教

2. 生き方の参考になるものとして宗教

3. 神社へのお参りや墓参

4. 占いやお守り、おみくじ

5. 奇跡、予言、呪術、超常現象

6. いずれもない

Q38. あなたにとって、人生の問題を深く語り合える相手は誰ですか。いくつでもお選びください。

1. 親 4. 兄弟姉妹 7. ネット上の友人
2. 配偶者 5. 学校の先生 8. その他（具体的に：)
3. 恋人 6. 面識のある友人 9. いない

Q39. あなたにとってよい友人関係とはどのようなものですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

1. 定期的に連絡を取り、無事を確認する 7. 困っているときに助ける
2. 悩み事を聞いたり励ましたりする 8. 一緒に遊ぶ
3. 仕事や生活上の相談に乗る 9. お金を貸す
4. 日常的な話し相手になる 10. その他（具体的に：)
5. 生き方を応援する 11. どれもあてはまらない
6. 相手のためになる情報を知らせる

「送信」ボタンを押してください。

8/8 ページ あなたご自身について

F1. あなたの性別は

1. 男性 2. 女性

F2. あなたの年齢は

1. 25歳 6. 30歳 11. 35歳 16. 40歳
2. 26歳 7. 31歳 12. 36歳 17. 41歳
3. 27歳 8. 32歳 13. 37歳 18. 42歳
4. 28歳 9. 33歳 14. 38歳 19. 43歳
5. 29歳 10. 34歳 15. 39歳 20. 44歳

F3. あなたのお住まいの都道府県は

1. 北海道 11. 埼玉県 21. 岐阜県 31. 鳥取県 41. 佐賀県
2. 青森県 12. 千葉県 22. 静岡県 32. 島根県 42. 長崎県
3. 岩手県 13. 東京都 23. 愛知県 33. 岡山県 43. 熊本県
4. 宮城県 14. 神奈川県 24. 三重県 34. 広島県 44. 大分県
5. 秋田県 15. 山梨県 25. 滋賀県 35. 山口県 45. 宮崎県
6. 山形県 16. 長野県 26. 京都府 36. 徳島県 46. 鹿児島県

- 7. 福島県 ○17. 新潟県 ○27. 大阪府 ○37. 香川県 ○47. 沖縄県
- 8. 茨城県 ○18. 富山県 ○28. 兵庫県 ○38. 愛媛県
- 9. 栃木県 ○19. 石川県 ○29. 奈良県 ○39. 高知県
- 10. 群馬県 ○20. 福井県 ○30. 和歌山県 ○40. 福岡県

F4. あなたの最終学歴（現在学生の人は在学中の学校）は

- 1. 中学校 ○3. 短大・高専 ○5. 大学院
- 2. 高校 ○4. 大学 ○6. その他

F5. お宅で同居しているご家族は、あなたを含めて何人ですか。

- 1. 1人 →F6へ ○3. 3人 ○5. 5人 ○7. 7人
- 2. 2人 ○4. 4人 ○6. 6人

SF1. お宅で同居している人はどなたですか。あなたからみた続き柄でお答えください。

- 1. 配偶者 ○3. 兄弟姉妹 ○5. 子供 ○7. その他
- 2. 親 ○4. 祖父母 ○6. 孫

SF2. そのうち、ご自宅でインターネットを利用している人はいますか。あてはまる人をいくつでもお選びください。

- 1. 配偶者 ○3. 兄弟姉妹 ○5. 子供 ○7. その他
- 2. 親 ○4. 祖父母 ○6. 孫 ○8. いない

F6. あなたの現在のお仕事についておうかがいします。あなたは普段どのような仕事をなさっていますか。次の中からあてはまるものを1つだけお選びください。

- 1. フルタイムで働いている →SFへ ○3. 専業主婦 ○5. 無職
- 2. パートタイム、アルバイト ○4. 学生・生徒 ○6. その他

SF. <フルタイムで働いている方にお尋ねします>

あなたのお仕事の内容は、次のうち、どれに最も近いですか。あてはまるものを1つだけお選びください。

- 1. 会社・団体役員（会社社長、会社役員、その他各種団体理事など）
- 2. 自営業（商店主、工場主、その他各種サービス業の事業主など）
- 3. 自由業（宗教家、文筆家、音楽家、デザイナー、職業スポーツ選手など）
- 4. 専門・技術職（医師、弁護士、教員、技術者、看護婦など）
- 5. 管理職（会社・団体などの課長以上、管理的公務員など）
- 6. 事務職（一般事務系・係長以下、記者、編集者、タイピストなど）
- 7. 販売・サービス職（販売員、セールスマン、理容師・美容師、調理師など）

- 〇8. 技能・労務職（職人、工具、自動車運転手、電話交換手など）
- 〇9. 保安職（警察官、自衛官、海上保安官、鉄道公安官など）
- 〇10. 農林漁業
- 〇11. その他（具体的に： ）

F7. お宅の世帯年収（税込み）は、次のうちどれにあたりますか。あてはまるものを1つだけお選びください。

- 〇1. 200万円未満
- 〇2. 200万～400万円未満
- 〇3. 400万～600万円未満
- 〇4. 600万～800万円未満
- 〇5. 800万～1000万円未満
- 〇6. 1000万～1200万円未満
- 〇7. 1200万～1400万円未満
- 〇8. 1400万円以上
- 〇9. わからない／答えたくない

「送信」ボタンを押してください。

単純集計表

インターネットに関して（1）

Q1. あなたは、【自宅】では主にどの回線でインターネットに接続していますか。利用しているものをいくつでもお選びください。またそのうち、最もよく利用しているものを1つだけ選んでください。

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
アナログ	Q1A_M1	97	10.7	17.0
I常時	Q1A_M2	136	15.0	23.9
I非常時	Q1A_M3	35	3.9	6.2
ADSL	Q1A_M4	243	26.8	42.7
光ファイバ	Q1A_M5	14	1.5	2.5
CATV	Q1A_M6	109	12.0	19.2
PC+携帯	Q1A_M7	41	4.5	7.2
携帯	Q1A_M8	217	23.9	38.1
Lモード	Q1A_M9	7	.8	1.2
回線その他	Q1A_M10	8	.9	1.4
<hr/>				
Total responses		907	100.0	159.4

0 missing cases; 569 valid cases

Q1B 最も使う回線

有効	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
1.0 アナログ	37	6.5	6.5	6.5
2.0 I常時	128	22.5	22.5	29.0
3.0 I非常時	25	4.4	4.4	33.4
4.0 ADSL	236	41.5	41.5	74.9
5.0 光ファイバ	13	2.3	2.3	77.2
6.0 CATV	107	18.8	18.8	96.0
7.0 PC+携帯	7	1.2	1.2	97.2
8.0 携帯	10	1.8	1.8	98.9
9.0 Lモード	1	.2	.2	99.1
10.0 その他	5	.9	.9	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q2. パソコンの利用についてお聞きします。あてはまるものをいくつでもお選びください。
 (Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
文章を作ることができる	Q2_M1	490	34.7	86.1
グラフを作ることができる	Q2_M2	283	20.0	49.7
トラブルに対応できる	Q2_M3	382	27.0	67.1
ホームページを作れる	Q2_M4	217	15.4	38.1
非該当	Q2_M5	41	2.9	7.2
<hr/>				
Total responses		1413	100.0	248.3

0 missing cases: 569 valid cases

Q3. あなたは、【自宅】でインターネットを1週間に合計してどのくらいの時間利用していますか。パソコンでの利用に限って答えてください。

Q3 利用時間

度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
1 2時間未満	22	3.9	3.9
2 2~5時間	32	5.6	9.5
3 5~10	87	15.3	24.8
4 10~20	185	32.5	57.3
5 20時間以上	243	42.7	100.0
合計	569	100.0	100.0

Q4. あなたは、次のA、Bのような目的のために、どのメディアを最もよく利用していますか。それぞれ1つずつお選びください。

Q4A メディア利用 A. いち早く世の中のできごとや動きを知る。

度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
1 テレビ	289	50.8	50.8
3 ラジオ	8	1.4	52.2
4 インターネット	242	42.5	94.7
5 新聞	25	4.4	99.1
6 雑誌	4	.7	99.8
7 その他	1	.2	.2
合計	569	100.0	100.0

Q4B メディア利用 B. 世の中のできごとや動きについて信頼できる情報を得る。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 テレビ	223	39.2	39.2	39.2
2 本	3	.5	.5	39.7
3 ラジオ	7	1.2	1.2	40.9
4 インターネット	162	28.5	28.5	69.4
5 新聞	167	29.3	29.3	98.8
6 雑誌	6	1.1	1.1	99.8
7 その他	1	.2	.2	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q5. 一般的に、あなたが情報を得るための手段（情報源）として、次のものはどのくらい重要ですか。それぞれについて、最もよくあてはまるものを1つずつお選びください。

Q5_1 テレビ

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 非常に重要	337	59.2	59.2	59.2
2 まあ重要	191	33.6	33.6	92.8
3 どちらともいえない	24	4.2	4.2	97.0
4 あまり重要でない	12	2.1	2.1	99.1
5 全く重要でない	5	.9	.9	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q5_2 本

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 非常に重要	59	10.4	10.4	10.4
2 まあ重要	242	42.5	42.5	52.9
3 どちらともいえない	169	29.7	29.7	82.6
4 あまり重要でない	86	15.1	15.1	97.7
5 全く重要でない	13	2.3	2.3	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q5_3 ラジオ

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 非常に重要	42	7.4	7.4	7.4
2 まあ重要	167	29.3	29.3	36.7
3 どちらともいえない	147	25.8	25.8	62.6
4 あまり重要でない	129	22.7	22.7	85.2
5 全く重要でない	84	14.8	14.8	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q5_4 インターネット

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 非常に重要	288	50.6	50.6	50.6
2 まあ重要	241	42.4	42.4	93.0
3 どちらともいえない	34	6.0	6.0	98.9
4 あまり重要でない	6	1.1	1.1	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q5_5 新聞

		度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 非常に重要	232	40.8	40.8	40.8
	2 まあ重要	239	42.0	42.0	82.8
	3 どちらともいえない	61	10.7	10.7	93.5
	4 あまり重要でない	23	4.0	4.0	97.5
	5 全く重要でない	14	2.5	2.5	100.0
	合計	569	100.0	100.0	

Q5_7 家族や友人との会話

		度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 非常に重要	97	17.0	17.0	17.0
	2 まあ重要	259	45.5	45.5	62.6
	3 どちらともいえない	168	29.5	29.5	92.1
	4 あまり重要でない	35	6.2	6.2	98.2
	5 全く重要でない	10	1.8	1.8	100.0
	合計	569	100.0	100.0	

Q6. 一般的に、娯楽の手段（情報源）として、次のものはどのくらい重要ですか。それぞれについて、最もよくあてはまるものを1つずつお選びください。

Q6_1 テレビ

		度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 非常に重要	301	52.9	52.9	52.9
	2 まあ重要	206	36.2	36.2	89.1
	3 どちらともいえない	35	6.2	6.2	95.3
	4 あまり重要でない	18	3.2	3.2	98.4
	5 全く重要でない	9	1.6	1.6	100.0
	合計	569	100.0	100.0	

Q6_2 本

		度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 非常に重要	135	23.7	23.7	23.7
	2 まあ重要	257	45.2	45.2	68.9
	3 どちらともいえない	108	19.0	19.0	87.9
	4 あまり重要でない	52	9.1	9.1	97.0
	5 全く重要でない	17	3.0	3.0	100.0
	合計	569	100.0	100.0	

Q6_3 ラジオ

		度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 非常に重要	34	6.0	6.0	6.0
	2 まあ重要	123	21.6	21.6	27.6
	3 どちらともいえない	167	29.3	29.3	56.9
	4 あまり重要でない	128	22.5	22.5	79.4
	5 全く重要でない	117	20.6	20.6	100.0
	合計	569	100.0	100.0	

Q6_4 インターネット

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 非常に重要	358	62.9	62.9	62.9
2 まあ重要	182	32.0	32.0	94.9
3 どちらともいえない	26	4.6	4.6	99.5
4 あまり重要でない	3	.5	.5	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q6_5 新聞

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 非常に重要	65	11.4	11.4	11.4
2 まあ重要	199	35.0	35.0	46.4
3 どちらともいえない	185	32.5	32.5	78.9
4 あまり重要でない	81	14.2	14.2	93.1
5 全く重要でない	39	6.9	6.9	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q6_6 雑誌

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 非常に重要	123	21.6	21.6	21.6
2 まあ重要	288	50.6	50.6	72.2
3 どちらともいえない	110	19.3	19.3	91.6
4 あまり重要でない	39	6.9	6.9	98.4
5 全く重要でない	9	1.6	1.6	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q6_7 家族や友人との会話

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 非常に重要	191	33.6	33.6	33.6
2 まあ重要	259	45.5	45.5	79.1
3 どちらともいえない	101	17.8	17.8	96.8
4 あまり重要でない	15	2.6	2.6	99.5
5 全く重要でない	3	.5	.5	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q7. 次の中で、今までにアクセスしたことがあるホームページのジャンルはありますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

Q7A アクセスしたことがあるホームページ

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
占い	Q7A_M1	340	28.7	59.8
人生相談	Q7A_M2	35	3.0	6.2
カウンセリング	Q7A_M3	34	2.9	6.0
宗教一般	Q7A_M4	57	4.8	10.0
癒し・ヒーリング系	Q7A_M5	74	6.3	13.0
相互扶助・セルフヘルプ	Q7A_M6	19	1.6	3.3
個人の日記	Q7A_M7	258	21.8	45.3
自分の選挙区の国会議員	Q7A_M8	42	3.6	7.4
政党に関する	Q7A_M9	104	8.8	18.3
著名な政治家	Q7A_M10	81	6.8	14.2
どれもない	Q7A_M11	139	11.7	24.4
<hr/>				
Total responses		1183	100.0	207.9

0 missing cases; 569 valid cases

Q7B 興味を持ったホームページ

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
占い	Q7B_M1	137	28.5	51.9
人生相談	Q7B_M2	19	4.0	7.2
カウンセリング	Q7B_M3	18	3.8	6.8
宗教一般	Q7B_M4	21	4.4	8.0
癒し・ヒーリング系	Q7B_M5	41	8.5	15.5
相互扶助・セルフヘルプ	Q7B_M6	11	2.3	4.2
個人の日記	Q7B_M7	147	30.6	55.7
自分の選挙区の国会議員	Q7B_M8	15	3.1	5.7
政党に関する	Q7B_M9	36	7.5	13.6
著名な政治家	Q7B_M10	35	7.3	13.3
<hr/>				
Total responses		480	100.0	181.8

305 missing cases; 264 valid cases

Q7C 何かしたホームページ
 (Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
占い	Q7C_M1	202	53.4	78.6
人生相談	Q7C_M2	11	2.9	4.3
カウンセリング	Q7C_M3	9	2.4	3.5
宗教一般	Q7C_M4	12	3.2	4.7
癒し・ヒーリング系	Q7C_M5	20	5.3	7.8
相互扶助・セルフヘルプ	Q7C_M6	6	1.6	2.3
個人の日記	Q7C_M7	85	22.5	33.1
自分の選挙区の国會議員	Q7C_M8	5	1.3	1.9
政党に関する	Q7C_M9	19	5.0	7.4
著名な政治家	Q7C_M10	9	2.4	3.5
<hr/>				
Total responses		378	100.0	147.1

312 missing cases; 257 valid cases

Q7D またアクセスしたいホームページ
 (Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
占い	Q7D_M1	69	31.4	46.9
人生相談	Q7D_M2	6	2.7	4.1
カウンセリング	Q7D_M3	11	5.0	7.5
宗教一般	Q7D_M4	11	5.0	7.5
癒し・ヒーリング系	Q7D_M5	12	5.5	8.2
相互扶助・セルフヘルプ	Q7D_M6	4	1.8	2.7
個人の日記	Q7D_M7	84	38.2	57.1
自分の選挙区の国會議員	Q7D_M8	1	.5	.7
政党に関する	Q7D_M9	13	5.9	8.8
著名な政治家	Q7D_M10	9	4.1	6.1
<hr/>				
Total responses		220	100.0	149.7

422 missing cases; 147 valid cases

インターネットについて（2）

メールの利用についてお尋ねします。パソコンを使っての電子メールに限ってお答えください。
仕事で使われている方は、私用と仕事の両方を合わせてお答えください。

Q8. あなたは、1週間に平均して何通くらいメールを発信しますか。同じメールを複数人に出した場合は1通とカウントしてください。

Q8 あなたは、1週間に平均して何通くらいメールを発信しますか。

有効	度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
1 9通以下	279	49.0	49.0	49.0
2 10-19	113	19.9	19.9	68.9
3 20-29	66	11.6	11.6	80.5
4 30-49	26	4.6	4.6	85.1
5 50-99	31	5.4	5.4	90.5
6 100以上	54	9.5	9.5	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q9. あなたには、メールでよくやりとりをする相手が何人くらいいますか。メーリングリストなど一度に大勢に出す場合は除いてください。

Q9 あなたには、メールでよくやりとりをする相手が何人くらいいますか。

有効	度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
1 0人	40	7.0	7.0	7.0
2 1	23	4.0	4.0	11.1
3 2-4	267	46.9	46.9	58.0
4 5-9	144	25.3	25.3	83.3
5 10-19	85	14.9	14.9	98.2
6 20以上	10	1.8	1.8	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q10. あなたがメールのやり取りをよくする相手はどのような人ですか。次の中から、あてはまるものをいくつでもお選びください。

Q10 メールのやりとりをする相手

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
普段よく会う友人	Q10_M1	230	17.2	40.5
普段あまり会わない友人	Q10_M2	408	30.5	71.8
恋人	Q10_M3	76	5.7	13.4
家族	Q10_M4	202	15.1	35.6
同じ勤務先の人	Q10_M5	145	10.8	25.5
別の勤務先の人	Q10_M6	163	12.2	28.7
仕事以外の活動の関係者	Q10_M7	62	4.6	10.9
その他	Q10_M8	4	.3	.7
メール使用せず	Q10_M9	27	2.0	4.8
ネット上の知人	Q10_M10	20	1.5	3.5
		—	—	—
Total responses		1337	100.0	235.4

1 missing cases: 568 valid cases

Q11. 【プライベート】でやりとりしているメールの内容はどのようなことですか。あてはまるものをいくつでもお選びください

Q11 メールのやりとりの内容

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
家族や友人など親しい人との連絡	Q11_M1	381	35.6	67.1
おしゃべり、雑談など日常の話題	Q11_M2	377	35.2	66.4
悩み事の相談	Q11_M3	91	8.5	16.0
仕事以外のメーリングリストに参加	Q11_M4	52	4.9	9.2
特定の話題をめぐっての意見のやりとり	Q11_M5	135	12.6	23.8
その他	Q11_M6	1	.1	.2
メールはしていない	Q11_M7	34	3.2	6.0
		—	—	—
Total responses		1071	100.0	188.6

1 missing cases: 568 valid cases

Q12 【現在の時点】で、次の事柄についての情報を得たり、意見を交換するのにインターネットは有効な手段だと思いますか。インターネットが有効な手段だと思うものをいくつでもお選びください。

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Pct of	
		Count	Responses
子育て・教育	Q12_M1	200	8.2
心のケア	Q12_M2	105	4.3
健康情報	Q12_M3	216	8.9
買い物情報	Q12_M4	365	15.0
自分探しや自己啓発	Q12_M5	97	4.0
新しい知人との出会い	Q12_M6	180	7.4
信仰や宗教に関する情報	Q12_M7	18	.7
モラル・エチケット	Q12_M8	48	2.0
マスコミでは得られない情報	Q12_M9	267	11.0
職業選択や就職活動	Q12_M10	125	5.1
国内政治	Q12_M11	57	2.3
まちづくりなど地域に関する情報	Q12_M12	124	5.1
ボランティア	Q12_M13	56	2.3
趣味・教養	Q12_M14	399	16.4
国際情勢	Q12_M15	95	3.9
日本と他国の関係	Q12_M16	66	2.7
どれも有効でない	Q12_M17	19	.8
<hr/>		<hr/>	<hr/>
Total responses		2437	100.0
			428.3

0 missing cases; 569 valid cases

Q13. 【将来】、ブロードバンドが広く普及し一般化され、新しい技術によってより使いやすいものになった場合、インターネットは次のような事柄についての情報を得たり、意見を交換するのに有効な手段になると思いますか。インターネットが有効な手段になると思うものをいくつでもお選びください。

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
子育て・教育	Q13_M1	210	6.6	36.9
心のケア	Q13_M2	181	5.7	31.8
健康情報	Q13_M3	238	7.5	41.8
買い物情報	Q13_M4	317	10.0	55.7
自分探しや自己啓発	Q13_M5	142	4.5	25.0
新しい知人との出会い	Q13_M6	191	6.0	33.6
信仰や宗教に関する情報	Q13_M7	47	1.5	8.3
モラル・エチケット	Q13_M8	78	2.5	13.7
マスコミでは得られない情報	Q13_M9	292	9.2	51.3
職業選択や就職活動	Q13_M10	215	6.8	37.8
国内政治	Q13_M11	155	4.9	27.2
まちづくりなど地域に関する情報	Q13_M12	216	6.8	38.0
ボランティア	Q13_M13	149	4.7	26.2
趣味・教養	Q13_M14	341	10.8	59.9
国際情勢	Q13_M15	199	6.3	35.0
日本と他国の関係	Q13_M16	165	5.2	29.0
どれも有効でない	Q13_M17	29	.9	5.1
<hr/>				
Total responses		3165	100.0	556.2

0 missing cases: 569 valid cases

インターネットについて（3）

インターネットを使っての相談・カウンセリングについてお尋ねします。

Q14. あなたは、ご自分の生き方や深刻な問題で、自分以外の人にアドバイスを求めたことがありますか。

Q14 あなたは、ご自分の生き方や深刻な問題で、自分以外の人に
アドバイスを求めたことがありますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 はい	233	40.9	40.9	40.9
2 いいえ	336	59.1	59.1	100.0
合計	569	100.0	100.0	

S Q 1. アドバイスを求めたのは主に誰ですか？ あてはまるものをいくつでもお選びください。

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
家族	Q14S1_M1	133	38.2	57.3
親しい友人	Q14S1_M2	173	49.7	74.6
インターネット上の知人	Q14S1_M3	42	12.1	18.1
Total responses		348	100.0	150.0

337 missing cases; 232 valid cases

S Q 2. 今後も、ご自分の生き方や深刻な問題で、自分以外の人にアドバイスを求めたいと思いますか

Q14S2 今後も、ご自分の生き方や深刻な問題で、自分以外の人に
アドバイスを求めたいと思いますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 はい	228	40.1	97.9	97.9
2 いいえ	5	.9	2.1	100.0
合計	233	40.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	336	59.1		
合計	569	100.0		

Q15. あなたは、生き方や深刻な問題で、自分以外の人にアドバイスを与えたことがありますか。

Q15 あなたは、生き方や深刻な問題で、自分以外の人にアドバイスを
与えたことがありますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 はい	298	52.4	52.4	52.4
2 いいえ	271	47.6	47.6	100.0
合計	569	100.0	100.0	

S Q 1. アドバイスを与えたのは主に誰ですか？ あてはまるものをいくつでもお選びください
(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
家族	Q15S1_M1	105	24.2	35.4
親しい友人	Q15S1_M2	259	59.8	87.2
インターネット上の知人	Q15S1_M3	67	15.5	22.6
その他	Q15S1_M4	2	.5	.7
		—	—	—
	Total responses	433	100.0	145.8

272 missing cases: 297 valid cases

S Q 2. 今後も、生き方や深刻な問題で、自分以外の人にアドバイスを与える機会を持ちたいと思
いますか

Q15S2 今後も、生き方や深刻な問題で、自分以外の人にアドバイスを与える
機会を持ちたいと思いますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 はい	240	42.2	80.5	80.5
2 いいえ	58	10.2	19.5	100.0
合計	298	52.4	100.0	
欠損値 システム欠損値	271	47.6		
合計	569	100.0		

Q16. インターネット上で、次のような経験はありますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Pct of		Cases
		Count	Responses	
世間話のような形で、自分の体験などを書き込んだ	Q16_M1	263	16.5	46.2
他人が書き込んだ体験を読んで興味を持った	Q16_M2	327	20.5	57.5
好きなものや、感動した事柄について書き込んだ	Q16_M3	217	13.6	38.1
他人が書いた、好きなものや、感動した事柄について の書き込みを読んだ	Q16_M4	259	16.2	45.5
心に残る言葉を読んだ	Q16_M5	112	7.0	19.7
人を励ました	Q16_M6	161	10.1	28.3
人に励まされた	Q16_M7	144	9.0	25.3
いずれもない	Q16_M8	113	7.1	19.9
		-----	-----	-----
Total responses		1596	100.0	280.5

0 missing cases: 569 valid cases

Q17. 今後、インターネット上で、次のような機会を持ちたいと思いますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。 (Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Pct of		Cases
		Count	Responses	
世間話のような形で、自分の体験などを書き 込みたい	Q17_M1	186	12.6	32.7
他人が書き込んだ体験を読んで興味を持ちたい	Q17_M2	226	15.4	39.7
好きなものや、感動した事柄について書き込 他人が書いた、好きなものや、感動した事柄 についての書き込みを読みたい	Q17_M3	214	14.5	37.6
心に残る言葉を読みたい	Q17_M4	229	15.6	40.2
人を励ましたい	Q17_M5	206	14.0	36.2
人に励まされたい	Q17_M6	147	10.0	25.8
いずれもない	Q17_M7	128	8.7	22.5
	Q17_M8	135	9.2	23.7
		-----	-----	-----
Total responses		1471	100.0	258.5

0 missing cases: 569 valid cases

Q18. あなたは、インターネットを使ったやりとりの中で、意図せずして人を傷つけたと感じたことがありますか。

Q18. あなたは、インターネットを使ったやりとりの中で、意図せずして人を傷つけたと感じたことがありますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 ある	139	24.4	24.4	24.4
2 ない	430	75.6	75.6	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q19. それでは、インターネットを使ったやりとりの中で、人から非難を受けたり、傷つけられたと感じたことがありますか。

Q19. それでは、インターネットを使ったやりとりの中で、人から非難を受けたり、傷つけられたと感じたことがありますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 ある	163	28.6	28.6	28.6
2 ない	406	71.4	71.4	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q20. インターネットを使ってのコミュニケーションについて、あなたのお考えをお尋ねします。次の中から、あなたの考え方方に近いものを、いくつでもお選びください。

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Pct of Count	Pct of Responses	Pct of Cases
顔を合わせない方が、コミュニケーションしやすいと思う	Q20_M1	194	8.8	34.1
対面の人間関係はおっくうだと思うことがあるので				
インターネットは気楽だ	Q20_M2	182	8.2	32.0
会わないから、言いやすいこともある	Q20_M3	341	15.4	59.9
インターネットでの話し合いは役に立つ	Q20_M4	137	6.2	24.1
心の交流や精神的な価値についてのコミュニケーション				
が可能だ	Q20_M5	104	4.7	18.3
文章を書くことによって考えが深まると思う	Q20_M6	224	10.1	39.4
文章を書く必要があるので、時間がかかるて困る	Q20_M7	65	2.9	11.4
インターネットの中の人間関係は、対面と別物だ	Q20_M8	234	10.6	41.1
インターネットでは感情や雰囲気などが伝わらない	Q20_M9	163	7.4	28.6
インターネットでは相手が誰かわからない時があり不安だ	Q20_M10	236	10.7	41.5
誤解が生じやすい	Q20_M11	312	14.1	54.8
どれもあてはまらない	Q20_M12	19	.9	3.3
		—	—	—
Total responses	2211	100.0	388.6	

0 missing cases; 569 valid cases

Q21. インターネットの掲示板、メール、日記などについて、あなたのお考えをお尋ねします。
次の中から、あなたの考え方方に近いものを、いくつでもお選びください。
(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
自分の問題や感情などを整理し明確にできる	Q21_M1	155	10.9	27.2
不満や嫌悪などを発散しすっきりすることができる	Q21_M2	88	6.2	15.5
書くことによって自分の本当の気持ちが分かる	Q21_M3	178	12.6	31.3
書くことによって不安や緊張が解消する	Q21_M4	100	7.1	17.6
現実社会での役割を忘れて本当の自分を見いだせる	Q21_M5	61	4.3	10.7
家族や親しい人のしがらみから離れて自由に				
発言できる	Q21_M6	118	8.3	20.7
自分に共感してくれる他者と出会い親しくなる	Q21_M7	189	13.3	33.2
自分のことを書くと他の人もその人自身のことを				
書いてくれる	Q21_M8	68	4.8	12.0
個人と個人が互いに率直に意見交換できる	Q21_M9	191	13.5	33.6
自分で気づかない欠点や特徴などを他の人に指				
摘してもらえる	Q21_M10	118	8.3	20.7
どれもあてはまらない	Q21_M11	150	10.6	26.4
		-----	-----	-----
Total responses		1416	100.0	248.9

0 missing cases: 569 valid cases

Q22. 図書館（公共図書館、大学図書館、学校図書館）の利用について、あなたが今までにしたこと、現在していること、あるいは考えていることなど、あてはまる項目をいくつでもお選びください。

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
自宅や職場からインターネットを利用して、				
図書館の蔵書検索システムを利用することがある	Q22_M1	68	6.8	12.0
知りたい情報がインターネットで見つからない				
ときは、図書館へ行くことがある	Q22_M2	74	7.4	13.0
知りたい情報がインターネットで見つからない				
ときは、電話やファックス、電子メールなどで				
図書館に問い合わせがある	Q22_M3	2	.2	.4
月に1回以上利用している図書館がある	Q22_M4	83	8.3	14.6
図書館でインターネットを頻繁に利用している	Q22_M5	6	.6	1.1
図書館で、生活に役立つ情報を手に入れたことがある	Q22_M6	88	8.8	15.5
図書館で、人生に影響を与えるような情報（作品）に出会ったことがある	Q22_M7	56	5.6	9.8

図書館の情報は、インターネットの情報よりも信頼

できる	Q22_M8	14	1.4	2.5
図書館には、司書がいて助けてくれる	Q22_M9	26	2.6	4.6
図書館は雰囲気がよい、居心地がよい場所である	Q22_M10	112	11.2	19.7
図書館に行くと学習・読書に集中できる	Q22_M11	101	10.1	17.8
将来、電子図書館の技術がずっと進んだら、 今のような図書館は必要なくなると思う	Q22_M12	64	6.4	11.2
インターネット、テレビ（ケーブルテレビを含む） 、それに書店があれば、図書館はなくても不自 由しない	Q22_M13	97	9.7	17.0
どれもあてはまらない	Q22_M14	207	20.7	36.4
		-----	-----	-----
Total responses		998	100.0	175.4

0 missing cases; 569 valid cases

Q23. 次の中から、インターネットの技術がより進歩した時に、あなたがしてみたいと思うことをいくつでもお選びください。

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
インターネットを用いたテレビ電話・テレビ 会議	Q23_M1	238	12.5	41.8
インターネット経由で、遠くにある美術館 や博物館の展示を見る	Q23_M2	177	9.3	31.1
インターネット経由で、住民票などの 証明書を請求し発行してもらう	Q23_M3	359	18.9	63.1
ビデオや映画などを、好きな時にインタ ーネット経由で見る	Q23_M4	349	18.3	61.3
在宅で、電子投票をする	Q23_M5	376	19.7	66.1
インターネット経由で、参拝・礼拝・巡 礼などをおこなう	Q23_M6	12	.6	2.1
インターネット経由で在宅で仕事をする 特はない	Q23_M7	367	19.3	64.5
	Q23_M8	26	1.4	4.6
		-----	-----	-----
Total responses		1904	100.0	334.6

0 missing cases; 569 valid cases

Q24. インターネット技術がより進歩した時に、次にあげるような事柄に対して不安を感じることがありますか。あてはまるものをいくつでもお選びください
 (Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
直接人と接する機会がなくなり、				
コミュニケーション不全になる	Q24_M1	234	11.7	41.1
他人への責任や関与が薄れてしまう	Q24_M2	192	9.6	33.7
外出する機会が少なくなり、引きこもりがちになる	Q24_M3	214	10.7	37.6
本物に接する場合ならではの、感動や体験を味わう機会が無くなる	Q24_M4	223	11.1	39.2
対面でしか得られない情報を得られなくなる	Q24_M5	224	11.2	39.4
娯楽や芸術のありがたみが薄れ、無感動になる	Q24_M6	83	4.1	14.6
他人に知られたくないやり取りが知られてしまう	Q24_M7	238	11.9	41.8
証明書などが他人の手に渡り、自分の生活が侵害される	Q24_M8	257	12.8	45.2
自分の生活が、機械に管理されてしまう	Q24_M9	127	6.3	22.3
海賊版やコピーが氾濫して著作権が侵害される	Q24_M10	162	8.1	28.5
どれもあてはまらない	Q24_M11	53	2.6	9.3
<hr/>				
Total responses		2007	100.0	352.7

0 missing cases: 569 valid cases

インターネット以外の価値全般に関して（1）

Q25. 次のリストは、現在わが国が取り組むべき様々な問題について並べたものです。このうち、あなたが特に重要だと考える問題はどれですか。いくつでもお選びください。

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
政治倫理や公務員倫理	Q25_M1	323	10.6	56.8
防衛・安全保障問題	Q25_M2	206	6.7	36.2
経済のたて直し	Q25_M3	387	12.7	68.0
競争原理の導入	Q25_M4	59	1.9	10.4
構造改革	Q25_M5	184	6.0	32.3
環境問題	Q25_M6	320	10.5	56.2
I T（情報通信技術）の普及促進	Q25_M7	176	5.8	30.9
デジタル・デバイド（情報格差）の解消	Q25_M8	109	3.6	19.2
犯罪の増加	Q25_M9	340	11.1	59.8
高齢化社会の到来	Q25_M10	325	10.6	57.1
男女平等社会の構築	Q25_M11	98	3.2	17.2
社会的モラルや倫理の再構築	Q25_M12	269	8.8	47.3
社会福祉の充実	Q25_M13	229	7.5	40.2
特にない	Q25_M14	28	.9	4.9
<hr/>				
Total responses		3053	100.0	536.6

0 missing cases; 569 valid cases

Q26. 日本の将来に対してあなたは楽観的な考えをお持ちですか、悲観的な考えをお持ちですか。次の4つの面について、あなたのお考えに最も近いものを、それぞれ1つずつお選びください

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
日本の経済	Q26_1	13	22.8	56.5
日本の政治	Q26_2	13	22.8	56.5
日本の教育	Q26_3	11	19.3	47.8
日本の社会秩序	Q26_4	11	19.3	47.8
国民の常識やモラル	Q26_5	9	15.8	39.1
<hr/>				
Total responses		57	100.0	247.8

546 missing cases; 23 valid cases

Q27. 次の中で、あなたが不安を感じたり心配したりしている事柄がありますか。あてはまるもののをいくつでもお選びください。

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
地球温暖化による気候の変動	Q27_M1	333	14.9	58.5
犯罪の増加による治安の悪化	Q27_M2	410	18.3	72.1
情報化が進んで自分が時代の流れについていけなくなること	Q27_M3	58	2.6	10.2
自分自身が病気になったり交通事故の被害者になること	Q27_M4	213	9.5	37.4
経済が悪化して失業者が増えたり年金がもらえなくなったりすること	Q27_M5	371	16.5	65.2
次の時代をになう青少年が健全に育たないこと	Q27_M6	349	15.6	61.3
社会的倫理観やモラルが失われて世の中が悪い方向に進むこと	Q27_M7	364	16.2	64.0
競争原理の導入によって助け合いの気持ちが失われること	Q27_M8	124	5.5	21.8
特にない	Q27_M9	20	.9	3.5
		-----	-----	-----
	Total responses	2242	100.0	394.0

0 missing cases: 569 valid cases

Q28. 次のことばを開いてあなたが連想するものは何ですか。それぞれについて、あなたが連想するもの、あるいは「その通りだ」と思うものを、いくつでもお選びください。

Q28A 連想するもの インターネット

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
情報格差	Q28A_M1	122	9.1	21.4
本音で話し合える場	Q28A_M2	36	2.7	6.3
新しい社会の促進	Q28A_M3	170	12.7	29.9
あってもなくてもよいもの	Q28A_M4	17	1.3	3.0
自分の居場所がみつかるところ	Q28A_M5	22	1.6	3.9
好奇心を満たせるところ	Q28A_M6	278	20.8	48.9
買い物や情報検索に便利なところ	Q28A_M7	367	27.4	64.5
暇つぶし	Q28A_M8	276	20.6	48.5
日常と違う自分を演じられるところ	Q28A_M9	36	2.7	6.3
特にない	Q28A_M10	14	1.0	2.5
		-----	-----	-----
	Total responses	1338	100.0	235.1

0 missing cases: 569 valid cases

Q28B 連想するもの 授助交際

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
非行	Q28B_M1	173	12.2	30.4
新しい女性の生き方	Q28B_M2	19	1.3	3.3
無責任な親	Q28B_M3	134	9.4	23.6
自由であることの表現	Q28B_M4	15	1.1	2.6
モラルの喪失	Q28B_M5	366	25.8	64.3
欲望に忠実な生き方	Q28B_M6	61	4.3	10.7
評価がむずかしいもの	Q28B_M7	81	5.7	14.2
悲しいもの	Q28B_M8	209	14.7	36.7
単なる金ほしさ	Q28B_M9	337	23.7	59.2
特はない	Q28B_M10	24	1.7	4.2
<hr/>				
Total responses		1419	100.0	249.4

0 missing cases: 569 valid cases

Q28C 連想するもの 家庭

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
やすらぎを得るところ	Q28C_M1	416	27.7	73.1
自分を束縛するところ	Q28C_M2	65	4.3	11.4
衣食住をえるところ	Q28C_M3	189	12.6	33.2
大切な人のいるところ	Q28C_M4	311	20.7	54.7
大切なものを教わるところ	Q28C_M5	197	13.1	34.6
何をおいても守りたいところ	Q28C_M6	294	19.6	51.7
あってもなくてもよいところ	Q28C_M7	9	.6	1.6
特はない	Q28C_M8	19	1.3	3.3
<hr/>				
Total responses		1500	100.0	263.6

0 missing cases: 569 valid cases

Q28D 連想するもの 社会
 (Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
自分を束縛するもの	Q28D_M1	81	11.8	14.2
自分には関係がないほど遠いところ	Q28D_M2	21	3.1	3.7
関わりたくないが関わらざるを得ないもの	Q28D_M3	265	38.6	46.6
積極的に自分たちで作っていくもの	Q28D_M4	250	36.4	43.9
政治家に任せておけばよいところ	Q28D_M5	5	.7	.9
特にない	Q28D_M6	64	9.3	11.2
<hr/>				
Total responses		686	100.0	120.6

0 missing cases; 569 valid cases

Q28E 連想するもの 宗教
 (Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
冠婚葬祭に必要なもの	Q28E_M1	121	15.0	21.3
本当の自分を教えてくるところ	Q28E_M2	30	3.7	5.3
普通の生活ができなくなるところ	Q28E_M3	42	5.2	7.4
あってもなくてもよいもの	Q28E_M4	185	23.0	32.5
自分の居場所がみつかるところ	Q28E_M5	21	2.6	3.7
日常とは違う魅力的なところ	Q28E_M6	19	2.4	3.3
困った時に助けてくれるもの	Q28E_M7	37	4.6	6.5
だまされて金をまきあげられるところ	Q28E_M8	153	19.0	26.9
利害ぬきの人間関係が見つかるところ	Q28E_M9	36	4.5	6.3
特にない	Q28E_M10	160	19.9	28.1
<hr/>				
Total responses		804	100.0	141.3

0 missing cases; 569 valid cases

Q29. 次の中であなたの考え方や感じ方にあてはまるものはどれでしょうか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
新製品の広告にはつい目がいく方だ	Q29_M1	374	18.2	65.7
流行の商品にはかなり関心がある	Q29_M2	240	11.7	42.2
人間のこころの仕組みも科学の進歩によ って明らかになる	Q29_M3	52	2.5	9.1
都会暮らしはテンポが早く、刺激もあつ て楽しい	Q29_M4	97	4.7	17.0
今の日本には自己中心主義の人間が多す ぎる	Q29_M5	346	16.9	60.8
つねに時間に追われているような気がする	Q29_M6	235	11.5	41.3
皆が助け合って生きる社会をつくること は大切である	Q29_M7	314	15.3	55.2
今の日本には学歴や性別による不公平が ある	Q29_M8	268	13.1	47.1
他人に迷惑さえかけなければ何をしても かまわない	Q29_M9	45	2.2	7.9
科学がどんなに発達しても宗教は人間に 必要だ	Q29_M10	58	2.8	10.2
特がない	Q29_M11	22	1.1	3.9
Total responses		2051	100.0	360.5

0 missing cases; 569 valid cases

インターネット以外の価値全般について（2）

Q30. あなたは次のような考え方についてどう思いますか。あなたが「そう思う」とか「その通りだ」と考えるものがあればいくつでもお選びください
 (Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Pct of Count	Pct of Responses	Pct of Cases
親が年老いたら、子どもが世話をしたり面倒を見るのは当然だ	Q30_M1	314	6.1	55.2
困っている人を見たら頼まれなくても助けてあげるべきだ	Q30_M2	367	7.2	64.5
もし外国人が近所に住むことになったら、日本人と同じように親しく交際してみたい	Q30_M3	360	7.0	63.3
人間としてやっていけないことは、どんな理由があろうとも、やるべきではない	Q30_M4	400	7.8	70.3
これからは、男性も仕事以上に家庭や地域を大事にすべきだ	Q30_M5	332	6.5	58.3
男の人も、女の人と同じように、家事や育児をするのは当然だ	Q30_M6	363	7.1	63.8
これからはゴミの処理や地域の美化など、自分たちでできることは自分たちでしなければならない	Q30_M7	354	6.9	62.2
自分と考えが違うからといって、その人が幸せになろうとするのを妨げるのではなく	Q30_M8	407	7.9	71.5
地球の皆が生きのびていくためには、お互い、やりたいことをがまんしなければならない	Q30_M9	179	3.5	31.5
どうしてもやりたいことがあるのに無理にがまんしてやらないのは間違いだ	Q30_M10	179	3.5	31.5
今の社会は高齢者に対する配慮が足りないと思う	Q30_M11	257	5.0	45.2
今の社会は障害者に対する配慮が足りないと思う	Q30_M12	303	5.9	53.3
女性はもっと積極的に社会に進出すべきだ	Q30_M13	147	2.9	25.8
結婚しても女性は夫の姓に改姓する必要はない	Q30_M14	213	4.2	37.4
男性も介護を積極的に行うべきだ	Q30_M15	301	5.9	52.9
勤勉性を取り戻さないと日本人は世界から取り残される	Q30_M16	193	3.8	33.9
学校や家庭でもっと正直や信頼性という価値について教えるべきだ	Q30_M17	314	6.1	55.2
私生活ばかりを大事にする生き方が日本人を身勝手な人間に変えてきた	Q30_M18	137	2.7	24.1
特にない	Q30_M19	10	.2	1.8
<hr/>				
Total responses		5130	100.0	901.6

0 missing cases; 569 valid cases

Q31. 次にあげた政治家のイメージについて、あなたはどのようにお考えですか。それぞれについて、あなたのお考えに最も近いものを1つずつお選びください。

Q31_1 政治家は理念・理想がなさすぎる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 そう思う	300	52.7	52.7	52.7
2 まあそう思う	202	35.5	35.5	88.2
3 あまりそう思わない	63	11.1	11.1	99.3
4 そう思わない	4	.7	.7	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q31_2 政治家は所属政党に縛られすぎている

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 そう思う	380	66.8	66.8	66.8
2 まあそう思う	153	26.9	26.9	93.7
3 あまりそう思わない	31	5.4	5.4	99.1
4 そう思わない	5	.9	.9	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q31_3 政治家で大切なのは、本人の人柄である

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 そう思う	204	35.9	35.9	35.9
2 まあそう思う	213	37.4	37.4	73.3
3 あまりそう思わない	114	20.0	20.0	93.3
4 そう思わない	38	6.7	6.7	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q31_4 国全体の利益よりも自分の地元の利益ばかりを

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 そう思う	413	72.6	72.6	72.6
2 まあそう思う	134	23.6	23.6	96.1
3 あまりそう思わない	19	3.3	3.3	99.5
4 そう思わない	3	.5	.5	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q31_5 政治家は自分の利益ばかりを考えすぎる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 そう思う	436	76.6	76.6	76.6
2 まあそう思う	107	18.8	18.8	95.4
3 あまりそう思わない	24	4.2	4.2	99.6
4 そう思わない	2	.4	.4	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q31_6 日本よりも外国の方に立派な政治家が多い

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 0 そう思う	2	.4	.4	.4
1 まあそう思う	164	28.8	28.8	29.2
2 あまりそう思わない	205	36.0	36.0	65.2
3 そう思わない	179	31.5	31.5	96.7
合計	569	100.0	100.0	

Q32. 次の中であなた自身の生き方にとって大切なものの（あなたが自分の人生の中で大切にしたいと思っているもの）は何ですか。あてはまるものをいくつでもお選びください
 (Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
コンピュータやインターネットなどに関心をもって世の中の動きにおくれないこと	Q32_M1	177	5.4	31.1
経済面での安定	Q32_M2	400	12.1	70.3
災害や犯罪のない安心して住める生活	Q32_M3	335	10.1	58.9
家族や親しい友人たちとの心の交流	Q32_M4	415	12.5	72.9
社会的モラルや常識を大切にし、人間性をみがくこと	Q32_M5	302	9.1	53.1
自分に納得の行くような仕事や勉強の成果を得ること	Q32_M6	281	8.5	49.4
趣味や余暇活動を通じての自分らしさの追及	Q32_M7	376	11.4	66.1
政治や社会の問題に関心をもつこと	Q32_M8	142	4.3	25.0
環境にやさしい生活をすること	Q32_M9	228	6.9	40.1
心のよりどころになるものを得ること	Q32_M10	267	8.1	46.9
ボランティア活動などによって人の助けとなること	Q32_M11	92	2.8	16.2
お墓参りなどをして祖先を敬う気持ちを大切にすること	Q32_M12	130	3.9	22.8
自分が生まれてきた意味を考えて理想的な生き方を追及すること	Q32_M13	151	4.6	26.5
いずれもあてはまらない	Q32_M14	12	.4	2.1
Total responses		3308	100.0	581.4

0 missing cases: 569 valid cases

インターネット以外の価値全般について（3）

Q33. 次にあげた意見にあなたはどの程度共感できますか。それについて、あてはまるものを1つずつお選びください。

Q33_1 (1) 今の人類の文明はいろいろな点で行き詰まっている

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 共感できる	68	12.0	12.0	12.0
2 ある程度共感できる	336	59.1	59.1	71.0
3 あまり共感できない	152	26.7	26.7	97.7
4 共感できない	13	2.3	2.3	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q33_2 (2) 現代生活の中で人間はあまりにも自然からはなれ過ぎてしまっている

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 共感できる	115	20.2	20.2	20.2
2 ある程度共感できる	355	62.4	62.4	82.6
3 あまり共感できない	89	15.6	15.6	98.2
4 共感できない	10	1.8	1.8	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q33_3 (3) 人間は豊かになりすぎると墮落しがちなものだ

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 共感できる	195	34.3	34.3	34.3
2 ある程度共感できる	285	50.1	50.1	84.4
3 あまり共感できない	77	13.5	13.5	97.9
4 共感できない	12	2.1	2.1	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q33_4 (4) 節約という美德を日本人はもう一度思い起こすべきだ

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 共感できる	157	27.6	27.6	27.6
2 ある程度共感できる	321	56.4	56.4	84.0
3 あまり共感できない	75	13.2	13.2	97.2
4 共感できない	16	2.8	2.8	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q33_5 (5) 今の日本は物質的な豊かさばかりを追及しすぎる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 共感できる	184	32.3	32.3	32.3
2 ある程度共感できる	295	51.8	51.8	84.2
3 あまり共感できない	81	14.2	14.2	98.4
4 共感できない	9	1.6	1.6	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q33_6 (6) 人間には何らかのかたちで運命というものがある

		度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 共感できる	161	28.3	28.3	28.3
	2 ある程度共感できる	282	49.6	49.6	77.9
	3 あまり共感できない	107	18.8	18.8	96.7
	4 共感できない	19	3.3	3.3	100.0
	合計	569	100.0	100.0	

Q33_7 (7) 世の中には科学で説明できないことも数多くある

		度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 共感できる	270	47.5	47.5	47.5
	2 ある程度共感できる	246	43.2	43.2	90.7
	3 あまり共感できない	48	8.4	8.4	99.1
	4 共感できない	5	.9	.9	100.0
	合計	569	100.0	100.0	

Q33_8 (8) 今の日本には自己中心的な人間が多すぎる

		度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 共感できる	243	42.7	42.7	42.7
	2 ある程度共感できる	269	47.3	47.3	90.0
	3 あまり共感できない	53	9.3	9.3	99.3
	4 共感できない	4	.7	.7	100.0
	合計	569	100.0	100.0	

Q33_9 (9) 今の世の中では一人一人の人間はあまりにも無力である

		度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 共感できる	131	23.0	23.0	23.0
	2 ある程度共感できる	263	46.2	46.2	69.2
	3 あまり共感できない	158	27.8	27.8	97.0
	4 共感できない	17	3.0	3.0	100.0
	合計	569	100.0	100.0	

Q33_10 (10) 今の世の中が明るく楽しそうに見えるのは表面的な部分だけである

		度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 共感できる	117	20.6	20.6	20.6
	2 ある程度共感できる	286	50.3	50.3	70.8
	3 あまり共感できない	156	27.4	27.4	98.2
	4 共感できない	10	1.8	1.8	100.0
	合計	569	100.0	100.0	

Q33_11 (11) 人のために尽くせばいつかは自分にプラスとなって返ってくるものだ

		度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 共感できる	117	20.6	20.6	20.6
	2 ある程度共感できる	299	52.5	52.5	73.1
	3 あまり共感できない	133	23.4	23.4	96.5
	4 共感できない	20	3.5	3.5	100.0
	合計	569	100.0	100.0	

Q33_12 (12) するいことや不正なことをして利益を得てもいつかは代償を払うことになる

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 共感できる	199	35.0	35.0	35.0
2 ある程度共感できる	265	46.6	46.6	81.5
3 あまり共感できない	87	15.3	15.3	96.8
4 共感できない	18	3.2	3.2	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q33_13 (13) 現代人は忙しすぎたり人間関係に悩んだりするので心の癒し(いやし)が必要だ

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 共感できる	149	26.2	26.2	26.2
2 ある程度共感できる	345	60.6	60.6	86.8
3 あまり共感できない	66	11.6	11.6	98.4
4 共感できない	9	1.6	1.6	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q34. あなたは次にあげる意見についてどのようにお考えになりますか。それについて、あてはまるものを1つずつお選びください。

Q34_1 (1) リーダーになって苦労するよりはのんきに人に従っているほうが気楽でよい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 そう思う	57	10.0	10.0	10.0
2 まあそう思う	253	44.5	44.5	54.5
3 あまりそう思わない	206	36.2	36.2	90.7
4 そう思わない	53	9.3	9.3	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q34_2 (2) 人生というものは結局ひとりぼっちのものだから他人を頼らず自分で頑張るしかない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 そう思う	54	9.5	9.5	9.5
2 まあそう思う	259	45.5	45.5	55.0
3 あまりそう思わない	200	35.1	35.1	90.2
4 そう思わない	56	9.8	9.8	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q34_3 (3) ものごとに妥協するのは最もよくない、自分の信念はできる限りつらぬくよう努力すべきだ

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 そう思う	60	10.5	10.5	10.5
2 まあそう思う	299	52.5	52.5	63.1
3 あまりそう思わない	190	33.4	33.4	96.5
4 そう思わない	20	3.5	3.5	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q34_4 (4) 精神的に充実した生活と経済的に豊かな生活とでは経済的に豊かな生活の方がよい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 そう思う	30	5.3	5.3	5.3
	2 まあそう思う	209	36.7	36.7	42.0
	3 あまりそう思わない	286	50.3	50.3	92.3
	4 そう思わない	44	7.7	7.7	100.0
	合計	569	100.0	100.0	

Q34_5 (5) 多少波風がたっても、それを恐れてはいては何もできない、多少の反対があつても良いことは断固実行すべきだ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 そう思う	94	16.5	16.5	16.5
	2 まあそう思う	359	63.1	63.1	79.6
	3 あまりそう思わない	109	19.2	19.2	98.8
	4 そう思わない	7	1.2	1.2	100.0
	合計	569	100.0	100.0	

Q34_6 (6) 一生懸命に働けば必ず成功する

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 そう思う	62	10.9	10.9	10.9
	2 まあそう思う	235	41.3	41.3	52.2
	3 あまりそう思わない	215	37.8	37.8	90.0
	4 そう思わない	57	10.0	10.0	100.0
	合計	569	100.0	100.0	

Q34_7 (7) 自分のことだけ考えて人生を送っている人は人間として成長できない

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 そう思う	156	27.4	27.4	27.4
	2 まあそう思う	303	53.3	53.3	80.7
	3 あまりそう思わない	94	16.5	16.5	97.2
	4 そう思わない	16	2.8	2.8	100.0
	合計	569	100.0	100.0	

Q34_8 (8) 人は世間の目など気にせず、好きな人生を送るのがよい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 そう思う	33	5.8	5.8	5.8
	2 まあそう思う	215	37.8	37.8	43.6
	3 あまりそう思わない	273	48.0	48.0	91.6
	4 そう思わない	48	8.4	8.4	100.0
	合計	569	100.0	100.0	

Q34_9 (9) 自分の欲望にできるだけ忠実に生きるのが本当に人間的な生き方だ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 そう思う	24	4.2	4.2	4.2
	2 まあそう思う	147	25.8	25.8	30.1
	3 あまりそう思わない	293	51.5	51.5	81.5
	4 そう思わない	105	18.5	18.5	100.0
	合計	569	100.0	100.0	

Q35. 次に「死」に関してのいろいろな考え方を示しています。それぞれについて、あなたの考えに最も近いものを1つずつお選びください。

**Q35_1 (1) 普通の人には感じられないが、人生に影響を与える
靈的存 在というものがある**

	度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 信じる	87	15.3	15.3	15.3
2 あり得る	253	44.5	44.5	59.8
3 あまり信じない	179	31.5	31.5	91.2
4 否定する	50	8.8	8.8	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q35_2 (2) 人間には魂があり、肉体の死後も魂が生き続ける

	度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 信じる	93	16.3	16.3	16.3
2 あり得る	233	40.9	40.9	57.3
3 あまり信じない	179	31.5	31.5	88.8
4 否定する	64	11.2	11.2	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q35_3 (3) 人間は死んだら、本人にとっては一切が消滅し何も残らない

	度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 信じる	79	13.9	13.9	13.9
2 あり得る	181	31.8	31.8	45.7
3 あまり信じない	234	41.1	41.1	86.8
4 否定する	75	13.2	13.2	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q35_4 (4) 生まれ変わりがある

	度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 信じる	106	18.6	18.6	18.6
2 あり得る	248	43.6	43.6	62.2
3 あまり信じない	158	27.8	27.8	90.0
4 否定する	57	10.0	10.0	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q35_5 (5) 人の為に尽くした人は天国へ行き、自己中心的に人を害した人は地獄へ行く

	度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1 信じる	38	6.7	6.7	6.7
2 あり得る	171	30.1	30.1	36.7
3 あまり信じない	260	45.7	45.7	82.4
4 否定する	100	17.6	17.6	100.0
合計	569	100.0	100.0	

Q35_6 (6) 生前の行いに関係なく、人は死んだら皆天国へ行く

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 信じる	14	2.5	2.5	2.5
	2 あり得る	99	17.4	17.4	19.9
	3 あまり信じない	312	54.8	54.8	74.7
	4 否定する	144	25.3	25.3	100.0
	合計	569	100.0	100.0	

Q35_7 (7) 前世の生き様が現世に反映している

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 信じる	51	9.0	9.0	9.0
	2 あり得る	213	37.4	37.4	46.4
	3 あまり信じない	211	37.1	37.1	83.5
	4 否定する	94	16.5	16.5	100.0
	合計	569	100.0	100.0	

Q36. あなたは宗教にどの程度関心がありますか。次の中から1つだけお選びください。

Q36. あなたは宗教にどの程度関心がありますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 現在、信仰をもっている	60	10.5	10.5	10.5
	2 信仰はもっていないが、宗教には関心がある	92	16.2	16.2	26.7
	3 信仰はもっていないし、宗教にも関心がない	417	73.3	73.3	100.0
	合計	569	100.0	100.0	

Q37. 信仰のあるなしに関わらず、次の中から、関心があるものをいくつでもお選びください。

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
1. 歴史的・文化的遺産としての宗教	Q37_M1	247	22.3	43.4
2. 生き方の参考になるものとして宗教	Q37_M2	138	12.5	24.3
3. 神社へのお参りや墓参	Q37_M3	235	21.2	41.3
4. 占いやお守り、おみくじ	Q37_M4	244	22.0	42.9
5. 奇跡、予言、呪術、超常現象	Q37_M5	159	14.4	27.9
6. いずれもない	Q37_M6	85	7.7	14.9
		-----	-----	-----
Total responses		1108	100.0	194.7

0 missing cases; 569 valid cases

Q38. あなたにとって、人生の問題を深く語り合える相手は誰ですか。いくつでもお選びください。
 (Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
1. 親	Q38_M1	185	18.1	32.5
2. 配偶者	Q38_M2	223	21.8	39.2
3. 恋人	Q38_M3	93	9.1	16.3
4. 兄弟姉妹	Q38_M4	107	10.5	18.8
5. 学校の先生	Q38_M5	8	.8	1.4
6. 面識のある友人	Q38_M6	251	24.6	44.1
7. ネット上の友人	Q38_M7	52	5.1	9.1
8. その他	Q38_M8	5	.5	.9
9. いない	Q38_M9	98	9.6	17.2
<hr/>				
Total responses		1022	100.0	179.6

0 missing cases; 569 valid cases

Q39. あなたにとってよい友人関係とはどのようなものですか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
1. 定期的に連絡を取り、無事を確認する	Q39_M1	176	8.1	30.9
2. 悩み事を聞いたり励ましたりする	Q39_M2	351	16.2	61.7
3. 仕事や生活上の相談に乗る	Q39_M3	254	11.7	44.6
4. 日常的な話し相手になる	Q39_M4	273	12.6	48.0
5. 生き方を応援する	Q39_M5	221	10.2	38.8
6. 相手のためになる情報を知らせる	Q39_M6	196	9.1	34.4
7. 困っているときに助ける	Q39_M7	391	18.1	68.7
8. 一緒に遊ぶ	Q39_M8	249	11.5	43.8
9. お金を貸す	Q39_M9	10	.5	1.8
10. その他	Q39_M10	3	.1	.5
11. どれもあてはまらない	Q39_M11	41	1.9	7.2
<hr/>				
Total responses		2165	100.0	380.5

0 missing cases; 569 valid cases

F1 性別

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
1 男性	318	55.9	56.0	56.0
2 女性	250	43.9	44.0	100.0
合計	568	99.8	100.0	
欠損値	システム欠損値	.2		
合計	569	100.0		

F2 年齢

		度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1.0 25	9	1.6	1.6	1.6
	2.0 26	20	3.5	3.5	5.1
	3.0 27	29	5.1	5.1	10.2
	4.0 28	31	5.4	5.4	15.6
	5.0 29	33	5.8	5.8	21.4
	6.0 30	39	6.9	6.9	28.3
	7.0 31	33	5.8	5.8	34.1
	8.0 32	35	6.2	6.2	40.2
	9.0 33	53	9.3	9.3	49.6
	10.0 34	52	9.1	9.1	58.7
	11.0 35	23	4.0	4.0	62.7
	12.0 36	25	4.4	4.4	67.1
	13.0 37	29	5.1	5.1	72.2
	14.0 38	26	4.6	4.6	76.8
	15.0 39	27	4.7	4.7	81.5
	16.0 40	33	5.8	5.8	87.3
	17.0 41	31	5.4	5.4	92.8
	18.0 42	25	4.4	4.4	97.2
	19.0 43	15	2.6	2.6	99.8
	20.0 44	1	.2	.2	100.0
合計		569	100.0	100.0	

F3 都道府県

有効		度 数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
1.0	1. 北海道	28	4.9	4.9	4.9
2.0	2. 青森県	8	1.4	1.4	6.3
3.0	3. 岩手県	2	.4	.4	6.7
4.0	4. 宮城県	4	.7	.7	7.4
5.0	5. 秋田県	4	.7	.7	8.1
6.0	6. 山形県	2	.4	.4	8.4
7.0	7. 福島県	6	1.1	1.1	9.5
8.0	8. 茨城県	11	1.9	1.9	11.4
9.0	9. 栃木県	8	1.4	1.4	12.8
10.0	10. 群馬県	4	.7	.7	13.5
11.0	11. 埼玉県	40	7.0	7.0	20.6
12.0	12. 千葉県	31	5.4	5.4	26.0
13.0	13. 東京都	78	13.7	13.7	39.7
14.0	14. 神奈川県	50	8.8	8.8	48.5
15.0	15. 山梨県	3	.5	.5	49.0
16.0	16. 長野県	7	1.2	1.2	50.3
17.0	17. 新潟県	8	1.4	1.4	51.7
19.0	19. 石川県	4	.7	.7	52.4
20.0	20. 福井県	1	.2	.2	52.5
21.0	21. 岐阜県	8	1.4	1.4	54.0
22.0	22. 静岡県	12	2.1	2.1	56.1
23.0	23. 愛知県	48	8.4	8.4	64.5
24.0	24. 三重県	12	2.1	2.1	66.6
25.0	25. 滋賀県	4	.7	.7	67.3
26.0	26. 京都府	22	3.9	3.9	71.2
27.0	27. 大阪府	51	9.0	9.0	80.1
28.0	28. 兵庫県	19	3.3	3.3	83.5
29.0	29. 奈良県	8	1.4	1.4	84.9
30.0	30. 和歌山県	5	.9	.9	85.8
31.0	31. 鳥取県	2	.4	.4	86.1
32.0	32. 島根県	2	.4	.4	86.5
33.0	33. 岡山県	5	.9	.9	87.3
34.0	34. 広島県	15	2.6	2.6	90.0
35.0	35. 山口県	7	1.2	1.2	91.2
36.0	36. 徳島県	2	.4	.4	91.6
37.0	37. 香川県	6	1.1	1.1	92.6
38.0	38. 愛媛県	9	1.6	1.6	94.2
39.0	39. 高知県	1	.2	.2	94.4
40.0	40. 福岡県	11	1.9	1.9	96.3
41.0	41. 佐賀県	1	.2	.2	96.5
42.0	42. 長崎県	3	.5	.5	97.0
43.0	43. 熊本県	3	.5	.5	97.5
44.0	44. 大分県	2	.4	.4	97.9
45.0	45. 宮崎県	4	.7	.7	98.6
46.0	46. 鹿児島県	4	.7	.7	99.3
47.0	47. 沖縄県	4	.7	.7	100.0
合計		569	100.0	100.0	

F4 最終学歴

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 1. 中学校	27	4.7	4.7	4.7
	2 2. 高校	176	30.9	30.9	35.7
	3 3. 短大	122	21.4	21.4	57.1
	4 4. 大学	191	33.6	33.6	90.7
	5 5. 大学院	20	3.5	3.5	94.2
	6 6. その他	33	5.8	5.8	
	合計	569	100.0	100.0	100.0

F5 同居家族

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 1. 1人	99	17.4	17.4	17.4
	2 2. 2人	82	14.4	14.4	31.8
	3 3. 3人	146	25.7	25.7	57.5
	4 4. 4人	143	25.1	25.1	82.6
	5 5. 5人	60	10.5	10.5	93.1
	6 6. 6人	20	3.5	3.5	96.7
	7 7. 7人	19	3.3	3.3	
	合計	569	100.0	100.0	100.0

S F 1. お宅で同居している人はどなたですか。あなたからみた続き柄でお答えください
(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
1. 配偶者	F5S1_M1	328	36.6	69.8
2. 親	F5S1_M2	190	21.2	40.4
3. 兄弟姉妹	F5S1_M3	74	8.3	15.7
4. 祖父母	F5S1_M4	20	2.2	4.3
5. 子供	F5S1_M5	270	30.1	57.4
7. その他	F5S1_M7	14	1.6	3.0
		-----	-----	-----
	Total responses	896	100.0	190.6

99 missing cases; 470 valid cases

S F 2. そのうち、ご自宅でインターネットを利用している人はいますか。あてはまる人をいくつでもお選びください

(Value tabulated = 1)

Dichotomy label	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
1. 配偶者	F5S2_M1	253	43.5	53.8
2. 親	F5S2_M2	45	7.7	9.6
3. 兄弟姉妹	F5S2_M3	50	8.6	10.6
4. 祖父母	F5S2_M4	1	.2	.2
5. 子供	F5S2_M5	111	19.1	23.6
7. その他	F5S2_M7	6	1.0	1.3
8. いない	F5S2_M8	116	19.9	24.7
Total responses		582	100.0	123.8

99 missing cases; 470 valid cases

F6. あなたの現在のお仕事についておうかがいします。あなたは普段どのような仕事をなさっていますか。次の中からあてはまるものを1つだけお選びください

F6 仕事

有効	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
1 1. フルタイムで働いている	357	62.7	62.7	62.7
2 2. パートタイム、アルバイト	53	9.3	9.3	72.1
3 3. 専業主婦	110	19.3	19.3	91.4
4 4. 学生・生徒	4	.7	.7	92.1
5 5. 無職	19	3.3	3.3	95.4
6 6. その他	26	4.6	4.6	100.0
合計	569	100.0	100.0	

S F. <フルタイムで働いている方にお尋ねします>

あなたのお仕事の内容は、次のうち、どれに最も近いですか。あてはまるものを1つだけお選びください。

F6S 職種

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1.0 1. 会社・団体役員 (会社社長、会社役員、その他各種団体理事など)	40	7.0	11.2	11.2
	2.0 2. 自営業(商店主、工場主、その他各種サービス業の事業主など)	35	6.2	9.8	21.0
	3.0 3. 自由業(宗教家、文筆家、音楽家、デザイナー、職業スポーツ)	12	2.1	3.4	24.4
	4.0 4. 専門・技術職(医師、弁護士、教員、技術者、看護婦など)	74	13.0	20.7	45.1
	5.0 5. 管理職(会社・団体などの課長以上、管理的公務員など)	12	2.1	3.4	48.5
	6.0 6. 事務職(一般事務系・係長以下、記者、編集者、タイピストなど)	89	15.6	24.9	73.4
	7.0 7. 販売・サービス職 (販売員、セールスマン、理容師・美容師、	45	7.9	12.6	86.0
	8.0 8. 技能・労務職(職人、工具、自動車運転手、電話交換手など)	38	6.7	10.6	96.6
	9.0 9. 保安職(警察官、自衛官、海上保安官、鉄道公安官など)	2	.4	.6	97.2
	10.0 10. 農林漁業	5	.9	1.4	98.6
	11.0 11. その他	5	.9	1.4	100.0
欠損値	合計	357	62.7	100.0	
	システム欠損値	212	37.3		
	合計	569	100.0		

F7. お宅の世帯年収（税込み）は、次のうちどれにあたりますか。あてはまるものを1つだけお選びください。

F7 世帯年収

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 1. 200万円未満	44	7.7	7.7	7.7
	2 2. 200万～400万円未満	113	19.9	19.9	27.6
	3 3. 400万～600万円未満	161	28.3	28.3	55.9
	4 4. 600万～800万円未満	104	18.3	18.3	74.2
	5 5. 800万～1000万円未満	43	7.6	7.6	81.7
	6 6. 1000万～1200万円未満	28	4.9	4.9	86.6
	7 7. 1200万～1400万円未満	7	1.2	1.2	87.9
	8 8. 1400万円以上	14	2.5	2.5	90.3
	9 9. わからない／答えたくない	55	9.7	9.7	100.0
	合計	569	100.0	100.0	

以上